YAO TOKUSHUKAI GENERAL HOSPITAL

病院年報

2016年



医療法人徳洲会

八尾徳洲会総合病院

Yao Tokushukai General Hospital

目次 Contents

理念・基本方針・患者様の権利	1
ご挨拶	2
概要・沿革	3
教育認定施設の指定状況・機関特定・高度医療機器設備	4
許可施設基準	5
八尾徳洲会総合病院 組織図	6
八尾徳洲会総合病院 委員会組織図	7
患 者 統 計	8
1.外　来	
1）外来患者統計	10
2）科別・月別外来患者数	10
3）1日平均外来患者数	11
4）1日平均外来新患者数	11
2.入　院	
1）入院患者統計	12
2）科別・月別1日平均入院患者数	12
3）病棟別・月別1日平均入院患者数	12
3.救　急	
1）月別救急搬送件数	13
2）救急搬送人数 年齢別・性別分布	14
3）救急搬送件数分布	15
病 歴 統 計	16
1）科別退院患者数	18
2）死亡退院患者統計	19
3）疾病分類＜大分類＞科別	20
4）疾病分類＜中分類＞	21
部署紹介	24
放射線科、歯科・歯科口腔外科、薬剤科、	24
栄養科、健診センター、臨床検査科、	25
保育科、よろこび訪問看護、	
栄養サポートチーム（NST）、愛の郷	
診 療 部	26
内　　科	28
循環器内科（カテーテル部門）	35
消化器内科	36
呼吸器内科	38
腫 瘍 内 科	39
血管透析科	41
小　児　科	43
放 射 線 科（診療部）	45
神 経 内 科	46
内分泌内科	47
膠原病リウマチ内科	49
外　　科	51
整 形 外 科	52
脳神経外科	56
心臓血管外科・大動脈センター	57
形成外科・美容外科	59
泌 尿 器 科	61
眼　　科	63
歯科・歯科口腔外科	65
麻　酔　科	67
肝臓センター	68
呼吸器外科	71
小 児 外 科	73
皮　膚　科	75
婦　人　科	76
耳鼻咽喉科	77
リハビリテーション科（診療部）	78
副 診 療 部	80
薬　剤　科	82
放 射 線 科	85
臨床検査科	87
リハビリテーション科	90
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）	
臨床工学科	96
栄　養　科	99
治験センター	101
医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）	107
病診連携室	109
健診センター	118
情報システム管理室	119
ゲノム事務局	121
保　育　室	123
がん相談支援センター	125
医療安全管理部	127
臨床腫瘍センター	133
看 護 部	136
4階東　5階西　5階東	138
6階西　6階東　7階西	139
7階東　8階西　8階東	140
HCU　ICU　手術室・中央材料室	141
透析センター　外来・ER　地域医療室	142
退院調整チーム　保健指導	143
委 員 会	158
呼吸ケアチーム（RST）	160
院内感染対策委員会（ICT）	161
褥瘡対策委員会	163
研修管理委員会	164
栄養サポートチーム（NST）	166
緩和ケアチーム	167
がん緩和支援委員会	168
関 連 施 設	170
八尾徳洲会介護センター	172
よろこび訪問看護ステーション	175
よろこび訪問看護介護センター	177
介護老人保健施設 八尾徳洲苑	179
八尾徳洲苑介護センター	189
特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷	191
学 術 業 績	194
学会発表	196
学術論文	203

Yao
Tokushukai
General Hospital

徳洲会グループ理念

生命だけは平等だ

1. 生命を安心して預けられる病院
2. 健康と生活を守る病院

基本方針

1.『年中無休・24 時間オープン』で救急医療を提供します。
2. 患者様からの贈り物は一切受け取りません。
3. 医療技術・診療態度の向上に絶えず努力します。

患者様の権利

当院は次の項目について患者様の権利を尊重した医療を提供しています。

1. いつでも安全で良質な医療を受ける事が出来ます。
2. 医療についての説明を受け、医療行為を選択する権利があります。
3. 継続して一貫した医療を受ける事が出来ます。
4. プライバシーが守られ、個人の尊厳が保たれています。
5. 医療の情報について常に提供を受け健康教育や講演を受ける事が出来ます。
6. 生活の質と環境に配慮した医療の提供を受ける事が出来ます。

ご　挨　拶

八尾徳洲会総合病院院長　原田　博雅

いつも当院の診療に御協力御支援を賜り深く感謝申し上げます。

この度、2016年八尾徳洲会総合病院年報を発刊することができました。

院長を引き継ぐに当たり、「生命だけは平等だ。」との徳洲会理念のもと、「在院日数の短縮化」、「断らない医療の実践」という二つの大きな目標を掲げ、病院運営を行ってまいりました。その中にあって医療界を取り巻く環境は大きく変化しています。医療費抑制政策という流れの中にあって、2018年4月の診療報酬と介護報酬の同時改定の議論が始まっています。今後それに対する対応を考えていかなければなりません。また、病床機能報告制度が始まり、将来の病床機能分化が求められています。人口が減少する社会の中で、今までは考えたこともなかった医療のあり方を模索する必要がでてきました。

急性期病院としての生き残りをかけた競争の中、過去の実績を振り返ることにより、病院の方向性が見えてきます。未来は過去から現在へと続くその流れの延長線上にしかない事を再度確認し、未来の病院を作っていかなければなりません。その基本となるのが年報であると思います。

今後救急医療を何より充実させることが病院の使命であり、地域医療を支える基本と考えています。その救急医療を守るため、当院においては、入院が必要な患者さんを収容できる病床を確保することが何よりも求められており、そのための努力を重ねてきました。

私たちは何より、患者さんのことを第一に考え、地域のことを考え、組織運営を行ってまいります。また、職員一人一人の能力を最大限に引き上げるための職場環境を作り上げ、八尾徳洲会総合病院を実践教育の場にしたいと思います。

本誌を閲覧いただきました皆様方の更なる私たちへの御指導を御願い申し上げます。

Yao Tokushukai General Hospital

概要

創　　立	1978 年 7 月 1 日
病 院 長	原田　博雅
職 員 数	870 名（2016.12.31 現在）
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病・代謝内科、暖和ケア内科、腫瘍内科、内分泌内科、神経内科、心療内科、精神科、リウマチ科、血管透析内科、腎臓内科、皮膚科、小児科、救急科、放射線科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、肝臓外科、乳腺外科、小児外科、形成外科、美容外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、歯科・歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、婦人科、リハビリテーション科、病理診断科
関連施設	介護老人保健施設　八尾徳洲苑 八尾徳洲苑介護センター よろこび訪問看護ステーション よろこび訪問看護介護センター 八尾徳洲会介護センター（居宅介護支援事業所） 特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷 八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷
1 日平均外来患者数	865.7名（2016年）　※訪問看護及び人工透析を含む
1 日平均入院患者数	378.3名（2016年）

沿革

1978年 7 月	開院　　許可病床数　250床
1979年 7 月	三基準取得　看護・給食・寝具
1980年 10 月	西館増築　許可病床数　350床
1986年 4 月	東館・西館改修　許可病床数　335床
1989年 9 月	新館増築　許可病床数　415床
1992年 9 月	基準看護　特Ⅰ類取得
1994年 7 月	基準看護　特Ⅱ類取得
9 月	総合病院認可　心臓血管外科開設
1995年 7 月	新看護2.5：1（A）　10：1看護補助の承認
9 月	デイケア開設
1996年 5 月	病院管理棟増築
11 月	よろこび訪問看護ステーション開設
11 月	八尾徳洲会介護センター開設
1998年 2 月	日帰り手術センター開設
3 月	歯科・歯科口腔外科開設
4 月	ER（救急総合診療部）開設　臨床研修指定病院指定
12 月	老人保健施設　八尾徳洲苑（100床）開設
2000年 4 月	よろこび訪問看護介護センター開設
4 月	八尾徳洲会介護センター開設
2001年 4 月	病児保育（八尾市委託）
12 月	ICU施設取得（6床）
2002年 4 月	心臓疾患リハビリテーション施設開設
2003年 1 月	日本医療機能評価機構取得
3 月	睡眠障害センター開設
10 月	2：1看護取得 電子カルテ導入
2004年 3 月	駐車場増設
4 月	医療安全管理部設置
6 月	亜急性病床開設（12床）
2005年 3 月	新病院用土地の取得
2006年 6 月	DPC導入
10 月	健診センター開設
11 月	治験センター開設
2007年 6 月	プライバシーマーク制度（JISQ.15001.1999）取得 新病院建設開始
12 月	日本医療機能評価機構Ver.5受審
2008年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.5取得
2009年 1 月	高規格救急車導入
8 月	新病院移転
11 月	エンゼル保育室新病院内移転
2010年 3 月	HCU施設基準取得（4：1）
4 月	大阪府がん診療拠点病院認可
2011年 4 月	大動脈センター・美容外科開設
2011年 8 月	肝臓センター開設
9 月	一般7：1入院基本料取得
10 月	小児外科開設
2012年 11 月	放射線治療開始 日本医療機能評価機構Ver.6受審
2013年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.6取得
9 月	卒後臨床研修評価機構認定
2014年 9 月	特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷開設
2015年 5 月	創傷ケアセンター開設
2017年 4 月	八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷開設

教育認定施設の指定状況

日本内科学会認定医制度教育病院
日本呼吸器学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設
日本消化器病学会認定医制度研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本医学会放射線学会放射線科専門医修練機関
（画像診断・IVR・核医学）
日本外科学会専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
日本乳癌学会関連施設認定
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度研修プログラム研修施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
腹部ステントグラフト実施施設
胸部ステント-グラフト実施施設
日本成人心臓血管外科手術データベース機構認定施設
日本形成外科学会認定施設
日本乳癌オンコプラススティックサージャリー学会インプラント実施施設認定
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
日本外科学会専門医制度研修施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
日本病理学会研修認定施設
厚生労働省基幹型臨床研修病院
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士実地修練認定教育施設
日本医療薬学会教育研修施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設

機関特定

保険医療機関
救急告示病院
結核指定医療機関
被爆者一般疾病医療機関
母体保護法指定医療機関
生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
公害医療機関
指定自立支援医療機関
（更正医療、育保医療、精神通院医療）
身体障害者福祉法指定医（肢体不自由、視覚障害、じん臓機能障害、肝臓機能障害、心臓機能障害、呼吸器機能障害、膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害）
音声・言語機能障害、そしゃく機能障害
大阪府肝炎専門医療機関
大阪府がん診療拠点病院

高度医療機器設備

MRI（磁気共鳴画像装置）
64列CT
DSA（デジタルサブトラクション血管撮影装置）
CAG（心血管撮影装置）
RI（核医学診断装置）
ESWL（体外衝撃波結石破砕装置）
各種内視鏡機器装置
マイクロサージャリー（顕微鏡下手術）
放射線治療装置（リニアック）
医療用ナビゲーションシステム
光干渉式眼軸長測定装置
光干渉断層計（OCT）

許可施設基準

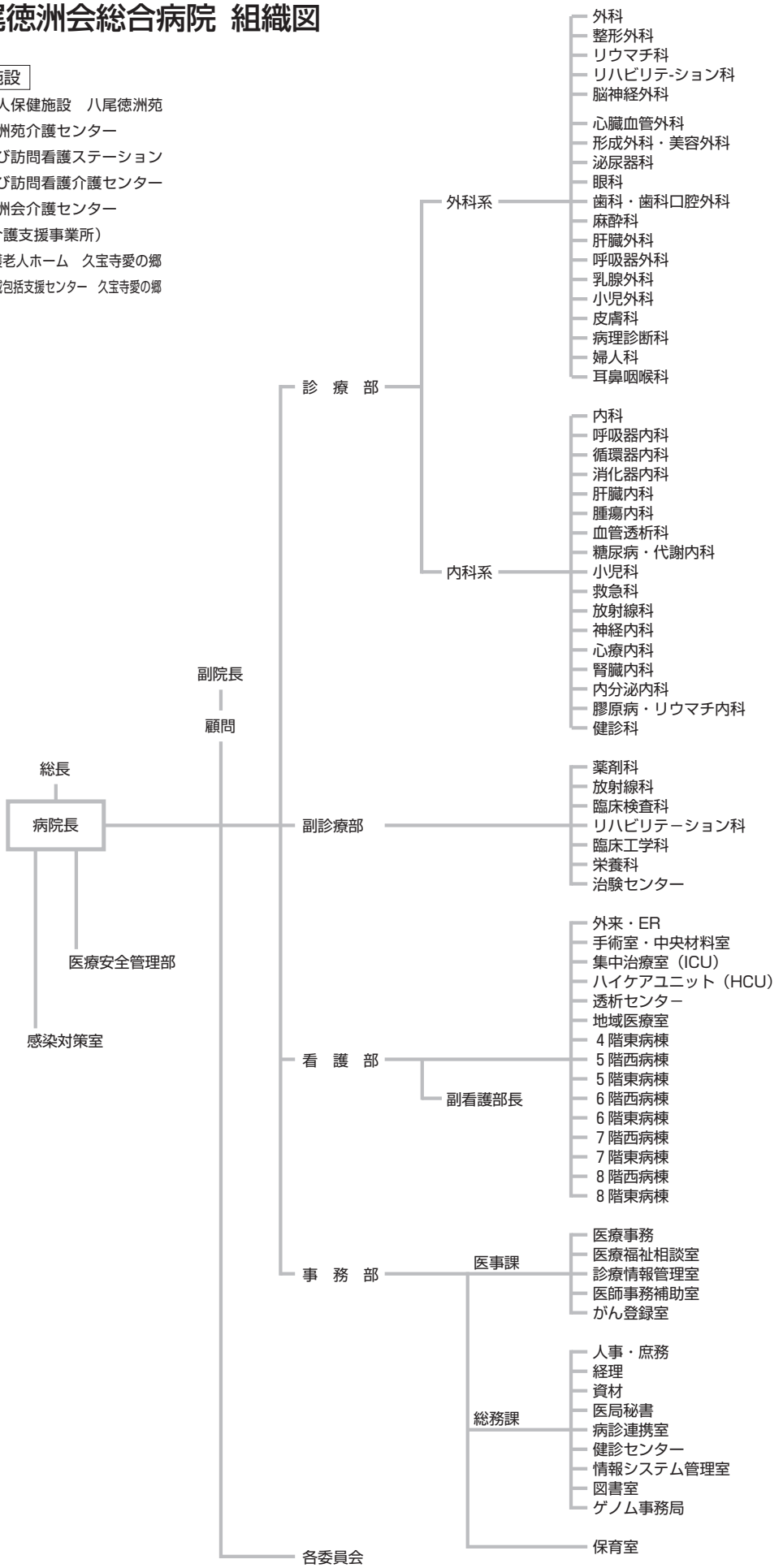
入院時食事療養/生活療養(I)
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
一般病棟入院基本料(7対1)
臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算(15対1)
急性期看護補助体制加算
療養環境加算
重傷者等療養環境特別加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
感染防止対策加算1
感染防止対策地域連携加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
退院支援加算1
救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算
呼吸ケアチーム加算
病棟薬剤業務実施加算1、2
データ提出加算2
特定集中治療室管理料3
ハイケアユニット入院医療管理料1
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料1・2・3
糖尿病透析予防指導管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
地域連携診療計画管理料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
歯科治療総合医療管理料
在宅患者訪問看護・指導料3
同一建物居住者訪問看護・指導料3
検体検査管理加算(Ⅳ)
植込型心電図検査
時間内歩行試験
ヘッドアップティルト試験
神経学的検査
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷検査
センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)
画像診断管理加算1
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(I)
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
運動器リハビリテーション料(I)
呼吸器リハビリテーション料(I)
がん患者リハビリテーション料
認知療法・認知行動療法
歯科口腔リハビリテーション料2
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
透析液水質確保加算2
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
経皮的冠動脈ステント留置術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
経皮的大動脈遮断術
ダメージコントロール手術
腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術
手術の休日加算1及び深夜加算1
輸血管理料I
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
麻酔管理料(I)
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算
クラウン・ブリッジ維持管理料
看護職員夜間16対1配置加算
精神疾患診療体制加算
認知症ケア加算2
組織拡張器による再建手術1乳房 (再建手術) の場合
歯科処置の休日加算1、時間外加算1、及び深夜加算1
歯科手術の手術の休日加算1、時間外加算1、及び深夜加算1
乳腺悪性腫瘍手術 乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)
下肢末梢動脈疾患指導管理加算

2017年4月1日 現在

八尾徳洲会総合病院 組織図

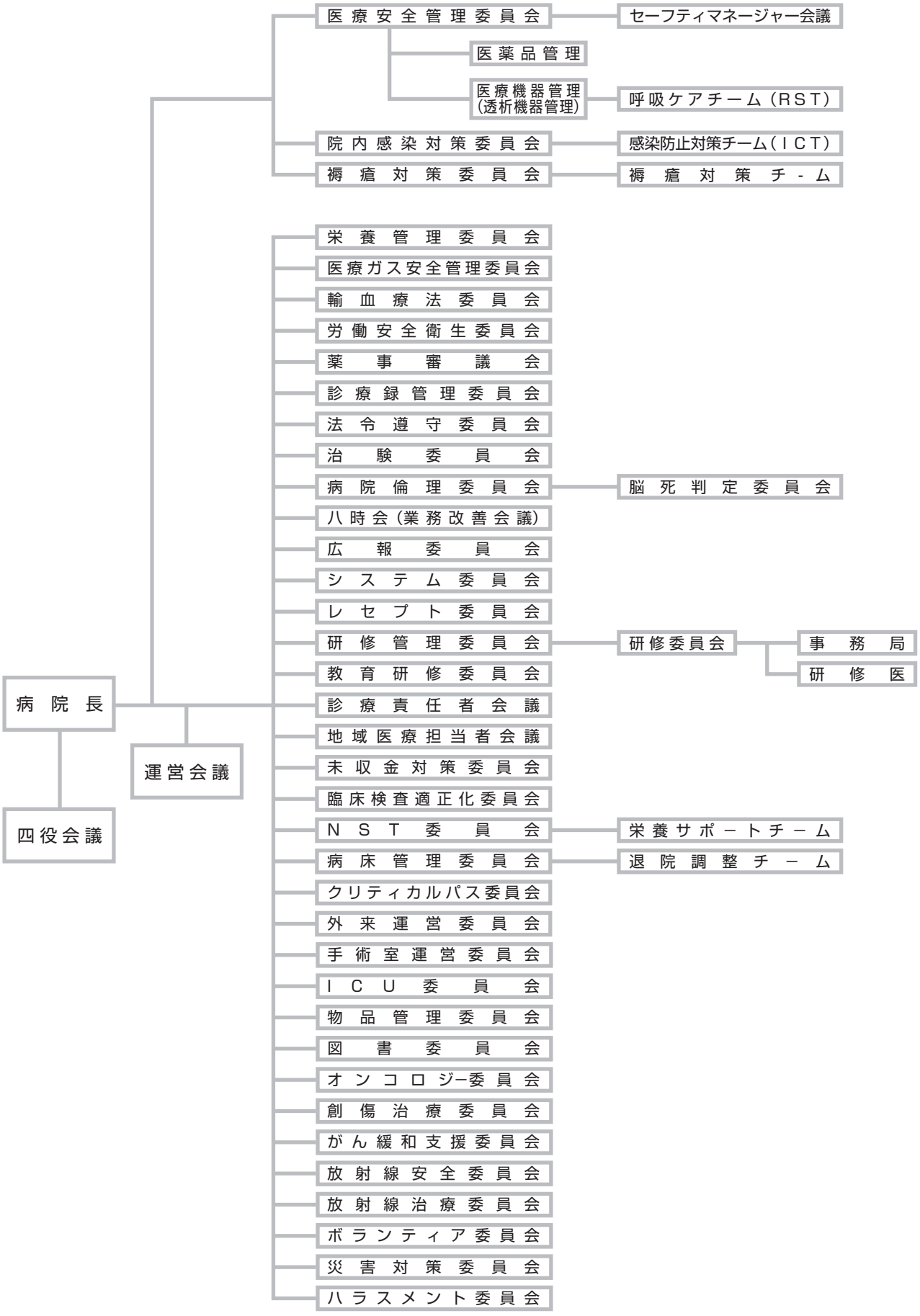
関連施設

介護老人保健施設　八尾徳洲苑
八尾徳洲苑介護センター
よろこび訪問看護ステーション
よろこび訪問看護介護センター
八尾徳洲会介護センター
（居宅介護支援事業所）
特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷
八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷



八尾徳洲会総合病院 委員会組織図

2017年4月1日 現在



患　者　統　計

―― 2016年 ――

1．外　来

1）外来患者統計　10
2）科別・月別外来患者数　10
3）1日平均外来患者数　11
4）1日平均外来新患者数　11

2．入　院

1）入院患者統計　12
2）科別・月別1日平均入院患者数　12
3）病棟別・月別1日平均入院患者数　12

3．救　急

1）月別救急搬送件数　13
2）救急搬送人数　年齢別・性別分布　14
3）救急搬送件数分布　15

1.外 来

1）外来患者統計

①1日平均患者数 ②1ヶ月総患者数 ③1日平均新患者数

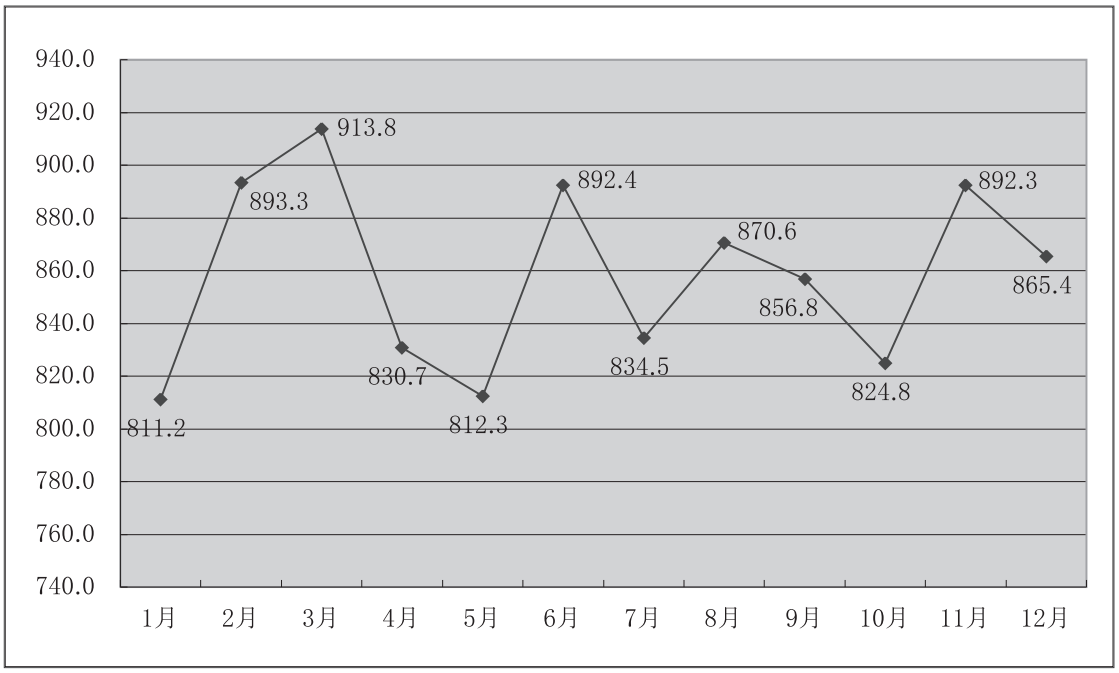
外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
①	811.2	893.3	913.8	830.7	812.3	892.4	834.5	870.6	856.8	824.8	892.3	865.4	10,298.1	858.2
②	25,324	26,124	28,576	25,148	25,371	26,969	26,098	27,249	25,950	25,872	27,060	27,111	316,852	26,404
③	28.5	31.4	30.7	30.2	29.0	30.1	29.9	28.8	27.3	28.0	24.7	29.8	348.4	29.0

2）科別・月別外来患者数

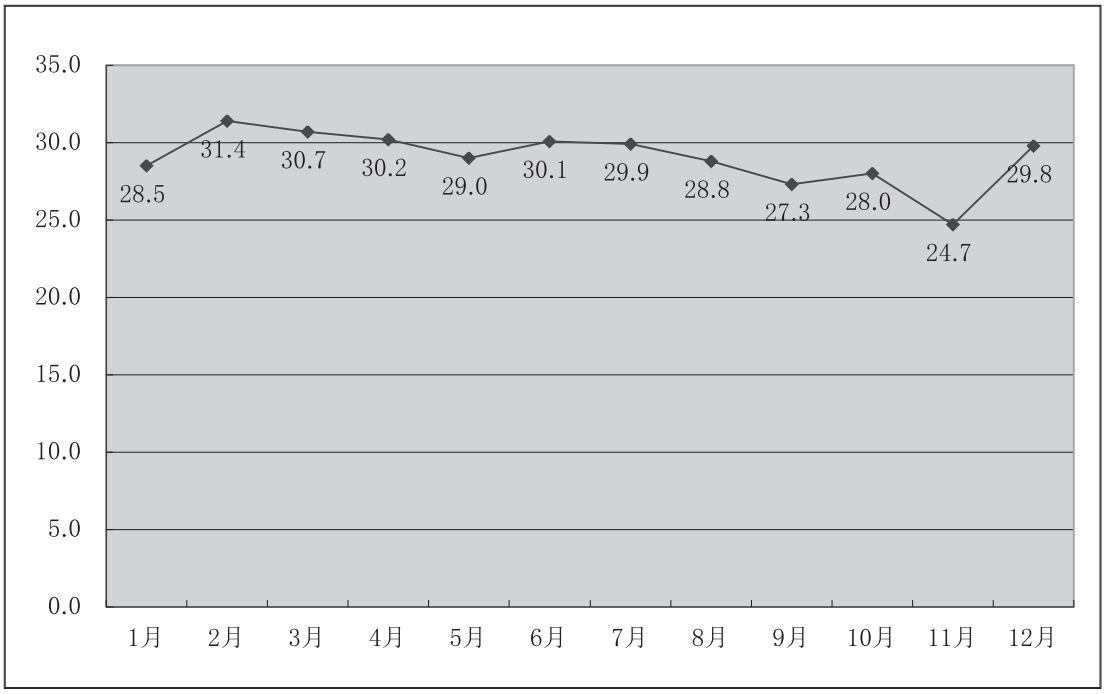
	内科	循環器内科	外科	呼吸器外科	乳腺外科	小児外科	肝臓外科	肝臓内科	整形外科	心臓外科	眼科	脳神経外科	泌尿器科	形成外科	美容外科	放射線治療部
1月	8,030	877	1,528	51	131	94	422	220	2,840	478	1,288	1,053	1,149	507	1	249
2月	8,378	826	1,395	45	143	81	423	237	2,774	416	1,334	1,041	1,036	534	0	264
3月	9,274	984	1,507	80	152	122	472	238	3,267	633	1,567	1,196	1,244	535	1	157
4月	7,973	864	1,505	78	154	94	385	276	2,815	554	1,220	1,101	1,171	396	0	164
5月	7,529	775	1,564	83	144	61	408	274	2,892	532	1,274	1,071	1,098	398	1	138
6月	8,212	872	1,498	86	202	84	423	278	3,087	561	1,544	1,041	1,192	481	2	83
7月	7,884	837	1,540	87	155	116	457	246	2,874	455	1,478	1,047	1,214	452	0	178
8月	7,986	811	1,520	81	125	127	463	264	3,250	516	1,535	1,028	1,211	467	1	317
9月	7,714	850	1,529	92	150	119	384	306	2,996	503	1,448	1,048	1,240	440	0	388
10月	7,555	862	1,460	113	142	95	432	291	2,967	489	1,524	1,036	1,248	408	5	338
11月	8,147	1,011	1,384	90	119	85	433	283	3,103	549	1,408	1,065	1,123	445	2	345
12月	8,188	933	1,417	108	189	76	416	281	3,034	529	1,520	1,111	1,302	442	1	359
合計	96,870	10,502	17,847	994	1,806	1,154	5,118	3,194	35,899	6,215	17,140	12,838	14,228	5,505	14	2,980
平均	8,072.5	875.2	1,487.3	82.8	150.5	96.2	426.5	266.2	2,991.6	517.9	1,428.3	1,069.8	1,185.7	458.8	1.2	248.3

	人工透析	歯科口腔外科	皮膚科	小児科	婦人科	耳鼻咽喉科	心療内科	リウマチ科	検診	人間ドック	膠原病	訪問看護	創傷治療センター	ストーマ外来	腫瘍内科	合計
1月	851	1,373	518	1,135	276	436	0	60	467	451	230	330	76	15	188	25,324
2月	774	1,381	604	1,245	293	333	0	58	1,120	510	212	340	146	7	174	26,124
3月	821	1,575	609	1,293	315	503	0	71	505	510	240	373	114	13	205	28,576
4月	765	1,437	655	1,079	242	459	0	57	390	368	227	372	123	8	216	25,148
5月	790	1,400	594	961	238	338	0	64	1,311	538	221	306	157	10	201	25,371
6月	765	1,540	686	1,089	373	473	0	60	686	681	223	341	160	11	235	26,969
7月	812	1,404	619	999	319	429	0	66	844	624	230	385	132	11	204	26,098
8月	836	1,497	605	1,038	295	279	0	66	1,202	657	206	466	145	8	247	27,249
9月	765	1,328	622	945	284	457	0	62	683	604	217	433	118	6	219	25,950
10月	813	1,552	596	1,094	323	344	0	52	508	594	192	458	139	12	230	25,872
11月	830	1,464	519	1,308	307	236	0	66	1,113	595	206	445	136	5	238	27,060
12月	912	1,588	522	1,189	316	295	0	71	629	567	235	502	125	10	244	27,111
合計	9,734	17,539	7,149	13,375	3,581	4,582	0	753	9,458	6,699	2,639	4,751	1,571	116	2,601	316,852
平均	811.2	1,461.6	595.8	1,114.6	298.4	381.8	0.0	62.8	788.2	558.3	219.9	395.9	130.9	9.7	216.8	26,404.3

3）1日平均外来患者数



4）1日平均外来新患者数



2. 入　院

1）入院患者統計

①1日平均患者数　②1カ月総患者数　③平均在院日数　④病床稼動率

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①	402.4	395.4	390.2	379.7	386.8	380.8	365.9	351.9	346.9	377.9	380.4	381.9	4,540.3	378.4
②	12,475	11,466	12,097	11,391	11,990	11,424	11,344	10,910	10,406	11,715	11,412	11,839	138,469	11,539.1
③	15.19	14.16	13.73	13.81	14.78	13.85	13.48	12.55	12.98	13.62	13.57	13.23	164.95	13.75
④	103.1	102.1	100.8	98.3	99.3	98.6	94.8	91.5	90.0	97.8	98.3	99.3	1,173.8	97.8

2）科別・月別1日平均入院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
内科	146.16	133.31	127.48	128.57	140.03	125.77	113.58	111.26	106.20	117.97	115.57	119.94	1,485.84	123.82
循環器内科	47.94	52.66	56.10	52.77	45.68	49.37	54.71	57.32	60.07	58.19	62.60	55.61	653.02	54.42
外科	33.06	37.83	45.65	40.47	35.65	38.37	37.26	37.77	34.97	38.52	49.30	44.48	473.33	39.44
肝臓センター	16.87	15.72	19.87	22.47	20.68	16.47	18.39	19.65	22.10	22.03	20.93	16.26	231.44	19.29
整形外科	51.23	59.24	47.71	46.67	45.58	40.23	49.81	41.03	35.23	44.87	43.30	47.65	552.55	46.05
脳神経外科	51.65	45.41	43.68	42.53	51.03	51.77	44.94	38.16	38.13	45.45	41.70	46.32	540.77	45.06
泌尿器科	6.77	7.10	7.42	7.37	9.29	10.87	8.94	11.35	10.50	10.74	9.50	10.32	110.17	9.18
小児科	3.65	4.62	3.55	1.27	2.03	1.77	1.97	1.13	1.40	2.35	3.60	2.06	29.40	2.45
眼科	4.39	4.62	3.94	2.37	4.23	7.37	4.84	4.23	3.57	4.61	3.27	4.39	51.83	4.32
形成外科	22.39	15.21	14.10	13.77	16.61	19.47	18.74	17.90	21.83	16.68	14.30	13.52	204.52	17.04
心臓外科	14.94	14.66	16.55	17.03	12.81	13.87	8.61	7.52	7.37	11.03	12.40	16.48	153.27	12.77
皮膚科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
口腔外科	3.39	4.45	4.19	3.90	3.16	4.40	3.87	4.61	5.50	5.39	3.93	4.87	51.66	4.31
腎臓内科	0.00	0.55	0.00	0.53	0.00	1.10	0.29	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	2.53	0.21
合計	402.4	395.4	390.2	379.7	386.8	380.8	366.0	351.9	346.9	377.9	380.4	381.9	4,540.3	378.4

3）病棟別・月別1日平均入院患者数

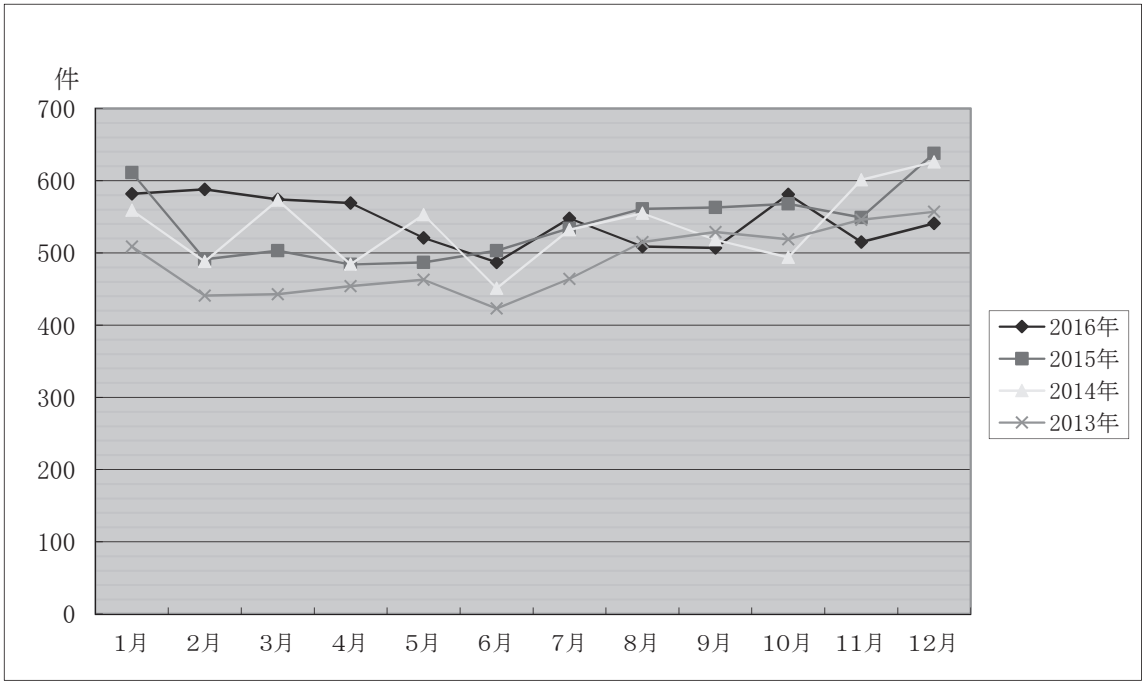
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
ICU	6.42	5.14	5.65	5.40	5.58	5.23	3.65	3.26	4.70	5.61	4.67	5.35	60.66	5.06
HCU	16.35	14.17	13.58	11.97	14.10	12.87	11.58	11.16	10.20	12.26	11.77	12.94	152.95	12.75
4東	44.97	42.34	42.94	40.40	44.65	44.90	41.00	36.97	36.37	43.03	42.40	43.32	503.29	41.94
5東	43.68	42.69	42.13	41.67	41.00	40.47	38.42	37.87	39.63	40.13	41.90	40.71	490.30	40.86
5西	38.58	38.00	36.74	35.93	36.94	34.67	33.97	31.74	33.23	35.97	37.23	37.06	430.06	35.84
6東	42.32	42.62	40.81	40.53	40.97	41.30	38.94	39.13	38.00	40.10	38.93	39.39	483.04	40.25
6西	44.71	44.93	42.90	42.23	42.06	42.37	42.52	37.32	34.87	41.61	40.93	41.65	498.10	41.51
7東	41.58	41.59	42.45	41.17	38.61	39.03	38.52	39.48	36.10	38.90	42.43	40.65	480.51	40.04
7西	43.00	43.59	43.19	42.00	43.65	41.87	41.13	39.39	38.37	41.52	41.77	41.55	501.03	41.75
8東	37.74	37.83	37.74	37.30	37.29	36.67	35.32	35.19	35.93	37.23	36.57	37.26	442.07	36.84
8西	43.06	42.48	42.10	41.10	41.94	41.43	40.90	40.42	39.47	41.55	41.80	42.03	498.28	41.52
総計	402.4	395.4	390.2	379.7	386.8	380.8	366.0	351.9	346.9	377.9	380.4	381.9	4,540.3	378.4

3. 救　急

1）月別救急搬送件数

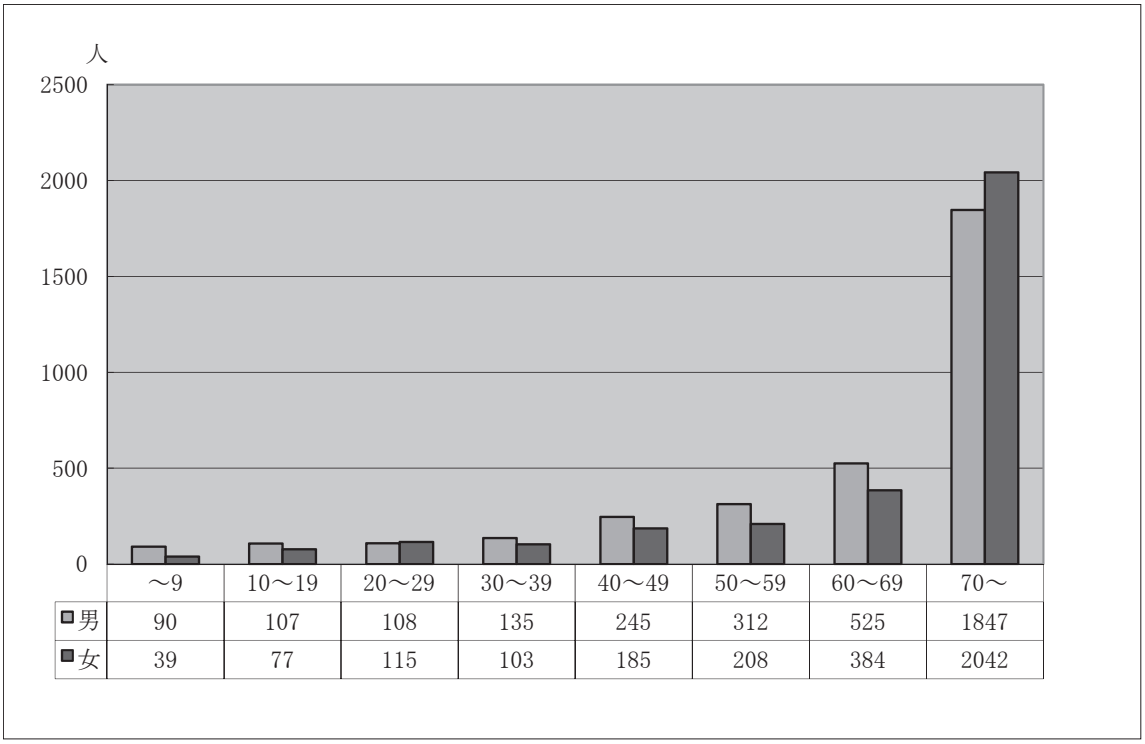
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2016年	582	588	574	569	521	487	548	509	507	581	515	541	6,522	543.5
2015年	611	491	503	484	487	503	534	561	563	568	549	638	6,492	541.0
2014年	559	488	573	484	553	451	532	555	518	494	601	626	6,434	536.2
2013年	509	441	443	454	463	423	464	515	529	519	546	557	5,863	488.6

《救急搬送件数》



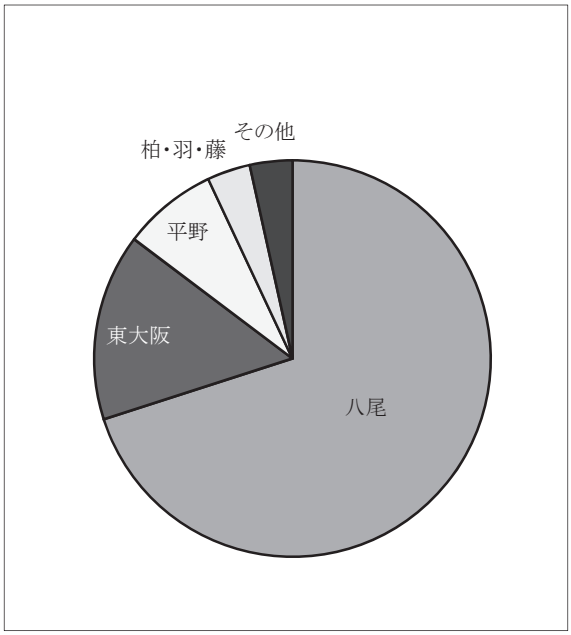
2）救急搬送人数　年齢別・性別分布

年齢	性別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	総合計
0～9歳	男	1	7	10	11	8	11	11	5	9	7	6	4	90	129
	女	6	2	1	7	5	6	3	4	1	1	1	2	39	
10～19歳	男	8	14	11	11	8	13	11	9	10	5	2	5	107	184
	女	4	10	4	4	7	7	7	9	9	7	5	4	77	
20～29歳	男	10	7	6	11	14	8	18	2	9	10	7	6	108	223
	女	8	10	15	8	8	12	4	6	7	10	10	17	115	
30～39歳	男	15	6	13	12	7	12	14	9	13	13	13	8	135	238
	女	13	6	4	6	9	10	17	7	2	9	13	7	103	
40～49歳	男	19	21	18	16	25	24	26	20	15	27	15	19	245	430
	女	18	18	19	15	15	16	15	20	21	10	6	12	185	
50～59歳	男	27	23	28	25	32	31	27	29	22	26	20	22	312	520
	女	17	16	18	18	16	14	16	14	17	22	20	20	208	
60～69歳	男	36	46	50	41	47	33	47	38	52	46	42	47	525	909
	女	31	39	33	41	31	27	29	32	29	32	23	37	384	
70歳以上	男	177	183	154	153	134	117	139	149	146	156	177	162	1,847	3,889
	女	192	180	190	190	155	146	164	156	145	200	155	169	2,042	
合計	男	293	307	290	280	275	249	293	261	276	290	282	273	3,369	6,522
	女	289	281	284	289	246	238	255	248	231	291	233	268	3,153	



3）救急搬送件数分布

	八尾市	東大阪市	平野	柏原･羽曳野･藤井寺	その他	合計
1月	395	80	54	32	21	582
2月	383	108	47	21	29	588
3月	424	65	47	18	20	574
4月	395	97	40	16	21	569
5月	359	97	30	14	21	521
6月	354	64	38	18	13	487
7月	391	94	42	12	9	548
8月	363	72	37	18	19	509
9月	350	83	35	23	16	507
10月	390	98	44	27	22	581
11月	388	63	36	13	15	515
12月	376	73	54	18	20	541
合計	4,568	994	504	230	226	6,522



	件数	%
八尾	4,568	70.0%
東大阪	994	15.2%
平野	504	7.7%
柏原･羽曳野･藤井寺	230	3.5%
その他	226	3.5%
合計	6,522	100.0%

病　歴　統　計

―― 2016年 ――

1．科別退院患者数　18

2．死亡退院患者統計　19

3．疾病分類＜大分類＞科別　20

4．疾病分類＜中分類＞　21

1. 科別退院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	301	281	300	322	290	295	302	298	287	278	293	286	3,533	294.4
男	156	147	173	179	158	160	176	177	163	152	169	152	1,962	163.5
女	145	134	127	143	132	135	126	121	124	126	124	134	1,571	130.9
循環器科	49	60	62	60	39	59	47	48	54	79	61	73	691	57.6
男	30	38	48	37	21	43	33	36	37	50	38	52	463	38.6
女	19	22	14	23	18	16	14	12	17	29	23	21	228	19.0
外　科	83	84	104	99	87	97	87	98	89	95	93	102	1,118	93.2
男	48	49	59	57	49	61	49	60	56	61	61	56	666	55.5
女	35	35	45	42	38	36	38	38	33	34	32	46	452	37.7
心臓外科	16	15	17	15	12	17	12	14	6	14	9	16	163	13.6
男	9	13	15	9	7	7	9	6	5	8	6	11	105	8.8
女	7	2	2	6	5	10	3	8	1	6	3	5	58	4.8
脳外科	63	76	68	62	61	65	75	75	58	58	58	80	799	66.6
男	36	49	43	34	33	33	42	43	31	34	33	52	463	38.6
女	27	27	25	28	28	32	33	32	27	24	25	28	336	28.0
整形外科	79	87	97	79	85	68	80	82	60	71	71	89	948	79.0
男	27	31	34	35	33	29	31	41	26	25	28	34	374	31.2
女	52	56	63	44	52	39	49	41	34	46	43	55	574	47.8
泌尿器科	26	31	30	21	31	35	28	36	49	33	38	48	406	33.8
男	20	26	22	17	26	28	26	29	40	31	32	39	336	28.0
女	6	5	8	4	5	7	2	7	9	2	6	9	70	5.8
形成外科	25	20	16	17	13	18	18	11	21	22	15	20	216	18.0
男	15	14	12	13	10	9	10	8	13	11	11	14	140	11.7
女	10	6	4	4	3	9	8	3	8	11	4	6	76	6.3
小児科	6	18	24	9	6	13	10	10	7	11	19	17	150	12.5
男	2	8	13	5	4	8	7	4	6	5	9	10	81	6.8
女	4	10	11	4	2	5	3	6	1	6	10	7	69	5.8
眼　科	43	27	33	22	37	53	61	53	36	44	34	42	485	40.4
男	16	9	15	10	12	19	32	20	14	17	13	13	190	15.8
女	27	18	18	12	25	34	29	33	22	27	21	29	295	24.6
腎臓内科	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	4	0.3
男	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0.2
女	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0.2
口腔外科	31	33	41	35	27	33	39	38	36	46	31	44	434	36.2
男	14	18	18	18	12	22	21	21	17	21	14	26	222	18.5
女	17	15	23	17	15	11	18	17	19	25	17	18	212	17.7
肝臓外科	34	40	34	47	39	39	44	38	35	36	39	41	466	38.8
男	18	17	21	27	25	22	30	28	21	28	22	28	287	23.9
女	16	23	13	20	14	17	14	10	14	8	17	13	179	14.9
肝臓内科	5	10	5	10	15	12	8	9	12	19	9	10	124	10.3
男	2	9	4	6	10	6	7	3	7	15	7	6	82	6.8
女	3	1	1	4	5	6	1	6	5	4	2	4	42	3.5
小児外科	11	11	17	8	9	8	8	16	12	11	10	12	133	11.1
男	8	8	13	7	7	5	4	9	6	5	5	5	82	6.8
女	3	3	4	1	2	3	4	7	6	6	5	7	51	4.3
呼吸器外科	3	3	8	10	13	16	5	8	8	14	11	10	109	9.1
男	3	3	7	8	12	14	4	7	7	10	6	8	89	7.4
女	0	0	1	2	1	2	1	1	1	4	5	2	20	1.7
呼吸器内科	0	0	0	1	2	5	9	7	13	14	12	15	78	6.5
男	0	0	0	1	1	5	7	6	7	10	9	10	56	4.7
女	0	0	0	0	1	0	2	1	6	4	3	5	22	1.8
腫瘍内科	7	22	17	26	18	17	15	16	18	24	25	26	231	19.3
男	6	18	13	17	16	15	11	13	13	20	20	19	181	15.1
女	1	4	4	9	2	2	4	3	5	4	5	7	50	4.2
合　計	782	819	873	844	784	851	849	857	801	869	828	931	10,088	840.7
男	410	457	510	481	436	487	499	511	469	503	483	535	5,781	481.8
女	372	362	363	363	348	364	350	346	332	366	345	396	4,307	358.9

2. 死亡退院患者統計

《科別》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	51	40	42	40	38	31	32	33	37	30	46	36	456	38.0
男	33	17	27	24	21	16	21	22	24	18	28	20	271	22.6
女	18	23	15	16	17	15	11	11	13	12	18	16	185	15.4
外　科	6	3	6	3	4	7	5	4	3	5	4	10	60	5.0
男	3	2	5	2	3	3	3	2	3	1	3	7	37	3.1
女	3	1	1	1	1	4	2	2	0	4	1	3	23	1.9
心臓外科	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	1	5	0.4
男	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	4	0.3
女	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.1
脳外科	2	3	2	4	2	3	1	5	3	2	3	3	33	2.8
男	1	2	2	1	1	1	0	4	1	2	1	3	19	1.6
女	1	1	0	3	1	2	1	1	2	0	2	0	14	1.2
整形外科	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	4	0.3
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
女	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	4	0.3
泌尿器科	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3	0.3
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1
女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0.2
形成外科	0	1	0	0	1	2	0	1	0	3	0	1	9	0.8
男	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3	0.3
女	0	0	0	0	1	1	0	1	0	2	0	1	6	0.5
腫瘍内科	1	3	2	2	1	3	2	5	3	1	3	5	31	2.6
男	1	1	2	2	1	3	1	5	2	1	3	4	26	2.2
女	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	5	0.4
肝臓外科	1	6	5	3	3	0	2	2	4	3	3	1	33	2.8
男	0	4	3	1	1	0	2	1	2	3	1	0	18	1.5
女	1	2	2	2	2	0	0	1	2	0	2	1	15	1.3
肝臓内科	1	1	1	0	0	1	2	2	1	1	2	1	13	1.1
男	0	1	1	0	0	0	2	1	0	1	1	1	8	0.7
女	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	5	0.4
合　計	63	57	60	52	50	50	45	52	51	46	62	59	647	53.9
男	38	28	41	30	27	25	29	35	32	28	38	36	387	32.3
女	25	29	19	22	23	25	16	17	19	18	24	23	260	21.7

《疾病別》

悪性腫瘍	肺	59	転移癌	10	悪性リンパ腫	4		
	大腸	23	肝臓	9	乳	3		
	膵臓	22	胆のう	5	前立腺	3		
	胃	18	癌性腹膜炎	5	その他	14	合　計	175
呼吸器系	肺炎	132	呼吸不全	20	慢性閉塞性肺疾患	4		
	(嚥下性)	(69)	急性呼吸窮迫		膿胸	2		
	(間質性)	(19)	症候群	5	その他	4		
	(気管支)	(7)	肺気腫	5			合　計	172
循環器系	心不全	53	感染性心内膜炎	3	脳梗塞	15		
	(うっ血性)	(23)	心室頻拍	3	脳出血	11		
	心筋梗塞	9	不整脈	2	くも膜下出血	8		
	心室細動	4			大動脈弁解離	2		
	大動脈弁狭窄症	3			その他	10	合　計	123
消化器系	肝不全	18	腹膜炎	6	膵炎	2		
	肝硬変	12	胆管炎	4	十二指腸潰瘍	2		
	穿孔	7	肝膿瘍	2	その他	6	合　計	59
その他の疾患	敗血症	40	外傷	5	血小板減少症	1		
	腎不全	20	出血性ショック	4	高アンモニア血症	1		
	多臓器不全	12	尿毒症	3	CO2 ナルコーシス	1		
	低酸素性脳症	10	髄膜炎	3	その他	10		
	老衰	6	窒息	2			合　計	118

3. 疾病分類＜大分類＞科別

疾病分類＼科別	内科	循環器科	外科	心臓外科	脳神経外科	整形外科	泌尿器科	形成外科	小児科	眼科	腎臓内科	口腔外科	肝臓外科	肝臓内科	小児外科	呼吸器外科	呼吸器内科	腫瘍内科	乳腺外科	合計
感染症及び寄生虫（A00～B99）	173	8	22	0	0	1	0	2	38	0	0	2	7	12	7	1	2	5	0	280
新生物（C00～D48）	357	4	319	1	32	7	204	26	0	0	0	69	237	27	1	44	0	201	20	1,549
血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害（D50～D89）	34	1	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	44
内分泌・栄養及び代謝疾患（E00～E90）	211	10	5	1	1	0	0	5	23	12	0	0	1	1	0	1	1	2	0	274
精神及び行動の障害（F00～F99）	12	0	0	1	0	0	0	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	19
神経系の疾患（G00～G99）	177	3	0	0	140	8	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	1	0	334
眼及び付属器の疾患（H00～H59）	1	0	0	0	0	0	0	9	0	471	0	0	0	0	0	0	0	0	0	481
耳及び乳様突起の疾患（H60～H95）	52	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	56
循環器系の疾患（I00～I99）	550	607	32	146	500	2	0	37	9	0	1	0	5	4	1	0	0	1	0	1,895
呼吸器系の疾患（J00～J99）	946	26	16	3	0	1	2	0	67	1	0	5	3	3	2	52	69	16	0	1,212
消化器系の疾患（K00～K93）	569	1	656	1	0	3	0	0	1	0	0	294	190	73	98	0	0	3	0	1,889
皮膚及び皮下組織の疾患（L00～L99）	48	0	2	0	0	11	0	35	1	0	0	15	1	0	0	2	0	0	0	115
筋骨格系及び結合組織の疾患（M00～M99）	43	0	1	3	21	220	1	57	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	350
尿路性器系の疾患（N00～N99）	273	14	12	3	0	0	194	11	2	0	1	0	6	4	6	0	0	0	0	526
先天性奇形・変形及び染色体異常（Q00～Q99）	1	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	5	1	0	12	0	0	0	0	23
症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの（R00～R99）	24	3	9	1	11	1	0	4	0	0	0	0	5	0	3	2	2	0	0	65
損傷・中毒及びその他の外因の影響（S00～T98）	62	14	19	3	90	694	5	28	1	1	0	44	6	0	1	7	1	0	0	976
健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用（Z00～Z99）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	3,533	691	1,098	163	799	948	406	216	150	485	4	434	466	124	133	109	78	231	20	10,088

4. 疾病分類〈中分類〉

第1章　感染症および寄生虫症	280
A00-09　腸管感染症	166
A15-19　結核	11
A20-28　人蓄共通細菌性疾患	0
A30-49　その他の細菌性疾患	47
A50-64　主として性的伝播様式をとる感染症	0
A65-69　その他のスピロヘータ疾患	0
A70-74　クラミジアによるその他の疾患	1
A75-79　リッチケア症	0
A80-89　中枢神経系のウイルス感染症	4
A90-99　節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス出血熱	0
B00-09　皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	11
B15-19　ウイルス肝炎	18
B20-24　ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	0
B25-34　その他のウイルス疾患	16
B35-49　真菌症	3
B50-64　原虫疾患	2
B65-83　ぜん＜蠕＞虫症	0
B85-89　シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症	0
B90-94　感染症および寄生虫症の続発・後遺症	1
B95-97　細菌、ウイルスおよびその他の病原体	0
B99　その他の感染症	0
第2章　新生物	1,549
C00-14　口唇、口腔および咽頭	1
C15-26　消化器	650
C30-39　呼吸器および胸腔内臓器	280
C40-41　骨および関節軟骨	0
C43-44　皮膚	7
C45-49　中皮および軟部組織	12
C50　乳房	48
C51-58　女性生殖器	6
C60-63　男性生殖器	121
C64-68　尿路	85
C69-72　眼、脳および中枢神経系のその他の部位	7
C73-75　甲状腺およびその他の内分泌腺	0
C76-80　部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物	86
C81-96　原発と記載されたまたは推定されたリンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物	28
C97　独立した(原発性)多部位の悪性新生物	0
D00-09　上皮内新生物	4
D10-36　良性新生物	84
D37-48　性状不詳または不明の新生物	130
第3章　血液および造血器の疾患、免疫障害	44
D50-53　栄養性貧血	17
D55-59　溶血性貧血	0
D60-64　無形成性貧血およびその他の貧血	13
D65-69　凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態	11
D70-77　血液および造血器のその他の疾患	2
D80-89　免疫機構の障害	1
第4章　内分泌、栄養および代謝疾患	274
E00-07　甲状腺障害	1
E10-14　糖尿病	101
E15-16　その他のグルコース調節および膵内分泌障害	25
E20-35　その他の内分泌腺障害	5
E40-46　栄養失調(症)	3
E50-64　その他の栄養欠乏症	16
E65-68　肥満(症)およびその他の過栄養＜過剰摂食＞	1
E70-90　代謝障害	122

第5章　精神および行動の障害	19
F00-09　症状性を含む器質性精神障害	1
F10-19　精神作用物質使用による精神および行動の障害	3
F20-29　統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	0
F30-39　気分〔感情〕障害	6
F40-48　神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	3
F50-59　生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	6
F60-69　成人の人格および行動の障害	0
F70-79　知的障害＜精神遅滞＞	0
F80-89　心理的発達の障害	0
F90-98　小児＜児童＞期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	0
F99　詳細不明の精神障害	0
第6章　神経系の疾患	334
G00-09　中枢神経系の炎症性疾患	17
G10-13　主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	12
G20-26　錐体外路障害および異常運動	10
G30-32　神経系のその他の変性疾患	12
G35-37　中枢神経系の脱髄疾患	1
G40-47　挿間性および発作性障害	208
G50-59　神経、神経根および神経そう＜叢＞の障害	8
G60-64　多発(性)ニューロパチ＜シ＞ーおよびその他の末梢神経系の障害	2
G70-73　神経筋接合部および筋の疾患	8
G80-83　脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群	2
G90-99　神経系のその他の障害	54
第7章　眼および付属器の疾患	481
H00-06　眼瞼、涙器および眼窩の障害	10
H10-13　結膜の障害	0
H15-22　強膜、角膜、虹彩および毛様体の障害	1
H25-28　水晶体の障害	410
H30-36　脈絡膜および網膜の障害	45
H40-42　緑内障	3
H43-45　硝子体および眼球の障害	12
H46-48　視神経および視(覚)路の障害	0
H49-52　眼筋、眼球運動、調節および屈折の障害	0
H53-54　視機能障害および盲＜失明＞	0
H55-59　眼および付属器のその他の障害	0
第8章　耳および乳様突起の疾患	56
H60-62　外耳疾患	3
H65-75　中耳および乳様突起の疾患	0
H80-83　内耳疾患	53
H90-95　耳のその他の障害	0
第9章　循環器系の疾患	1,895
I00-02　急性リウマチ熱	0
I05-09　慢性リウマチ性心疾患	7
I10-15　高血圧性疾患	7
I20-25　虚血性心疾患	501
I26-28　肺性心疾患および肺循環疾患	13
I30-52　その他の型の心疾患	486
I60-69　脳血管疾患	536
I70-79　動脈、細動脈および毛細血管の疾患	250
I80-89　静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患、他に分類されないもの	86
I95-99　循環器系のその他および詳細不明の障害	9

4. 疾病分類〈中分類〉

第10章	呼吸器系の疾患	**1,212**	第15章	妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	**0**
J00-06	急性上気道感染症	16	O00-08	流産に終わった妊娠	0
J10-18	インフルエンザおよび肺炎	381	O10-16	妊娠、分娩および産じょく＜褥＞における浮腫、たんぱく＜蛋白＞尿および高血圧性障害	0
J20-22	その他の急性下気道感染症	23			
J30-39	上気道のその他の疾患	10	O20-29	主として妊娠に関連するその他の母体障害	0
J40-47	慢性下気道疾患	126	O30-48	胎児および羊膜腔に関連する母体ケアならびに予想される分娩の諸問題	0
J60-70	外的因子による肺疾患	442			
J80-84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	92	O60-75	分娩の合併症	0
J85-86	下気道の化膿性およびえ＜壊＞死性病態	42	O80-84	分娩	0
J90-94	胸膜のその他の疾患	56	O85-92	主として産じょく＜褥＞に関連する合併症	0
J95-99	呼吸器系のその他の疾患	24	O95-99	その他の産科的病態、他に分類されないもの	0
第11章	消化器系の疾患	**1,889**	第16章	周産期に発生した病態	**0**
K00-14	口腔、唾液腺および顎の疾患	296	P00-04	母体側要因ならびに妊娠および分娩の合併症により影響を受けた胎児および新生児	0
K20-31	食道、胃および十二指腸の疾患	179			
K35-38	虫垂の疾患	123	P05-08	妊娠期間および胎児発育に関連する障害	0
K40-46	ヘルニア	226	P10-15	出産外傷	0
K50-52	非感染性腸炎および非感染性大腸炎	17	P20-29	周産期に特異的な呼吸障害および心血管障害	0
K55-63	腸のその他の疾患	352	P35-39	周産期に特異的な感染症	0
K65-67	腹膜の疾患	14	P50-61	胎児および新生児の出血性障害および血液障害	0
K70-77	肝疾患	132	P70-74	胎児および新生児に特異的な一過性の内分泌障害および代謝障害	0
K80-87	胆のう＜嚢＞、胆管および膵の障害	497			
K90-93	消化管系のその他の疾患	53	P75-78	胎児および新生児の消化器系障害	0
第12章	皮膚および皮下組織の疾患	**115**	P80-83	胎児および新生児の外皮および体温調節に関連する病態	0
L00-08	皮膚および皮下組織の感染症	71			
L10-14	水疱症	1	P90-96	周産期に発生したその他の障害	0
L20-30	皮膚炎および湿疹	2	第17章	先天奇形、変形および染色体異常	**23**
L40-45	丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害	0	Q00-07	神経系の先天性奇形	1
L50-54	じんま＜蕁麻＞疹および紅斑	6	Q10-18	眼、耳、顔面および頚部の先天性奇形	3
L55-59	皮膚および皮下組織の放射線(非電離および電離)に関する障害	0	Q20-28	循環器系の先天性奇形	2
			Q30-34	呼吸器系の先天性奇形	0
L60-75	皮膚付属器の障害	5	Q35-37	唇裂および口蓋裂	0
L80-99	皮膚および皮下組織のその他の障害	30	Q38-45	消化器系のその他の先天奇形	8
第13章	筋骨格系および結合組織の疾患	**350**	Q50-56	性器の先天奇形	7
M00-03	感染性関節障害	5	Q60-64	尿路系の先天奇形	0
M05-14	炎症性多発性関節障害	35	Q65-79	筋骨格系の先天奇形および変形	2
M15-19	関節症	54	Q80-89	その他の先天奇形	0
M20-25	その他の関節障害	12	Q90-99	染色体異常、他に分類されないもの	0
M30-36	全身性結合組織障害	10	第18章	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	**65**
M40-43	変形性脊柱障害	3			
M45-49	脊椎障害	87	R00-09	循環器系および呼吸器系に関する症状および徴候	18
M50-54	その他の脊柱障害	44	R10-19	消化器系および腹部に関する症状および徴候	7
M60-63	筋障害	10	R20-23	皮膚および皮下組織に関する症状および徴候	2
M65-68	滑膜および腱の障害	6	R25-29	神経系および筋骨格系に関する症状および徴候	1
M70-79	その他の軟部組織障害	28	R30-39	腎尿路系に関する症状および徴候	2
M80-85	骨の密度および構造の障害	9	R40-46	認識、知覚、情緒状態および行動に関する症状および徴候	5
M86-90	その他の骨障害	41			
M91-94	軟骨障害	0	R47-49	言語および音声に関する症状および徴候	0
M95-99	筋骨格系および結合組織のその他の障害	6	R50-69	全身症状および徴候	27
第14章	腎尿路生殖器系の疾患	**526**	R70-79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの	2
N00-08	糸球体疾患	144	R80-82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N10-16	腎尿細管間質性疾患	13	R83-89	その他の体液、検体＜材料＞および組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N17-19	腎不全	122			
N20-23	尿路結石症	125	R90-94	画像診断および機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの	1
N25-29	腎および尿管のその他の障害	4			
N30-39	尿路系のその他の疾患	92	R95-99	診断名不明確および原因不明の死亡	0
N40-51	男性生殖器の疾患	20			
N60-64	乳房の障害	2			
N70-77	女性骨盤臓器の炎症性疾患	3			
N80-98	女性性器の非炎症性障害	0			
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害	1			

4. 疾病分類〈中分類〉

第19章	損傷、中毒およびその他の外因の影響	**976**
S00-09	頭部損傷	146
S10-19	頚部損傷	13
S20-29	胸部＜郭＞損傷	51
S30-39	腹部、下背部、腰椎および骨盤部の損傷	73
S40-49	肩および上腕の損傷	102
S50-59	肘および前腕の損傷	102
S60-69	手首および手の損傷	14
S70-79	股関節部および大腿の損傷	219
S80-89	膝および下腿の損傷	112
S90-99	足首および足の損傷	12
T00-07	多部位の損傷	6
T08-14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷	8
T15-19	自然開口部からの異物侵入の作用	6
T20-32	熱傷および腐食	6
T33-35	凍傷	0
T36-50	薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	2
T51-65	薬用を主としない物質の毒作用	0
T66-78	外因のその他および詳細不明の作用	26
T79	外傷の早期合併症	2
T80-88	外科的および内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	72
T90-98	損傷、中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症	4
第20章	傷病および死亡の外因	**0**
V01-99	交通事故	0
W00-X59	不慮の損傷のその他の外因	0
X60-84	故意の自傷および自殺	0
X85-Y09	加害にもとづく傷害および死亡	0
Y10-34	不慮か故意か決定されない事件	0
Y35-36	法的介入および戦争行為	0
Y40-84	内科的および外科的ケアの合併症	0
Y85-89	傷病および死亡の外因の続発・後遺症	0
Y90-98	他に分類される傷病および死亡の原因に関係する補助的因子	0
第21章	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	**0**
Z00-13	検査および診査のための保健サービスの利用者	0
Z20-29	伝染病に関連する健康傷害をきたす恐れのある者	0
Z30-39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	0
Z40-54	特定の処置および保健ケアのための保健サービスの利用者	0
Z55-65	社会経済的環境および社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0
Z70-76	その他の環境下での保健サービスの利用者	0
Z80-99	家族歴、既往歴および健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0

●部署紹介

放射線科



歯科・歯科口腔外科



薬剤科



栄養科



健診センター



臨床検査科



保育室



よろこび訪問看護



栄養サポートチーム（NST）



愛の郷 外観



診　療　部

―― 2016年 ――

1）内　　科　28
2）循環器内科（カテーテル部門）　35
3）消化器内科　36
4）呼吸器内科　38
5）腫 瘍 内 科　39
6）血管透析科　41
7）小　児　科　43
8）放 射 線 科（診療部）　45
9）神 経 内 科　46
10）内分泌内科　47
11）膠原病リウマチ内科　49
12）外　　科　51
13）整 形 外 科　52
14）脳神経外科　56
15）心臓血管外科・大動脈センター　57
16）形成外科・美容外科　59
17）泌 尿 器 科　61
18）眼　　科　63
19）歯科・歯科口腔外科　65
20）麻　酔　科　67
21）肝臓センター　68
22）呼吸器外科　71
23）小 児 外 科　73
24）皮　膚　科　75
25）婦　人　科　76
26）耳鼻咽喉科　77
27）リハビリテーション科（診療部）　78

1）内　科

病院長　原田　博雅

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

1. 概要

2016 年も内科の課題は内科診療体制の維持でした。外来入院患者様を診ていくための必要医師数の確保が難しく､外来の一部は非常勤医師に御願いせざるを得ない状態が続いています。

その中で、4 月より呼吸器内科部長として石原先生が赴任されました。また、7 月より循環器内科に藤本先生が赴任されました。

初期研修体制として、引き続き総合内科で内科研修を行っています。卒後 2 年目の研修医として清水・仲里・原田の各先生が、また卒後 1 年目の研修医として、頼田・阿古目・友池の各先生方が研修を終了しています。

2. メンバー構成

循環器	福田貢（コウ）（総長）	迫田慎一郎（部長）	藤本忠男
呼吸器	原田博雅（院長）	石原英樹　（部長）	
消化器	浅野耕吉（部長）	杉田博二　（医長）	堀元隆二（医長）4/1 付昇格
内分泌	山本智英（トシヒデ）（顧問）		
腫瘍	洪鉉寿（コウゲンジュ）（部長）		
神経	辰己新水（医長）		
腎臓			
一般内科	瓜生恭章（キヨアキ）（部長）	高原良典（医長）	
	山崎雅人	小原太郎	前孝仁
	原田彩奈		
健診	岡村芽里		

3. 実績

《退院患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
357	364	379	410	349	377	374	369	372	395	391	400	4,537

1)《感染症および寄生虫症》(A00-B99)

疾　　病	件	疾　　病	件
腸炎	59	帯状疱疹	4
(感染性)	(7)	流行性耳下腺炎	4
(細菌性)	(2)	ウイルス感染症	3
胃腸炎	47	ウイルス性髄膜炎	3
(細菌性)	(19)	結核性髄膜炎	3
(感染性)	(12)	肺非結核性抗酸菌症	3
敗血症	25	ヘルペス脳炎	2
(グラム陽性菌)	(5)	伝染性単核症	2
(MRSA)	(2)	肺アスペルギルス症	2
(グラム陰性菌)	(2)	クロイツフェルト・ヤコブ病	1
細菌感染症	7	熱帯熱マラリア	1
肺結核	7	その他	10
C型肝硬変	5	合　計	188

2)《新生物》(C00-C97)※術後・再発・化学療法を含む

疾　　病	件	疾　　病	件
肺	243	悪性リンパ腫	19
(上葉)	(102)	直腸	9
(下葉)	(81)	悪性中皮腫	8
(肺門部)	(25)	食道	8
(中葉)	(5)	急性白血病	6
胃	54	原発不明	6
結腸	32	胆管	5
転移癌	32	前立腺	3
(脳)	(12)	胆のう	3
(骨)	(7)	盲腸	3
(肺)	(6)	子宮	2
(肝)	(5)	多発性骨髄腫	2
膵	23	乳	2
(膵頭部)	(14)	卵巣	2
(膵体部)	(5)	精巣胚細胞腫瘍	2
(膵尾部)	(4)	その他	8
肝	21	合　計	493

《上皮内・良性・性状不詳または不明の新生物》(D00-D48)

(良性腫瘍)　　(性状不詳・不明)

疾　　病	件	疾　　病	件
大腸腺腫	26	骨髄異形成症候群	9
胃腺腫	14	膵神経内分泌腫瘍	7
胸腺腫	1	食道腫瘍	4
卵巣のう腫	1	膵腫瘍	3
		胃腫瘍	1
		甲状腺腫瘍	1
		その他	2
合　計	42	合　計	27

3)《血液および造血器の疾患、免疫障害》(D50-D89)

疾　　病	件	疾　　病	件
貧血症	20	播種性血管内凝固	3
(鉄欠乏性)	(9)	血小板減少症	2
(急性失血性)	(5)	巨赤芽球貧血	2
(出血性)	(2)	赤芽球減少症	1
好中球減少症	4	その他	3
特発性血小板減少性紫斑病	3	合　計	38

4)《内分泌、栄養および代謝疾患》(E00-E90)

疾　　病	件	疾　　病	件
Ⅰ型糖尿病	1	高カリウム血症	6
(ケトアシドーシス)	(1)	高ナトリウム血症	4
Ⅱ型糖尿病	79	ステロイド離脱症候群	1
(合併症を伴わないもの)	(34)	副腎皮質機能低下症	1
(その他の合併症)	(33)	甲状腺機能亢進症	1
(腎合併症)	(6)	高アンモニア血症	1
(ケトアシドーシス)	(2)	代謝性アシドーシス	1
(末梢循環合併症)	(2)	低アルブミン血症	1
(眼合併症)	(1)	低蛋白血症	1
(昏睡)	(1)	乳酸アシドーシス	1
脱水症	41	肺胞低換気症候群	1
低血糖症	24	副腎クリーゼ	1
低ナトリウム血症	21	高カルシウム血症	1
栄養失調	16	その他	6
低カリウム血症	15	合　計	224

5)《精神および行動の障害》(F00-F99)

疾　　病	件	疾　　病	件
拒食症	3	神経性食欲不振症	1
うつ病	3	摂食障害	1
アルコール依存症	2	認知症	1
カフェイン中毒	1	合　計	12

6)《神経系の疾患》(G00-G99)

疾　　病	件	疾　　病	件
睡眠時無呼吸症候群	95	重症筋無力症	4
(検査入院)	(67)	アルコール性脳変性	3
低酸素性脳症	13	自律神経失調症	3
パーキンソン病	10	脳血管障害性パーキンソン症候群	3
てんかん	10	ミオクローヌス	2
(症候性)	(7)	神経調節性失神	2
髄膜炎	8	ギラン・バレー症候群	1
(細菌性)	(6)	悪性症候群	1
(無菌性)	(2)	筋萎縮性側索硬化症	1
アルツハイマー型認知症	7	その他	17
一過性脳虚血発作	4	合　計	184

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

7)《耳および乳様突起の疾患》(H60-H95)

疾　　病	件	疾　　病	件
めまい症	49	前庭神経炎	2
（末梢性）	(40)	眼内炎	1
（良性発作性頭位）	(4)	耳介蜂巣炎	1
（回転性）	(3)		
（耳性）	(1)	合　計	53

8)《循環器系の疾患》(I00-I99)※検査入院を含む

（心血管）

疾　　病	件	疾　　病	件
心不全	339	洞不全症候群	11
（うっ血性）	(298)	肺塞栓症	10
（慢性）	(31)	高血圧症	10
（急性）	(3)	（心不全を伴う）	(6)
（心原性肺水腫）	(7)	たこつぼ型心筋症	6
狭心症	334	感染性心内膜炎	6
（不安定）	(235)	心室頻拍	6
（労作性）	(66)	蘇生に成功した心停止	4
（安定）	(14)	無症候性心筋虚血	4
（冠攣縮性）	(3)	虚血性心疾患	3
（安静時）	(2)	発作性上室頻拍	3
（異型）	(2)	冠動脈硬化症	2
急性心筋梗塞	85	急性冠症候群	2
（前壁）	(46)	急性大動脈解離StanfordA	2
（下壁）	(26)	心室期外収縮	2
（後壁）	(5)	僧帽弁閉鎖不全症	2
（側壁）	(4)	来院時心肺停止	2
陳旧性心筋梗塞	52	不整脈	2
房室ブロック	20	心膜液貯留	2
（完全）	(17)	起立性低血圧症	1
（高度）	(2)	急性心膜炎	1
大動脈弁	18	心破裂・急性心筋梗塞に合併	1
（狭窄）	(14)	心房内血栓症	1
（狭窄兼閉鎖不全）	(3)	心房粗動	1
（閉鎖不全）	(1)	その他	10
心房細動	12	合　計	954

（脳血管）

疾　　病	件	疾　　病	件
脳梗塞	32	脳出血	2
（塞栓性）	(14)	（後遺症）	(1)
（血栓性）	(3)	その他	3
（後遺症）	(3)	合　計	37

（その他の血管）

疾　　病	件	疾　　病	件
下肢閉塞性動脈硬化症	117	痔核	3
食道静脈瘤	15	胃静脈瘤破裂	2
（破裂）	(7)	上腸間膜動脈解離	2
深部静脈血栓症	11	腎動脈狭窄症	1
下肢血栓性静脈炎	6	その他	7
下肢うっ滞性皮膚炎	4	合　計	168

9)《呼吸器系の疾患》(J00-J99)

疾　　病	件	疾　　病	件
嚥下性肺炎	423	インフルエンザ	18
肺炎・病原体不明	221	気管支炎	17
(気管支)	(130)	胸水	13
(大葉性)	(7)	インフルエンザ菌による肺炎	12
間質性肺炎	89	肺膿瘍	6
(特発性)	(8)	気管支拡張症	5
(薬剤性)	(3)	急性扁桃炎	5
細菌性肺炎	64	自然気胸	5
(マイコプラズマ)	(7)	好酸球性肺炎	4
(MRSA)	(5)	細菌性胸膜炎	4
(緑膿菌)	(4)	膿胸	4
(モラキセラ・カタラリス)	(3)	急性喉頭蓋炎	2
気管支喘息	56	急性上気道炎	2
(発作)	(32)	石綿関連びまん性胸膜肥厚	2
肺気腫	29	肺水腫	2
慢性閉塞性肺疾患	23	無気肺	2
肺炎連鎖球菌による肺炎	20	その他	10
呼吸不全	19	合　計	1,057

10)《消化器系の疾患》(K00-K93)
(食道、胃、十二指腸)

疾　　病	件	疾　　病	件
食道狭窄	13	胃潰瘍	56
逆流性食道炎	10	(出血性)	(50)
食道裂孔ヘルニア	8	(急性)	(3)
マロリ・ワイス症候群	6	胃炎	12
食道出血	1	(萎縮性)	(5)
十二指腸潰瘍	27	(出血性)	(2)
(出血性)	(20)	胃ポリープ	4
(急性)	(4)	その他	15
十二指腸炎	2	合計	154

(その他の腸疾患)

疾　　病	件	疾　　病	件
腸憩室疾患	53	腸軸捻転	5
消化管出血	34	直腸潰瘍	4
虚血性腸炎	19	腸腰筋膿瘍	3
大腸ポリープ	16	直腸炎	3
イレウス	14	腸穿孔	1
潰瘍性大腸炎	12	その他	8
便秘症	6	合　計	178

(肝疾患)

疾　　病	件	疾　　病	件
肝硬変	23	肝炎	4
(アルコール性)	(16)	(急性)	(3)
肝機能障害	8	(アルコール性)	(1)
肝不全	5	肝膿瘍	1
(急性)	(4)	門脈圧亢進症性胃症	1
肝性脳症	4	合　計	46

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管 大動脈セ　57
形成外科 美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科 歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

（胆嚢、胆管、膵）

疾　　病	件	疾　　病	件
急性胆のう炎	16	急性膵炎	40
胆のう結石	8	（胆石を伴う）	(6)
（胆のう炎を伴う）	(6)	（アルコール性）	(3)
総胆管結石	74	慢性膵炎	15
（胆管炎を伴う）	(16)	（アルコール性）	(2)
急性胆管炎	34	その他	3
閉塞性黄疸	5	合　計	195

11)《皮膚および皮下組織の疾患》(L00-L99)

疾　　病	件	疾　　病	件
蜂窩織炎	37	スティーブンス･ジョンソン症候群	1
紅斑	3	化膿性リンパ腫	1
褥瘡感染	2	その他	3
アレルギー性じんま疹	1	合　計	48

12)《筋骨格系および結合祖組織の疾患》(M00-M99)

疾　　病	件	疾　　病	件
横紋筋融解症	8	頚椎症性脊髄症	2
偽痛風	6	成人スチル病	2
リウマチ性肺疾患	4	シェーグレン症候群	1
化膿性脊椎炎	4	ベーチェット病	1
関節炎	4	壊死性筋膜炎	1
ANCA関連血管炎	3	その他	6
急性腰痛症	2	合　計	44

13)《腎尿路生殖器系の疾患》(N00-N99)

疾　　病	件	疾　　病	件
急性腎盂腎炎	113	尿路感染症	47
腎不全	101	膀胱炎	6
（末期）	(48)	結石性腎盂腎炎	5
（慢性）	(25)	水腎症	3
（急性腎前性）	(13)	ネフローゼ症候群	2
（急性）	(10)	腎性貧血	2
（急性腎後性）	(4)	その他	9
（急性腎性）	(1)	合　計	288

14)《先天性奇形、変形および染色体異常》(Q00-Q99)

疾　　病	件
キアリ奇形第１奇形	1
合　計	1

15)《症状、徴候および以上臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの》(R00-R99)

疾　　病	件	疾　　病	件
喀血	8	急性腹症	1
CO2ナルコーシス	4	高血糖症	1
一過性意識障害	3	食欲不振	1
発熱	2	全身性浮腫	1
老衰	2	尿閉	1
下肢脱力感	1	その他	3
急性胸膜炎	1	合　計	29

16)《損傷、中毒およびその他の外因の影響》(S00-T98)

疾　　病	件	疾　　病	件
透析シャント閉塞	16	CAPD腹膜炎	2
アナフィラキシー	15	異物誤飲	2
頭部打撲・挫創	11	急性硬膜下血腫	2
脊椎圧迫骨折	6	急性薬物中毒	2
ペースメーカー電池消耗	4	ペースメーカー不全	1
熱中症	4	ポリペク後出血	1
肋骨骨折	4	その他	4
低体温	3	合　計	77

4. 今後の目標

今後も内科各科医師の採用を図り、より充実した内科診療をめざしたいと思います。2018年度より始まる予定の新専門医制度に向けて、内科専門医を自らの施設で教育できるよう、当院の教育体制をさらに整備する予定です。

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

2）循環器内科（カテーテル部門）

循環器内科部長　迫田　慎一郎

1. 概要

当科はカテーテル業務を行っており、徳洲会の柱である救急医療において循環器診療の占める割合は大きく、当然ながら 24 時間体制を敷いている。外来も月曜日から土曜日まで毎日オープンしている。

特殊な症例を除きすべて若手医師に first operator をさせており、若手医師に加えパラメディカルの能力・知識・経験・前向きな姿勢が診療を支えてくれている。

形成外科主導の創傷治療センターにおいて EVT が必要な症例に協力させて頂いている。そのため末梢血管 EVT 症例数の 6 割が膝下に対する intervention という他院では例を見ない症例構成比となっている。

2. メンバー構成

福田貢・迫田慎一郎・藤本忠雄・綾田健士・西浦哲史・辻庸宏

3. 実績

	2016 年	2015 年	2014 年
総合カテ件数	978	1,209	1,089
PCI	362	463	436
末梢血管 EVT	150	226	183
ペースメーカー	38	29	44
ロータブレーター	25	50	55

※末梢血管 EVT にはシャント PTA を含まず。

4. 今後の目標

シャント PTA にも取り組んでいきたい。256 列 CT 装置、バイプレンシネ装置が導入されればさらにカテ件数は増えると思われる。

3）消化器内科

消化器内科部長　浅野　耕吉

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

1. 概要

当院は、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設です。

当院内視鏡室では上部消化管検査を施行しており、腺腫性病変や早期癌に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を積極的に行っています。止血術、その他食道・胃静脈瘤硬化療法、異物除去、狭窄部バルーン拡張や閉塞に対するステント留置など各種治療、その他胃ろう造設（PEG）を行っています。

下部消化管内視鏡検査では止血術、大腸腺腫性病変に対しては色素内視鏡・拡大内視鏡で診断を行い、検査中にポリープが見つかれば、その場でポリペクトミー・内視鏡的粘膜切除術（EMR）を施行してポリープ切除を行っています。一括切除できない病変に対しては、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を行っています。

胆･膵系では、閉塞性黄疸や化膿性胆管炎などに対し内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）、超音波内視鏡（EUS）、FNA 関連手技（EUS-FNA、EUS-CPN）を安全に施行しています。

内視鏡室では、日本消化器内視鏡学会ガイドラインを遵守したスコープの洗浄・消毒履歴管理を行う事により、安全なスコープを使用しての検査・治療を行っています。処置具に関しても同上のガイドラインを遵守し、安全な検査治療が行えるよう努めています。

2. メンバー構成

部長　浅野耕吉

医長　杉田博二　日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

医員　堀元隆二　日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医
日本肝臓学会専門医

3. 実績

1）内視鏡検査日　月曜日～金曜日

2）外来診療

午前診　受付時間　8 時～ 12 時（診察時間　9 時～）

	月	火	水	木	金	土
消化器内科		杉田	浅野	杉田	堀元	

夕診　受付時間　16 時 30 分～ 19 時 30 分（診察時間　17 時～）

	月	火	水	木	金	土
消化器内科	浅野	堀元			杉田	

3）検査・治療実績

症例	件数
上部消化管内視鏡検査	5,737
上部消化管粘膜下層剥離術	44
下部消化管内視鏡検査	2,650
下部消化管粘膜下層剥離術	39
下部消化管粘膜切除術（ポリペクトミー）	336
内視鏡的逆行性胆道膵管造影	352
超音波内視鏡	135
FNA 関連手技	16
胃瘻（いろう）	（新設造設）46
小腸内視鏡	7

4. 今後の目標

鎮静剤を使用するなど、苦痛のより少ない検査を目指し、色素内視鏡や NBI（狭帯域観察）を使用し、早期癌の発見に努めていきます。

4）呼吸器内科

消化器内科部長　石原　英樹

1. 概要

当院にはこれまでも呼吸器内科常勤医は常に在籍状態にあったのですが、呼吸器内科として正式に標榜するようになったのは 2016 年 4 月からとなります。肺癌に関しては腫瘍内科が診療の中心になるので、当科では主に肺癌以外の呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎など）を診療しています。それに加えて、呼吸リハビリテーションチームとして、院内の呼吸管理のコンサルト業務もおこなっています。

また、呼吸器内科・人工呼吸領域での学会活動も積極的におこなっています。

2. メンバー構成

部長　石原英樹

院長　原田博雅

3. 実績

《外来診療患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
1	4	3	87	102	136	177	193	184	184	181	233	1,435	123.8

4. 今後の目標

現在中河内地区で呼吸器内科を標榜している病院がほとんどないのが現状です。今後これらの地域を含めた呼吸器診療の一助になれるよう努力していく所存です。

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

5）腫瘍内科

腫瘍内科部長　洪　鉉寿

1. 概要

昨今の抗がん化学療法は今までの殺細胞性薬剤（古典的意味での抗がん剤）のみでなく、分子標的治療、免疫療法など多面的な治療方法が開発され、日進月歩の速度で進化しています。特に昨年度は患者数の多い肺癌領域でニボルマブを筆頭とする免疫療法製剤が認可され、我々にも大きなインパクトを与えてくれました。しかしながら、これらの薬剤の発展により今までの臓器別診療のみでは解決できない諸問題が出現しました。当科は 2015 年 4 月に開設された新しい診療科で、臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医の 2 人があらゆる種類の抗がん薬物療法および支持療法を守備領域としています。地域の特性上、肺癌が占める割合が高いのですが、消化器系悪性腫瘍、慢性骨髄性白血病（CML）、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など血液系腫瘍、原発不明癌の化学療法も担当しています。肺癌の中でも非小細胞肺癌は治療の進歩が著しく、分子標的治療剤や免疫治療剤など新しい薬剤が続々登場していますが、できる限り多くの患者様が最新かつ的確な治療の恩恵を享受できるように当科は国立がんセンター主導の肺癌遺伝子スクリニングプロジェクトであります SCRUM-JAPAN の参加施設となっており、最先端の技術を駆使した肺癌遺伝子異常の検出のための臨床試験を行っています。また、血液の悪性腫瘍についても慢性骨髄性白血病に代表されるように分子標的治療剤の開発に伴う治療成績の進歩は著しく、複数のがん専門薬剤師を有し、多種多様の抗がん治療剤を扱う当科の特性を生かして血液腫瘍についても積極的に取り組んで参ります。自家末梢血幹細胞移植や無菌室管理以上の治療が必要となる急性白血病や再発、難治悪性リンパ腫の一部については大阪市立大学および関連病院など他の専門病院に紹介しております。抗がん薬物療法は医師個人の手技ではなく、多職種間のチーム医療によって実を結ぶ治療であります。当院には抗がん剤および関連薬剤に精通した優秀ながん専門薬剤師が 3 名在籍しており、緩和的治療に関してもがん性疼痛看護認定看護師が 1 名在籍しています。これらの専門職と緊密な協議のもとで治療を行っています。

2. メンバー構成

部長：洪鉉寿
日本臨床腫瘍学会専門医（がん薬物療法専門医））
日本内科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本血液学会専門医
専門分野：各種固形癌（肺癌、胃癌、大腸癌、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）
部長（内科部長兼任）瓜生恭章
日本臨床腫瘍学会専門医（がん薬物療法専門医））
日本内科学会専門医
専門分野：各種固形癌（乳癌、膵臓癌、胆道系癌、肺癌など）
副部長（薬剤部兼任）松浦暢子（臨床腫瘍センター専任副部長）
日本医療薬学会 がん専門薬剤師
専門分野：臨床薬理学
主任（薬剤部兼任）小西千尋

日本医療薬学会 がん専門薬剤師
専門分野：臨床薬理学
主任（薬剤部兼任）南野智志
日本医療薬学会 がん専門薬剤師
専門分野：臨床薬理学

3. 実績

《外来診療患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
188	174	205	216	201	235	204	247	219	230	238	244	2,601	216.8

4. 今後の目標

当科ではエビデンスに基づいた標準的な化学療法の施行を心がけておりますが、同時に患者様の個人的な特性に合わせた、きめ細かな治療や副作用管理を目標としていきます。

内　科 28
循環器内 35
消化器内 36
呼吸器内 38
腫瘍内科 39
血管透析 41
小児科 43
放射診科 45
神経内科 46
内分泌内 47
膠原リウ 49
外　科 51
整形外科 52
脳神経外 56
心臓血管大動脈セ 57
形成外科美容外科 59
泌尿器科 61
眼　科 63
歯　科歯科口腔 65
麻酔科 67
肝臓セン 68
呼吸器外 71
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78

6）血管透析科

血管透析医長・透析センター長　申　勝

1. 概要

2016 年は、常勤医師 1 名・非常勤医師 4 名 の診療体制となっています。また、看護師(11 名)、薬剤師（兼任 3 名)、臨床工学技士（兼任 3 名)、管理栄養士（担当 2 名)、医事課の透析スタッフが、入院と通院を合わせて約 110 名の透析患者様の対応をさせて頂いています。

総入院患者数は年間 600 人前後と安定の方向にあり、昨年のべ 604 例の内訳は 男:女 = 2.3:1, 平均年齢; 男性 69.1 歳・女性 73.7 歳 , 糖尿病有病率; 男性 58.7%・女性 50.8% , 年間救急搬送 193 件でした。65 歳以上の高齢者は総入院患者数の 75.3% を占め、救急搬送率は 36.5%でした。特に 75 歳以上の後期高齢者では総入院患者数の 41.6%であり、救急搬送率については 43.4% と高値を示しました。

腎代替療法の選択枝を充実すべく 今田 聰雄 先生（近畿大堺病院 元教授）の下で 2012 年 4 月より当院においても CAPD 外来が開設され、2016 年 12 月末までに 42 名の方が腹膜透析を開始されました。12 月末時点で他施設の通院患者を除く 14 名が、当院に通院し腹膜透析を継続されています。

2. メンバー構成

透析センター診療担当医師

循環器診療担当：福田　貢（循環器内科）　　病棟管理主担当：小原太郎（総合・腎不全内科）

血液透析主担当：申　　勝（血管透析内科）　　透析室支援担当：三浦秀信（泌尿器科非常勤）

腹膜透析主担当：今田聰雄（腎臓・高血圧内科）　　糖尿病診療担当：不　　在（2016 年 12 月 31 日時点）

3. 実績

《透析センター月別患者数》

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
透析患者数（月平均）	102.1	97.1	102.6	103.3	104.3	96.1	97.0	90.7	91.6	98.9	102.5	104.9	1191.1	99.3
新入院数	62	48	61	47	54	45	43	38	51	58	53	44	604	50.3
新規導入数	3	2	3	1	4	3	2	0	0	2	3	8	31	2.6
CAPD開始数	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0.3
シャント手術数	3	3	4	2	3	6	0	3	0	1	8	9	42	3.5
PDカテ留置数	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0.3
死亡者数	6	3	3	3	3	5	3	3	2	3	3	4	41	3.4

注 1：透析患者数には、当院への通院患者様を含みます。 新規導入数には、PD 患者様も含みます。
注 2：新入院数は透析センターに紹介された患者様の総数であり、腎不全患者様なども含みます。

《診療科別入院透析患者数（のべ人数)》

内科系	総合	呼吸器	循環器	消化器	肝臓	腎臓(CAPD)	膠原病リウマチ	糖尿病代謝	血管(その他)	合計
科別人数	45	31	179	31	4	86	0	0	1	377

外科系	脳神経	呼吸器	心臓血管	消化器	肝臓	泌尿器	整形(リウマチ)	眼科	形成(末梢)	合計
科別人数	22	4	23	30	14	17	39	23	55	227

注 3：複数科にまたがる場合は、入院時の主診療科にて登録しました。

《年齢別分類表》

	20 歳～ 65 歳未満の入院患者様（～27歳の入院なし）149 名（24.7%）	65 歳～ 75 歳未満の入院患者様（前期高齢者）204 名（33.8%）	75 歳以上の入院患者様（後期高齢者）251 名（41.5%）	透析センターに紹介された全ての入院患者様を対象（外来 or 紹介）604 名（100.0%）
男女比（男：女）	3.4：1	3.8：1	1.3：1	2.3：1
平均年齢	54.2歳	69.8歳	80.8歳	70.6歳
救急搬送率	18.1%	27.9%	43.4%	32.0%
糖尿病の有病率	61.6%	57.6%	51.5%	56.9%
ICU の入室率	16.9%	12.5%	14.6%	14.7%
緊急透析の有無	5.1%	1.0%	5.3%	3.8%
入院中 手術あり	35.0%	31.4%	28.4%	31.6%
入院中 カテあり	32.6%	33.3%	19.3%	28.4%
死亡率入院時から一週間（168 時間）	2.5%	0.45%	1.9%	1.6%

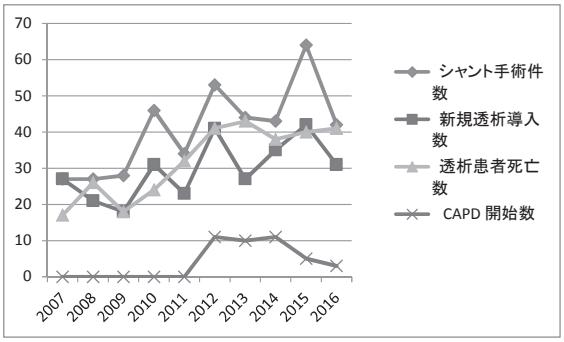
《年度別分類表》

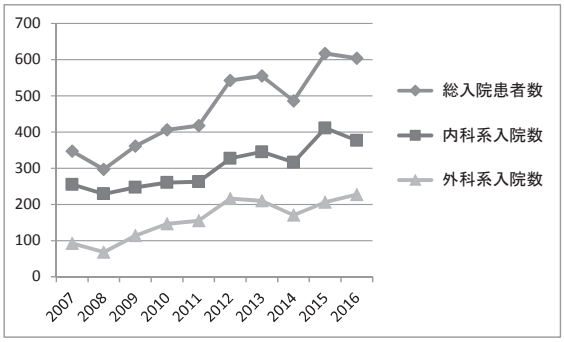
	2012 年の入院患者様 543 名（100%）	2013 年の入院患者様 555 名（100%）	2014 年の入院患者様 486 名（100%）	2015 年の入院患者様 617 名（100%）	2016 年の入院患者様 604 名（100%）
男女比（男：女）	1.9：1	2.3：1	2.5：1	2.0：1	2.3：1
平均年齢	68.9歳	70.2歳	69.7歳	69.5歳	70.6歳
救急搬送率	23.8%	27.0%	24.7%	30.8%	32.0%
糖尿病の有病率	52.4%	51.4%	52.9%	53.6%	56.9%
ICU の入室率	13.4%	12.6%	10.9%	15.4%	14.7%
緊急透析の有無	4.0%	3.6%	1.6%	4.5%	3.8%
入院中手術あり	32.8%	33.9%	31.1%	32.4%	31.6%
入院中カテあり	31.9%	33.0%	35.4%	34.0%	28.4%
死亡率入院時から一週間（168 時間）	2.9%	5.4%	3.7%	2.9%	1.6%
CHDF の年間全件数	25件	31件	22件	43件	50件
エンドトキシン吸着療法	11件	9件	4件	9件	13件
血漿交換（PE）	5件	5件	2件	3件	2件
ビリルビン吸着療法	1件	2件	1件	1件	0件
LDL アフェレーシス	5件	2件	4件	6件	7件
血球吸着療法	2件	0件	0件	1件	3件

《病院全体での比較》

	病院全体での年間入院患者様（医事課の集計より）10,076名（100%）	病院全体の年間救急搬送後入院（病院全体の29.5%）2,973名（100%）	透析センター関連の年間入院患者様（病院全体の6.0%）604名（100%）	透析センター関連の年間救急搬送後入院（病院全体の1.9%）193名（100%）
男女比（男：女）	1.35：1	1.14：1	2.30：1	2.20：1
平均年齢（歳）	68.3歳	74.8歳	70.6歳	74.0歳
内科系入院数	4,906名（48.7%）	2,080名（70.0%）	377名（62.4%）	139名（72.0%）
外科系入院数	5,170名（51.3%）	893名（30.0%）	227名（37.6%）	54名（28.0%）

【病院救急搬送数】年間 6,522 件（月平均 544 件）





4. 今後の目標

近隣の先生方の御指導のもと、他施設および他診療科と協力して、より高度な集学的治療および看護を提供できるように更に整備して参ります。また、地域の腎不全患者様の新規透析導入・入院加療施設としての役割を担えるよう、スタッフ一同協力し引き続き努力していく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

内 科 28
循環器内 35
消化器内 36
呼吸器内 38
腫瘍内科 39
血管透析 41
小児科 43
放射診科 45
神経内科 46
内分泌内 47
膠原リウ 49
外 科 51
整形外科 52
脳神経外 56
心臓血管大動脈セ 57
形成外科美容外科 59
泌尿器科 61
眼 科 63
歯 科 歯科口腔 65
麻酔科 67
肝臓セン 68
呼吸器外 71
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78

7）小児科

小児科部長　石垣　早知子

1. 概要

今年は常勤医１人体制になりましたが、一般小児疾患および予防接種ほか、アレルギー疾患、心身症などの多岐にわたる患者様の診療を続けているほか、入院患者様も受け入れています。外来は従来通り石垣は月曜から土曜まで外来を行うのと大阪医科大学より診療の援助をいただいています。

また、小児病棟として成人と混合ですが入院の受け入れも行っており、一般疾患が中心ですが、時には心身症などの疾患も入院して加療を行っています。長期に登校できない子どもに神原先生から大阪府立羽曳野支援学校の訪問教育をお願いし教育のサポートも実施する場合もあります。

また従来までの特色であるコメディカルの関わりも引き続き、医療だけでなく各種ケアも行っています。小児の言語発達遅滞など発達障害に対して言語聴覚士（ST）５名が評価および訓練を行っており、また小児心療内科として、臨床心理士２名（朴先生、八島先生）がカウンセリングや心理治療を行っています。小児科外来横には八尾市の委託事業でもある病児保育室があり、保育士とともに外来ナースが、看病できない保護者にかわって子どもたち(病児)のケアを行っています。院内の看護師、医師、コメディカルの就業支援にも役立っていますが、もちろん院内に限らず、広く開放し育児支援の役割も担っています。参加している全国病児保育協議会は広く病児のために啓蒙活動しています。さらに中河内地区として、八尾市のみならず東大阪市とも連携し、徳洲会病院としても今年度は野崎徳洲会クリニックと予防接種研修を通じて交流し広く地域小児科に貢献を図っています。

2. メンバー構成

常 勤 医 師　石垣早知子（部長）

非常勤医師　松村英樹、新田雅彦、清水達雄、小武内優子、神原雪子、東佐保子、七里元督

3. 実績

《外来診療》

診療科	時間		診察時間	月	火	水	木	金	土
病児保育診察 (9:00 ～ 9:30)	午前診	Ⅰ		松村	石垣早	石垣早	新田	清水	
小児科 (9:30 ～)		Ⅱ		松村	石垣早	石垣早	新田	清水	小武内
		Ⅲ		石垣早				★石垣早	石垣早
小児科	午後診		14:00 ～ 16:00			石垣早	石垣早		
小児外科 〇受付 11:30 迄	午前診				山東(診察室2階) (3/28 迄)			木村	
小児アレルギー外来 (予約)	午前診		9:30 ～ 12:00					★石垣早	
	午後診		14:00 ～ 16:30			★石垣早	★石垣早		
小児神経外来 (予約)	午前診		9:00 ～ 14:00						★七里(不定期)
心身症外来 (予約) (言語発達・育児相談等)	午前診		10:00 ～ 13:00				第 1.3 ★東		
	午後診		14:00 ～ 16:00		★神原	★神原			
	夕診		17:00 ～ 18:00				★神原		
慢性疾患外来 (予約)	午後診		14:00 ～ 18:00				★新田		
小児循環器外来 (予約)	午後診		14:00 ～ 16:30					★清水(不定期)	
乳児健診 (予約)	午後診		14:00 ～ 14:30					第 2 ★石垣早	
予防接種 (予約)	午後診		14:00 ～ 14:30	★松村					
	夕診		17:00 ～ 17:30				★石垣早		

注) ★は予約のみです。

4. 今後の目標

今後も小児の心身の健康と成長に必要な小児診療を発展させたいと考えています。

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

8）放射線科（診療部）

放射線科部長　西峯　潔

1. 概要

放射線科では、CT、MRI、RI、消化管造影、マンモグラフィと一部の単純 X 線写真の読影、一部の消化管造影の施行、腹部四肢の血管造影と IVR、放射線治療を主として担当しています。

各診療科や近隣の病院・診療所と連携して、各種検査・IVR や、放射線治療を迅速かつ適切に実施、正確に診断することに努めています。

スタッフの教育は、専門医会主催のミッドウィンターセミナー、ミッドサマーセミナーや、各種学会、研究会に積極的に参加し、最新の知識、技術を習得するように努めています。

2. メンバー構成

診断・IVR 部門：常勤医 4 名（西峯潔、岩崎聖、兵藤公一、日高輝之）、非常勤医 10 名。

放射線治療部門：常勤医 1 名（梶谷千香枝）、非常勤医 1 名。

上記のうち、診断専門医 13 名、IVR 専門医 4 名、治療専門医 2 名

3. 実績

読影件数：28,483 件

血管造影件数：170 件（そのうち IVR:138 件）

放射線治療：143 件（4,397 回）

他施設からの紹介件数：3,154 件

4. 今後の目標

診断・IVR 部門では、常勤医のみならず、非常勤医や遠隔画像診断の協力体制もさらに強化しつつ、迅速な検査実施と、正確な読影に努めていく所存です。今後は、CT、MR、血管造影装置等の更新を進め、さらに検査画像の向上を図りたいと思っています。

放射線治療部門では、2014 年 1 月から常勤の放射線治療専門医 1 名体制で行っていますが、引き続き大学からの応援と遠隔システムを利用し、安全で有効な放射線治療を各診療科と協力して遂行していきます。放射線技師や看護師などスタッフのさらなる充実と研修を行い、より高度な放射線治療も実施できるよう、体制を整えていきたいと考えています。

日本医学放射線学会認定修練施設に認定されており、研修医の教育にも力を入れていきたいと考えています。

9）神経内科

神経内科　辰己　新水

1. 概要

2015 年 4 月より、辰己が常勤医師として勤務し、約 2 年が経過いたしました。当院や他院からのコンサルトが増えて参りました。ご紹介いただき、大変有難うございます。

神経内科疾患を全般にわたって扱っております（中枢・末梢神経系、筋疾患）。

2. メンバー構成

常　勤：　辰己新水

非常勤：　伊藤和博

三野俊和

渡辺徹也

3. 実績

主要な疾患は、下記の通りです。（辰己医師、1 月～ 12 月の期間。他科との併診を含む）

疾患カテゴリー	症例数	疾患カテゴリー	症例数
神経変性疾患	85	不随意運動	24
感染性神経疾患	20	髄液還流異常	2
炎症性神経疾患	13	筋疾患	8
代謝・中毒性神経障害	25	神経筋接合部疾患	15
てんかん・けいれん	22	末梢神経障害	42
失神発作	15		

4. 今後の目標

院内、開業医、他院の先生方から、多くのご紹介いただき感謝しております。今後とも、コンサルトに丁寧に対応すべく、継続して努力していきたいと思っております。

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

10）内分泌内科

内分泌内科顧問　山本　智英

1. 概要

内分泌内科が取り扱う疾患の多くは、内分泌器官から発生した癌をのぞく、責任臓器に直接関係する症状ではなく、その臓器が分泌するホルモンによる他の臓器の症状により診断されることが多い。したがって患者様の訴えから内分泌疾患を特定することは難しい場合が多い。一昨年、昨年に引き続き、新患として診断、治療を開始した例の多くは甲状腺、副腎疾患であり、その他少数の下垂体疾患、性腺異常、代謝異常症であった。

循環器、消化器、呼吸器、腎臓、神経、血液、膠原病などに分類されない疾患（未分化疾患）の取り扱いは伝統的に内科の最も得意とする領域である。最年長の内科医師として時にこのような疾患の診断を依頼されることがあり、楽しんで診断を考えさせてもらっている。

2. メンバー構成

山本智英　（日本内分泌学会、内分泌代謝専門医、指導医）

3. 実績

a) 新患

疾患	人数
結節性甲状腺腫（内１例、乳頭癌）	17名
橋本病（euthyroid、hypothyroid）	12名
バセドウ病（内２例、疑い）	10名
単純性甲状腺腫、腺腫様甲状腺腫	10名
甲状腺機能低下症（内1例、ヨウ素摂取過剰）	9名
（潜在性）副腎不全	6名
特殊高血圧症（動揺性、難治性、アルドステロン症疑い）	5名
副腎偶発腫瘍（１例は後日、Cushing 病と判明）	3名
副甲状腺機能低下症	2名

その他、Prader-Willi 症候群、Klinefelter 症候群、下垂体リンパ腫、ACTH 欠損症、甲状腺内胸腺、無痛性甲状腺炎、（非定型性）Gitelman 症候群、高尿酸血症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺、Shy-Drager 症候群（疑い）各１例。

b)　紹介元、　院内　53 件、院外　　9 件

c)　負荷試験

Overnight　デキサメサゾン抑制試験　4 件、低容量迅速ｺｰﾄﾛｼﾝ試験　　9 件

4. 今年の目標

日本甲状腺学会のバセドウ病の診断と治療のガイドラインでは治療中止時期について明確な記載がない。このため医療の現場では混乱が見られる。たとえば既に治癒している例にダラダラと抗甲状腺剤の投与が継続されているなどである。バセドウ病の診断の用いられているTSH受容体抗体の測定を、治療継続指針の決定に役立てることに関し過去の経験を纏め、治療中止時期の決定、早期に抗甲状腺では寛解の見込みのない例の鑑別する方法を学会に提言する予定である。

また、3年前に隠れアジソン病（潜在性原発性副腎不全）について内科学会に発表したが、同症の認知度はなお非常に低い。さらにこのような症例を収集、治療による日常生活の質の改善、予測されないストレス時の体調異常の予防に役立たせるとともに国内外の本症の認知の拡散に努力したい。

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

11）膠原病リウマチ内科

膠原病リウマチ内科　吉崎　和幸

1. 概要

2008 年 5 月に発足した診療科で、8 年が経過しました。内科疾患の中で、特に関節リウマチと全身性エリテマトーデスの様な膠原病・リウマチ疾患を中心に診療しています。その他、血管炎症症候群やベーチェット病、免疫不全症、更に不明熱も診療しています。

2. メンバー構成

本診療科は医師のみならず、薬剤師や看護師、CRC、理学療法士、そして医事課職員のチーム連携によって緻密な治療を包括的に行っています。患者様に「安心して生命をまかせられる医療」を提供しています。このため患者様は担当医に対し、信頼して医療を受けて下さっています。

診療担当医と外来診療日

吉崎和幸：水曜日（午前 10：00 － 12：00）

大河原知治（2017 年 4 月 1 日退職）：金曜日（午前 9：00 － 12：00）

3. 実績

年月を経るごとに患者数が増加し、周辺医療機関にもその存在が定着しています（表 1）。膠原病リウマチ内科は、生物学的製剤治療を含めた先端医療を行う「免疫介入治療センター（仮称）」を設立予定です。その結果、より高度で有効な治療を推進し、著しい治療効果が認められています。患者様の満足度は高く、安全性にも十分配慮しているので、患者様のほぼ全員が治療を継続しています。現時点で、生物学的製剤治療を行っている患者数や治療内容を（表 2）に示しています。安全性の裏付けとして、当院における救急体制の充実が大きく貢献しています。また、（図 1）に 2014 年 10 月に行いました、当診療科受診の患者様にアンケートした結果をまとめています。

4. 今後の目標

「免疫介入治療センター（仮称）」は、原田病院長の援助のもと八尾徳洲会総合病院をはじめ、宇治および神戸、吹田徳洲会病院にも分室を設立し、徳洲会病院組織の共通治療センターとして展開しようと努力しています。八尾・宇治・神戸・吹田徳洲会病院合同の勉強会を開き、共通医療が出来る体制を構築しつつあります。

《表１　外来診療患者数》

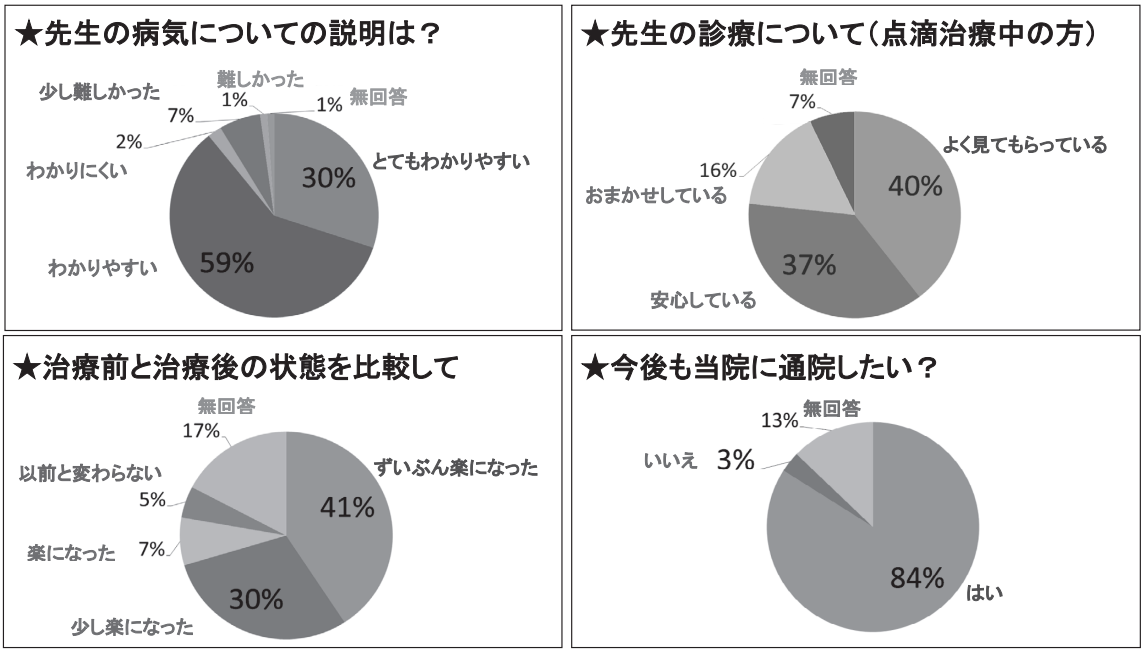
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2009年	58	54	63	68	75	84	105	77	100	91	103	91	969	80.8
2010年	133	124	137	163	120	153	188	151	182	164	171	156	1,842	153.5
2011年	176	161	209	170	173	194	182	186	194	171	183	179	2,178	181.5
2012年	194	194	182	196	198	181	203	213	161	193	195	169	2,279	189.9
2013年	213	228	250	248	263	256	291	216	266	252	271	252	3,006	250.5
2014年	192	167	200	186	204	175	191	209	173	240	186	210	2,333	194.4
2015年	204	200	186	196	202	208	238	204	237	214	203	175	2,467	205.6
2016年	210	212	240	227	221	223	230	206	217	192	206	235	2,619	218.3

《表２　生物学的製剤治療患者数》

生物学的製剤	疾患名	治療患者数							
		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
アクテムラ	関節リウマチ	5	13	17	24	29	34	39	43
	キャッスルマン病	2	4	3	3	4	4	5	4
	多発性筋炎	0	0	1	0	0	0	0	0
エンブレル	関節リウマチ	1	2	3	1	9	5	5	7
レミケード	関節リウマチ	0	2	3	3	9	9	8	10
	強直性脊椎炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	クローン病	0	2	2	7	8	9	11	13
	ベーチェット病	1	1	2	1	0	0	0	0
オレンシア	関節リウマチ			0	0	0	0	0	0
ヒューミラ	関節リウマチ			0	0	3	3	0	0
	ベーチェット病			0	0	0	0	1	1
	潰瘍性大腸炎			0	0	0	0	4	3
合　計		9	24	31	39	62	64	73	82

《図１：膠原病リウマチ内科受診患者様の診療に対する意識》

＊徳洲会病院の膠原病リウマチ内科外来受診患者を対象としたアンケート調査（中間報告）より（2014.10.9）



内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

12）外　科

外科部長　村上　修

1. 概要

地域中核病院として 2016 年度も例年にもまして多数の外科治療にたずさわってきました。患者様に優しい医療の実践と質の高い外科治療を提供するべく、また今後の新しい外科専門医制度にむけて肝臓外科　小児外科　呼吸器外科　心臓血管外科との協力しつつ教育にも力を入れていきたいと思います。

2. メンバー構成

部長：　　村上
医長：　　遠藤、豊田、垣本
後期研修医：辻、服部
非常勤医：　松岡、牛丸

3. 実績

《外科手術件数》（手術室で行い肝臓外科との共同手術を含む）

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
食道	2	0	3	2	8	6	3	2
胃切除・胃全摘（腹腔鏡）	3	14	26	23	37	27	26	31
胃切除・胃全摘（開腹）	41	56	35	50	37	39	22	22
腹腔鏡下胆摘（四孔式）	99	86	96	122	131	107	115	200
腹腔鏡下胆摘（単孔式）	4	36	31	20	17	29	4	6
膵頭十二指腸切除	4	8	8	5	29	15	5	13
膵体尾部切除	3	3	2	2	9	7	4	8
肝切除	17	21	30	64	74	41	12	30
虫垂切除（腹腔鏡）	2	12	71	79	78	66	73	108
虫垂切除（開腹）	73	79	10	1	5	6	0	7
結腸切除（腹腔鏡）	24	82	65	65	84	74	71	72
結腸切除（開腹）	50	25	19	27	21	24	38	36
直腸切除・切断（腹腔鏡）	3	20	49	45	53	47	38	29
直腸切除・切断（開腹）	29	18	5	18	3	8	5	4
ソケイ部ヘルニア修復（腹腔鏡）	0	58	146	165	151	146	144	155
ソケイ部ヘルニア修復（鼠径部切開）	126	104	30	28	29	9	12	35
肛門疾患（内痔核硬化療法等）	22	42	52	81	72	58	46	37
乳房腫瘤，乳癌	12	18	12	9	37	23	28	40
その他	161	144	181	223	259	322	348	344
呼吸器外科	74	105	138	143	4	5	9	87
手術件数	749	931	1,009	1,172	1,138	1,059	1,003	1,266

4. 今後の目標

患者の利益のため QOL 向上のために正しい手術、周術期管理を丁寧に行うこと、救急疾患はじめ癌の包括的な治療まで地域医療の充実のために外科医としての責務をはたし、個々に成長することを目標とする。学会活動については積極的におこなって行きたい。人員的な問題もあり来年度からの乳腺外科は閉じますがご理解賜りますようお願い申し上げます。

13）整形外科

整形外科部長　當麻　俊彦

1. 概要

スタッフ 4 名で日々の整形外科診療にあたっております。外来は午前診が毎日、夕診は週 2 日（火・木）の 2 診体制で行っております。整形外科当直を行い、救急診療科と連携して 365 日 24 時間体制で整形外科救急疾患の受け入れを、また、麻酔科の協力を得て緊急手術の受け入れ態勢を整えております。入院されました患者様は 64 床の整形外科病棟（6 階西、6 階東）で治療にあたっております。

当院副院長であった長谷川が定年に伴い顧問に就任、引き続き診療、後進への指導を行っております。スタッフ人員減にともないパワーダウンは否めませんが、手術件数は 2016 年は年間 1,047 件でした。骨折・外傷疾患の手術が多く、中でも高齢者の骨折手術が多くみられ、合併症を持つ患者様もできるだけ受傷前の状態に回復できるように院内他科、および近隣の回復期リハビリ病院様の協力も得て手術治療を行っております。また、人工関節手術は年間 57 例（股関節 25 例、膝関節 32 例）、脊椎外科手術は 210 例の手術をこなし、安定した成績をあげております。肩関節鏡視下手術も開始しており、着々と手術件数を伸ばしつつあります。

また､患者様のニーズに応えるべく専門外来も開設しております。長谷川が骨粗鬆症外来（毎週木曜日 10:00 ～ 12:00）を、當麻は脊椎外来（毎週木曜日 10:00 ～ 12:00、予約制）、非常勤として当科前部長の北西がリウマチ外来（毎週火曜日 9:00 ～ 11:00）を担当、また、森口・仁丹が肩関節外科を中心に診療にあたっております。

2. メンバー構成

顧問	長谷川潔	専門：人工関節外科、骨粗鬆症
診療部長	當麻俊彦	専門：脊椎外科、災害医療
後期研修医	樋口貴之	専門：整形外科一般、手外科
	松尾裕次郎	専門：整形外科一般、手外科
非常勤	北西正光（松原徳洲会病院　副院長）	専門：膝関節外科、リウマチ
	仁丹克則（名古屋徳洲会総合病院）	専門：肩関節外科

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

3. 実績

《手術件数》

分野	各手術	コメント	件数
脊椎	頚椎前方固定術	プレート固定も含む	7
	頚椎脊柱管拡大（形成）術	広範囲椎弓切除+形成術	13
	腰椎前方固定術		0
	腰椎椎弓切除術（Love 法に準ずる）		21
	腰椎脊柱管拡大（形成）術	広範囲椎弓切除+形成術	52
	脊椎インストゥルメンテーション手術	上記と重複可能	50
	顕微鏡視下手術	上記と重複可能	44
	硬膜内手術		0
	脊椎側彎症手術		0
	脊椎カリエス手術		0
	抜鋼術		5
	その他の手術		18
骨盤	骨盤骨折観血的整復固定術		0
	抜鋼術		0
	その他の手術		3
股関節、大腿骨	大腿骨頚部骨折観血的整復固定術	内側骨折	46
	大腿骨転子部骨折観血的整復固定術	外側骨折	93
	大腿骨頸部骨折人工骨頭置換術	人工骨頭	61
	人工股関節置換術（初回 THA）	初回例です	23
	人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	1
	人工股関節置換術（再置換術）	再置換例です	2
	臼蓋形成術（Shelf,Chiari,RAO etc.）		0
	大腿骨骨幹部骨折観血的整復固定術		12
	大腿骨骨切り術		0
	小児股関節脱臼手術		0
	抜鋼術		7
	その他の手術		6
膝関節、下腿骨	膝蓋骨骨折整復固定術	膝蓋骨骨折	12
	関節周辺骨折観血的整復固定術	膝蓋骨以外の膝関節周辺骨折	2
	人工膝関節置換術		32
	人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	1
	関節鏡	検査を主体とするもの	0
	鏡視下半月板手術		15
	鏡視下滑膜切除術		5
	鏡視下靱帯縫合術（新鮮）	新鮮例に対する靱帯縫合術	0
	鏡視下靱帯再建術（陳旧例）	陳旧例に対する再建術	0
	膝蓋骨反復脱臼手術		0
	外側支帯解離術		1
	高位脛骨骨切り術		1
	下腿骨骨折観血的整復固定術		26
	抜鋼術		25
	その他の手術		18

分野	各手術	コメント	件数
足関節、足部	足関節周辺骨折観血的整復固定術		16
	踵骨骨折観血的整復固定術		6
	人工足関節置換術		0
	足関節固定術		0
	足関節滑膜切除術		0
	アキレス腱縫合術		4
	足関節靱帯縫合、再建術		0
	足趾骨折観血的整復固定術		4
	外反母趾手術		2
	足趾関節形成術		0
	先天奇形手術		0
	内反足手術		0
	抜鋼術		19
	その他の手術		5
鎖骨、肩関節、上腕	鎖骨骨折観血的整復固定術		20
	肩鎖関節脱臼整復術		2
	上腕骨頚部骨折観血的整復固定術		1
	上腕骨骨折観血的整復固定術	頚部骨折以外の症例	32
	人工肩関節置換術		2
	腱板断裂手術	肩関節鏡視下手術を含む	4
	反復性脱臼手術	肩関節鏡視下手術を含む	1
	抜鋼術		27
	その他の手術		13
肘関節、前腕	肘関節周辺骨折観血的整復固定術	Montegia 骨折を含む	19
	小児上腕骨顆上骨折観血的整復固定術		0
	肘関節滑膜切除術、関節形成術		1
	前腕骨骨折観血的整復固定術		26
	尺骨神経剥離術（前方移行、King 等）		6
	抜鋼術		13
	その他の手術		13
手関節、手	手関節周辺の観血的整復固定術	コーレス骨折、手根骨骨折を含む	43
	手関節滑膜切除術、関節形成術	手根骨部分固定も含む	4
	手根管解放術（正中神経剥離術）		25
	手関節関節鏡		0
	手指の観血的整復固定術		16
	指関節滑膜切除術、関節形成術		0
	腱鞘切開術	ばね指、ドケルバンなど	44
	腱縫合術		9
	腱移行術		2
	手指関節靱帯形成術		2
	重度外傷手術		0
	再接着に準じた手術		0
	抜鋼術		26
	その他の手術		13

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

分野	各手術	コメント	件数
神経の手術	剥離、縫合、移植術（上腕神経叢）		0
	剥離、縫合、移植術（上肢）		3
	剥離、縫合、移植術（下肢）		1
腫瘍の手術	骨腫瘍　良性　四肢		1
	骨腫瘍　悪性　四肢		0
	骨腫瘍　良性　脊椎、骨盤		1
	骨腫瘍　悪性　脊椎、骨盤		0
	骨腫瘍生検術		1
	軟部腫瘍　良性　四肢		9
	軟部腫瘍　悪性　四肢		0
	軟部腫瘍　良性　脊髄		0
	軟部腫瘍　悪性　脊髄		0
	軟部腫瘍生検術		1
筋性斜頚	腱切り術		0
植皮、移植	複合組織移植、遊離皮弁		0
	有茎皮弁		0
	遊離植皮		5
四肢切断術	上肢		0
	手指		0
	股関節		0
	下肢		0
	足趾		0
	その他の部位		0
その他の手術	上記に分類されない手術		3
total 手術件数			1,047

4. 今後の目標

地域の基幹病院として外傷のほかに変性疾患等への対応に力を入れるだけでなく、研修会開催等にて近隣整形外科病院・クリニックの先生方との交流を深める機会を設けて病診連携機能の強化を図っております。また、公開医療講座、健康祭等にて整形外科疾患の治療・予防に関する情報を地域の方々に発信しております。

今後も地域の基幹病院としての役割を担っていけるよう、日々努力し続けて参ります。

14）脳神経外科

脳神経外科　主任部長　鶴野　卓史

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

1. 概要

2009 年から現在のチーム体制での診療を開始し、8 年が経過しました。入院患者数・手術数の増加、手術内容の発展とともに、地域での信頼が得られるよう、2016 年も堅実な治療を継続してきました。鶴野主任部長、一ノ瀬部長、吉村医長、鶴田医師、大西医師の 5 人のチームワークで毎日の忙しい外来・入院治療を行っています。

一般脳神経外科治療はもちろんのこと、鶴野主任部長の life work である脳動脈瘤手術や頚動脈内膜剥離術、微小血管減圧術の充実は当科の特徴です。また、一ノ瀬部長・吉村医長は内視鏡手術や脊椎脊髄手術を subspeciality として研鑽を積んでいます。

手術以外にも、脳梗塞に対する tPA を用いた血栓溶解療法およびカテーテルを用いた血栓回収療法などの超急性期治療にも力を入れております。また、リハビリスタッフとのカンファレンスを通じて急性期リハビリによる早期社会復帰に取り組んでおります。

血管障害以外にも高難度な頭蓋底腫瘍手術などは、大阪市立大学脳神経外科からの応援医師とも共同し、ナビゲーション機器などを駆使しながら行っています。最先端の血管内治療についても大阪市立大学脳神経外科と共同で対応できるよう体制を整えています。

学術活動においては国際学会、日本脳神経外科学会総会、地方会、脳卒中学会、手術と機器学会などで多数の学会発表を行い、論文投稿も積極的に行っております。

2. メンバー構成

主任部長：鶴野卓史　　部長：一ノ瀬努

医　　長：吉村政樹　　医員：鶴田慎、大西洋平

3. 実績

《手術件数》

術　式	件数	術　式	件数
動脈瘤手術（クリッピング・コーティング）	28	頸椎前方除圧固定	8
脳動静脈奇形摘除術	2	頸椎椎弓拡大形成・後方固定	6
微小血管減圧術	1	脊髄腫瘍摘出	1
開頭血腫除去（脳内）	13	腰椎除圧術	1
開頭血腫除去（硬膜下）	9	慢性硬膜下血腫穿頭ドレナージ	62
動脈血栓内膜剥離術	12	動脈瘤コイル塞栓術	10
開頭腫瘍摘出	18	脳主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法	19
経蝶形骨洞到達法腫瘍摘出	2	血管内治療（その他）	1
水頭症手術（VP シャント・LP シャント）	37	その他	17
脳室ドレナージ	4	合計	252

4. 今後の目標

今後も地域の基幹施設として臨床・教育に励み、よりよい治療を提供していけるよう努力して行きます。

15）心臓血管外科・大動脈センター

心臓血管外科部長　入江　寛（平成元年卒）
大動脈センター長　中尾　佳永（平成５年卒）

1. 概要

2014 年より新体制で診療を始め今年（2017 年）で 4 年目となります。昨年度の手術概要は弁膜症および冠動脈外科の手術症例は安定しています。

2. メンバー構成

入江寛（心臓血管外科部長：1989 年卒）
中尾佳永（大動脈センター長：1993 年卒）
酒井敬（顧問：1973 年卒）

3. 実績

1）定期手術日

月曜日・水曜日・金曜日
毎月第 3 第 5 金曜日は局所麻酔手術（静脈瘤等）

2）外来診療（火曜日・木曜日・土曜日）

	火曜	木曜	第 2・4 土曜
心臓血管外科Ⅰ診	入江 9:00 ～ 14:00	入江 12:00 ～ 16:00	酒井 9:00 ～ 12:00
心臓血管外科Ⅱ診	中尾 9:00 ～ 12:00	中尾 9:00 ～ 12:00	

3）手術実績

《手術統計》（全体）

	症例数		
	2014 年	2015 年	2016 年
1. Cardiovascular Surgery			
1. Congenital	0	0	0
2. Valvular	16	17	20
3. Coronary artery disease	18	18	18
4. Vascular（胸腹部以上）	13	16	18
5. Vascular（腹部骨盤）※ 1	29	34	27
6. Vascular（末梢血管）	14	15	13
7. Cardiomyopathy, Myocarditis	0	0	0
8. Arrhythmia	0	0	0
9. Others	93	72	55
Total	183	172	151

2. Major Cardiovascular Surgery ※ 2			
1. Congenital	0	0	0
2. Valvular	16	17	20
3. Coronary artery disease	18	18	18
4. Vascular	56	50	45
5. Cardiomyopathy, Myocarditis	0	0	0
6. Arrhythmia	0	0	0
7. Others	0	0	0
Total	90	85	83

※ 1 腎動脈下から腸骨動脈まで

※ 2 Major Cardiovascular Surgery とは人工心肺使用症例＋ OPCAGB（心拍動下冠動脈バイパス手術）および胸腹部以上のステントグラフト治療

4. 今後の目標

今年も地域連携により、近隣病院からの緊急手術受け入れ体制を整える事を目標としています。

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

16）形成外科・美容外科

形成外科・美容外科部長　綾部　忍

1. 概要

当院形成外科は、昨年と同様に常勤３名で診療しています。2008 年より、日本形成外科学会認定施設のため、当院で形成外科学会専門医取得ができるようになっています。

形成外科では、①皮膚や皮下の腫瘍の治療（皮膚癌を含む）、②顔のケガ・骨折の治療、③床ずれや治りにくい傷の治療、④手指のケガ・腫瘍などの治療、⑤手術後の変形の治療、⑥やけどの治療、⑦傷あとをきれいにする治療、⑧腋臭の治療、⑨眼瞼下垂の治療⑩先天異常の治療などが挙げられます。眼窩底骨折や頬骨骨折の治療では「経結膜切開法」で皮膚に傷を残さない工夫をしています。眼瞼下垂の治療では美容的にも満足されるよう慎重にデザインしています。

2009 年より関連他科の協力の下、「創傷ケアセンター」を開設しました。特に閉塞性動脈硬化症に伴う下肢創傷の治療に力を入れています。潰瘍・壊疽などの創傷治療だけでなく、distal bypass 術（自家静脈を使用した足首付近までのバイパス術）を含めた血行再建も形成外科で積極的に行っています。血管内治療（カテーテル治療）は循環器内科で行っており、最近では足首より末梢まで血管を拡張できるようになりました。術後の潰瘍や創傷治療には積極的に陰圧閉鎖療法（Negative Pressure Wound Therapy）を取り入れることで、より早期の離床・退院を可能にしています。糖尿病や透析をされている患者様では複数の施設で連携して治療を行うのが一般的ですが、当院では関連他科の協力の結果すべての治療を行うことができます。このような施設は全国的にもほとんど見られません。

2015 年５月からは米国足病医と連携し、これまで日本であまり行われていなかった「糖尿病足病変に対する予防的手術」を開始しました。足の変形に対して装具療法を行いますが、それにもかかわらず潰瘍形成を繰り返してしまう患者様に変形を矯正する手術を行うことで良好な結果を得ています。

読売新聞社より発売された「病院の実力 2014」では、血流の回復と組み合わせて傷の治療を行った患者数が全国３位となっており、最近では大阪府外（滋賀・三重・奈良・兵庫・和歌山）からもご紹介いただけるようになりました。糖尿病・透析患者様も多数受診され、他院で足を切断するように言われた方も歩いて帰っていただけるようチーム一丸となり治療しています。

2011 年より「美容外科」も開設しました。しみ・しわ・たるみ・脱毛のレーザー治療、ハイドロキノンやトレチノイン外用剤を用いた美白治療なども行っています（自費診療）。

手術件数は大学病院などと比較すると多くはありませんが、患者様一人一人に対し丁寧で質の高い治療を行うよう心掛けています。

また当院は、大阪市立大学付属病院の関連病院として運営しているため、大学病院及び大学関連病院と連携をはかり、患者様にとって最良の医療を提供することが可能となっています。

2. メンバー構成

綾部忍・上田真帆・谷口小百合の３名で診療を行っています。

3. 形成外科手術実績

《手術内容区分》

区　分	件　数						
	入院手術			外来手術			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
Ⅰ. 外傷	9		6			4	19
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例							
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	2		2				4
顔面軟部組織損傷						1	1
顔面骨折	7		3			2	12
頭部・頸部・体幹の外傷							
上肢の外傷			1			1	2
下肢の外傷							
外傷後の組織欠損(2次再建)							
Ⅱ. 先天異常	1		1	1		1	4
唇裂・口蓋裂							
頭蓋・顎・顔面の先天異常	1			1		1	3
頚部の先天異常							
四肢の先天異常			1				1
体幹(その他)の先天異常							
Ⅲ. 腫瘍	19		10	1		223	253
良性腫瘍(レーザー治療を除く)	9		3	1		203	216
悪性腫瘍	5		7			20	32
腫瘍の続発症							
腫瘍切除後の組織欠損(一次再建)	4						4
腫瘍切除後の組織欠損(二次再建)	1						1
Ⅳ. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	2					8	10
Ⅴ. 難治性潰瘍	33		62			9	104
褥瘡	2		1				3
その他の潰瘍	31		61			9	101
Ⅵ. 炎症・変性疾患	1					16	17
Ⅶ. 美容(手術)			2				2
Ⅷ. その他			31			54	85
Extra. レーザー治療							
良性腫瘍でのレーザー治療例							
美容処置でのレーザー治療例							
大分類計	65	0	112	2	0	315	494

4. 今後の目標

一般形成外科治療に加えて、創傷ケアセンター・美容外科を充実させ、より高い専門性を目指します。また学会発表や誌上発表も積極的に行っていきます。

内　科 28
循環器内 35
消化器内 36
呼吸器内 38
腫瘍内科 39
血管透析 41
小児科 43
放射診科 45
神経内科 46
内分泌内 47
膠原リウ 49
外　科 51
整形外科 52
脳神経外 56
心臓血管大動脈セ 57
形成外科美容外科 59
泌尿器科 61
眼　科 63
歯　科歯科口腔 65
麻酔科 67
肝臓セン 68
呼吸器外 71
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78

17）泌尿器科

泌尿器科部長　飯盛　宏記

1. 概要

2016 年は泌尿器科のスタッフに異動はなく、私飯盛と金丸医師と行松医師の三人で勤務させていただいております。

2016 年の年間手術件数は 332 件で、総数では前年に比べ若干減少しました。しかし、開腹手術・腹腔鏡下手術・経尿道的内視鏡手術といった主要手術の件数は、前年の 194 件から 205 件と増加しました。すなわち局所麻酔で行う小手術が減少し、大きな手術が増加したということです。また、腎摘除術・腎尿管全摘除術はすべて腹腔鏡手術で行われており、開腹手術は 0 件でした。腹腔鏡下膀胱全摘除術は前年が 0 件でしたが、2016 年は 7 件施行し、腹腔鏡手術の適応を広げるという当初の目的が達成できました。開腹手術に比較し、内視鏡手術は、患者様の身体的負担が軽いことは言うまでもありません。今後も積極的に腹腔鏡下手術に取り組んでいく予定です。

尿路結石症に対する治療としては、従来の体外衝撃波結石破砕装置は順調に稼働しており、2016 年は 36 症例の 52 結石に対し 70 回の体外衝撃波結石破砕術を施行しました。この数字は前年より少なめです。この理由は、昨年も報告したとおりレーザー砕石機が導入され、それまでは内視鏡では砕石できなかった結石が内視鏡で砕石できるようになり、内視鏡下結石砕石術が増加したことによります。内視鏡下結石砕石術は 2015 年の 36 件から 2016 年は 70 件と約 2 倍に増加しました。これはレーザー砕石機のなかった 2014 年と比較すると約 6 倍の増加です。

年々増加の一歩をたどる前立腺癌に関しては、従来通り手術療法・内分泌療法・放射線療法・抗癌剤治療の 4 通りの治療法を組み合わせた集学的治療を施行しており、新たに開発された新薬も導入し、患者さんのニーズに合わせた治療が可能となっています。また、年々普及しつつあるロボット手術（ダビンチ）も関連病院に紹介することにより対応可能であります。

2. メンバー構成

飯盛宏記（部長）　　金丸知寛（医長）　　行松直（医員）

3. 実績

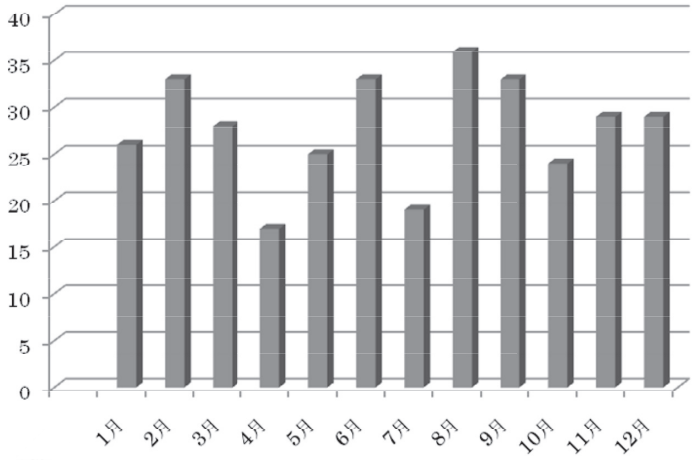
《手術内容》

開腹手術	前立腺全摘除術	2
	膀胱全摘除術	3
腹腔鏡手術	腹腔鏡下腎摘除術	13
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	10
	腹腔鏡下腎部分切除術	4
	腹腔鏡下膀胱全摘除術	7
	腹腔鏡下尿管切石術	1
経尿道的手術	経尿道的膀胱腫瘍切除術	64
	経尿道的前立腺切除術	22
	経尿道的尿管砕石術	64
	経尿道的膀胱砕石術	12
	内尿道切開術	3
その他件数が多いもの	前立腺生検	72
	腎瘻造設術	10
	陰嚢水腫根治術	4
	包皮環状切除術	2
その他		39
計		332

《月別手術件数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
26	33	28	17	25	33	19	36	33	24	29	29	332

《月別手術件数》



《ESWL 件数》

治療回数	70 回
新患数	36 人
結石数	52 結石

4. 今後の目標

今後も当科の総合力を増加させよりよい医療を提供できるように、スタッフ一同努力していく所存です。

内 科 28
循環器内 35
消化器内 36
呼吸器内 38
腫瘍内科 39
血管透析 41
小児科 43
放射診科 45
神経内科 46
内分泌内 47
膠原リウ 49
外 科 51
整形外科 52
脳神経外 56
心臓血管大動脈セ 57
形成外科美容外科 59
泌尿器科 61
眼 科 63
歯 科 歯科口腔 65
麻酔科 67
肝臓セン 68
呼吸器外 71
小児外科 73
皮膚科 75
婦人科 76
耳鼻咽喉 77
リハビリ 78

18）眼科

眼科部長　家久耒　啓吾

1. 概要

2017 年 3 月まで常勤 3 名体制で診療にあたっておりましたが、3 月末日で常勤医師の米本医師が退職しました。2017 年 4 月現在、常勤医師 2 名と非常勤医師 1 名で診察にあたっております。2017 年 6 月以降は常勤 3 名体制に復帰する予定です。

外来診療では加齢黄斑変性、近視性脈絡膜新生血管、網膜静脈閉塞症の黄斑浮腫、糖尿病黄斑浮腫に対して抗 VEGF 薬の硝子体注射を行っております。また各種レーザー機器を取り揃えており、網膜光凝固術、YAG レーザー術、レーザー虹彩切開術などを行っております。

手術は白内障手術、硝子体手術や外眼部手術（眼瞼疾患）を行っております。2016 年 1 月から 12 月までに総計 1,107 件の手術を行いました。うち白内障手術は 822 件、硝子体手術は 72 件でした。

2014 年 8 月に硝子体手術を導入してから、硝子体手術件数は安定して推移、漸増しております。硝子体手術の内容としては黄斑上膜、黄斑円孔、増殖糖尿病網膜症、裂孔原性網膜剥離、黄斑円孔網膜剥離、眼外傷、細菌性眼内炎、脈絡膜出血、水晶体亜脱臼、眼内レンズ強膜内固定術などを行いました。特徴としては牽引性網膜剥離を伴う重度の増殖糖尿病網膜症の患者様が比較的多く、増殖膜処理を伴う硝子体手術を行ってきました。

白内障手術は、日帰りおよび入院での手術を共に行っており、患者様の希望や利便性を重視して対応しております。

外眼部手術については眼瞼手術（眼瞼下垂、眼瞼内反など）や翼状片手術などを行っております。

八尾市、柏原市、東大阪市、松原市、大阪市平野区などの先生方に於かれましては、いつも貴重な患者様のご紹介を下さいまして誠にありがとうございます。今後とも宜しくお願い致します。

2. メンバー構成

家久耒啓吾（部長）医学博士、眼科専門医
石崎典彦（医員）　眼科専門医　（5 月末退職予定）
☆ 5 月に 1 名、6 月に 1 名の計 2 名の常勤医師が入職する予定です。

3. 実績

≪外来患者数≫　2016 年 1 月 1 日～ 2016 年 12 月 31 日
計延べ 16,827 人　月平均 1,403 人
≪手術件数≫　2016 年 1 月 1 日～ 2016 年 12 月 31 日
計 1,107 件（うち白内障手術 822 件　硝子体手術 72 件）

①手術

入院	540 件
外来	567 件
合計	1,107 件

②白内障手術（上記①のうち再掲）

水晶体再建術	点数	入院	外来	件数
1.眼内レンズを挿入する場合　イ.縫着レンズを挿入するもの	17,440点	7	0	7
1.眼内レンズを挿入する場合　ロ.その他のもの	12,100点	432	292	724
2.眼内レンズを挿入しない場合	7,430点	13	2	15
後発白内障手術	1,380点	1	75	76
	計	453	369	822

③硝子体手術（上記①のうち再掲）

	点数	入院	外来	件数
硝子体注入･吸引術	1,900点	0	0	0
硝子体切除術	15,560点	0	1	1
硝子体茎顕微鏡下離断術				0
1.網膜付着組織を含むもの	38,950点	56	0	56
2.その他のもの	29,720点	6	0	6
増殖性硝子帯網膜症手術	54,860点	9	0	9
硝子体置換術	6,890点	0	0	0
	計	71	1	72

④外来件数

診療月	
1月	1,259 件
2月	1,316 件
3月	1,548 件
4月	1,218 件
5月	1,249 件
6月	1,496 件
7月	1,444 件
8月	1,486 件
9月	1,435 件
10月	1,503 件
11月	1,368 件
12月	1,505 件
計	16,827 件

4. 今後の目標

今後も硝子体手術､白内障手術を継続して行っていく予定です。これからも地域連携を深め、より信頼される眼科となるように努力して参りますので、引き続きご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

19）歯科・歯科口腔外科

歯科・歯科口腔外科部長　占部　一彦

1. 概要

歯科口腔外科は、部長：占部一彦（2006 年 4 月赴任）、医員：原田計真（2015 年 4 月赴任）小倉秀（2016 年 4 月赴任）の 3 名体制で診療にあたっております。八尾市・東大阪市・大阪市平野区・柏原市内の医院・歯科医院との病診連携をおこなっており、紹介率 30％以上を維持しています。

2008 年度より地域歯科支援病院の認定をうけ地域医療に貢献できますように体制づくりをすすめています。

診療内容としては、親知らずの抜歯・腫瘍・粘膜疾患・顎変形症・顎顔面外傷などの手術を中心に、顎関節症などの治療や全身疾患をもつ患者様の一般歯科治療などもおこなっております。

当院は、大阪大学歯学部第一口腔外科の関連病院として運営していますので、当科で加療が困難な疾患に関しては、大阪大学および大学関連病院と連携をはかり対応しております。また日本口腔外科学界の準関連研修施設認定も受けています。

診療特徴としては、下記の内容が挙げられます。

1）抗凝固剤服用中の患者様への対応

抜歯などの小手術は、基本的にワーファリン等の抗凝固薬・抗血小板薬の服用は休薬なしで行っています。

抗凝固薬：基本的に休薬なし（場合によって減量）で 1（～ 2）泊の入院下で処置・止血管理をおこないます。

抗血小板薬：基本的に休薬なしで外来処置室にて小手術をおこないます。

2）鎮静下での観血的処置

歯科治療恐怖症の患者様、また局所麻酔のみでは術中の鎮痛が不十分と判断された処置の際にドルミカムおよびプロポフォールを使用し、鎮静・モニター下に処置を行っています。

＊恐怖症のための全麻下歯科治療は、当院では行っておらず専門施設に紹介しております。

2. メンバー構成

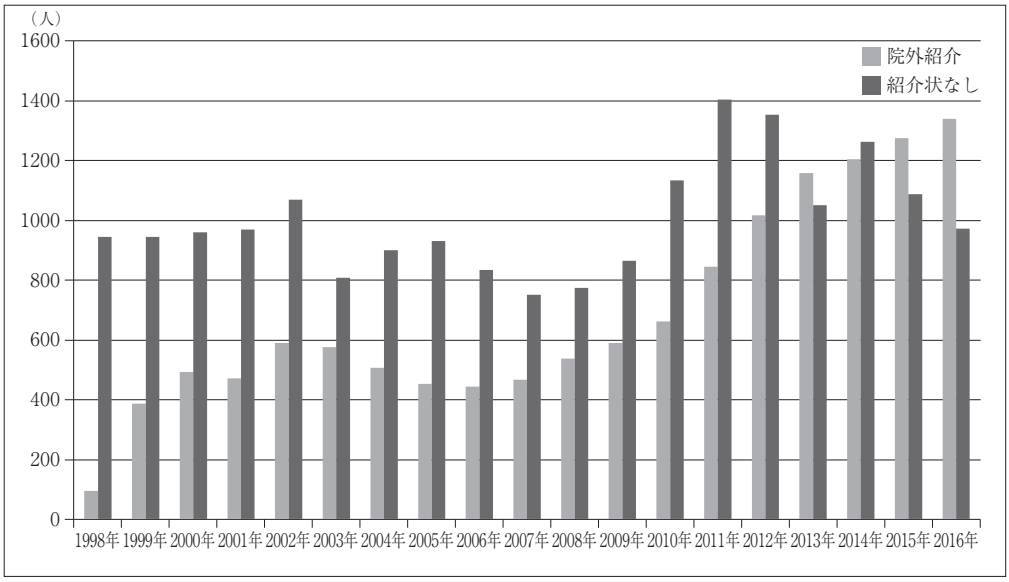
部長：占部一彦（歯学博士　日本口腔外科学会専門医）

医員：並川麻理（歯学博士）、原田計真（歯学博士・日本口腔外科学会認定医）

3. 実績

《初診患者数推移》

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
院外紹介	95	386	493	472	590	576	506	453	443	467	538	590	662	846	1,017	1,160	1,205	1,276	1,341
紹介状なし	945	945	961	970	1,070	809	900	932	834	752	775	866	1,134	1,406	1,355	1,051	1,264	1,088	973



《外来手術例》

手術名	件数
骨性埋伏智歯抜歯	576
難抜歯	289
単純抜歯	782
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	95
顎骨腫瘍摘出術	11
口腔内・外消炎処置	47
腐骨除去術	10
口腔内外創傷処置	31
舌腫瘍摘出術	6
歯槽骨骨折観血的整復術	4
顎関節脱臼非観血的整復術	26
生検	58
唾石除去術	4
歯肉腫瘍摘出術	16
粘液嚢胞摘出術	18
その他	14
合計	1,987

《入院手術例》

手術名	件数
抜歯（止血異常）	68
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	30
口腔内・外消炎手術	10
埋伏歯抜歯	74
顎骨腫瘍摘出術	49
抜釘術	8
上・下顎骨骨折観血的整復術	12
頬骨骨折観血的整復術	2
顔面多発骨折	2
腐骨除去術	9
骨隆起形成術	2
上顎洞根本術	3
その他	14
合計	283

4. 今後の目標

地域医療に貢献できるよう、スタッフ一同協力して医療体制を構築し、さらに幅広い対応を行っていきたいと考えており、特に 24 時間救急病院の特徴を活かして顎顔面外傷に関して力をいれていきたいと思っています。

また医科歯科連携にて周術期管理も行い、患者様の入院期間の短縮に貢献していきたいと思います。

2016 年 1 月より全身麻酔下にて手術をおこなう症例の中で良性腫瘍・嚢胞性疾患・抜歯などにて顎骨内に骨欠損をきたす症例に対して、自己血を採血し遠心分離をおこなうことで血小板濃縮フィブリン（CGF）を採取し、これを創部に挿入することで治療効果を高めようとする再生治療を開始しました。この方法は、【再生医療等安全性確保法】において第三種再生医療に分類される方法で、認定された再生医療委員会で審査をうけ、近畿厚生局・厚生労働大臣に届け出を行っています（届出 No.PC5150376）。顎骨欠損をきたす症例において使用してきましたが、肉芽造成を援助し、創部痛・腫脹などが軽度になる傾向がみられます。今後も有効に使用していくことで患者様の負担軽減を行っていきたいと思います。

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管 大動脈セ　57
形成外科 美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科 歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

20）麻 酔 科

麻酔科部長・手術部長　谷　　仁介
麻酔科部長　池下　和敏

1. 概要

当科は 4 名の常勤麻酔科医師で運営し、全員が厚生労働省認定の麻酔科標榜医資格と日本麻酔科学会認定の麻酔科専門医資格を取得しています。また、当院は日本麻酔科学会の認定病院に指定されており、常に患者様の安全を最優先とした一般的な手術麻酔を行っています。

2. メンバー構成

部長・手術部長：谷仁介　（日本麻酔科学会指導医・専門医）
部長　　：池下和敏　（日本麻酔科学会指導医・専門医、医学博士）
医長　　：鳥山澄子　（日本麻酔科学会指導医・専門医）
医員　　：野村正剛　（日本麻酔科学会専門医）

3. 実績

2016 年の麻酔科管理手術件数は 2,594 件でした。

《年齢別》

0 － 5 歳	6 － 18 歳	19 － 65 歳	66 － 85 歳	86 歳以上
82 件	142 件	894 件	1269 件	184 件

《手術部位別》

開頭・頸動脈	開胸	心臓・大血管	開胸＋開腹	胸腹壁
122 件	83 件	94 件	6 件	81 件

上腹部	下腹部	頭頸部	脊椎	股関節・四肢
443 件	644 件	319 件	116 件	686 件

4. 今後の目標

麻酔薬や医療機器の進歩にも関わらず、麻酔による危険性はゼロでは無いため、常に安全な手術麻酔を目指し、手術を受けられる患者様本人だけでなくご家族様にも安心していただけるよう日々努力していきます。不安に思うこと、聞きたいことがある場合、納得できるまでわかりやすい説明をさせていただきますので、遠慮なく気軽に麻酔科にお問い合わせください。

21）肝臓センター

肝臓センター長　松田　康雄
肝臓外科部長　木村　拓也

1. 概要

肝臓センターではウィルス性肝炎や肝胆膵領域の悪性疾患を中心に治療を行っており、スタートし５年が経過した。

近隣施設より閉塞性黄疸、急性肝炎、慢性肝炎、肝胆膵領域の悪性疾患を紹介され、積極的に治療を行っている。

診断にはEUS、ERCP、造影エコーなど最新機器を活用し、治療は血管合併切除などの超拡大手術から内視鏡手術などの低侵襲治療を行っており、ガイドラインを参考に患者様に優しい、患者様の目線に立った治療を常に考慮している。

以下、肝臓センターとしての活動内容を中心に記載する。

2. メンバー構成

松田康雄

肝臓センター長、顧問

外科学会専門医、指導医、消化器外科学会専門医、指導医、超音波学会専門医、指導医

木村拓也

肝臓外科部長、ICD 委員長、NST 委員長、外科系新専門医制度プログラム責任者

外科専門医、指導医、消化器外科専門医、消化器がん治療外科医、肝臓学会専門医、

小児外科学会専門医、日本静脈経腸栄養学会認定医、移植学会認定医、感染制御医師（ICD）、

PEACE プロジェクト緩和ケア講習、TNT 講習、臨床研修医指導者講習

プログラム責任者講習、内視鏡外科学会評議員、日本肝胆膵外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員

井上雅文

肝臓外科医長

外科専門医、指導医、消化器外科学会専門医、指導医、消化器内視鏡専門医、指導医、

肝臓学会専門医、臨床研修医指導者講習、PEACE プロジェクト緩和ケア講習

鯉田五月

肝臓内科医長

内科認定医、肝臓学会専門医、PEACE プロジェクト緩和ケア講習

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

3. 実績

1）肝臓外科

肝臓外科にて 2016 年に施行した手術は計 207 件で、昨年とほぼ同じであった。

2012 年より導入した腹腔鏡下肝臓手術は今年は 12 例と、症例数は増加し、在院期間も短く安全に施行できている。また肝臓手術全体では 34 例と例年と同程度であった。

膵癌、中下部胆管癌に対する膵頭十二指腸切除例や膵体尾部切除は 18 件で、増加傾向にある。

今年も血行再建を多数行っているが、血管系の合併症はなく安全に施行できている。

今年も肝胆膵悪性疾患以外にも、手術内容が多岐にわたっている。

2013 年より腹腔鏡下膵体尾部切除を導入した。今年も 2 例に施行し、安全に完遂できた。

手術症例の増加に伴い、腹壁瘢痕ヘルニアも増えて、メッシュを使用した腹腔鏡下修復術を開始した。

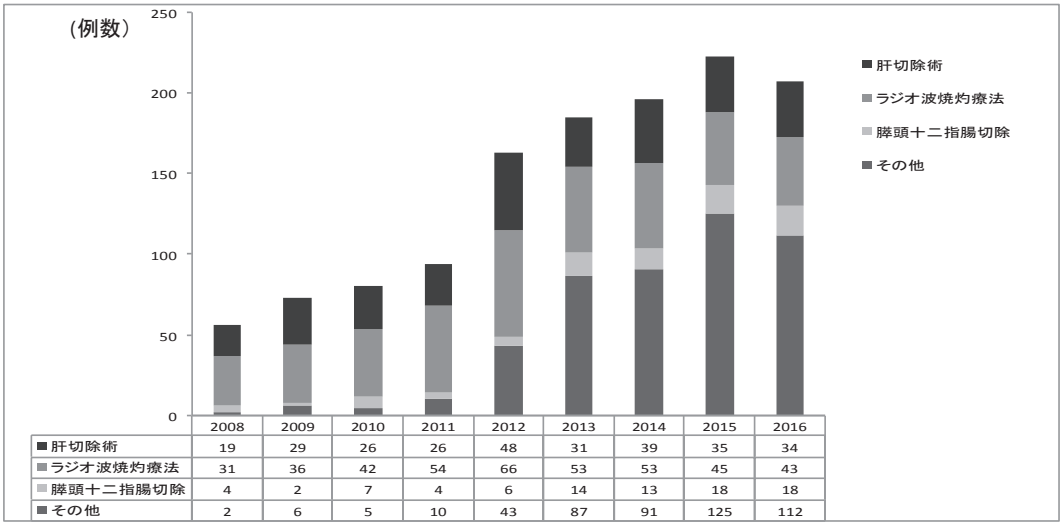
図に過去の肝臓外科（肝胆道外科）手術実績の推移を示した。年々手術件数は増加しているが、2016 年は前年と比較し、微減であった。

《肝臓手術総数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
肝切除術	1	1	3	3	1	3	3	3	1	2	1	0	22
RFA	2	4	4	5	5	4	6	2	2	3	3	3	43
膵頭十二指腸切除	1	1	2	1	0	3	0	2	1	1	2	0	14
腹腔鏡下肝切	1	0	3	0	1	0	2	0	1	1	1	2	12
腹腔鏡下膵体尾部	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	4
腹腔鏡下摘脾術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腹腔鏡下胆摘術	8	4	3	5	5	7	3	5	7	8	8	3	66
その他	3	5	5	1	3	5	5	2	8	6	2	1	46
計	16	15	20	17	16	22	19	15	20	21	17	9	207

RFA：ラジオ波凝固療法

《肝臓手術推移》



	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
肝切除術	19	29	26	26	48	31	39	35	34
ラジオ波焼灼療法	31	36	42	54	66	53	53	45	43
膵頭十二指腸切除	4	2	7	4	6	14	13	18	18
その他	2	6	5	10	43	87	91	125	112

2）肝臓内科

・慢性肝炎･慢性B型肝炎

抗ウイルス薬である核酸アナログ製剤（エンテカビル、テノホビル）による治療を行っている。

・慢性C型肝炎、代償性肝硬変

昨年から開始したゲノタイプ1b型に対するIFNフリー内服治療（DAA：Direct Acting Antivirals）を本年は30例に投与し、重篤な合併症もなく95%以上のウイルス陰性化率を達成した。

ゲノタイプ2型へのIFNフリー内服治療も開始し､5例に行い副作用なく治療継続中である。

今後も新規肝炎治療薬を積極的に使用し肝炎治療を行っていく。

・肝細胞癌

本年も放射線医と連携し肝細胞癌に対してカテーテル治療を行い、肝動脈化学塞栓療法（TACE）46例に施行した。

その内の4例（多発肝細胞癌、巨大肝細胞癌）は永久塞栓物質（マイクロスフィア）を使った治療を施行し発熱や腹痛、肝機能障害などの副作用もなく、腫瘍縮小効果も良好であった。

また肝細胞癌破裂に対する緊急止血術（2例）を施行した。

・肝硬変

肝硬変の難治性腹水に対して新規利尿薬であるサムスカ使用を積極的に行い、腹水減少による症状改善症例を認めている。

肝硬変患者は血小板低下を認めるため、食道静脈瘤に対する内視鏡治療や肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術での出血のリスクが高い。

昨年、経口血小板産生促進剤ムルプレタが使用可能となり血小板5万以下で2例使用し血小板増加認め安全に処置を行えた。

4. 今後の目標

本年も昨年同様、手術症例を確保し、安全、安心の医療を提供していきたい

今後は腹腔鏡下手術による低侵襲治療を肝胆膵領域に導入し、医療ガイドラインに沿った治療を実践しながら、術後成績の向上ならびに、手術症例の増加を維持したい。

また新専門医制度導入に伴う、施設認定の維持に努めたい。

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

22）呼吸器外科

呼吸器外科　市橋　良夫

1. 概要

2015 年 1 月より 2016 年 3 月まで呼吸器外科の診療を大阪医科大学附属病院　外科学講座胸部外科学教室　呼吸器外科より非常勤で行ってきましたが、2016 年 4 月より常勤 1 人、非常勤 2 人体制で呼吸器外科の診療をさせていただいています。手術加療を行う疾患としては主に原発生肺癌、自然気胸、膿胸、縦隔腫瘍であり、主に胸腔鏡下手術で行っています。できるだけ患者様の希望に添えるように、話し合いの時間を設けて診療を行っています。地域の中核病院として、患者様のニーズに応え、他科と連携をとりより良い医療を提供しています。

2. メンバー構成

市橋良夫（常勤）　日本外科学会　専門医

花岡伸治（非常勤）大阪医科大学附属病院　診療准教授　呼吸器外科科長
日本外科学会　専門医・指導医・代議員
日本呼吸器外科学会　専門医・指導医・評議員
日本肺癌学会　評議員

佐藤澄　（非常勤）大阪医科大学附属病院　講師
日本外科学会　専門医・指導医
日本呼吸器外科学会　専門医
日本呼吸器学会　専門医

3. 実績

《術式別手術件数》

手術名	件数
肺葉切除術	32
肺区域切除術	3
肺部分切除術	8
肺嚢胞切除術	22
気管、気管支ステント留置術	2
その他	20
合計	85

《疾患別手術件数》

疾患名	件数
原発性肺癌	31
転移性腫瘍	4
縦隔腫瘍	2
自然気胸	22
肺良性腫瘍	5
膿胸	4
その他	17
合計	85

胸腔鏡下手術 55 例

4. 今後の目標

積極的に診療に取り組み、最善の治療を行っていきます。八尾周辺地域で根治できる患者様を増やすことができるよう邁進致します。

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管 大動脈セ　57
形成外科 美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科 歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

23）小児外科

小児外科部長　木村　拓也

1. 概要

当院で小児外科開設後､6 年目となりました。当院には新生児集中治療室（NICU）がないため、低出生体重児など特殊な患児の治療は困難ですが、新生児も含め、年間の全身麻酔手術症例数が 100 例をコンスタントに維持できるようになりました。これもひとえに、近隣総合病院、診療所に根付いて、地域の「こども」たちに傷が目立たない鏡視下手術を導入し、最新で低侵襲な治療を安全に提供できているためと考えています。

近々に導入される新専門医制度は、いろいろな議論が繰り返されていますが、外科医を目指す研修医にとっても非常に興味のあるところだと思います。当院は、新専門医制度に対し基幹施設として認定されるために、昨年大阪大学小児成育外科教室と連携し、日本小児外科学会の教育関連施設として申請しました。

外科研修の基幹施設として、また、病棟には子供たちの笑顔があふれるように、安全に治療ができるように頑張っていきたいと思います。

2. メンバー構成

部長：木村拓也

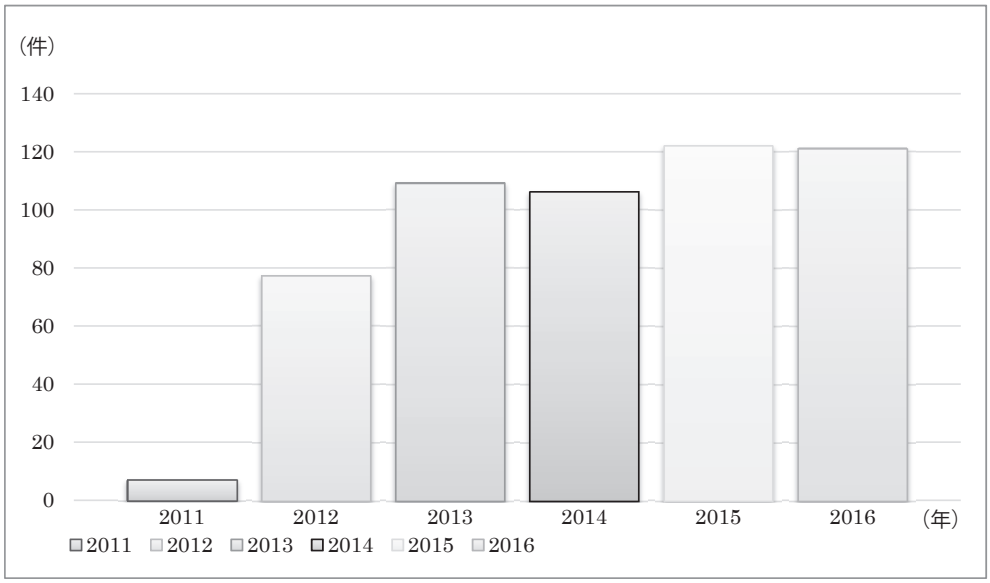
（外科認定医、専門医、指導医、小児外科専門医、消化器外科専門医、日本総合診療医学会認定医、日本静脈経腸栄養学会認定医、肝臓学会認定肝臓専門医、日本移植学会認定医、日本内視鏡外科学会評議員）

医長：井上雅文

（外科認定医、専門医、消化器外科専門医、指導医、肝臓学会認定肝臓専門医）

3. 実績

1）《手術数の推移》（2016 年度：121 例）



2）手術実績

小児外科全身麻酔症例：121 例

・体表疾患（4 例）

皮下腫瘤：2 例（摘出術）

耳前瘻：2 例（瘻孔切除）

・胸部疾患（2 例）

漏斗胸：2 例（Nuss 法）

・腹部疾患（101 例）

急性虫垂炎：26 例（全例単孔式腹腔鏡手術）

肥厚性幽門狭窄症：2 例（Ramsted 手術）

鼠径ヘルニア

男児 31 例：高位結紮

女児 29 例：単孔式腹腔鏡手術（LPEC）

臍ヘルニア：9 例

メッケル憩室：1 例

腸重積：3 例

・生殖器、泌尿器科疾患（11 例）

包茎：3 例

停留精巣：6 例

陰唇癒合：1 例

卵巣捻転：1 例

・その他（2 例）

内視鏡的異物摘出術：1 例

特発性尿閉：1 例（全身麻酔下導尿）

4. 今後の目標

今年は新専門医制度の開始に対応できるように、準備を行いつつ、小児外科を目指したい若者と仕事をしていきたいと思います。

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

24）皮膚科

皮膚科医長　梶本　敦子

1. 概要

当科では、薬疹、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、その他の湿疹、尋常性乾癬、水疱症、掌蹠膿疱症、円形脱毛症などの各疾患、白癬症、ヘルペス感染症、尋常性疣贅、尋常性ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、感染性粉瘤、尖圭コンジローマ・梅毒（STD）などの皮膚感染症、および皮膚腫瘍、皮膚潰瘍、熱傷（保存的治療可能な 、主に SDB まで）、男性型脱毛症（自費診療）などを診療しております。

検査としましては、金属パッチテスト、皮膚生検による病理検査、RAST 測定によるアレルギー検査等を行っております。

日光角化症、基底細胞癌、表皮内有棘細胞癌に関しましては、ダーモスコピーによる視診のうえ疑わしいものは部分生検を行い、確定診断のついた場合は当院形成外科に手術をお願いしております。また、浸潤癌および悪性黒色腫（メラノーマ）、乳房外パジェット病は主に大阪市立大学へ紹介しております。

尋常性乾癬に対する生物学的製剤による治療を必要あるいはご希望される症例や患者さんに対しましては大阪市立大学へ紹介しております。

※尋常性白斑、尋常性乾癬、いずれの疾患にも紫外線療法は施行しておりません。

※第３木曜日を除く平日および第３土曜日の常勤は梶本、その他の土曜日は非常勤医師で診察をしておりますが、現在土曜日非常勤医師の派遣が滞っており休診日がございますのでご了承のほどお願いいたします。

2. メンバー構成

常　勤　梶本敦子

非常勤　大阪市立大学からの派遣医師

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
518	604	609	655	594	686	619	605	622	596	519	522	7,149	595.7

4. 今後の目標

皮膚疾患は慢性に経過するものが多くみられます。また、良性疾患であっても完治には副作用のつよい治療しか無いケースもあり、一方的に治療を勧めるのでは無く各々の患者さんのライフスタイルに合わせた治療をモットーにしております。したがいまして初診には時間をかけてお話をお伺いし、満足のいくコミュニケーションをとることの出来るよう心掛けております。

今年もよろしくお願いいたします。

25）婦人科

婦人科　松岡　達也

1. 概要

婦人科では、子宮癌検診、不正出血、おりもの、その他一般婦人科診療にあたっております。現在、婦人科の手術および入院治療は行っておりません。手術および入院治療適応時には、状況に応じた病院を紹介させていただいております。

また、外来診療は月曜日～土曜日の午前中毎日行っております。

2. メンバー構成

松岡　達也

福本　由美子（女性医師）

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
276	293	315	242	238	373	319	295	284	323	307	316

4. 今後の目標

わかりやすい説明を実践し、患者様に安心して安全な医療を受けていただけるよう、今後も努力していきます。

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

26）耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科　中西　律子

1. 概要

一般診療では以下のような疾患の治療にあたっております。

・鼻：アレルギー性鼻炎、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、鼻出血など

・耳：急性中耳炎、慢性中耳炎、突発性難聴、老人性難聴、メニエル病など

・のど：急性扁桃炎、急性咽頭炎、急性喉頭炎など

耳鳴りおよび補聴器についての特殊外来もあります。

入院、手術を必要とする疾患の場合には、八尾市立病院、大阪赤十字病院に紹介いたします。

2. メンバー構成

中西律子、小西将矢、島野卓司（10 月末退職）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
436	333	503	459	338	473	429	279	457	344	236	295	4,582	382

4. 今後の目標

スギ花粉症に対する舌下免疫療法を実践したいです。

27）リハビリテーション科（診療部）

リハビリテーション科部長　田中　尚

内　科　28
循環器内　35
消化器内　36
呼吸器内　38
腫瘍内科　39
血管透析　41
小児科　43
放射診科　45
神経内科　46
内分泌内　47
膠原リウ　49
外　科　51
整形外科　52
脳神経外　56
心臓血管大動脈セ　57
形成外科美容外科　59
泌尿器科　61
眼　科　63
歯　科歯科口腔　65
麻酔科　67
肝臓セン　68
呼吸器外　71
小児外科　73
皮膚科　75
婦人科　76
耳鼻咽喉　77
リハビリ　78

1. 概要

2016 年 10 月､リハビリテーション科の常勤医師として入職しています。当科は､理学療法士、作業療法士、言語聴覚士とともに、機能や能力の評価、目標設定、疾患やリスク管理をしながら、リハビリ計画を立てて訓練を行っています。さらに、各診療科、看護師、医療ソーシャルワーカーらとも回診やカンファレンスを行い、チーム医療を実践しています。

対象となる分野は広く、脳血管～中枢（小児の発達障害を含む)、運動器、心大血管、呼吸、がん、廃用症候群といった領域の疾患のリハビリを行っています。当院は、急性期病院ですので急性期に特化したリハビリを行っていることが特徴で、早期の自宅退院を目指します。また回復期リハビリ病院等との連携も行っています。

2. メンバー構成

田中尚（リハビリテーション医学会専門医、指導医）

3. 実績

リハビリ実施数

リハビリテーション科（副診療部）の実績に準ずる。

4. 今後の目標

訓練機器や物品を整備しながら、リハビリの診療の質が向上できるように努めます。

NST 回診や摂食嚥下リハビリテーションの分野においてもチーム医療を展開していきます。

リハビリを通じて、患者様の QOL 改善、在院日数の短縮などに貢献していきたいと考えております。

副　診　療　部

―― 2016年 ――

28）薬　剤　科　82
29）放 射 線 科　85
30）臨床検査科　87
31）リハビリテーション科　90
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）
32）臨床工学科　96
33）栄　養　科　99
34）治験センター　101
35）医療福祉相談室　107
（MSW　医療ソーシャルワーカー）
36）病診連携室　109
37）健診センター　118
38）情報システム管理室　119
39）ゲノム事務局　121
40）保　育　室　123
41）がん相談支援センター　125
42）医療安全管理部　127
43）臨床腫瘍センター　133

28）薬剤科

薬局長　大里　恭章

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

1. 概要

2016 年の業務を振り返るにあたり、4 月の診療報酬改定は、がん化学療法関連の拡充、ICU の集中治療領域の病棟常駐薬剤師新設など病院薬剤師にとっては業務内容がますますベッドサイドでの臨床活動へ大きく舵を取るようなものでありました。このような中で臨床腫瘍センターでは、がん専門薬剤師 3 名が中心となり、悪性腫瘍剤調製とがん患者様への服薬指導、そしてがん免疫治療の登場によりさらに管理が大変となったがん治療プロトコール管理をしっかり行ってくれました。また、ICU 病棟での常駐業務も担当者 2 名が中心となり急性期領域の薬剤師の活動を発展させてくれました。

病棟での薬剤管理指導業務については、入院患者数の増加に伴い病棟活動時間が以前よりも多くなる中、外来調剤のための時間応援もこなしながらも、各患者様に対し初回面談、持参薬鑑別から薬剤の効果、安全性のモニタリング、退院時指導までを遂行し、その業務量は前年より 5% の増加で終えることができました。

今後もがん化学療法から病棟での薬剤管理指導業務、NST、糖尿病チームなどのチーム医療など、いかなる業務についても幅広く活躍できる薬剤師の育成と、現状の業務に満足することなく新たな業務改善を図り、薬剤師の責務が十分果たせる組織にしたいと考えます。

2. メンバー構成

・薬剤師29名（非常勤1名）、助手2名（非常勤3名）

・有資格者

日本医療薬学会	指導薬剤師	大里恭章
	認定薬剤師	大里恭章、草薙みか、出羽祐基
	がん専門薬剤師	松浦暢子、小西千尋、南野智志
	薬物療法専門薬剤師	草薙みか
日本病院薬剤師会	感染制御専門薬剤師	出羽祐基
	感染制御認定薬剤師	横山法靖
	認定指導薬剤師	大里恭章、草薙みか
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	横山法靖、出羽祐基
日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師	松浦暢子、小西千尋
日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法	大里恭章、草薙みか、南野智志、高岡亜記、岩政かおり、山本倫数
日本糖尿病療法指導士認定機構	糖尿病指導療法士	松浦暢子、坂野千賀、高岡亜記、出羽祐基
日本アンチドピング機構	スポーツファーマシスト	山本倫数
日本薬剤師研修センター	漢方薬・生薬認定薬剤師	草薙みか、山本倫数、門間智恵
	小児薬物療法認定薬剤師	坂野千賀

認定実務実習指導薬剤師　大里恭章、草薙みか、坂野千賀、
横山法靖、前田晃佑

日本麻酔科学会　手術期管理チーム薬剤師　大里恭章

3. 実績

1）資格取得（資格試験　2016 年新規合格者）

・日本医療薬学会　薬物療法専門薬剤師：1名

・日本薬剤師研修センター　小児薬物療法認定薬剤師：1名

・日本麻酔科学会　周術期管理チーム薬剤師：1名

2）学生実習受け入れ（2016 年 4 月～ 2017 年 3 月：13 名）

・Ⅰ期　2名（同志社女子大学　1名、近畿大学　1名）

・Ⅱ期　3名（大阪大谷大学　1名、同志社女子大学　2名）

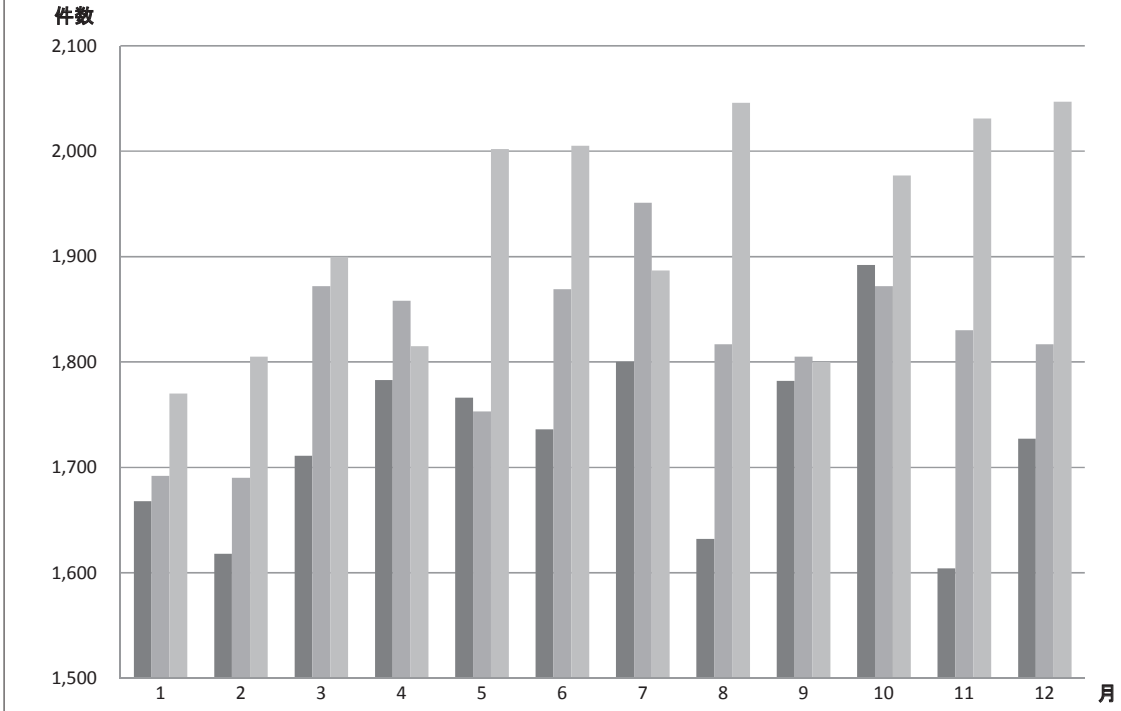
・Ⅲ期　4名（大阪薬科大学　1名､近畿大学　1名､同志社女子大学　1名､武庫川女子大学　1名）

・Ⅳ期　4名（近畿大学　2名、摂南大学　1名、武庫川女子大学　1名）

3）《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
処方箋枚数(外来)	8,539	8,549	9,244	8,015	7,867	8,213	7,896	8,311	8,021	7,727	7,735	8,175	98,292	8,191.0	93.7%
調剤数(外来)	22,940	22,500	24,618	21,008	20,060	21,137	20,249	21,545	20,656	19,759	20,533	21,728	256,733	21,394.4	94.7%
処方箋枚数(入院)	7,841	7,485	7,977	7,354	7,339	7,641	7,409	6,863	6,712	7,375	6,989	7,521	88,506	7,375.5	100.6%
調剤数(入院)	14,842	14,790	16,163	14,951	14,701	15,715	14,972	14,356	13,588	14,845	14,235	15,577	178,735	14,894.6	106.4%
注射本数	34,044	31,218	32,842	32,402	34,647	30,050	31,352	29,143	28,252	32,310	31,039	30,913	378,212	31,517.7	89.4%
無菌製剤処理件数	228	173	138	187	235	191	119	83	163	153	164	199	2,033	169.4	127.1%
悪性腫瘍製剤処理加算	182	160	180	181	178	213	177	218	197	183	226	206	2,301	191.8	111.2%
化学療法加算(A)	180	171	181	166	167	183	152	191	165	152	168	175	2,051	170.9	105.7%
化学療法加算(B)	49	47	57	46	40	51	49	47	48	45	52	48	579	48.3	99.5%
薬剤情報提供件数	8,185	8,152	8,874	7,710	7,482	7,907	7,627	7,882	7,659	7,377	7,505	7,895	94,255	7,854.6	95.0%
退院時指導件数	169	222	235	226	177	224	198	220	183	193	212	282	2,541	211.8	107.1%
薬剤管理指導件数(I救命)	119	96	88	86	88	97	71	95	89				829	92.1	
薬剤管理指導件数(I)	989	1,031	1,045	986	1,054	1,119	1,083	1,071	903	1,043	1,115	1,137	12,576	1,048.0	107.3%
薬剤管理指導件数(II)	662	678	767	743	860	789	733	880	808	934	916	910	9,680	806.7	108.1%
薬剤管理指導件数(合計)	1,770	1,805	1,900	1,815	2,002	2,005	1,887	2,046	1,800	1,977	2,031	2,047	23,085	1,923.8	105.8%

《薬剤管理指導件数の推移》



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2014年	1,668	1,618	1,711	1,783	1,766	1,736	1,800	1,632	1,782	1,892	1,604	1,727
2015年	1,692	1,690	1,872	1,858	1,753	1,869	1,951	1,817	1,805	1,872	1,830	1,817
2016年	1,770	1,805	1,900	1,815	2,002	2,005	1,887	2,046	1,800	1,977	2,031	2,047

4. 今後の目標

①臨床業務活動のさらなる充実をめざす

②学会発表、論文発表を積極的に行い、リサーチマインドを追求する

③スタッフの育成とともに資格取得ができる環境を構築する

④医療制度改革に対応できるように組織の変革を常に継続する

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

29）放射線科

放射線科技師長　田中　政典

1. 概要

2016 年 7 月事務員 1 名退職、診療放射線技師 30 名、事務員 1 名の体制となりました。

今期は東大阪病院･出雲病院へ応援派遣を行いましたが、今後も放射線部会と緊密に連携し、徳洲会グループの超規模病院としての責務を全うして参ります。

昨年同様に、近隣のクリニックや診療所より年間約 3,000 件の検査依頼を頂きました。今後も迅速かつ質の高い検査を目指したいと思います。

今期は、X 線 TV 装置が新規導入され、従来の TV 装置機能の他に整形外科領域である骨塩定量や下肢・脊椎全長撮影が可能となり、多目的性が向上しました。

また、救急搬送される脳卒中の患者様に対して緊急 CT・MRI 検査を多数行い、緊急の血栓除去術や血管塞栓術の治療に貢献できたと考えております。

今後も脳卒中や心筋梗塞等の救急患者様に対して、迅速な検査並びに治療ができる体制を整え、地域に信頼される病院になれるよう、努力して参ります。

2. メンバー構成

診療放射線技師 30 名、受付 1 名

有資格取得者

第 1 種放射線取扱主任者	田中政典、伊吹剛、井上竜太、斎藤里沙，久保省太
マンモグラフィ検診認定技師	田中政典、村尾信義、近藤浩司、山本峰好、川野友也
	疋田直子、斎藤里沙、猪飼麻美、安川莉愛、岸江佑実子
胃がん検診認定技師	田中政典、琉秀光、近藤浩司、上甲実
肺がん CT 認定技師	近藤浩司

3. 実績

《月別放射線科統計》

	単純透視	ＣＴ	ＭＲ	ＲＩ	ＣＡＧ	ＤＳＡ	放射線治療	紹介件数	総件数
1月	7,646	2,529	830	90	75	39	293	201	11,703
2月	7,773	2,553	886	84	52	40	319	231	11,938
3月	8,261	2,815	938	130	82	39	117	259	12,641
4月	7,477	2,614	882	106	63	37	169	282	11,630
5月	8,448	2,572	867	92	54	30	141	252	12,456
6月	7,862	2,583	923	130	66	39	107	313	12,023
7月	7,865	2,434	900	95	55	48	197	265	11,859
8月	8,253	2,530	856	103	47	41	363	225	12,418
9月	7,392	2,418	855	82	78	37	376	254	11,492
10月	7,505	2,541	885	107	64	38	439	253	11,832
11月	7,595	2,525	865	93	69	36	544	242	11,969
12月	7,761	2,635	890	126	85	50	455	227	12,229
合計	93,838	30,749	10,577	1,238	790	474	3,520	3,004	137,666
平均	7,820	2,562	881	103	66	40	293	250	11,472

4. 今後の目標

CT・MR・血管撮影等の新規装置の導入により診断精度及び治療成績の向上に努め、引き続き予防医療や地域貢献を目指します。

また、個人能力の向上のため、勉強会への積極的な参加や資格の取得に努めて参ります。

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

30）臨床検査科

臨床検査科副技師長　松田　治恵子

1. 概要

今年度の検査件数の推移は前年対比で検体検査・生理検査総件数ともに 2.4％減であった。

しかしながら業務量が伸びている部門もあり、検体検査では微生物が 19.2％増と最も顕著であった。次いで細胞診が 17.8％増、病理検査が 8.5％増であり、細菌・病理検査への要望が認められた年であった。今後も継続して感染対策や遺伝子解析への取組みを充実させていきたい。

また、生理検査では心臓超音波検査が 5.4％増であった。今年度の目標、「技師育成に関する充実」に関しては、全国学会で 3 演題の発表と、各種資格試験に 4 名合格することができた。また、検体採取の講習会に 4 名が受講した。「臨床支援・他部署との連携」においては 8 月・9 月に宮古島応援へ派遣し、チーム医療において糖尿病外来で合併症に関する外来パスの運用を開始出来た。また、病理認定施設を取得したことで研修医の研修も可能となった。学生実習に関しては大学 1 校（2 名）、専門学校 2 校（5 名）の受け入れを実施することができた。

2. メンバー構成

・臨床検査技師　34名（＊他非常勤技師1名、採血コーナー非常勤看護師2名）
・視能訓練士　　3名（＊他非常勤技士1名）　　合計41名

3. 実績

1）資格試験合格者

・二級臨床病理技術士　2名（中村技師、岡﨑技師）
・超音波検査士　循環器1名（津山技師）、消化器1名（村山技師）

2）実習生受け入れ

・日本医療学院専門学校　　3名（4ヶ月）
・大阪医療技術学園専門学校　2名（6ヶ月）
・関西医療大学　2名（3ヶ月）

3）機器更新

・筋電図・誘発電位検査装置（MEB-2306）
・NO測定装置（NIOXVERO）
・神経伝導検査装置DPNチェック
・東芝超音波診断装置AplioXGコンベックスプローブ（PVT-382BT/FS）
・SAS（エアフローセンサー、呼吸バンド、体位センサー、動作検出センサー（両足））
・アーキテクトi2000SR生化学測定オプションC16000付タイプ
・ケトン測定（フリースタイルプレシジョンネオ）
・テーブルトップ冷却遠心機2800

4）検査統計・推移（別紙参照）

4. 今後の目標

1）技師育成に関する充実と、認定資格取得をめざす

2）臨床支援・他部署との連携、グループ病院間の応援協力などを積極的に取組む

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

《月別検査統計件数》

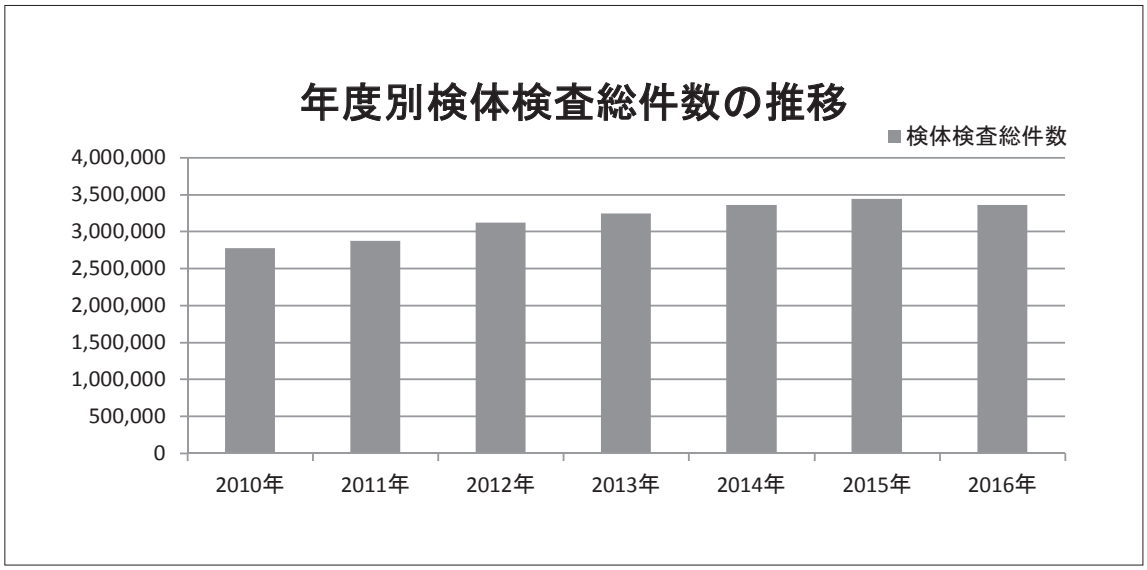
項目／月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般	37,616	36,639	43,710	39,659	38,474	39,809	39,349	37,277	38,623	37,725	36,488	38,645	464,014	38,667.8
血液	65,111	64,942	70,599	65,101	70,373	66,246	64,878	66,780	62,755	64,267	64,979	65,515	791,546	65,962.2
微生物	4,636	4,923	5,037	4,979	5,458	4,730	5,651	7,273	5,445	6,134	5,935	5,728	65,929	5,494.1
免疫	15,978	16,546	16,985	15,762	15,553	15,440	14,577	14,610	13,815	14,414	14,982	16,074	184,736	15,394.7
生化学	150,985	146,568	158,245	145,548	154,429	147,343	146,116	148,692	140,486	141,976	147,036	147,555	1,774,979	147,914.9
病理	495	475	559	508	501	559	606	536	449	486	473	499	6,146	512.2
細胞診	893	881	977	853	839	1,071	985	997	971	1,019	903	908	11,297	941.4
外注合計	5,185	5,666	5,629	6,034	4,598	5,326	4,855	4,744	4,804	4,772	4,479	4,937	61,029	5,085.8
検体合計	280,899	276,640	301,741	278,444	290,225	280,524	277,017	280,909	267,348	270,793	275,275	279,861	3,359,676	279,973.0
外注比率	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	22	1.8
腹部エコー	851	855	942	841	854	940	840	851	903	889	949	847	10,562	880.2
心エコー	831	777	937	755	702	733	722	732	833	750	762	774	9,308	775.7
他エコー	539	557	596	502	530	560	527	498	586	509	526	559	6,489	540.8
生理合計	5,572	5,529	6,169	5,256	5,345	5,838	5,692	5,747	5,740	5,409	5,551	5,460	67,308	5,609.0
月間検査合計	286,471	282,169	307,910	283,700	295,570	286,362	282,709	286,656	273,088	276,202	280,826	285,321	3,426,984	285,582.0

《点数》

項目／月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般	229,980	228,280	260,953	230,984	244,959	254,990	256,322	246,006	247,090	245,058	242,198	241,706	2,928,526	244,043.8
血液	929,604	963,397	1,033,142	944,805	944,902	908,974	874,181	889,879	872,490	903,181	889,387	892,955	11,046,897	920,574.8
微生物	560,462	613,391	628,048	626,787	709,124	603,767	751,373	755,293	710,545	786,829	773,857	752,022	8,271,498	689,291.5
免疫	818,400	943,876	911,992	791,312	749,242	748,180	687,796	689,172	653,957	683,974	740,731	822,128	9,240,760	770,063.3
生化学	2,336,900	2,254,580	2,415,490	2,195,519	2,236,101	2,099,296	2,071,954	2,084,879	1,997,343	2,044,908	2,092,888	2,106,643	25,936,501	2,161,375.1
病理	440,540	427,190	509,180	457,130	448,660	505,040	555,220	487,830	401,120	443,260	430,000	464,510	5,569,680	464,140.0
細胞診	131,825	132,974	146,972	132,186	128,438	150,075	143,477	145,045	143,059	147,568	129,287	135,452	1,666,358	138,863.2
外注合計	873,669	978,081	996,718	1,408,093	821,922	936,893	928,955	853,501	840,250	895,429	860,457	912,528	11,306,496	942,208.0
検体合計	6,321,380	6,541,769	6,902,495	6,786,816	6,283,348	6,207,215	6,269,278	6,151,605	5,865,854	6,150,207	6,158,805	6,327,944	75,966,716	6,330,559.7
外注比率	13.8	15.0	14.4	20.7	13.1	15.1	14.8	13.9	14.3	14.6	14.0	14.4	178	14.8
腹部エコー	454,450	455,370	502,270	447,440	455,300	501,640	449,310	456,370	482,060	474,320	508,090	454,300	5,640,920	470,076.7
心エコー	730,400	683,760	824,560	663,520	617,760	645,040	633,600	643,280	732,160	659,120	669,680	678,480	8,181,360	681,780.0
他エコー	251,900	258,650	286,850	239,450	246,050	253,250	240,100	229,250	272,800	233,550	239,300	261,750	3,012,900	251,075.0
生理合計	2,015,720	1,970,890	2,293,600	1,921,510	1,802,880	199,170	1,870,280	1,951,330	2,067,420	1,950,120	1,971,180	1,921,370	21,935,470	1,827,955.8
院内検査合計	8,337,100	8,512,659	9,196,095	8,708,326	8,086,228	6,406,385	8,139,558	8,102,935	7,933,274	8,100,327	8,129,985	8,249,314	97,902,186	8,158,515.5

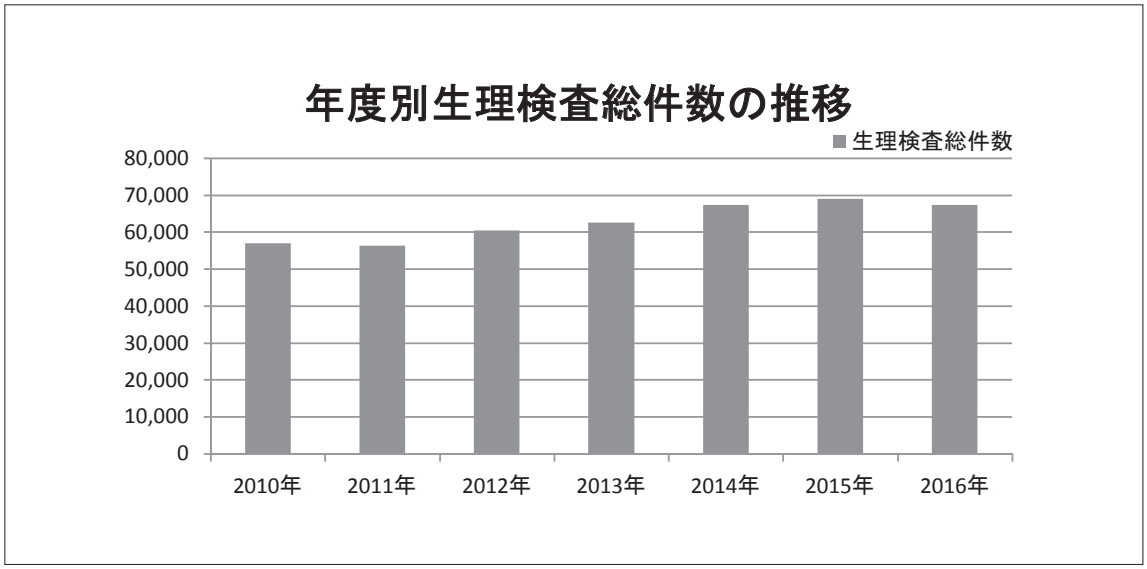
《年度別検体検査総件数の推移》

検体検査総件数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
	2,589,378	2,774,400	2,871,617	3,118,549	3,240,509	3,353,555	3,441,604	3,359,676



《年度別生理検査総件数の推移》

検体検査総件数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
	52,253	56,903	56,225	60,380	62,548	67,376	68,906	67,308



31）リハビリテーション科（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）

リハビリテーション科室長　野村　日呂美

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

1. 概要

2016 年は前年から引き続き東大阪徳洲会に 1 月～ 5 月まで理学療法士 1 名を応援。生駒市民病院への 1 名応援は 4 月末日からは転勤に変更し、継続的人員派遣を行うことで関連病院への協力を行った。

4 月には診療報酬改訂により要介護被保険者の退院後の介護保険の使用を促進する指導に対して新基準が設置された。実際の 10 月算定開始時にリハビリ専門医師の田中尚医師が入職されたことにより、算定が実現化し、増収の一端を担っている。

実習生は 11 名（理学 7 名、作業 3 名、言語 1 名）と数多くの受け入れを実施。また、学校にも当科スタッフが特別講師として行くことにより、急性期病院の臨床現場を学生に伝えていく活動を継続して行っている。全国的に作業療法士・言語聴覚士の新人獲得に苦戦していることから、学校訪問、就職説明会に加え、大阪医療技術専門学校言語聴覚学科と関西・大阪徳洲会リハビリブロックの協力の下、就職見学実習を開催。当院にも 6 名ほどの就職見学実習を受け入れるなどの活動を行った。

チーム・委員会に関しては、心肺・DM・整形・脳外・訪問・リウマチ・手の外科、NST、緩和ケア、創傷外来など、チーム内で療法士の専門性を活かし活動している。その中で患者治療の成績分析を行い、各チーム・委員会等での学術発表を多数行った。近隣の病院との連携強化として理学療法士協会中河内ブロックへの活動を通して会議・交流会・勉強会等、地域の中核病院としての役割を果たす努力も継続して行っている。

2. メンバー構成（別紙参照）

3. 実績（別紙参照）

4. 今後の目標

2017 年度は田中尚リハビリ専門医師を中心として更に良い治療を提供できるよう邁進したいと考えている。

【理学療法】

1）メンバー構成

①12月31日時点で、スタッフ　23名在籍

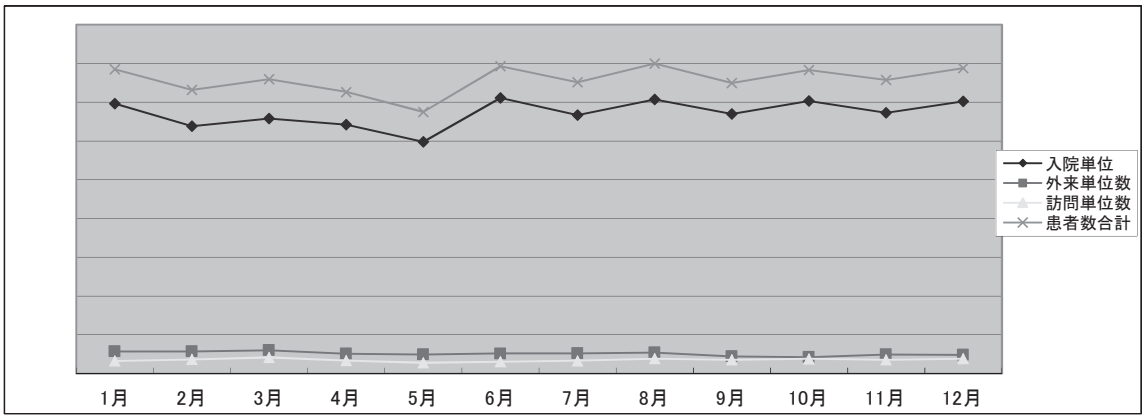
②人事

	松井紗也加	1/1 ～ 1/31	東大阪徳洲会応援
	黒田涼平	2/1 ～ 5/8	東大阪徳洲会応援
	井川貞之	2016/1/1 ～ 4/31	生駒市民病院応援　5/1 ～転勤
	高濱雅人	3/31	退職
	林　伸嘉	3/31	退職
	文　聖現	4/1	入職
	橋本智里	4/1	入職
	西野隆彬	11/16 ～ 12/16	育児休暇
非常勤	小泉希久也	12/31	退職

2）実績

《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院単位	6,964	6,385	6,579	6,424	5,980	7,111	6,670	7,075	6,701	7,030	6,729	7,023	80,671	6,723
外来単位数	568	569	598	507	492	515	521	542	443	422	487	479	6,143	512
訪問単位数	321	362	416	333	279	306	328	381	351	377	355	380	4,189	349
患者数合計	7,853	7,316	7,593	7,264	6,751	7,932	7,519	7,998	7,495	7,829	7,571	7,882	91,003	7,584



3）実習等

①実習生受け入れ

	期間	学年
大阪医専	2/13～2/18	1年　1名
奈良ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ専門学校	8/22～10/12	3年　1名
大阪医療福祉専門学校	5/30～7/23	3年　1名
四條畷学園大学	8/22～10/12	4年　1名
関西医科専門学校	4/11～6/3	4年　1名
関西福祉科学大学	1/16～2/18	3年　1名
神戸学院大学	2/6～2/24	3年　1名

②地域連携

上田哲也	大阪府理学療法士協会	中河内ブロック	学術部副部長
服部玄徳	大阪府理学療法士協会	中河内ブロック	学術部部員
中村竜大	八尾柏原連絡協議会		

③外部講師派遣

野村日呂美　大阪医専

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

【作業療法】

1）メンバー構成

①12月31日時点で5名在籍

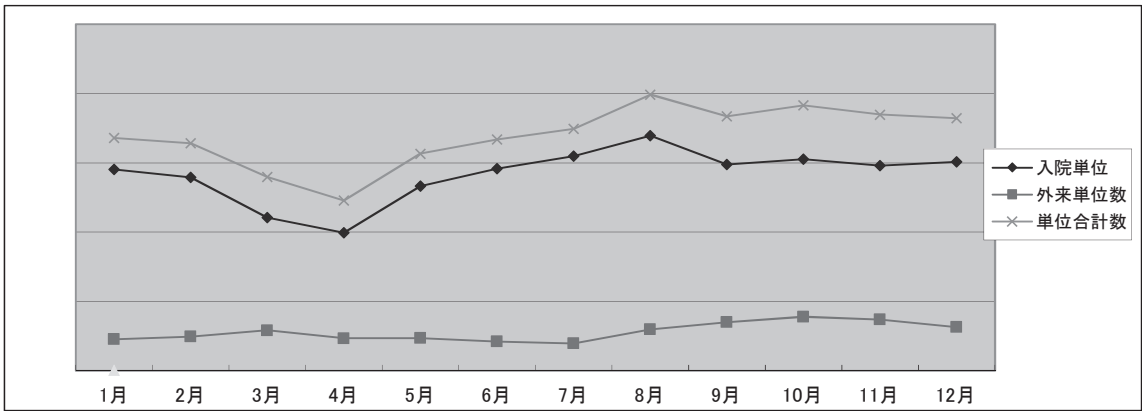
②人事

宍戸	3/31	退職
平見	3/31	退職
梅崎	4/1	入職
黒田	4/1	入職

2）実績

《作業療法単位数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院単位	1,453	1,396	1,106	995	1,331	1,459	1,549	1,696	1,487	1,526	1,479	1,508	16,985	1,415
外来単位数	227	246	291	233	235	209	196	297	349	389	369	314	3,355	280
単位数合計	1,680	1,642	1,397	1,228	1,566	1,668	1,745	1,993	1,836	1,915	1,848	1,822	20,340	1,695



3）実習等

・実習生受け入れ	期間	学年
大阪保健医療大学	2/2～2/21	2年　1名
大阪河崎ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ大学	3/2～3/7	2年　1名
関西福祉科学大学	6/13～8/5	4年　1名

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

【言語聴覚療法】

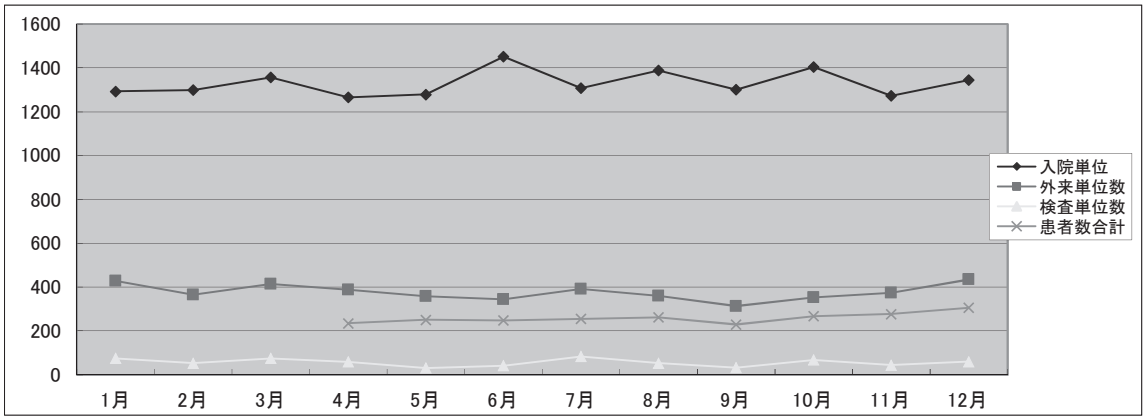
1）メンバー構成

特記なし

2）実績

《言語療法単位数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院単位	1,293	1,299	1,357	1,266	1,279	1,452	1,308	1,388	1,301	1,404	1,273	1,345	15,965	1,330.4
外来単位数	428	366	415	388	358	345	392	361	314	353	375	435	4,530	377.5
検査単位数	75	53	75	59	31	41	84	53	33	68	44	60	676	56.3
患者数合計				235	251	248	255	262	230	268	277	306	20,495	259.1



3）実習等

・実習生受け入れ　期間

大阪医専4年　8/29～10/8　臨床実習　1名　平家

【心臓リハビリテーション】

1. 概要

前年に比べ患者数、単位数とも増加傾向。外来患者数は同数ながら患者指導を行う機会が増えている。心臓血管外科術前後の患者様に対しても積極的介入を行い安定期では運動療法を中心としたチーム活動が行えている。

2. メンバー構成

医師　　迫田慎一郎、入江寛、中尾佳永、綾田建士、藤本忠男、辻庸行
理学療法士　片田理恵、難波智矢、服部玄徳、安井友里
臨床検査技師　森文子、戸野川始、楠田愛、津山裕美、村山宏之、西岡徹

3. 実績

《心臓リハビリテーション業務量》

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	579	544	676	630	466	608	439	414	436	519	583	649	545.3
単位数	887	829	1,013	1,020	695	881	639	628	635	838	943	920	827.3

外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	69	56	29	41	34	53	55	54	32	31	29	31	43
単位数	123	92	44	76	64	87	99	88	57	56	49	59	75

入外合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	648	600	705	671	500	661	494	468	468	550	612	680	588
単位数	1,010	921	1,057	1,096	759	968	738	716	692	894	992	979	902
新患数	77	72	89	72	56	62	40	66	64	60	73	70	67

4. 今後の目標

・外来患者数の増加と患者教育・指導の充実
・心肺運動負荷試験の積極的な実施によるATポイントでの運動療法の実践
・レジスタンストレーニングの積極的な導入

32）臨床工学科

臨床工学科副技士長　藤田　和睦

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

1. 概要

1）人工透析

透析件数は、昨年と比べ外来は減少（－ 920 件）したが、ICU における血液浄化件数は増加した。透析室配置を 3 名から 4 名体制に増やす事により、透析装置の保守管理や他セクション業務支援を行い、科内業務効率の向上、教育の充実を図った。個室透析、ICU 透析件数増加対応に苦慮する事が増えた為、個人用透析装置の追加導入をすすめている。持続血液透析装置 ACH-10 を ACH- Σに新規入れ替えを行った。昨年に引き続き、透析液の水質管理を継続して行なう事が出来た。

2）内視鏡

総件数は減少した（－ 343 件）が、一方で治療難易度の高い手技が増加した。又、超音波内視鏡手技の充実を図った。気管支鏡分野では、新しい取り組みとして緊急気管支ステント留置対応や超音波内視鏡下穿刺吸引生検を新規業務として新たに開始した。

機器管理では、スコープ洗浄時に先端保護具を着用することにより故障が減少した事と医師向けにポータブルスコープ取扱勉強会を開催し、取扱い方法や使用に関するルールの再教育を行った結果、ポータブルスコープの故障が 0 件となった。その他、手術中における内視鏡対応件数が増加しており、今後人員の増員が必要と考える。

3）手術室

2016 年も継続して麻酔器の使用前点検ならびに定期的な回路交換を実施した。更に麻酔器のオーバーホールを行う事が出来た。これにより異常の早期発見及びトラブルの減少に繋がった。フットポンプの運用は、フットポンプの台数を増加したことにより、安定的な供給を確保する事が出来た。

4）心臓カテーテル

4 月以降のマンパワーの低下に伴い件数を絞らざるを得ない状況が続いた。2015 年と比較し、総検査数が 231 件減少、総治療件数も 177 件の減少となった。緊急カテは、29 件の増加となり、緊急は断らない姿勢を見せられた 1 年となった。

5）人工心肺

件数は 41 件であった。2015 年と件数はほぼ変わらないが、緊急手術に対応出来るように努めた。その他 OPCAB や TEVAR、EVAR の緊急時にも対応出来るよう備えた。

当科では 2 名の体外循環技術認定士が、中心となって教育を担っている。又、大阪大学心臓血管外科関連施設として体外循環データの収集ならびに技術･知識向上を目的に参加している。

6）機器管理

継続した人工呼吸器の使用前点検、定期的な回路交換を実施した。更に、オーバーホールを実施する事が出来、結果として異常の早期発見やトラブル減少に繋がった。NPPV の使用件数が増加し､機器確保に難渋した為､2017 年は NPPV の購入を図り安定供給を目指したい。モニター類は、劣化が著しい為、買い換えを図り、随時入れ替えを行い、ME サテライトの運用方法の変更を行った。また、輸液ポンプ、シリンジポンプの不足が目立ったため、安定供給が今後の課題である。

7）救急車（ドクターカー）

年間使用件数 6 件

8）臨床実習

養成校 4 校、計 13 名の実習受け入れを実施。

・大阪ハイテクノロジー専門学校　1/12 ～ 2/23　2 名　5/16 ～ 6/24　2 名
　11/4 ～ 12/16　2 名
・大阪医専　1/18 ～ 2/12　2 名
・藍野大学　6/1 ～ 7/14　2 名
・日本メディカル福祉専門学校　10/11 ～ 11/18　2 名

9）病院見学会

・日本メディカル福祉専門学校　1/29　15 名
・大阪滋慶学園　上海健康医学院　5/19　21 名
・大阪ハイテクノロジー専門学校　9/7　3 名

10）安全管理

・除細動器メンテナンス講習会　3/8
・ポータブルスコープ取扱講習会（院内）　4/6　4/13　4/20
・輸液・シリンジポンプ講習会 （院内）　9/12
・ベアハッガーメンテナンス講習会（院内）　9/15
・透析装置メンテナンス講習会　9/28 ～ 30　出席者　藤田
・人工呼吸器メンテナンス講習会　11/12　参加者　向井

11）部会活動

＜徳洲会グループ＞

・資産管理システム会議　参加者　藤田
・ME 部会ホームページ会議　部会担当者　藤田

＜ ME 部会＞

・透析システム会議　参加者　藤田
・ME 部会システム委員会　参加者　藤田
・ME 機器管理システム会議　参加者　藤田

＜その他＞

・徳洲会透析部会全国会議　2/13、14　出席者　藤村
・全国 ME 部会　9/17、18　出席者　藤田
・関西・大阪ブロック ME 部会　1/16、3/26、6/18、11/6　出席者　藤田
・関西・大阪ブロック ME 部会セミナー　吹田病院にて開催　11/6
　出席者　藤田、片山、長谷川、高橋

12）学会活動

・OSCAR 会議　1/9　参加者　藤田　長谷川
・大阪透析研究会　3/6　発表者　藤里　参加者　片山
・体外循環技術セミナー　5/28、5/29　参加者　杉本　長谷川
・PUSCAR セミナー　6/19、12/18　参加者　藤田　杉本　長谷川
・人工臓器セミナー　7/15 ～ 17　参加者　藤田

13）その他

・生駒市立病院応援　　7/30、9/17　応援者　片山

・東大阪徳洲会病院より研修受け入れ　4/4 ～ 4/8　　研修者　新屋敷信夫

2. メンバー構成

杉本　4 月より副主任昇格

3. 実績

《月別業務量集計》

2016 年		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
心臓カテーテル	CAG	33	28	41	34	33	27	25	18	34	35	28	45	381
	LVG	1	1	0	0	1	0	0	1	0	2	2	1	9
	PCI	43	27	25	23	19	30	23	26	34	24	35	38	347
	RA	1	2	1	2	0	1	1	4	1	3	4	3	23
	PTA	10	17	11	9	12	7	16	22	12	14	17	13	160
	T-PM	1	0	1	1	1	0	4	2	1	2	3	3	19
	P-PM	3	1	6	3	2	3	2	3	3	3	5	2	36
心臓血管外科	人工心肺使用症例(開胸)	6	2	9	4	3	3	4	1	3	2	2	2	41
	人工心肺不使用症例(開胸)	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	1	2	8
	人工血管置換手術(開腹等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自己血回収装置	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	EVER	1	0	3	4	3	2	3	2	1	1	1	2	23
	TEVER	1	2	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	7
人工透析	HD(外来)	772	697	764	684	665	687	704	768	738	754	761	851	8,845
	HD(入院)	330	239	374	377	396	326	321	261	281	337	320	285	3,847
	病棟透析(ICU)	17	2	5	19	20	14	2	3	11	4	14	8	119
	CHDF	11	2	20	9	3	21	20	8	21	39	7	9	170
	血漿交換・血漿吸着	0	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	5
	腹水濃縮	4	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	8
	PMX	0	0	4	3	0	2	2	0	2	3	0	2	18
	LDL	0	0	11	8	12	1	0	0	0	0	0	0	32
内視鏡	胃カメラ	425	485	511	456	438	533	495	515	444	474	491	470	5,737
	CF	192	219	256	258	203	240	219	220	191	216	218	221	2,653
	内視鏡的止血術	10	6	5	12	18	9	13	8	22	7	9	10	129
	食道・胃静脈瘤硬化療法	10	2	1	5	2	0	2	4	5	6	1	4	42
	拡張術	0	1	0	0	1	2	2	3	2	2	4	1	18
	ポリペクトミー・EMR	25	41	35	31	18	31	22	21	25	31	29	27	336
	ESD	7	4	8	10	7	6	6	9	5	8	9	4	83
	EUS(消化器・気管支鏡含)	8	3	2	9	13	16	21	11	14	11	11	17	136
	EUS−FNA(消化器・気管支鏡含)	0	3	1	0	0	0	2	1	0	1	1	2	11
	上部・下部ステント、イレウス管挿入	1	2	1	6	5	8	3	7	6	4	5	8	56
	PEG新規	4	2	5	2	4	6	5	4	4	2	8	5	51
	ERCP	34	29	26	26	32	24	31	31	27	30	33	29	352
	ERBD,ENBD	26	18	16	15	23	19	22	23	17	22	25	22	248
	EST	16	14	12	12	18	8	11	7	13	15	17	7	150
	BF	16	15	24	17	14	14	21	8	26	22	20	22	219
呼吸管理	人工呼吸器	203	199	154	130	146	109	149	126	168	301	246	219	2,150
	NPPV(Bipap.CPAP)	280	138	278	232	200	285	235	214	227	204	198	255	2,746
	NHF	2	0	6	17	29	15	3	20	7	22	11	30	162
補助循環	PCPS	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	IABP	4	0	4	5	3	8	11	1	5	1	4	11	57
	ECMO	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
メンテナンス	輸液ポンプ	295	305	354	332	340	264	354	322	335	302	425	379	4,007
	シリンジポンプ	192	210	223	187	183	221	169	207	189	191	206	234	2,412
	除細動器	480	473	507	501	514	446	526	509	471	434	484	521	5,866
	麻酔器	139	161	153	160	147	175	168	168	168	172	161	175	1,947
	人工呼吸器	552	394	357	419	378	372	385	320	351	435	407	413	4,783
	内視鏡装置	839	827	954	851	807	860	908	964	945	977	985	1,012	10,929
	フットポンプ	174	218	200	197	182	213	201	165	207	205	158	192	2,312
	低圧持続吸引器	55	43	65	49	41	70	32	43	44	38	36	66	582
その他	救急車搬送同乗	1	0	0	1	0	1	0	0	0	2	1	0	6

4. 今後の目標

・各セクションのスタッフ教育の推進

・医療機器使用による安全管理方法の検討と改善

・装置導入による安定した医療環境の提供

・ME機器保守管理の充実と継続

・機器貸出返却業務の効率化に向けたシステムの開発

・ME運用データベースの更新とプログラムの構築・運用

・マンパワー不足の解消

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

33）栄養科

栄養科副室長　小山　洋史

1. 概要

2016 年は栄養食事関連の診療報酬の改定として、栄養指導の診療報酬の改定や栄養指導の算定となる対象疾患の拡張など近年にない栄養管理の重要さ､責任感が問われる改定であった。

新しい対象疾患として低栄養の患者様、がん患者様、摂食嚥下機能が低下した患者様が対象として加えられた。

栄養科は患者様の栄養管理を行う栄養管理部門と患者様、職員に食事を提供する給食部門に業務分担し業務を行っている。

入院患者様の栄養管理では、患者様の栄養・喫食状態に基づいて、適切な栄養管理を行うための栄養管理計画書を作成している。またできるだけ入院患者様に食事を食べて頂き、治癒効果を高めるためと満足度を上げる目的で1食1食の個別対応にも給食部門とともに歩んできた。

また低栄養状態や摂食障害の患者様に対しては、多職種のスタッフで構成した NST（栄養サポートチーム）や褥瘡チームなどと栄養状態の改善にも取り組んでいる。

上記チーム以外にも糖尿病専門外来や透析室などのチーム医療にも積極的に参画し、各疾患に担当をつけ専門分野でも的確に栄養管理が行えるように業務を行った。また給食部門でも委託給食ではあるが、調理技術向上のための研修会などに積極的に参加するなど栄養管理部門と給食部門の業務が相乗効果をもたらすよう業務を推進してきた。

2. メンバー構成

管理栄養士　　7 名（栄養サポートチーム専従内 1 名）

給食委託会社（病院食従事）

管理栄養士　　2 名

調理師　　10 名

調理補助　　16 名

給食委託会社（職員食・9 階レストラン従事）

栄養士　　1 名

調理師　　2 名

調理補助　　8 名

3. 実績

≪食数≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般食	14,141	13,442	13,283	13,700	14,860	15,511	15,235	14,324	14,376	16,526	15,196	16,182	176,776	14,731
特別食	16,158	14,577	15,525	13,360	13,559	12,388	12,322	11,816	10,578	11,762	12,014	12,745	156,804	13,067
職員食	5,771	5,614	5,794	6,004	5,766	5,944	5,985	6,359	6,025	5,913	5,613	6,042	70,830	5,903
保育所	784	795	855	622	525	532	534	767	587	581	594	694	7,870	656
病児後保育	58	130	105	68	63	97	118	98	80	81	77	69	1,044	87
付き添い食	23	25	19	3	11	4	6	18	0	0	1	0	110	9
その他	156	230	120	67	106	273	299	108	187	185	199	108	2,038	170
合計	37,091	34,813	35,701	33,824	34,890	34,749	34,499	33,490	31,833	35,048	33,694	35,840	415,472	34,623

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験センター 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診センター 118
情報システム 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

≪病院食内訳≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
常食	5,695	6,400	5,766	5,140	5,656	5,628	6,019	5,294	5,324	6,349	5,614	6,021	68,906	5,742
軟菜食	3,300	3,120	2,906	2,632	3,088	3,811	3,584	3,864	3,031	3,401	3,359	3,526	39,622	3,302
極軟菜食	3,536	2,550	2,979	3,019	3,225	2,904	2,556	2,536	2,398	2,920	2,495	2,556	33,674	2,806
ペースト食	300	143	296	177	537	659	418	408	541	430	410	651	4,970	414
流動食	364	331	248	359	298	282	349	333	387	333	248	399	3,931	328
学童食	250	178	219	48	120	91	90	130	97	136	143	135	1,637	136
幼児食	55	72	88	72	48	55	65	61	49	95	157	49	866	72
離乳食	24	9	31	0	22	26	1	0	9	0	0	11	133	11
糖尿食	3,740	4,160	4,001	3,260	3,211	3,451	3,700	4,197	3,275	2,741	2,812	3,742	42,290	3,524
心臓食	2,636	2,261	2,691	2,102	2,339	2,097	1,606	1,529	1,428	1,825	2,270	2,074	24,858	2,072
高血圧食	1,806	1,574	1,771	2,130	1,235	1,442	1,735	1,682	1,906	2,307	1,852	1,796	21,236	1,770
腎臓食	1,968	1,542	1,337	1,698	1,557	1,262	1,185	1,000	1,057	1,073	1,133	1,196	16,008	1,334
透析食	1,181	972	1,254	1,275	1,312	1,330	1,070	636	721	1,174	1,269	779	12,973	1,081
糖尿透析食	617	469	836	705	883	603	665	559	657	672	562	781	8,009	668
高脂血症食	82	74	48	6	0	42	33	4	94	27	47	93	550	46
低脂肪食	408	368	556	606	473	514	661	413	481	536	372	366	5,754	480
肝臓食	391	382	197	215	435	153	206	288	266	239	326	333	3,431	286
肝不全食	47	180	237	183	339	197	369	306	154	325	287	250	2,874	240
貧血食	0	2	0	2	0	2	0	56	54	5	30	13	164	14
低残渣食	369	490	592	600	507	665	527	544	499	703	469	443	6,408	534
クローン食	0	0	2	0	42	0	0	0	0	0	0	0	44	4
潰瘍食	222	157	247	335	380	261	392	522	295	456	499	433	4,199	350
胃切後食	201	112	174	185	163	52	246	184	115	34	109	70	1,645	137
カテ食	18	35	24	16	26	16	16	39	17	10	8	11	236	20
注腸検査食	2	0	0	0	2	0	0	4	4	0	3	0	15	1
顎間固定食	11	0	0	0	19	35	0	36	101	36	2	40	280	23
訓練食	199	148	183	179	197	180	170	141	221	194	206	212	2,230	186
濃厚流動食	2,062	1,686	1,447	1,710	2,068	1,985	1,477	1,196	1,255	1,807	1,986	2,201	20,880	1,740
その他(単品食等)	1,539	1,240	1,388	1,218	1,314	1,019	1,073	835	1,196	1,260	1,145	1,335	14,562	1,214
合計	31,023	28,655	29,518	27,872	29,496	28,762	28,213	26,797	25,632	29,088	27,813	29,516	342,385	28,532

≪栄養指導件数≫

栄養指導件数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院	368	318	337	300	321	382	323	310	374	314	293	299	3,939	328
外来	195	260	238	177	156	168	176	172	174	180	176	202	2,274	190
集団	3	3	3	3	0	2	0	1	0	0	0	1	16	2
合計栄養指導件数	566	581	578	480	477	552	499	483	548	494	469	502	6,229	519
管理栄養士一人当たの栄養指導件数	93	92	92	86	76	88	82	77	88	93	89	95	1,051	88

≪実習生受け入れ≫

大手前栄養製菓学院　2016年 1月25日～ 2月 8日 2名
羽衣国際大学　2016年 2月22日～ 3月 4日 2名
武庫川女子大学　2016年 6月 6日～ 6月24日 2名

4. 今後の目標

・チーム医療、臨床栄養管理業務の推進

近年、医療の高度専門化に伴い様々な分野での分業化が進み、管理栄養士も専門性が問われている。

関係職種と連携をとり、的確かつ迅速に治療食や経腸栄養剤の開始や中止、栄養素量の提言、患者様ごとの栄養状態を把握する役割は重要であるため、栄養管理のスペシャリストとして診療支援に貢献していく。

・食事サービスの推進

食事は病気を治癒すると共に栄養状態を改善し、健康な状態への回復を早めるため医療の一環として位置づけられており、食事の喫食率が低いとその効果が薄れ、患者様個々の病態あるいは栄養状態、嗜好に合わせた食事提供を行う必要がある。今後も調理部門と協力し食事サービスの充実に努める。

34）治験センター

CRC　加藤　美和

1. 概要

2015 年 4 月センター長交代、2016 年 9 月センター長の退職、と体制が整わない状況が続いている。昨年 4 名だったメンバー（薬剤師 1 名、看護師 1 名、他 2 名）は、3 名（看護師 1 名、他 2 名）に減少した。3 名の業務状況は、実働 CRC が 2 名、治験・臨床研究に関する事務担当の兼任 CRC が 1 名である。

昨年からの積極的な治験の受託へ向けての活動は、各科の先生方の協力のもと継続しており、昨年の新規治験受託数 3 件から、今年は 7 件に受託数を伸ばした。また、その内の 3 件は 3 名体制になってからの受託であり、昨年から継続している案件を合わせると 11 件、昨年の 2.2 倍の案件数となった。

また、治験の受入れ希望を示す治験手挙げ数は、昨年の 7 件から今年は 21 件と 3 倍になっている。その数は治験数が受入れ可能である、と外部機関に示していることでもあり、今後の業務体制の再構築は避けられない状況といえる。

上記のような状況に加え、新年度前半に開始される治験が 4 件重なることから、現状では対応が難しいため、新年度より 6 ヶ月間限定で、未来医療センターより CRC1 名週 3 回の派遣が決まった。

2. メンバー構成

専任 CRC 2 名（看護師、他）、CRC 兼任事務 1 名

専門職種領域における治験補助業務担当者 4 名

3. 実績

1）受託治験

《新規案件》　2016 年契約

実施診療科・責任医師	契約症例数	対象疾患・フェーズ	予定期間
循環器内科・迫田慎一郎	6 例	高コレステロール血症・第Ⅲ相	2016 年 2 月 1 日～2018 年 5 月 31 日
呼吸器内科・原田博雅	2 例	喘息・第Ⅲ相	2015 年 11 月 1 日～2018 年 11 月 30 日
呼吸器内科・原田博雅	2 例	喘息・第Ⅲ相	2015 年 11 月 1 日～2018 年 10 月 31 日
呼吸器内科・原田博雅	1 例	COPD・第Ⅲ相	2015 年 3 月 1 日～2017 年 10 月 31 日
外科・垣本佳人	3 例	がん疼痛・第Ⅱ相	2016 年 7 月 1 日～2017 年 3 月 31 日
血管透析内科・申勝	2 例	腎性貧血・第Ⅱ相	2016 年 12 月 1 日～2018 年 1 月 31 日
血管透析内科・申勝	8 例	腎性貧血・第Ⅲ相	2016 年 9 月 1 日～2018 年 11 月 30 日

《実施中》（新規契約・終了含まず）　2016年12月31日現在

実施診療科・責任医師	契約症例数	対象疾患・フェーズ	予定期間
循環器内科・迫田慎一郎	15/20例	CVリスクを有する2型糖尿病・第Ⅲ相→第Ⅳ相	2013年10月1日～2019年6月30日
呼吸器内科・原田博雅	8/8例	COPD・第Ⅲ相	2015年2月1日～2017年3月31日
形成外科・綾部忍	2/4例	下肢潰瘍を有する閉塞性動脈硬化症・第Ⅲ相	2015年5月1日～2018年12月31日
呼吸器内科・原田博雅	4/4例	COPD・第Ⅲ相	2015年12月1日～2017年5月31日

《終了》

実施診療科・責任医師	実施／契約症例数	対象疾患・フェーズ	予定期間
循環器内科・迫田慎一郎	6/6例	脂質異常症・第Ⅲ相	2016年2月25日

《手上げ案件》

・抗がん剤（大腸癌）・BE（洪鉉寿）	→依頼者状況が不明の為一旦ストップ。
・がん疼痛・第Ⅱ相（垣本佳人）	→受諾
・高カリウム血症・第Ⅱ相（原田博雅）	→受諾
・CDIワクチン・第Ⅲ相（原田博雅）	→施設調査
・進行性扁平上皮小細胞癌・第Ⅲ相（原田博雅）	→見送り
・腎性貧血・第Ⅱ相（申勝）	→受諾
・インフルエンザウイルス感染症・第Ⅱ相（原田博雅）	→選定落ち
・慢性腎不全・第Ⅲ相（小原太郎）	
・難治性皮膚潰瘍（綾部忍）	→施設調査
・便秘症・第Ⅲ相（浅野耕吉）	→選定落ち
・小児インフルエンザ・第Ⅱ相（石垣早知子）	
・高カリウム血症（長期）・第Ⅲ相（原田博雅）	
・保存期慢性腎臓病を有する未治療の被験者を対象とする試験・第Ⅲ相（申勝）	
・腎性貧血（透析期）・第Ⅲ相（申勝）	→受諾
・喘息・3剤配合・第Ⅲ相（原田博雅）	→選定落ち
・脂質異常症・・第Ⅳ相（原田博雅）	
・腎性貧血（透析期）・第Ⅲ相（申勝）	
・特発性肺線維症・第Ⅱ相（原田博雅）	
・慢性閉塞性肺疾患・第Ⅱ相（原田博雅）	→治験中止
・喘息・第Ⅱ相（原田博雅）	

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

《スタートアップミーティング》

2月19日　中等度COPD
3月　9日　高コレステロール
5月18日　COPD
6月16日　喘息2試験
11月　1日　がん疼痛
12月16日　腎性貧血
12月26日　腎性貧血CRC勉強会
12月23日　腎性貧血　スタートアップ

《治験依頼者施設調査訪問》

7件　（喘息A・B・C、追加COPD、がん疼痛、高カリウム血症、腎性貧血、
腎性貧血（透析期）、CDIワクチン）

2）臨床研究

《新規》

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	予定期間
リハビリテーション科 ・西川真世	15例	大腿骨近位部骨折にて 骨接合術実施者	2016年3月29日～ 2018年3月31日
薬剤部・大里恭章	100例	アセトアミノフェン 服用者	2016年7月8日～ 2018年12月31日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	遺伝子変化陽性肺癌	2016年7月29日～ 2017年3月31日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	肺扁平上皮癌	2016年7月29日～ 2018年1月31日
腫瘍放射線科 ・梶谷千香枝	全例	放射線治療者	2016年8月30日～ 無期限
腫瘍放射線科 ・西峯潔→日高輝之	全例	IVR手技実施者	2016年9月30日～ 無期限
内科・瓜生恭章	3例	非小細胞癌	2016年9月30日～ 2020年8月31日
内科・瓜生恭章	1例	局所進行胃癌	2016年9月30日～ 2020年6月30日

《実施中》（新規・終了含まず）

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	予定期間
内科・原田博雅	6 例	高齢者の 既治療非小細胞肺癌	2013 年 7 月 4 日～ 2017 年 12 月 31 日
内科・原田博雅	5 例	高齢者進行 非小細胞肺癌	2013 年 11 月 7 日～ 2018 年 5 月 31 日
外科・松岡信子	5 例	再発乳癌	2014 年 4 月 28 日～ 2018 年 6 月 30 日
泌尿器科・飯盛宏記	10 例	去勢抵抗性前立腺癌	2015 年 7 月 24 日～ 2018 年 9 月 30 日
内科・原田博雅	5 例	特発性間質性肺炎 合併肺癌	2015 年 11 月 25 日～ 2018 年 12 月 31 日

《終了》

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	予定期間
形成外科・綾部忍	50/50 例	重症下肢虚血	2016 年 9 月 21 日
検査科・岩崎由恵	1,365,918/ 1,365,918 例	一般検査で 尿を提出した患者	2016 年 10 月 19 日

3）製販後調査

《新規》

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	予定期間
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	非小細胞肺癌	2016 年 2 月 4 日～ 承認条約解除の日まで
神経内科・辰己新水	全例	多発性硬化症	2015 年 3 月 3 日～ 2025 年 3 月 31 日
呼吸器内科・原田博雅	全例	特発性肺線維症	2016 年 5 月 12 日～ 2018 年 12 月 31 日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	非小細胞肺癌	2016 年 8 月 18 日～ 承認条件が解除された時点 +1 年間
呼吸器内科・原田博雅	10 例	慢性閉塞性肺疾患	2016 年 9 月 8 日～ 2018 年 4 月 30 日
腫瘍内科・洪鉉寿	全例	非小細胞肺癌	2016 年 11 月 4 日～ 承認条件が解除まで
放射線科 ・西峯潔→兵藤公一	15 例	脳・脊髄造影、脳幹部・ 四肢造影を必要とする疾患	2016 年 11 月 4 日～ 2018 年 6 月 30 日
神経内科・辰己新水	全例	全身型重症筋無力症	2016 年 11 月 4 日～ 2019 年 3 月 31 日
放射線科・西峯潔	全例	オクトレオスキャン 静注用セット投与者	2016 年 12 月 8 日～ 2018 年 6 月 30 日

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

《実施中》（新規・終了含まず）

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	予定期間
脳神経外科・鶴野卓史	10 例	非弁膜症性心房細動	2013 年 5 月 10 日～ 2019 年 3 月 31 日
内科 ・松本明子→原田博雅	30 例	2 型糖尿病	2013 年 7 月 29 日～ 2018 年 9 月 30 日
内科・福田貢	20 例	2 型糖尿病	2013 年 7 月 29 日～ 2018 年 9 月 30 日
心臓血管外科・入江寛	5 例	胸部大動脈瘤	2014 年 5 月 16 日～ 2020 年 12 月 26 日
内科・原田博雅	2 例	非小細胞肺癌	2014 年 8 月 11 日～ 2017 年 10 月 31 日
内科・原田博雅	全例	非小細胞肺癌	2015 年 3 月 16 日～ 2017 年 3 月 16 日
脳神経外科・一ノ瀬努	10 例	非弁膜症性心房細動	2015 年 7 月 7 日～ 2019 年 9 月 30 日

《終了》

実施診療科・研究責任者	契約症例数	対象疾患	予定期間
心臓血管外科・入江寛	13/ 全例	胸部大動脈瘤	2016 年 10 月 19 日
薬剤部・大里恭章	1/ 全例	関節リウマチ	2016 年 3 月 10 日

4)《研修会・学会・参加》

・1/9～10　中等度COPD Investigator Meeting
・2/27　治験推進地域連絡会議
・2/28　喘息AB　Investigator Meeting
・3/5　GCP新指針研修・宇治Hp（未来医療研究センター主催）
・4/2　実施医療機関・依頼者連携　治験の効率向上プロジェクト　ISEI-PJ　会議
・5/28～29　全国臨床試験部会　責任者会議
・6/4　実施医療機関・依頼者連携　治験の効率向上プロジェクト　ISEI-PJ　会議
・6/14　阪大モニタリング研修会
・7/9～10　実施医療機関・依頼者連携　治験の効率向上プロジェクト　ISEI-PJ　会議
・8/4　人を対象とする医学系研究に関する指針
・8/6　実施医療機関・依頼者連携　治験の効率向上プロジェクト　ISEI-PJ　会議
・8/18　患者申出療養制度説明会
・8/27　臨床試験部会　実務者会議
・9/3　実施医療機関・依頼者連携　治験の効率向上プロジェクト　ISEI-PJ　会議
・9/10　GCP新指針研修・岸和田Hp（未来医療研究センター主催）
・10/1　実施医療機関・依頼者連携　治験の効率向上プロジェクト　ISEI-PJ　会議
・10/15　西日本ブロック　責任者会議

・10/29　　実施医療機関・依頼者連携　治験の効率向上プロジェクト　ISEI-PJ　会議
・12/2～3　第37回日本臨床薬理学会学術総会（ISEI-PJポスター発表）
・12/3～4　腎性貧血　Investigator Meeting
・12/9　　2型糖尿病 Investigator Meeting
・12/17　　第6回肺癌研究会

4.今後の目標

現状で出来ることとして、まず一人一人のメンバーの業務を整理していく事、業務の無駄を省く事で、現況より多くの業務量を効率良く出来るような体制を検討したい。そして、既に決まっている治験の契約数を満了する事、逸脱の少ない治験が出来る事を示すことで、今後の治験依頼数を伸ばすことにつなげたい。

また、臨床研究関連業務についても、治験センターが兼ねる方向性を、臨床試験部会から示されてはいるが、現時点では、施設全体の臨床研究の状況の把握もままならない状況である。今後、研究実施施設としての体制の確立の方向性等を相談できればと考えている。

薬剤科　82
放射線科　85
臨床検査　87
リハビリ　90
臨床工学　96
栄養科　99
治験セン　101
医療福祉　107
病診連携　109
健診セン　118
情報シス　119
ゲノム　121
保育室　123
がん相談　125
医療安全　127
臨床腫瘍　133

35）医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）

医療福祉相談室副主任　脇　由佳

1. 概要

医療ソーシャルワーカー（MSW）とは、患者様やその家族様が抱える経済的・心理的・社会的問題を聞き取り、解決するための支援を行う福祉の専門職になります。

病院の性質上、業務の約９割が退院支援。残りの１～２割弱が介護保険制度・障害者制度の説明など社会資源の情報提供を担っています。

また、院内だけでなく外部や各関係部署との連携を図り、複合的な支援が行えるよう努めています。

【具体的な業務】

○心理的、社会的問題の解決・調整援助

○退院援助、社会資源の制度案内

○経済的問題の解決・調整援助

当院の理念上、社会的背景から他病院で断られた患者様の『受け皿を担っている』為、様々な問題を抱えているケースも多く見受けられます。独居で身寄りがいない方の入院も増加傾向にあります。

2016年４月には診療報酬の改定が行なわれ、退院支援加算についても見直しが行なわれました。退院支援カンファレンスの実施や医師・看護師・リハビリスタッフなど他職種との連携をはかりながら在院日数の短縮に向けて日々奮闘しております。

国の施策として、病院から在宅移行へというシステム化がはかられていく中で今後の動向として困難ケースの事例も増えてくると感じています。

また、自己研鑽をはかる為にも部署内での勉強会開催・外部の勉強会へ積極的に参加しました。

2. メンバー構成

現在、常勤スタッフ６名在籍

４月１日付　１名入職

４月末付　　１名退職

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

3. 実績

1）退院調整実績

《退院総数》

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1. 他施設へ		135	149	146	145	129	158	135	146	119	139	156	156	1,557
内、グループ内施設へ		8	16	13	17	14	20	14	12	11	15	12	12	152
内訳	① 医療機関	82	86	83	77	74	96	80	79	62	74	93	93	979
	内、グループ内施設へ	2	5	1	1	5	7	5	3	5	4	3	6	47
	② 老健施設	14	18	17	19	10	13	11	13	12	15	16	15	173
	内、グループ内施設へ	4	6	9	12	7	11	5	5	6	9	8	5	87
	③ 老人ホーム等	38	44	46	48	42	48	44	54	44	49	46	47	550
	内、グループ内施設へ	2	5	3	4	2	2	4	4	0	2	1	1	30
	④ その他	1	1	0	1	3	1	0	0	1	1	1	1	11
	内、グループ内施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 在宅診療へ		32	39	53	60	45	48	41	35	35	37	31	42	456
内訳	グループ内事業所	2	5	17	8	2	3	4	2	2	1	4	4	54
	（再掲）内、新規登録	1	2	3	3	0	0	0	2	0	0	0	1	12
	グループ外事業所	30	34	36	52	43	45	37	33	33	36	27	38	444
3. 死亡		65	55	60	51	48	46	42	52	50	44	61	59	633
4. その他（軽快退院を含む）		549	576	614	588	562	599	631	624	597	649	580	674	7,243
合計		781	819	873	844	784	851	849	857	801	869	828	931	9,156

2）その他研修実績

・実習受け入れ

社会福祉士実習　関西福祉科学大学（2名）

期間：2016年8月4日～9月2日　　1名

2016年8月22日～9月27日　1名

・出張授業

大阪府立かわち野高等学校　福祉・保育選択　2年生

「社会福祉士の仕事について」

・研修参加

7/30 ～ 7/31	相談支援センター相談員基礎研修3（東京）	1名参加
11/23 ～ 11/27	医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ（東京）	1名参加
11/28	八尾市　病院・施設との勉強会（事例検討）（大阪）	1名参加
6月頃・11月頃	障害者年金に関する勉強会	5名参加

4. 今後の目標

地域包括ケアシステムの構築化が進む中で患者様が安心して退院出来るよう、院内・外と連携をはかりながら退院支援を行なっていきたいと思います。

36） 病診連携室

病診連携室係長　山中　隆史

1. 概要

患者様が安心して安全に医療を受けられるよう中河内地区の急性期医療の中核施設として、その役割を果たすべく、地域の医療機関と紹介・逆紹介の連携を密接におこなっております。

また当院へ積極的に紹介いただけるよう常に迅速かつ正確に対応させていただくことを心掛けております。

地域の皆様にも幅広く医療をご理解していただき、積極的に医療への関心を深めていただくべく、定期的に公開医療講座を開講し、予防医療の啓蒙活動にも努めております。

2. メンバー構成

病診連携室長：長谷川潔　顧問　（整形外科）

事務：山中隆史・中道睦代・立川知之・石井陽子・大西直哉

3. 実績

・中河内医療連携の会　（2016年より、病診連携の会を、「中河内医療連携の会」に改称）

中河内地区を中心に、地域の連携医、連携施設との勉強会・情報交換会を定期的に開催

2016 年 2 月 13 日（土）　中河内医療連携の会

シェラトン都ホテル大阪上本町　武田薬品工業㈱共催

一般講演　座長　小原クリニック　院長　小原　進　先生

「当院における急性期脳卒中診療と血圧管理」

脳神経外科　部長　一ノ瀬　努

「経験から得た介護施設の役割とは」

介護老人保健施設　八尾徳洲苑　総看護師長　武田　郁子

支援相談員　北出　眞和

特別講演　座長　松尾クリニック　理事長　松尾　汎　先生

「エビデンスから読み解く脳血管障害患者の血圧管理

～脳卒中治療ガイドライン 2015 を踏まえて～　」

国立循環器病研究センター　脳血管部門　部門長　豊田　一則　先生

2016 年 9 月 10 日（土）　中河内医療連携の会

シェラトン都ホテル大阪上本町　大日本住友製薬㈱共催

一般講演　　座長　内科部長　瓜生　恭章
「放射線治療の変遷」
放射線科　梶谷　千香枝
「新しい時代の癌薬物治療に対する当院の取り組み」
腫瘍内科部長　洪　鉉寿
薬剤部副部長　臨床腫瘍センター副センター長　松浦　暢子

特別講演　　座長　内分泌内科　顧問　山本　智英
「健康寿命の延伸を目指した高血圧診療」
大阪大学大学院医学系研究科　保健学専攻
統合保健看護科学分野　総合ヘルスプロモーション科学講座
教授　神出　計　先生

《主な公開医療講座》

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
医師	小児科　医長　神原雪子	起立性調節障害（OD） 親の集い・こどもの集い	1月4日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	神戸大学大学院　医学博士 小児科部長　石垣早知子	赤ちゃんからお年寄りまで ～おなかを丈夫に、善玉菌を増やそう～	1月22日	山本コミュニティセンター
	神戸大学大学院　医学博士 小児科部長　石垣早知子	免疫と環境の多様性 善玉菌を増やして丈夫な体とアレルギーにも強くなろう	4月15日	八尾プリズムホール
	神戸大学大学院　医学博士 小児科部長　石垣早知子	第7回子どもの発達講座 講師：小児科部長　神原　雪子 講師：八尾しょうとく園　主任保育士　東濱　真琴	4月30日	八尾徳洲会総合病院　3階第1会議室
	内科　堀元隆二	知ってるようで知らない ピロリ菌の話	5月12日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	介護老人保健施設　吹田徳洲苑 施設長　心臓血管外科　酒井敬	「認知症にならないために」	6月17日	八尾プリズムホール
	呼吸器内科部長　石原英樹	COPD（慢性閉塞性肺疾患）って知ってますか？ - 今世紀最大の？たばこ病かも -	6月30日	山本コミュニティセンター
	呼吸器内科部長　石原英樹	COPD(慢性閉塞性肺疾患)って知ってますか？ - 今世紀最大の？たばこ病かも -	7月8日	八尾プリズムホール
	内科　堀元隆二	知ってるようで知らない ピロリ菌の話	7月13日	山本コミュニティセンター
	神戸大学大学院　医学博士 小児科部長　石垣早知子	夏の健康 ～熱中症や日焼けなど　子どもとおとな～	7月15日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	内科　堀元隆二	知ってるようで知らない ピロリ菌の話	8月17日	八尾プリズムホール
	呼吸器内科部長　石原英樹	COPD（慢性閉塞性肺疾患）って知ってますか？ - 今世紀最大の？たばこ病かも -	8月19日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	外科　松岡信子	「乳がんの話」	9月28日	八尾プリズムホール
	呼吸器外科　市橋良夫	肺がんなんてこわくない	10月13日	八尾プリズムホール
	神戸大学大学院　医学博士 小児科部長　石垣早知子	はしかなど、うつる病気いろいろ	10月21日	山本コミュニティセンター
	歯科口腔外科　原田計真	歯科疾患	11月15日	山本コミュニティセンター
	整形外科　顧問　長谷川潔	あなたの膝は大丈夫？ ～変形性膝関節症～ これでいいか長谷川先生に聞く	12月15日	八尾プリズムホール

薬剤科　82
放射線科　85
臨床検査　87
リハビリ　90
臨床工学　96
栄養科　99
治験セン　101
医療福祉　107
病診連携　109
健診セン　118
情報シス　119
ゲノム　121
保育室　123
がん相談　125
医療安全　127
臨床腫瘍　133

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
看護師	保健師　山本貴裕	カゼに先手を打つ ～発症予防から早期回復～	2月12日	八尾プリズムホール
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本静香	がんの痛みとつらさの解決方法	3月18日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	摂食・嚥下障害看護認定看護師 平畑典子	最近むせることが多くないですか？ ～口から食べることを続けるために～	4月15日	八尾プリズムホール
	摂食・嚥下障害看護認定看護師 平畑典子	最近むせることが多くないですか？ ～口から食べることを続けるために～	8月23日	山本コミュニティセンター
	看護部保健師　佐藤さかえ	見直しませんか？生活習慣	9月28日	八尾プリズムホール
	救急看護認定看護師　勇真麻	子どもの急病、けがへの対処方法 ～119番の前に出来ること～	11月30日	八尾プリズムホール
臨床心理士	臨床心理士　八島麻美子	シニア世代のうつ病	1月15日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	臨床心理士　八島麻美子	シニア世代のうつ病	3月10日	八尾プリズムホール
	臨床心理士　八島麻美子	シニア世代のうつ病	4月8日	東大阪商工会議所
	臨床心理士　八島麻美子	シニア世代のうつ病	9月14日	山本コミュニティセンター
	臨床心理士　八島麻美子	ストレスとのつきあい方	12月15日	八尾プリズムホール
理学療法士	理学療法室　室長　理学療法士 野村日呂美	心臓リハビリテーション	1月14日	八尾プリズムホール
	理学療法室　室長　理学療法士 野村日呂美	脳卒中に対するリハビリテーション	5月13日	八尾プリズムホール
	理学療法室　室長　理学療法士 野村日呂美	脳卒中に対するリハビリテーション	6月10日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	ひじ施術整骨院　院長　理学療法士 飛地八省	腰痛に対する運動療法	7月8日	八尾プリズムホール
	ひじ施術整骨院　院長　理学療法士 飛地八省	腰痛に対する運動療法	8月23日	山本コミュニティセンター
	理学療法室　室長　理学療法士 野村日呂美	脳卒中に対するリハビリテーション	9月14日	山本コミュニティセンター
	理学療法室　室長　理学療法士 野村日呂美	脳卒中に対するリハビリテーション	10月12日	竹渕コミュニティセンター
	理学療法士　上田哲也	知らなきゃ損、転ばないための 健康貯「筋」	10月13日	八尾プリズムホール
	ひじ施術整骨院　院長　理学療法士 飛地八省	腰痛に対する運動療法	10月26日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	理学療法室　室長　理学療法士 野村日呂美	心臓リハビリテーション	11月15日	山本コミュニティセンター
	理学療法士　リハビリテーション専門型 デイサービスひなぎく　小泉希久也	「転倒予防と腰痛予防でいつまでも 元気な体を保ちましょう」	12月14日	山本コミュニティセンター
管理栄養士	栄養科　管理栄養士　藤田春菜	糖尿病の食事療法	2月12日	八尾プリズムホール
	栄養科　管理栄養士　斎藤朝美	糖尿病と食事	4月27日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	栄養科副室長　管理栄養士 小山洋史	食事で夏ばて予防	7月13日	山本コミュニティセンター
	栄養科　栄養管理士　池田亜沙美	～食事バランスガイドを活用しよう～	8月17日	八尾プリズムホール
	栄養科　管理栄養士　平井あやか	糖尿病と食事	9月16日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	栄養科　副主任　佐藤友亮	減塩食で健康な身体づくり	10月26日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	栄養科副室長　管理栄養士 小山洋史	生活習慣病予防と食事	11月11日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	栄養科　栄養管理士　池田亜沙美	糖尿病と食事	12月9日	柏原市民文化会館 リビエールホール

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
臨床検査技師	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	夜間頻尿	1月15日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	「耳鳴り」 ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか？～	2月19日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	「耳鳴り」 ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか？～	3月11日	山本コミュニティセンター
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	「耳鳴り」 ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか？～	4月8日	東大阪商工会議所
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	夜間頻尿	5月13日	八尾プリズムホール
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	睡眠時無呼吸症候群	6月17日	八尾プリズムホール
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	「水・・飲みすぎてませんか？」 心不全予防～日常生活のポイント～	7月15日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	息切れ ～最近、気になっていませんか～	8月19日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	睡眠時無呼吸症候群	9月16日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	11月11日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	「耳鳴り」 ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか？～	12月9日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	睡眠健康指導士　戸野川始	睡眠障害	6月10日	柏原市民文化会館 リビエールホール
放射線技師	放射線科技師長　健診センター室長 田中政典	健康診断でわかること ～がんにならない為に～	1月14日	八尾プリズムホール
	放射線科技師長　健診センター室長 田中政典	健康診断でわかること ～がんにならない為に～	4月27日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	放射線科技師長　健診センター室長 田中政典	健康診断でわかること ～がんにならない為に～	5月12日	柏原市民文化会館 リビエールホール
	放射線科技師長　健診センター室長 田中政典	健康診断でわかること ～がんにならない為に～	10月21日	山本コミュニティセンター
	放射線科技師長　健診センター室長 田中政典	健康診断 ～がんを調べる検査について～	11月10日	竹渕コミュニティセンター
	放射線科技師長　健診センター室長 田中政典	健康診断 ～がんを調べる検査について～	12月14日	山本コミュニティセンター
医事課	係長　桧垣伊佐子 主任　中島早枝子	「知っているようで意外と知らない 医療費のお話」	11月30日	八尾プリズムホール

《健康祭にて医療講座》

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
医師	整形外科部長　當麻俊彦	もしあなたが被災したとき	5月22日	八尾徳洲会総合病院　3階会議室
理学療法士	理学療法士　上田哲也	知らなきゃ損、 転ばないための健康貯「筋」	5月22日	八尾徳洲会総合病院　3階会議

《各種団体からの依頼による医療講座》

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
医師	小児科　医長　神原雪子	起立性調節障害（OD）の理解と対応	1月21日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	循環器科　部長　迫田慎一郎	高血圧	1月30日	イースタンビル　3階 共催：池田クリニック
	整形外科　副院長　長谷川潔	人とのつながりが寿命を延ばす	2月18日	高井田台自治会館 主催：高井田台自治会（OB会）
	内科　堀元隆二	知ってるようで知らない ピロリ菌の話	2月18日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
医師	神戸大学大学院　医学博士 小児科部長　石垣早知子	アレルギーと環境の多様性 ～善玉菌と共存するために～	3月26日	イースタンビル　3階 共催：池田クリニック
	小児科部長　神原雪子	起立性調節障害（OD）の理解と対応	4月22日	二上チャペル（香芝市穴虫99－1） 主催：グレース宣教会
	内科　堀元隆二	知ってるようで知らない ピロリ菌の話	4月28日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	神戸大学大学院　医学博士 小児科部長　石垣早知子	免疫と環境の多様性 善玉菌を増やして丈夫な体とアレルギーにも強くなろう	5月28日	龍華コミュニティセンター 共催：龍華コミセン運営協議会
	内科　堀元隆二	知ってるようで知らない ピロリ菌の話	6月15日	美園地区久宝園集会所
	腫瘍内科部長　洪鉉寿	新しい時代の抗がん薬物治療	6月16日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	神戸大学大学院　医学博士 小児科部長　石垣早知子	夏の健康 ～熱中症や日焼けなど　子どもとおとな～	6月24日	二上チャペル（香芝市穴虫99－1） 主催：グレース宣教会
	外科部長　村上修	最近の外科手術 ～胃と大腸がんについて～	6月25日	龍華コミュニティセンター　3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	呼吸器内科部長　石原英樹	COPD(慢性閉塞性肺疾患)って知ってますか? -今世紀最大の？たばこ病かも-	9月15日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	ゆきこどもクリニック 院長：神原雪子	ワクチンでふせげる病気について ～こどもから大人まで(インフルエンザなど)～	10月14日	ゆきこどもクリニック
	脳神経外科部長　一ノ瀬努	脳卒中の予防と治療	10月19日	高井田台自治会館 主催：高井田台自治会（OB会）
	呼吸器内科部長　石原英樹	COPD(慢性閉塞性肺疾患)って知ってますか? -今世紀最大の？たばこ病かも-	11月25日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
看護師	保健師　山本貴裕	カゼに先手を打つ ～発症予防から早期回復～	1月20日	美園地区久宝園集会所
	救急看護認定看護師　鴨木沙織	脳梗塞のはなし ～前兆を見のがさないために～	1月28日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	摂食・嚥下障害看護認定看護師 平畑典子	最近むせることが多くないですか？ ～口から食べることを続けるために～	1月29日	二上チャペル（香芝市穴虫99－1） 主催：グレース宣教会
	看護部保健師　佐藤さかえ	見直しませんか？生活習慣	3月24日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	看護部保健師　佐藤さかえ	見直しませんか？生活習慣	4月14日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	看護部保健師　佐藤さかえ	見直しませんか？生活習慣	5月18日	美園地区久宝園集会所
	救急看護認定看護師　鴨木沙織	今からはじめる、熱中症対策	5月28日	イースタンビル　3階 共催：池田クリニック
	保健師　山本貴裕	脱水の予防法	7月20日	美園地区久宝園集会所
	がん性疼痛看護認定看護師　師長 松本静香	医療用麻薬を上手に使う方法	7月21日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	救急看護認定看護師　鹿山美穂	熱中症～予防と対策～	7月28日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	がん性疼痛看護認定看護師　師長 松本静香	自宅でがんの痛みを和らげる	10月20日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	看護部保健師　佐藤さかえ	見直しませんか？生活習慣	10月21日	二上チャペル（香芝市穴虫99－1） 主催：グレース宣教会
	看護部保健師　佐藤さかえ	見直しませんか？生活習慣	11月16日	高井田台自治会館 主催：高井田台自治会（OB会）
	感染管理認定看護師　師長 渋谷豊克	インフルエンザウイルスと ノロウイルスについて	11月17日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	救急看護認定看護師　鴨木沙織	脳梗塞にいち早く気づくために ～初期症状と治療について～	12月21日	美園地区久宝園集会所
	看護部保健師　佐藤さかえ	認知症を予防しよう！	12月22日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
臨床心理士	臨床心理士　八島麻美子	「シニア世代のうつ病」	5月26日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	臨床心理士　八島麻美子	「シニア世代のうつ病」	6月29日	久宝寺コミュニティセンター 共催；保健部会・高齢者部会 久宝寺地区福祉委員会
	臨床心理士　八島麻美子	「シニア世代のうつ病」	10月19日	美園地区久宝園集会所
	臨床心理士　八島麻美子	ストレスとのつきあい方	11月26日	龍華コミュニティセンター　3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
理学療法士	理学療法室　室長　理学療法士 野村日呂美	脳卒中に対するリハビリテーション	2月25日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	ひじ施術院　院長　理学療法士 飛地八省	腰痛に対する運動療法	3月9日	久宝寺コミュニティセンター 共催：保健部会・高齢者部会 久宝寺地区福祉委員会
	理学療法室　室長　理学療法士 野村日呂美	脳血管障害のリハビリ	3月17日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	理学療法室　室長　理学療法士 野村日呂美	脳卒中に対するリハビリテーション	4月20日	美園地区久宝園集会所
	ひじ施術整骨院　院長　理学療法士 飛地八省	腰痛に対する運動療法	4月30日	龍華コミュニティセンター　3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	ひじ施術整骨院　院長　理学療法士 飛地八省	腰痛に対する運動療法	5月19日	グレース大聖堂（東山本新町1－15） 主催：グレース宣教会
	ひじ施術整骨院　院長　理学療法士 飛地八省	腰痛に対する運動療法	6月15日	高井田台自治会館 主催：高井田台自治会（OB会）
	理学療法士 リハビリテーション専門型デイサービスひなぎく 小泉希久也	「転倒予防と腰痛予防でいつまでも 元気な体を保ちましょう」	6月23日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
	理学療法士　上田哲也	知らなきゃ損､転ばないための健康貯「筋」	9月24日	龍華コミュニティセンター　3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	ひじ施術整骨院　院長　理学療法士 飛地八省	腰痛に対する運動療法	11月16日	美園地区久宝園集会所
薬剤師	クローバー薬局　薬局長 勝山千男	糖尿病について	7月30日	イースタンビル　3階 共催：池田クリニック
	クローバー薬局　薬局長 勝山千男	生活習慣病～特に高血圧について～	9月24日	イースタンビル　3階 共催：池田クリニック
	ゆきこどもクリニック　副院長 神原永長	知って得する身の回りの中毒事故	10月27日	協賛：南山本ふれあい広場 （山本町南7－5－26高木様宅）
管理栄養士	栄養科　管理栄養士　平井あやか	生活習慣病と食事 －実践できる栄養学－	3月25日	二上チャペル（香芝市穴虫99－1） 主催：グレース宣教会
臨床検査技師	検査科　臨床検査技師　技師長 寺西康	糖尿病とは ～敵を知って己を知る～	2月17日	美園地区久宝園集会所
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	息切れ ～最近、気になっていませんか～	2月26日	二上チャペル（香芝市穴虫99－1） 主催：グレース宣教会
	睡眠健康指導士　検査技師　副主任 戸野川始	睡眠障害 ～眠りのメカニズム～	4月20日	高井田台自治会館 主催：高井田台自治会（OB会）
	睡眠健康指導士　検査技師　副主任 戸野川始	睡眠時無呼吸症候群	5月20日	二上チャペル（香芝市穴虫99－1） 主催：グレース宣教会
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	夜間頻尿	7月22日	二上チャペル（香芝市穴虫99－1） 主催：グレース宣教会
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	睡眠障害 ～眠りのメカニズム～	9月30日	二上チャペル（香芝市穴虫99－1） 主催：グレース宣教会
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	「水・・飲みすぎてませんか？」 心不全予防～日常生活のポイント～	10月7日	久宝寺コミュニティセンター 共催：保健部会・高齢者部会 久宝寺地区福祉委員会
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	「耳鳴り」 ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか？～	10月29日	龍華コミュニティセンター　3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	検査科副主任　臨床検査技師 戸野川始	「耳鳴り」 ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか？～	11月26日	イースタンビル　3階 共催：池田クリニック
放射線技師	放射線科技師長　健診センター室長 田中政典	健康診断でわかること ～がんにならない為に～	3月16日	美園地区久宝園集会所
	放射線科技師長　健診センター室長 田中政典	健康診断でわかること ～がんにならない為に～	7月30日	龍華コミュニティセンター　3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	放射線科技師長　健診センター室長 田中政典	健康診断でわかること ～がんにならない為に～	9月21日	高井田台自治会館 主催：高井田台自治会（OB会）
医事課	係長　桧垣伊佐子 主任　中島早枝子	「知っているようで意外と知らない医療費のお話」	9月21日	美園地区久宝園集会所

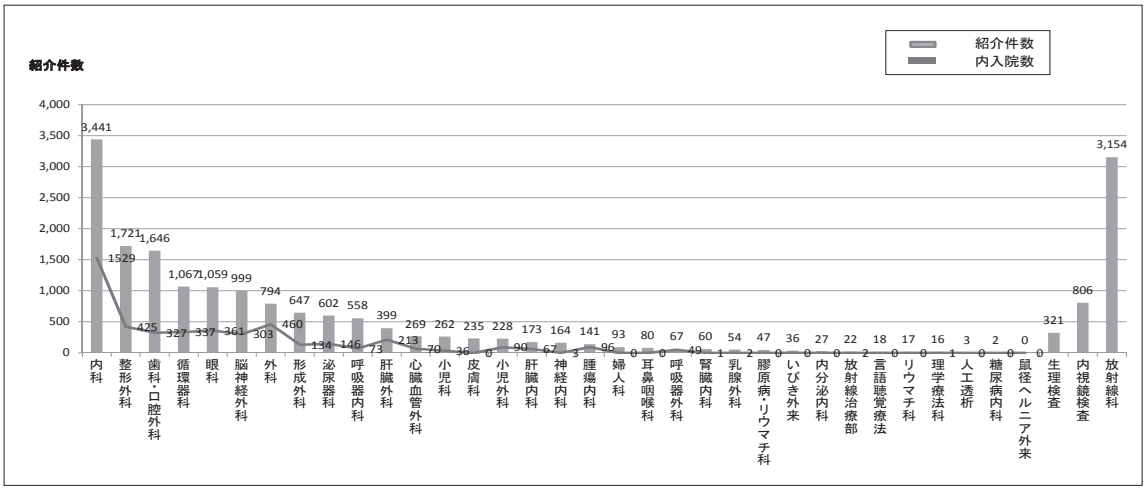
薬剤科　82
放射線科　85
臨床検査　87
リハビリ　90
臨床工学　96
栄養科　99
治験セン　101
医療福祉　107
病診連携　109
健診セン　118
情報シス　119
ゲノム　121
保育室　123
がん相談　125
医療安全　127
臨床腫瘍　133

《各診療科紹介件数》（内入院数）

紹介件数(上段) 内入院数(下段)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	258	299	307	362	297	289	289	262	228	291	272	287	3,441
	114	119	134	144	154	116	133	128	108	130	121	128	1,529
整形外科	139	144	172	148	150	173	142	142	107	136	137	131	1,721
	44	31	40	35	39	42	32	34	27	36	33	32	425
歯科･口腔外科	134	138	166	146	127	144	135	133	109	127	143	144	1,646
	24	26	27	22	18	26	31	31	27	33	25	37	327
循環器科	78	79	116	82	75	91	81	80	84	102	108	91	1,067
	35	22	36	16	17	29	26	24	34	37	34	27	337
眼科	79	84	97	79	82	111	102	78	93	102	78	74	1,059
	31	20	26	17	27	53	44	37	17	30	35	24	361
脳神経外科	66	80	88	65	71	79	73	91	84	97	97	108	999
	23	23	28	18	17	24	24	31	25	29	23	38	303
外科	60	66	77	74	69	60	59	64	57	68	80	60	794
	32	36	40	40	44	38	30	41	29	41	53	36	460
形成外科	51	46	69	41	62	68	50	52	41	53	57	49	639
	14	14	12	9	15	15	10	12	7	8	9	9	134
創傷治療センター					3	1		1	1		2		8
													0
泌尿器科	53	52	50	46	49	55	50	53	44	37	61	52	602
	14	11	11	5	10	16	10	23	12	4	9	21	146
呼吸器内科	22	32	40	65	47	51	48	52	46	47	55	53	558
	1			7	5	8	5	9	7	9	10	12	73
肝臓外科	36	32	35	25	28	28	41	36	26	46	36	30	399
	20	14	15	13	18	17	24	19	16	19	20	18	213
心臓血管外科	15	24	33	18	21	21	24	24	23	23	23	20	269
	4	6	10	5	5	5	4	5	4	8	7	7	70
小児科	37	27	19	23	14	14	21	19	21	29	15	23	262
	5	3	1	3		1	6	2	5	3	5	2	36
皮膚科	18	17	21	13	23	29	27	19	18	19	19	12	235
													0
小児外科	13	15	19	14	14	24	25	25	22	22	16	19	228
	8	6	9	5	5	8	8	13	10	6	7	5	90
肝臓内科	10	17	19	19	11	16	14	16	15	18	11	7	173
	2	6	6	7	8	8	3	8	6	7	5	1	67
神経内科	11	17	15	15	14	13	12	16	13	19	8	11	164
		1						1	1				3
腫瘍内科	16	10	11	14	13	16	8	8	13	11	7	14	141
	12	6	8	10	12	9	7	7	6	8	6	5	96
婦人科	9	6	12	9	4	10	10	8	6	6	10	3	93
													0
耳鼻咽喉科	5	3	10	5	6	14	7	5	5	10	4	6	80
													0
呼吸器外科	2		2	5	7	4	5	3	8	14	10	7	67
	2			4	6	3	4	3	5	10	7	5	49
腎臓内科	4	3	5	4	4	5	10	5	4	4	5	7	60
				1									1
乳腺外科	5	3	3	5	5	8	3	6	3	3	4	6	54
								2					2
膠原病・リウマチ科	3	5	6	7	3	1	2	4	4	2	5	5	47
													0
いびき外来	3	1	4	6	4	4	1	3	3	2	2	3	36
													0
内分泌内科	1	3	2	2		2	5	1	2	4	3	2	27
													0
放射線治療部	1	2	3						3	3	3	7	22
												2	2
言語聴覚療法							3	7			8		18
													0
リウマチ科	3	1	2	2	1	4		1	1		2		17
													0
理学診療科									1		1	14	16
									1				1
人工透析				1							1	1	3
													0
糖尿病内科		1					1						2
													0
心療内科													0
													0
鼠径ヘルニア外来													0
													0
生理検査	15	22	18	28	31	33	34	19	43	25	33	20	321
内視鏡検査	58	78	75	79	57	73	64	61	65	72	71	53	806
放射線科	214	240	271	299	252	330	274	245	272	271	249	237	3,154
その他													0
紹介件数合計	1,419	1,547	1,767	1,701	1,544	1,771	1,620	1,539	1,465	1,663	1,636	1,556	19,228
内入院数合計	385	344	403	361	400	418	401	430	347	418	409	409	4,725

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験センター 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診センター 118
情報システム 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

《各診療科紹介件数内訳（全体件数・内入院数）》



科 / 項目	内科	整形外科	歯科･口腔外科	循環器科	眼科	脳神経外科	外科	形成外科	泌尿器科	呼吸器内科	肝臓外科	心臓血管外科	小児科	皮膚科	小児外科	肝臓内科	神経内科	腫瘍内科
紹介件数	3,441	1,721	1,646	1,067	1,059	999	794	647	602	558	399	269	262	235	228	173	164	141
内入院数	1,529	425	327	337	361	303	460	134	146	73	213	70	36	0	90	67	3	96

科 / 項目	婦人科	耳鼻咽喉科	呼吸器外科	腎臓内科	乳腺外科	膠原病･リウマチ科	いびき外来	内分泌内科	放射線治療部	言語聴覚療法	リウマチ科	理学療法科	人工透析	糖尿病内科	鼠径ヘルニア外来	生理検査	内視鏡検査	放射線科	合計
紹介件数	93	80	67	60	54	47	36	27	22	18	17	16	3	2	0	321	806	3,154	19,228
内入院数	0	0	49	1	2	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4,725

《検査紹介件数》

	放射線科	内視鏡	生理検査	合計
1月	214	58	15	287
2月	240	78	22	340
3月	271	75	18	364
4月	299	79	28	406
5月	252	57	31	340
6月	330	73	33	436
7月	274	64	34	372
8月	245	61	19	325
9月	272	65	43	380
10月	271	72	25	368
11月	249	71	33	353
12月	237	53	20	310
合計	3,154	806	321	4,281

主な検査項目

・放射線科

MRI	CT	DSA
RI	インプラントCT	CT（冠動脈）
単純撮影	マンモグラフィー	骨密度

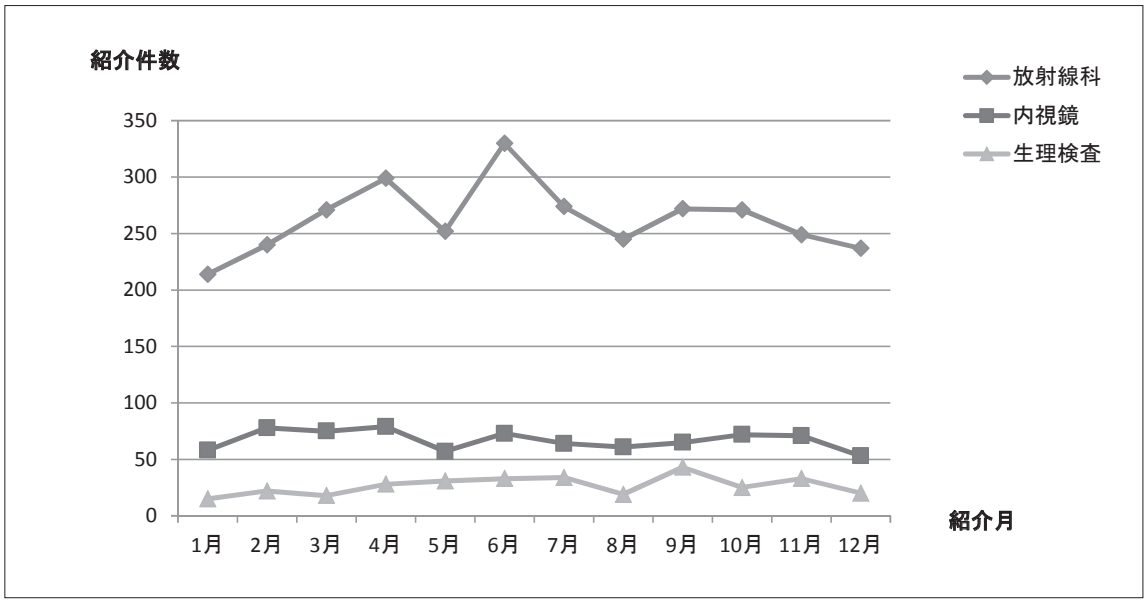
・内視鏡

GIF	CF

・生理検査

腹部エコー	心エコー	末梢血管エコー
甲状腺エコー	頚動脈エコー	乳腺エコー
トレッドミル	心電図	ホルター心電図
呼吸機能	脳波	肺機能

《検査紹介月別件数》



4. 今後の目標

中河内地区の急性期医療を担うべく、地域の連携医の先生方をはじめ広域の医療機関まで広範囲にわたり、検査・外来・救急・入院に至るまで、あらゆる医療ニーズに迅速かつ円滑に対応し、患者様が安全かつ安心に継続性のある適切な医療を受けられるよう信頼される医療機関として努力してまいります。

また連携医の先生方の開放病床の積極的な共同利用の促進や定期的に中河内医療連携の会を開催し、勉強会や情報交換会を通じて連携の強化を図ってまいります。

さらに地域の皆様へ様々な情報の発信を行い、公開医療講座を通じて、幅広く医療・介護をご理解いただき、予防医療の啓蒙活動もすすめてまいります。

37）健診センター

健診センター室長　田中　政典

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

1. 概要

4 月より常勤医師の入職により、判定基準の見直し、新規検査の追加を行い、より多くの受診者様のニーズに対応できる体制を構築することができました。健診センター業務は、センター所属職員のみならず、各診療科医師、看護部、副診療部、事務部門の支援により成り立っており、総合病院に併設されている健診センターのメリットを生かして、最新の医療機器で検査を行うことができ、迅速に結果返却ができます。今年も地域のニーズすべてに応えることができないほどの予約を頂きました。

2. メンバー構成

常勤医師 1 名、常勤放射線技師 1 名、常勤看護師 3 名、常勤事務員 4 名、
非常勤医師 4 名、非常勤看護師 3 名、非常勤事務員 1 名

3. 実績

2016 年、人間ドック受診人数は 5,840 件、企業健診は 10,462 件、総数では 17,543 件でした。

2015 年と比較して、総数は 11％、収入は 5％増加となり、年間収入が初めて 2 億円を超えました。今後も、検査実施体制の拡充が必要と考えらます。

《月例統計》

2016 年	ドック	企業	バス健診	産業医	合計
1 月	367	624	0	5	996
2 月	417	1,271	0	5	1,688
3 月	428	678	0	5	1,111
4 月	303	504	0	4	811
5 月	491	441	871	4	1,807
6 月	581	910	0	4	1,495
7 月	551	1,031	70	4	1,656
8 月	571	1,379	107	5	2,062
9 月	533	859	66	6	1,464
10 月	550	686	0	6	1,236
11 月	539	1,292	127	6	1,958
12 月	509	787	0	6	1,296
合計	5,840	10,462	1,241	60	17,543
平均	487	872	103	5	1,462

4. 今後の目標

できるだけ受診者様に移動してもらうことなく、健診センター内で検査ができるように医療機器の整備ならびスタッフの教育を行い、地域のニーズに対応できる予約枠の拡充、検査体制の構築、迅速な検査結果の返却に努めて参ります。

次年には人員補充し、さらなる業務効率改善を行い、関連部署の方々のご協力を頂きながら、地域での予防医療の一翼を担って参ります。

38）情報システム管理室

情報システム管理室　岸本　賢一

1. 概要

情報システム管理室ではパソコン関係のヘルプデスク業務、院内イントラの運用保守、故障端末の修理、電子カルテ操作レクチャー、病院ホームページ、各種学会などで使用する統計資料作成などを日々行っており、新規病院立ち上げ時や新版電子カルテへの移行時にはシステム導入応援を行っている。

毎月開催されているシステム委員会では各部署のアプリの不具合や修正要望をとりまとめ、院内のシステムをよりよいものへと随時更新を行っている。

その際、各部署に先行端末を設置し、システム委員による確認の元、動作の確認や検証を数ヶ月かけて行い本環境へのスムーズなバージョンアップを行った。

他にホームページの更新、リニューアルを行った。

2. メンバー構成

システム管理者 : 岸本賢一、松本裕也、和合潤也

システム委員 : 18 名（医局、看護部、臨床工学科、栄養科、放射線科、薬剤部、理学療法室、検査室、総務部、医事課、医局秘書）

3. 実績

1）診療報酬改定

昨年度末～今年度初旬にかけて診療報酬改定対応を行った。

2）看護管理日誌

今年度末にグループ全体の看護管理日誌の改定作業を行った。

3）電子カルテ操作教育

新任 Dr・職員に対して、電子カルテの操作教育及び、外来診察補助対応を行った。

4）ホームページリニューアル

昨年度よりシステム室へ新入職員が増員され、病院ホームページ部分の保守、更新、修正等のメンテナンスを始め、モバイル版ホームページの導入、SEO 対策強化による集客アップを目標に、広報委員会と共にホームページ改修作業を行った。

5）高精細モニターの精度管理

放射線科の画像管理担当者と共に院内全ての高精細モニターの輝度チェック、調整を行い、診療の質の向上に貢献した。

6）SE 室による独自コスト削減

・TV装置機器、エコー検査装置の導入調整・電子カルテ間とのMWM接続

⇒ MWM 接続をシステム管理室にて行う事により、接続調整費用の大幅な削減に成功

7）院内イントラ関連メンテナンス

・業務用インターネット端末の入れ替え（windows XP⇒windows 7）

・電子カルテクライアント機器（デスクトップPC、ノートPC、配線関連のリプレース）

・ナースコールシステム非常用電源切り替え対応、クライアントメンテナンス

・電子カルテサーバー　バックアップテープローダー装置メンテナンス

・会議室プロジェクターシステム　配線・機器関連メンテナンス

・資産運用管理システム構築（Ipodタッチによる資産管理業務のIT化）

・関連施設（久宝寺愛の郷）NW・ハードウェア間トラブル応援対応

・保険証スキャンシステム構築（2次元バーコードによる保険証自動取込機能）

・院内全複合機リプレース調整

・機器情報適正管理業務

8）情報システム管理部会

全国の電子カルテシステム導入施設にて使用されている運用管理規定の更新、個人情報保護方針の包括同意の見直しを八尾病院が中心となって行っている。

9）システム稼働応援

3 月 30 日～ 4 月 3 日中部徳洲会病院にて電子カルテ・情報系システムの導入、稼働応援を行った。

4. 今後の目標

「いつでも どこでも だれでもが最善の医療を受けられる社会をめざして」というスローガンを実現するべく、徳洲会は情報システム管理部会・徳洲会インフォメーションシステム株式会社などを含め、徳洲会一丸となってシステム統一に取り組んでいます。これに対し私達は、徳洲会グループ内における電子カルテ稼働第 1 号病院として、リーダーシップを発揮し、グループ内での様々なシステムの開発・検証にも積極的に関わっていきたい。

また、当情報システム管理室では、当院の医療の質の向上並びに診療の効率を高める為に、システムの立場からの革新的なサポートを継続的に行っていきたい。

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

39）ゲノム事務局

仲泊　正一

1. 概要

2003 年度より第 1 期 5 年計画で始まりました「オーダーメイド医療実現化プロジェクト」は、2016 年度で第 3 期 4 年目（PJ 通算 14 年目）を迎え、本年度も引き続きプロジェクトの趣旨や意義等にご賛同いただいた方の DNA サンプル、臨床情報収集を行ってきました。DNA サンプル、臨床情報収集方法としては、一度だけ 7ml の採血を実施し生活習慣等のアンケート等を行うとともに、年に 1 回程度の頻度でカルテ情報をご提供いただきます。

患者様よりご提供された DNA、臨床情報についてはバイオバンクジャパン搬出時には匿名化処理を施し、個人識別情報等を削除して搬出を行っております。匿名化処理に使用するシステムには不正なアクセスがあった場合にはシステム内に記録されているデータが自動的に消去されるなど様々な情報を厳重管理する仕組みを取り入れ、情報管理には万全を尽くしております。

また、当事務局メンバーが1名休職したが、他職員2名により引き続き業務を行っております。

2. メンバー構成

常勤事務員 1 名、常勤検査技師 1 名

3. 実績

登録対象 38 疾患にて 7 月より登録を開始し、12 月末までにご了解を頂いた 323 名の患者様へプロジェクトの趣旨や意義、研究内容、参加方法等について IC 説明をさせて頂き、うち 319 名の方より同意をいただきました。DNA サンプル数は 310 名分となります。

《八尾 HP の IC 説明数等推移》（2016 年 1 月～ 12 月）

2016 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
IC 説明数	52	32	70	66	54	32	17	0	0	0	0	0	323
同意数	51	32	70	66	53	31	16	0	0	0	0	0	319
同意取得数	98%	100%	100%	100%	98%	97%	94%						99%

《研究成果について》

最近発表された新しい研究成果として、バイオバンク通信 16 号に挙げられていたものを抜粋させて頂きます。

・C型肝炎ウイルスキャリアから肝臓の線維化やがんの発生に関係する遺伝子を明らかにしました
・乳がんと関係する遺伝子について、日本で最大の遺伝子解析研究を実施しました
・関節リウマチに関係する遺伝子の研究によって、遺伝子から新しい治療薬を見つける方法が見出されました
・乳がんにおける化学療法後の脱毛と関係のある遺伝子を明らかにしました

・日本人を含む東アジア人における、大腸がんと関係がある新しい遺伝子領域を明らかにしました

このほかにも多数の成果が出てきております。御興味のある方は、院内にあります「バイオバンク通信」やプロジェクトのホームページ等を御参照頂ければと存じます。

（http://www.biobankjp.org/public/tsushin16/biobank_tsushin16.html#P1_01）

（http://www.biobankjp.org/work/index.html）

4. 今後の目標

第３期も引き続き多くの患者様にご協力いただき、感謝しております。このプロジェクトを通してご協力頂いた患者様とともにオーダーメイド医療の実現、日本医療の発展に貢献していきたいと思います。これまでの研究成果をさらに発展させ、１日も早くオーダーメイド医療が実現できるよう、患者様と研究機関の懸け橋となる所存で、引き続き業務に努めてまいります。今後ともご支援ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

40）保育室

保育室係長　中村　朱美

1. 概要

2016 年は、常勤保育士 2 名の産休と年末にモコモコ保育士担当 1 名の結婚退職が重なり保育士不足ではあったが、お泊まり保育組が減少した点、年少児による二重保育組の割合が増えた点が幸いし、結果として日勤帯保育士を確保することができた。

また、インフルエンザ等の感染症が流行する時期、日々の消毒の徹底、感染対策委員会からの指導及び保護者職員の協力により感染症を拡大させずに抑えられたのは喜ばしい出来事であった。

モコモコ保育室では、関連部署小児科外来の医師及び長年担当して頂いていた看護師等の退職が重なると云う状況は、部屋割りなど複雑な入室システムにあるだけに痛手ではあったが、石垣医師はじめ小児科スタッフとの話合いの強化により少しずつ改善され、関連部署との連携の重要性について改めて思い知らされた一年であった。今後も良い改善策が取れるよう努めていきたいと考えている。

2. メンバー構成

エンジェル保育室	《キリン組》	河野	曽我	木下
	《リス組》	荻	上原	大岩
	《アヒル組》	中西	青野	辻
	《ヒヨコ組》	長谷川	中村	小川（8/31 ～産休）
	《フリー》	小林	畑（2/1 ～産休）	
モコモコ保育室		横山	永田	櫻井（12/31 退職）

3. 実績

《エンジェル保育室年齢別登室園児数》

		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
登室数	0 歳児	171	206	214	38	52	65	89	124	115	143	191	234	1,642
	1・2 歳児	430	471	514	376	379	356	348	338	351	322	315	345	4,545
	3 歳児	111	97	124	150	158	178	161	160	173	168	144	166	1,790
	4 歳児	97	125	150	103	103	106	76	93	77	76	67	77	1,150
	5 歳児	38	30	32	160	143	147	120	122	117	122	122	120	1,273
	学童保育	69	43	56	70	47	50	38	47	30	44	33	27	554
	合計	916	972	1,090	897	882	902	832	884	863	875	872	969	10,954
	一時預かり保育	1	3	0	1	3	1	4	1	1	0	1	1	17
	半日預かり保育	0	1	0	0	0	2	0	1	3	3	0	0	10

《病児・病後児保育室運営状況》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
開室日数	19	20	22	20	19	22	20	22	20	20	20	19	243
利用者数	59	130	105	72	65	98	118	101	81	81	75	70	1,055
1日平均利用者	3.1	6.5	4.8	3.6	3.4	4.5	5.9	4.6	4.1	4.1	3.8	3.7	4.3
保育士数	52	60	64	59	53	65	61	66	53	57	59	52	701
1日平均保育士数	2.7	3	2.9	3	2.8	3	3.1	3	2.7	2.9	3	2.7	2.9
キャンセル待ち	45	156	85	71	61	87	84	82	56	59	94	90	970
意見書利用数	3	7	8	7	6	8	7	7	5	6	7	5	76

《研　修》

5月28日　全国病児保育協議会関西合同研修会　（大阪府男女共同参画青少年センター）
6月 9日　発達障害の理解と適切な支援について（八尾市障害学習センター）
9月10日　全国病児保育大阪支部定例会　（中野こども病院　研修ホール）
11月5日　全国病児保育大阪支部総会　（AP大阪淀屋橋）4階北Bホール）

《行　事》

2月 3日　節分（豆まき）
3月 3日　ひなまつり
19日　卒園式
20日　院内全体停電訓練
5月 2日　子どもの日
10・17日　集団健診　（年2回実施・11月予防接種3歳以上歯科検診も実施）
12日　春の遠足　（中田第2公園）
6月 6日　じゃが芋掘り（園庭横畑にて10月にはさつま芋掘りを実施）
6月10日　時の記念日
7月 3日　お楽しみ会・全体懇談会
7日　七夕
9月 5〜10日　個人懇談会　（保育室にて）
10月13日　秋の遠足　（錦織公園）
12月18日　クリスマス会（保育室にて）
☆毎月　身体測定・避難訓練・誕生会・月2回幼児教育（英語ECC）を実施

4. 今後の目標

・保育の質（指導力・技実力）の向上　・関連部署との連携の強化。
・全職員対象による園児の受入態勢の充実をはかる。

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

41）がん相談支援センター

医療ソーシャルワーカー　脇　由佳

1. 概要

大阪府がん診療拠点病院として、国拠点病院と連携しがん診療に関し診療密度の高い医療を提供し、患者様・ご家族様及び地域からの相談等に対応する相談支援機能を有することを目的とします。

がん相談の役割としましては、主に外来通院中・入院中の患者と家族、また地域住民からの相談に対して支援することです。また、セカンドオピニオンに関する対応も担っています。

【がん相談支援センターの業務】

・がんの病態、標準的治療法等がん診療及びがんの予防・早期発見等に関する一般的な情報の提供
・診療機能、入院・外来の待ち時間及び診療従事者の専門とする分野・経歴など、地域の医療機関及び診療従事者に関する情報の収集、提供
・スクリーニングの実施
・セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介
・がん患者の療養上の相談
・就労に関する相談
・地域の医療機関及び診療従事者等におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
・アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する医療相談
・HTLV－1関連疾患であるATLに関する医療相談
・医療関係者と患者会が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に関する支援
・相談支援センターの広報・周知活動
・相談支援に携わる者に対する教育と支援サービス向上に向けた取組み
・その他相談支援に関すること

2. メンバー構成

委員長	医　師：村上修
事務局長兼書記	看護師：松本静香
委員	医　師：村上修
	総務課：井上雅章
	医事課：村田雅一
	薬剤師：小西千尋・里岡達哉
	ＭＳＷ：脇由佳

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

3. 実績

《がん相談支援件数》

相談内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	月平均
がんの治療				1	6	7	5	1	1	2	1	3	27	5.4
がんの検査					4		2			1	1		8	3.2
症状･副作用･後遺症		1	2	3	9	12	8	7	5	2	3	2	54	9.0
セカンドオピニオン(一般)					1	2			1		1		5	2.0
セカンドオピニオン(受入)													0	0.0
セカンドオピニオン(紹介)						1			1				2	1.3
治療実績													0	0.0
受診方法･入院		1					1			2			4	2.0
転院							1	2	2			1	6	2.4
医療機関の紹介	1	3	2					3		3	1		13	3.7
がん予防･検診													0	0.0
在宅医療	4	7	1		2	7	1	6	5	1	2	5	41	6.8
ホスピス･緩和ケア	2	5	3	2	4	4	4	3	5	1	1	5	39	6.0
症状･副作用･後遺症への対応	13	9	5	2	5	8	7	6	1	3	3	4	66	10.2
食事･服薬･入浴･運動･外出	10	8	3			4	2	2	1	0			30	6.7
介護･看護･療育	6	2	2	2	2	3	4	2	3	3	5	2	36	5.5
社会生活	1	1	2		1	4	5	1	2	0	0	2	19	3.2
医療費･生活費･社会保障	2	1	1		5	1	3	1	1	2	1	3	21	3.5
補完代替療法													0	0.0
不安･精神的苦痛	1			3	3	3	3	1	1	0	1	1	17	3.1
告知							1						1	1.0
医療者とのコミュニケーション													0	0.0
患者-家族間の関係･コミュニケーション				1	1	2	1	0	0	1	2	2	10	2.0
友人･知人･職場の人間関係･コミュニケーション													0	0.0
患者会･家族会				1	1								2	1.3
リンパマッサージ													0	0.0
その他				1	5	1	0	1	1	1	1	2	13	2.6
総数	40	38	21	16	49	59	48	36	30	22	23	32	414	63.7

4. 今後の目標

今後、地域との関わりや患者会との連携・就労支援など必要な支援が多く課題として残っているため、がん相談支援センターの体制強化に努める。

42）医療安全管理部

医療安全管理者　糸永　美千代

1. 概要

医療法改正に基づいて 2015 年 10 月から医療事故調査制度が始まり、同時に医療事故の概念が変わりました。この制度の対象となる医療事故は「病院、診療所、助産所に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる死亡又は死産であって、その管理者が当該死亡又は死産を予期しなかったもの」であり、法令に規定されています。この医療事故に該当するかどうかについては、医療機関の管理者が組織として判断し、該当すると判断した場合は、ご遺族への説明後、センターに医療事故発生の報告をするようになっています。また、医療事故調査・支援センターへの報告対象でないと判断された場合でも、院内調査委員会を開催し原因の究明、再発防止を目的とした対策の立案が必要とされています。

2. メンバー構成

医療安全管理部長　専従医師	1 名
GSM　専従看護師	1 名
患者支援・相談窓口担当看護師	1 名
医事課出向患者支援・相談窓口担当事務職員	1 名
総務課出向事務職員	1 名
総務課所属　相談役（主業務：警察事案対応）	1 名

3. 実績

1）医療安全管理活動

①インシデント・アクシデント報告システム

エラー発生率を事例別に見ると（表 .1）例年ドレーン・チューブ抜去が多く、薬剤、自己転倒の順となっております。次に事例件数を月別に比較してみると（表 2）7 ～ 10%であり大きな差はありませんでした。最後に事故レベル別に見てみると（表 3）、治療や処置を必要としなかった Lv2 以下が 89.9%を占めていました。Lv4b 以上の本部報告対象事例は数件ありましたが、インシデントレポートとしては報告されておらず、別の方法で把握している次第です。今後は、これらの情報を基にグループ内病院との比較･検証を行い、当院のインシデント・アクシデントの傾向を把握・分析することで組織としての対応を進めていかなければならないと思っています。1 事象を個々に振り返るだけではなく、相対的にとらえて原因を追及・分析し、対策の立案を行い組織としての PDCA サイクルを回すことができるようにしていきたいと思っております。

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

《報告集計》

表 1〔事例内容〕事例実件数：2283　対象期間：2016.1.1 ～ 12.31

ドレーン・チューブ	薬　剤	自己転倒	検　査	療養上の世話	ベッド転落	治療・処置	輸　血	医療機器等	不　明	合　計
594	501	356	180	146	99	76	27	15	289	2,283
26.0%	22.0%	15.6%	7.9%	6.4%	4.3%	3.3%	1.2%	0.7%	12.7%	

表 2〔月別件数〕事例実件数：2,283　対象期間：2016.1.1 ～ 12.31

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
168	189	170	177	231	221	189	175	172	180	190	221	2,283
7.4%	8.3%	7.4%	7.8%	10.1%	9.7%	8.3%	7.7%	7.5%	7.9%	8.3%	9.7%	

表 3〔事故レベル〕事例実件数：2,283　対象期間：1.1 ～ 12.31

Lv0	Lv1	Lv2	Lv3a	Lv3b	Lv4a	Lv4b	Lv5	合計
346	1133	572	208	23	0	1	0	2,283
15.2%	49.6%	25.1%	9.1%	1.0%	0.0%	0.1%	0.0%	

②医療安全管理委員会

毎月　第三月曜日に開催（1 月～ 12 月、延 12 回）

各部署責任者同席のもと医療事故に対する原因分析を行い、防止策を講じることを目的として、開催しております

③セーフティーマネージャー会議

医療安全管理委員会に先行して、毎月 1 回開催（1 月～ 12 月、延 12 回）

チェックリストを作成し、それに基づいて延べ 34 箇所の院内ラウンドを木曜日に行いました。ラウンドの結果報告は毎月の会議で行い、情報共有に努めてきました。また、院内外のインシデント事例や変化する医療安全体制・制度について随時学習を行っています。

④パルスカンファレンス

毎週 1 回、木曜日に開催（1 月～ 12 月　延 41 回実施）

パルスカンファレンスではボランティアさんにも地域住民の代表として参加していただき、医事課職員・総務課職員なども交えて意見交換をはかってきました。患者目線の気づきから改善された内容は、1 階ドリンクコーナーの「くすり用の水」がわかりにくいため自販機内の水の位置を変更し、わかりやすくしたこと。1 階フロアーに書類記載台を設置し、活用しやすくしたこと。1 階の院内放送技術の向上に取り組み、静聴し易くなりました。さらにエスカレータの昇降表示がわかりにくく逆走する人があったため、わかりやすい表示を取り付けたこと。西口の自転車・バイクの無造作駐輪に対して柵を取り付け整然と駐輪できるようにしたことなどがあげられます。

⑤医療安全全体講習

・6月10日（金）17：30～18：30

テーマ：患者さんの安全をどう守りますかー過去4年間のレポートからの学びー

参加人数192名（参加率21.3%） アンケート回答者数156名（回収率81.3%）

過去4年間のインシデント・アクシデントレポートの集計結果から、レベル4以上の事例を振り返りました。その後、学びをどのように生かすかについて講義を行いました。

・11月11日（木）17：30～18：50

テーマ：ヒューマンエラーとヒューマンファクター ～知る・制御する・共存する～

参加人数138名（参加率17.57%） アンケート回答者数111名（回収率80.4%）

講師に東海学院大学 人間関係学部 心理学科 安達悠子先生をお迎えして、ヒューマンエラーを防ぐためのコミュニケーションや環境調整の重要性、インシデントレポートシステムの意義等について講義していただきました。アンケートの結果、概論のみでなく当院での具体的な事例を踏まえて話してもらいたいという意見もあり、今後の研修課題として取り組んでいきたいと思っています。

⑥医療安全部会参加

グループ病院70余医療機関の横の専門部会です。年間に3回行われ、情報交換がなされました。

全国全体会議（医療安全管理部会）	3回/年、延3人参加
医療安全管理部会	3回/年、延6名参加

⑦医療安全関連活動への参画

日本医療機能評価機構認定病院	会員
医療事故紛争対応研究会	会員
日本医療リスクマネジメント学会	会員
大阪府看護協会 医療安全対策委員会	委員
大阪府看護協会府東支部 医療安全管理者交流会	4回/年出席

⑧研修会・講習会参加

患者安全推進フォーラム	1名
医療事故調査制度検討準備委員会	1名 7回出席
大阪府看護協会 第4回 大阪府看護学会	1名

2）患者相談窓口活動と相談支援活動

①患者相談窓口活動

患者相談窓口は医療に関する患者・家族などの苦情や心配に迅速に対応し，医療の情報提供、指導などを通して、患者様との信頼関係を築いていく窓口として設置されています。

体制は担当看護師の他に、医事課職員が担当しています。

その業務内容は主に案内･相談･介助･ その他に分類でき、詳細は下記に示すとおりです。

《八尾パルス（相談等）業務実績》（件数 22,784　対象期間 1/4 ～ 12/30）

業務内容		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
案　内	入院患者	150	156	168	176	162	128	133	126	134	155	98	114	1,700
	初回	28	39	58	41	31	21	26	35	29	22	25	38	393
	再診	147	141	208	137	119	158	155	193	202	217	208	146	2,031
	紹介受付	77	93	99	73	95	102	84	81	91	72	98	86	1,051
	バス乗場	52	72	51	64	40	47	51	49	59	43	40	58	626
	健診センター	23	31	28	12	24	30	17	19	12	15	13	19	243
	駐車券	86	80	64	53	63	44	72	70	50	67	62	62	773
	会計（返戻等）	10	25	15	10	10	11	8	8	3	5	5	5	115
	文書受付	32	28	28	30	22	31	22	19	18	41	24	28	323
	職員面会	40	58	42	33	34	46	42	31	25	41	30	23	445
	その他の院内施設	145	107	154	130	130	106	93	95	112	89	76	78	1,315
	予約診（再来機）	165	155	371	152	169	299	231	221	513	460	454	503	3,693
介　助	車椅子	8	19	12	14	12	8	14	6	4	10	22	21	150
	視・聾・聴													
	その他													
相　談	医療相談	86	156	109	119	108	110	96	80	76	101	66	70	1,177
	苦情相談	2	12	17	6	7	7	8	8	5	4	6	4	86
その他		53	46	50	33	14	15	33	20	18	22	21	17	342

案内業務は全体の 86％を占め、最も多かったのは予約診（再来機）の取り扱いであり、画面上の手順や説明文（「青い部分」「お薬手帳」）がわかりにくい、車椅子に座ったままでは画面が見にくく操作不可能、また、高齢者にとっては操作自体になじめない方が多く認められた。次いで再診窓口、入院患者、バス乗場、駐車券の取り扱いなどでした。

相談業務は全体の 8.7％であり、その内容は受診科に関すること、自身の疾患や検査方法について、検査データの説明、治療費に関すること、転院先の相談など、相談内容は多岐にわたっており、その都度、関係部署と連絡を取りながら対応しました。

介助業務は全体の 2.2％ですが、タクシーから車椅子への移乗介助や筆談援助、電話をかけるなどの介助を行っています。

②皆様の声

「皆様の声」として、患者様・家族から寄せられた意見に対し、病院としての回答を院内掲示板に掲示しています。また、職員にもコメディッスに掲載し、ご意見の声の共有化に努めてきました。皆様の声の年間枚数は 188 枚（198 件）で、昨年に比べ１．８倍に増加しています。増加の要因としては、ご意見箱の設置場所を病棟の廊下から記載台のあるディールームに変更したこと、ご意見箱自体も目立ちやすくしたこと、ご意見についての

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

対応等を返すことで関心が高まりつつあることなどが考えられます。

内容では医師や病棟スタッフ､食事への感謝の言葉が３倍増していることは､我々にとっても励みとなっています。一方、看護師や受付クラーク等のマナーの悪さ，言動・態度への不満は昨年同様第１位を占め、今後もプロとしての自覚と責任を持って接することが出来るよう、接遇教育を充実させていく必要があると考えています。

院内設備では大きく３つの要望があり患者目線での気付きを教示していただきました。

《皆様の声》

投書内容	件数	割合
感謝の言葉	４４	22.2%
職員の態度への不満	４５	22.3%
院内設備	３９	20.0%
入院環境への要望	２２	11.1%
院内案内に関すること	１５	7.5%
送迎バスに関すること	7	3.5%
栄養科に関すること	7	3.5%
薬剤科に関すること	4	2.0%
その他コメディカル	6	3.0%
意味不明・掲示不可	9	4.6%

①ローソン前のテーブル・椅子を増やしてほしいとの要望には、通路であり増設することは難しいため､1階自販機コーナーにある椅子･テーブルの活用をお願いしました。②南口駐車券発券機付近の悪臭をどうにかしてほしいには清掃回数・点検方法を検討していますが、根本解決にはつながらないため、メンテナンス方法の検討中ですと回答いたしました。③トイレや洗面所の水勢が強すぎるとのご意見には清掃のたびに確認をするようにしました。

院内案内については電話案内等で統一した返答が出来るよう周知徹底をはかりましたが、外来案内掲示の見直しや駐車場に関する案内を明確にすることなど、今後の課題もまだ残されています。

③医療・医事紛争

・院内安全パトロールの実施

病院が職員を守る、患者さんの権利を守ることにも繋がる、院内安全パトロールの実施を 2016 年４月から総務課配置の職員と合同の２名体制で毎日実施しております。

目的は組織として緊急時に素早く現場に赴き初期対応が行われるようにすることです。その中、2016 年 10 月に７階病棟の火災報知器の吹鳴が発生する事案がありましたが素早い職員・防災センター警備員との連携等の対応で機器の誤作動を発見することができ、看護部等職員の初動活動も確認されました。

・医療紛争

前年度からの継続中の４件と 2016 年４月に１件の訴訟が発生しましたが、その中で２件は和解で終了しました。今後は組織内部でのコミュニケーションスキルの向上を図り、丁寧な説明にも努めていきます。

④セーフティーマネージャー木曜会（1 回/週）

セーフティーマネージャーで院内ラウンドを始め 1 年半経過しました。限られた時間で効果的な巡回を行うためにチェックリストを作成し、まずはチェックリストに沿って巡回し、確認することから始めました。指摘を受けた部署は、対策を考え改善に取り組み、その結果をまとめたものを毎月の委員会で発表し、情報の共有を行いました。

またセーフティーマネージャー自身も回数を重ねるごとに視点が変わり、前回の指摘事項が改善されているか、問題はどこにあるかなど、問題意識を持ってラウンドができるようになりました。

結果は、早急に解決すべきことはその場で現場責任者に助言し、改善を依頼しました。施設や設備の改善を要する場合は委員会からラウンド結果として報告し、病院で検討していただいた結果、外来ケモ室の床の貼り替えが行われました。また、セーフティーマネージャー会議で報告することで、問題点や対策の共有ができ、他部署の良いところを取り入れようとする行動変容がみられる様になりました。

4. 今後の目標

2017 年は、医療安全と質の向上をめざし、SM が医療安全管理者としての認識を持てるよう、毎週 1 回の医療安全対策カンファレンスを開催し、SM の取り組みを評価し指導していきます。

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

43）臨床腫瘍センター

薬剤部　　松浦　暢子

1. 概要

臨床腫瘍センターは 2016 年 4 月にがん化学療法に伴う諸問題を発展的に改善させることを目的として、通院治療センターより名称を変更しリニューアルしました。当センターでは、がん化学療法に直接携わる各科臨床医、がん専門薬剤師、看護師らが協力し、それぞれの立場から患者をサポートし、安全かつ質の高いがん化学療法を提供できるよう努めています。

近年、分子標的製剤や免疫療法といった新しい治療戦略の登場により、がん化学療法はさらに高度な専門性が要求されるようになってきました。当センターには、日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医、がん専門薬剤師等のスタッフが在籍し、その専門性を活かしてチーム医療を展開しています。

2016 年 4 月からは、常駐しているがん専門薬剤師による診察前面談を導入し、副作用モニタリングや処方提案を行い、患者様の QOL 改善や医療安全の向上を目指しています。

また、治療レジメンについては、申請されたレジメンを委員会で厳格に審査を行い採用しています。レジメン施行時には、電子カルテ上や薬剤師による十分なチェック機能が働くシステムをとっています。

臨床腫瘍センターでは、外来だけでなく入院も含め、院内全体のがん化学療法を安全・適切に行えるよう、各診療科･多職種のメンバー全員で積極的に取り組んでいきたいと思っています。

2. メンバー構成

センター長：洪鉉寿（腫瘍内科：日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医）
副センター長:一ノ瀬努（脳神経外科）､松浦暢子（薬剤部:日本医療薬学会認定がん専門薬剤師）
腫瘍内科：瓜生恭章（日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医）
外科：垣本佳士
泌尿器科：金丸知寛
薬剤部：南野智志、小西千尋（日本医療薬学会認定がん専門薬剤師）
看護部：髙橋章恵

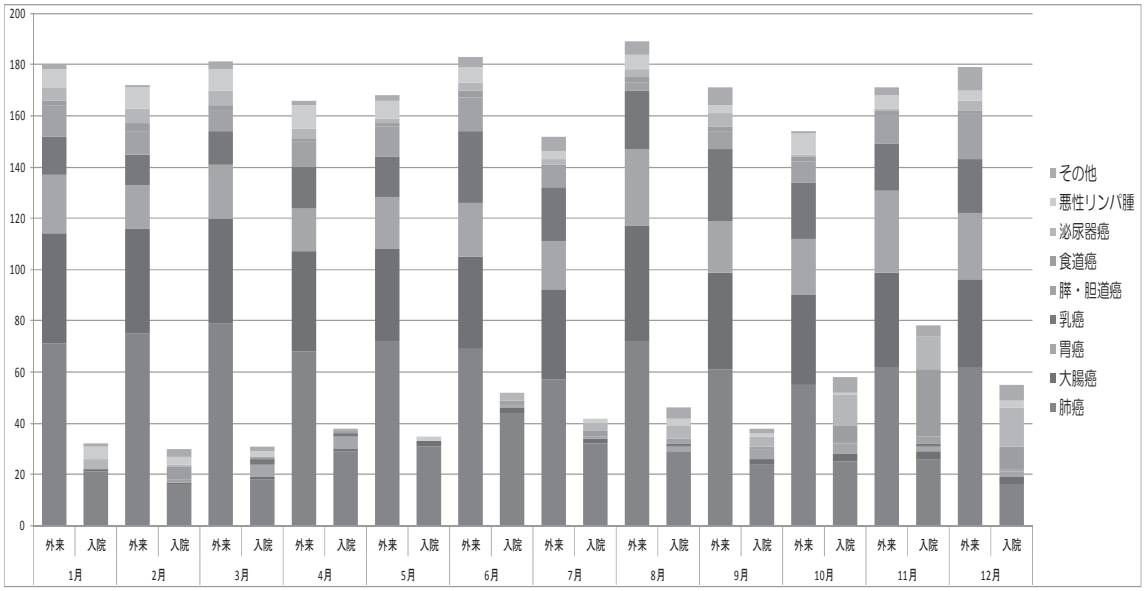
3. 実績

2016 年度の化学療法件数は外来・入院合わせて 2,600 件を超え、2015 度（2,331 件）より 270 件増加しました。

癌種別では肺癌の化学療法件数がもっとも多く､胃･大腸癌の消化器癌､乳癌と続いています。

《がん化学療法・生物学的製剤 施行件数》

		1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		合計	
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
がん化学療法施行件数（癌種別）	肺癌	71	21	75	16	79	18	68	29	72	31	69	44	57	32	72	29	61	24	55	25	62	26	62	16	803	311
	大腸癌	43	1	41	1	41	1	39	1	36	2	36	2	35	2	45	0	38	2	35	3	37	3	34	3	460	21
	胃癌	23	0	17	0	21	5	17	5	20	0	21	1	19	0	30	2	20	4	22	4	32	2	26	2	268	25
	乳癌	15	0	12	0	13	2	16	1	16	0	28	0	21	0	23	1	28	0	22	0	18	1	21	0	233	5
	膵・胆道癌	12	0	9	1	8	1	10	1	12	0	13	2	8	1	3	2	7	1	8	1	11	3	18	1	119	14
	食道癌	2	0	3	5	2	0	1	0	1	0	3	0	1	2	2	0	2	0	2	6	2	26	1	9	22	48
	泌尿器癌	5	4	6	1	6	0	4	0	2	0	3	3	2	3	3	5	5	4	1	12	1	13	4	15	42	60
	悪性リンパ腫	7	5	8	3	8	2	9	0	7	2	6	0	3	2	6	3	3	1	8	1	5	0	4	3	74	22
	その他	2	1	1	3	3	2	2	1	2	0	4	0	6	0	5	4	7	2	1	6	3	4	9	6	45	29
	合 計	180	32	172	30	181	31	166	38	168	35	183	52	152	42	189	46	171	38	154	58	171	78	179	55	2,066	535
	前年合計	140	15	128	22	157	19	151	32	130	35	165	31	185	55	163	33	186	32	198	28	174	35	181	36	1,958	373
（診療科別）	内科							28	11	28	17	41	18	27	9	29	9	24	8	12	16	15	36	19	10	223	134
	腫瘍内科							59	24	67	17	54	31	44	26	58	29	57	23	66	31	75	28	74	25	554	234
	外科							57	2	49	0	61	0	57	3	73	1	58	2	58	2	56	4	45	8	514	22
	乳腺外科							13	0	16	0	23	0	16	0	20	0	21	0	11	0	15	0	21	0	156	0
	肝臓外科							3	1	4	1	0	0	1	1	1	2	2	1	5	0	9	0	14	1	39	7
	泌尿器科							4	0	2	0	2	3	2	3	3	5	5	4	1	7	1	8	4	8	24	38
	脳外科							2	0	2	0	2	0	5	0	5	0	4	0	1	1	0	2	2	3	23	6
	その他							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	合 計	0	0	0	0	0	0	166	38	168	35	183	52	152	42	189	46	171	38	154	58	171	78	179	55	1,533	442
生物学的製剤	膠原病・リウマチ	44	0	40	0	50	0	40	0	35	0	44	0	44	0	34	0	44	0	7	0	44	0	46	0	472	0
	炎症性腸疾患	5	0	7	0	7	0	6	0	4	0	6	0	5	0	8	0	3	0	32	0	8	0	4	0	95	0
	合計	49	0	47	0	57	0	46	0	39	0	50	0	49	0	42	0	47	0	39	0	52	0	50	0	567	0



4. 目標

・よりよいがん医療を提供するために、専門性の追求と日々の自己研鑽を重ねることで、連携したチーム医療を実現する

・今年度より開始した診察前面談など、患者指導を充実させて安心して治療を受けられるよう患者サービスの向上に努めたい

薬剤科 82
放射線科 85
臨床検査 87
リハビリ 90
臨床工学 96
栄養科 99
治験セン 101
医療福祉 107
病診連携 109
健診セン 118
情報シス 119
ゲノム 121
保育室 123
がん相談 125
医療安全 127
臨床腫瘍 133

看　護　部

―― 2016年 ――

44） 4階東　5階西　5階東　138
6階西　6階東　7階西　139
7階東　8階西　8階東　140
ＨＣＵ　ＩＣＵ　手術室・中央材料室　141
透析センター　外来・ＥＲ　地域医療室　142
退院調整チーム　保健指導　143

44）看護部

看護部長　崎山　昌代

4階東 138
5階西 138
5階東 138
6階西 139
6階東 139
7階西 139
7階東 140
8階西 140
8階東 140
HCU 141
ICU 141
手術室 141
透析セン 142
外来･ER 142
地域医療 142
退院調整 143
保健指導 143

1. 概要

2016 年も一昨年に引き続き、目標を①安全で優しい看護を提供する②急性期病院としての看護の役割を果たすこととし、それぞれの部署で取り組んでいる。

急性期に必要なスキルの教育や地域連携・院内連携強化に努め、地域の中での当院の役割を果たせる看護師を育成し、また、優しい看護が適用できるように倫理についてもラダー別の教育を行っている。それぞれの現場でチューターによるかかわりもあり、日々精進している。

４東病棟　脳神経外科／神経内科

脳神経外科は昨年同様、脳卒中ホットラインや一般救急を中心に患者数は増加傾向である。患者様の多くは ICU・HCU を経由し当病棟へ転床となることが多いが、次の救急患者受け入れが出来るよう速やかに転床できることを心がけている。

神経内科は昨年から比べて患者数は増加しており、病態を理解し適切な社会資源の提供や退院後の生活、ご家族への支援を考えながら援助を行っている。

両科共に早期離床、早期リハビリテーション介入・嚥下訓練、早期退院を目指し、医師・病棟看護師と摂食嚥下認定看護師、リハビリテーションスタッフ、MSW がカンファレンスを行い、患者様とその家族様の満足が得られるような退院支援を目指している。

当病棟の看護師の平均経験年数が９年であり中堅層が多いので、リーダーシップを各個人が発揮できるような病棟作りを心がけてきた。これからもその方針は変えずに新人教育の充実とスキルアップを目指す看護師の輩出に尽力したい。

５階西病棟　内科／小児内科・外科／眼科

眼科患者様を受け入れて１年目を迎え、今年度は眼科看護の質を高めることに重点をおき取り組んだ。まずは病棟内で眼科チームを発足し、主な手術（白内障、硝子体）のマニュアルを作成した。マニュアルを作成することで業務の整理を行うことができ、点眼間違いなどのインシデントも昨年度に比べ減少した。また眼科入院の件数も増えており、平均在院日数の短縮にもつながっている。

接遇面でのクレームが多かったため、月１回病棟カンファレンスで「接遇に関して自分自身で気をつけていること」をスタッフ一人一人に発表してもらった。それにより自分の接遇に関して振り返りを行い、意識を持つことができ、結果接遇に関するクレームは減少した。

今後も眼科外来と連携を図り、外来から入院、退院の中での看護の質を高めていきたい。

接遇に関しては引き続き、意識を持って患者様と関わることが出来るように、努力していきたいと思う。

５東病棟　循環器科 / 心臓血管外科

当病棟は、急性期から慢性期まで幅広い看護を必要とされている。そのため、専門性を高め、自立した看護師を育成すること、その上で適切な接遇が行えることを目標としてきた。

チームナーシングの体制変更を行い、2チーム制から1チーム制にすることで、日々の受け持ちが偏らず、申し送りの時間も短縮となり、ベッドサイドにいく時間を増やすことができた。専門性を高めるために、新たに4名のリーダー、2名のCAG室担当看護師を育成した。新人教育に関しては、1～3年目の若い看護師から学んだことを発表するという形式の勉強会を取り入れ、来年度以降も定着させたいと考えている。

接遇面では、入退院が激しいことで業務も煩雑になりがちであり、意識が低いのが現状である。

勉強会を有意義に行い、プライマリーナースとしての自覚を高め、疾患を中心とした患者ケアができるようにしていきたいと考える。専門的知識が増えることで、余裕が生まれ、接遇にも目を向けることができるのではないかと思う。

6階西病棟　整形外科

自律した看護職員の人材育成を目指しチーム編成し病棟活動を行ってきた。

当病棟は高度急性期病棟であり脊椎･股関節を主とした手術が毎日行われている。そのため、退院支援を充実させ、在院日数の短縮につなげて行かなくてはいけない。

週に1回、医師・看護師・リハビリ・MSWとでリハビリカンファレンスをおこなっている。患者様の今後の生活を考え自宅がいいのか・リハビリが必要なのかをチームで話しあい患者様やその家族様が満足のいく退院支援を行っている。また、専門性の看護が必要であるため、充実した看護ができるよう、人材育成に努めていく。

今後も引き続きチーム連携を充実し､患者様やその家族様が満足のいく看護･退院支援を行っていく。

6階東病棟　形成外科／泌尿器科／歯科・口腔外科

形成外科､泌尿器科､口腔外科､腎臓内科の混合外科病棟であり､手術件数は727件/年である。泌尿器科ではストーマ認定士が2名に増え、手術前から退院後の生活指導まで関わることができた。形成外科では、ミレニアや閉鎖式療法が主となり創傷センターと連携している。退院支援リンクナースにより、退院目標件数の広報やMSWやケアマネージャーとの連携強化も行っている。部署内の接遇研修、専門領域別研修の開催回数も増え、それぞれ看護師の院内・外研修の参加数も増加し自己研鑽に努めている。

今後は、それぞれの知識と技術を元に職員が個々に自律・自立できるよう努めていく。

7階西病棟　消化器内科

当病棟は消化器内科病棟であり早期消化管癌においてEMRやESD、また消化管出血などに対する内視鏡治療を多く受け入れている。内視鏡機器の急速な進歩により内視鏡治療は高度となり複雑化している。安全・確実に内視鏡治療が実践され患者様のQOL向上を目指し業務整理に取り組んでいる。また肝臓センター内科領域や終末期ケアも多く多岐に渡る知識が必要とされる｡専門性が高まる中､患者様の個別性を重視し継続した看護が提供できるよう努力したい。

社会では高齢化が進み退院支援は必須である。昨年より取り組みを強化しカンファレンスが充実してきた｡引き続き入院初期より在宅復帰を視野にした支援のできる人材育成に努めたい。

4階東 138
5階西 138
5階東 138
6階西 139
6階東 139
7階西 139
7階東 140
8階西 140
8階東 140
HCU 141
ICU 141
手術室 141
透析セン 142
外来・ER 142
地域医療 142
退院調整 143
保健指導 143

7 階東病棟　外科 / 肝臓外科

当病棟は外科・肝臓外科の周術期患者様を中心とした高度急性期病棟である。

2016 年の実績において年間手術件数は外科 845 件 (緊急 282 件) ・肝臓外科 239 件 (緊急 47 件) と微増ではあるが、増加を辿っている。平均在院日数は 10.9 日で、前年比は -1.0 日と短縮している。入退院が多く、医療の展開が速い中、安全で安心できる療養環境の提供を心がけ、看護師一人ひとりが質の維持、保証ができる様、標準的な看護ケアの提供と業務の標準化に取り組んでいる。

外科病棟に於いても患者様の高齢化は進み、退院後も高度の医療提供や看護・介護等のサポートを受けないと住み慣れた地域での生活が送れない状況となっている。そのため今年は退院支援・退院調整に力を入れ、入院直後より患者の退院後の生活を踏まえた支援・調整を心がけている。

また当院外科病棟オリジナル退院パンフレットを使用したことで、退院後の生活の不安が軽減したと評価して頂いている。これからも標準化を踏まえた上で、患者様個々に合った看護ケアの提供に努めていく。

8 階西病棟　呼吸器外科・内科／腫瘍内科

当病棟は「安全管理を行い看護を提供する」を目標に、呼吸器内科・外科、腫瘍内科を受け入れている。定期的に医師及び外部講師による腫瘍内科の勉強会を開催し、スタッフの知識・技術の向上を図った。また、当病棟の腫瘍内科チームと臨床腫瘍センターと協力し化学療法マニュアルを作成した。安全で確実な化学療法を実施することを目的に、臨床腫瘍センターへの応援体制が確立。次年度に向け、外来と病棟との連携を更に強化していきたい。

今年度より呼吸器外科医が常勤医として加わり、手術症例及び件数が増加。気胸の術後、時には VATS の術後の受け入れも行っている。

入院患者様の状態変化により平均在院日数が増加傾向にあった。退院支援リンクナース及び MSW と連携し、更なる在院日数短縮を図ることが次年度への課題である。

8 階東病棟　混合内科

糖尿病教育入院の患者受け入れに加え、2016 年は腫瘍内科患者様の受け入れも積極的に行った。その結果、化学療法に携わる機会が増加してきている。スタッフ間での化学療法の学習に加え、最新薬に関しては、薬剤師より速やかに情報提供を受け、知識の向上に努めている。糖尿病の教育入院や化学療法の副作用など患者指導の機会が多い病棟であるため、患者様の個別性をとらえられるよう情報収集を丁寧に行い、ご家族様とも積極的に関わるよう心がけている。また、腫瘍内科患者様の受け入れに伴い緩和ケアが必要な患者様の入院も増加し, 緩和ケアチームと連携し、疼痛緩和を行い、自宅退院の希望があれば MSW と連携し退院支援を行っている。

来年度に向けて、混合内科という性質から、あらゆる疾患に対応できるよう、院内外での学習・研修会へ参加し、知識の向上に努め、患者様やその家族様に寄り添った看護ができるようカンファレンスを積極的に行い、情報共有を密に行いたいと思う。

ハイケアユニット（ＨＣＵ）

準集中治療室としてICUの後方病棟としての機能を持ち、夜間の入院など緊急受け入れが多い部署である。全身麻酔下の術後リカバリー患者の入室も多く、初期治療の看護のほか、患者様が早期に元の生活に戻るための日常生活支援も併せて行う必要があり、心・肺リハビリやNSTなどと協働し、患者様中心の看護の実践を行っている。昨年に比べ、新入院受け入れ数は約20名増加し、看護必要度は平均85％となり入室患者様の重症度は高くなっている。

今年度は医療安全・感染対策・業務改善のチーム活動から、部署の課題に取り組み、評価しながら、安全な療養環境作りと優しい看護を提供できるよう取り組んだ。

これからも異常の早期発見と病状回復を促進するためのアセスメント能力や患者様とその家族様へ安心を提供できるような現場対応力の向上を目指していく。また、急性期受け入れ部署としてベットコントロールを強化し、ER・病棟と連携したスムーズな患者受け入れを行っていきたい。

集中治療室（ＩＣＵ）

ICUは、外科系・内科系の疾患を問わず、重篤な急性臓器機能不全状態にある患者様を対象とし、多職種が連携し高度かつ専門的なチーム医療を提供している。　対象患者様の速やかな受け入れを行えるようベッドコントロールの強化に努め、多職種が連携・協働し、患者様中心のチーム医療を提供できるよう心がけている。

今年度は、安全で安心な急性期医療の提供を目標に、安全な看護を保証できるよう、ICUインシデントカンファレンスの改訂と体験型勉強会を行ない、安全管理の予測性や対応力の向上に取り組んだ。また、ICTリンクナースが主体となって計画・実践し、手指衛生遵守率を73％まで改善することができた。看護の質の向上にむけた取組みでは、プライマリーナーシングシステムの推進や、キネステティクプラス研修を企画し、必須技術として全スタッフが受講し習得できた。

これからも、安全で安心な急性期医療を提供できるよう、多職種との連携強化、改善への取組みの継続、技術やアセスメント能力の向上を目指していきたい。

手術室・中央材料室

手術室は7室あり、2016年の手術件数は4,459件で、前年対比で約150件増加している。その内、緊急手術は820件であった。予定手術のみならず、緊急手術を円滑かつ安全に受け入れられるよう人材育成を行い、難易度の高い手術に対応できる看護師を増員することができた。看護師教育はクリニカルラダーを用いて行い、それに基づき能力評価を行っている。また、日本麻酔科学会　周術期管理チーム看護師認定取得者が1名、その他にも取得を目指して取り組んでいる看護師が数名おり、各々が自己研鑽に努めている。

中央材料室においては、看護師・看護補助者全てがコスト意識を持てるよう、10％の在庫削減を目標に定期的に物品の見直しを行い､適正な在庫管理を行えるよう取り組んでいる。また、手術室看護師・他部署スタッフと器材に関する調整等を行い、安全にかつ速やかに医療器材を提供できるよう取り組んだ。

4階東 138
5階西 138
5階東 138
6階西 139
6階東 139
7階西 139
7階東 140
8階西 140
8階東 140
HCU 141
ICU 141
手術室 141
透析セン 142
外来･ER 142
地域医療 142
退院調整 143
保健指導 143

今後も、質の高い看護と安全な質的・物的環境を提供できるよう、スタッフ一同努力していきたい。

透析センター

透析患者様の入院治療のための転入数が年間 350 名を超えている。緊急透析・緊急入院はもちろん、近隣だけでなく専門治療を求め、遠隔地より転入されることも多い。

血液透析だけではなく腹膜透析も選択できることは、透析人生の選択の幅が大いに広がると考える。スタッフも患者様も、2 日に 1 回は顔を合わせる透析社会。透析での出合を新たな出発として、支え合えたらと考える。

透析患者様の高齢化・長期化に伴い、様々な合併症を伴った患者様が増えている。透析通院はもちろん、循環器・形成外科など複数の専門外来の受診を必要とする患者様も多い。専門細分化される医療の中で総合病院の中の外来透析センターであることを大いに活かせればと考えている。

外来・ＥＲ

当院の外来は、「診療部門」「ER」「検査治療部門」「予防医療部門」の 4 つの部門に分かれ、それぞれの部署で安全な看護が提供出来るよう、スタッフが専門的知識と技術の向上に努めている。大阪府がん拠点病院としての取り組みは、開業医と地域連携を結び、がん患者を双方でフォローしていくと共に、院内のがん緩和チームに参加し、情報の共有を行っている。入退院支援システムについては、マニュアル作成や人員の確保を行ってきたが、複雑化する外来患者様のケアや、検査の介助などに人員配置が必要となり、来年度への計画持ち越しとなった。年間の救急件数は約 6,500 件、スタッフの教育も大阪府内から北海道、沖縄離島に至るまで様々な研修に参加することで、救急看護、外傷看護に一層力を発揮できるようになってきた。内視鏡や透視下での様々な検査は緊急度、重症度が高くなっているが、事故の無い安全な検査の介助に努めている。保健師を中心とした看護外来では、糖尿病外来・禁煙外来・生活習慣病相談などの患者指導に力を入れている。

今後は、多様化する外来患者様や検査に対し、病棟との協働を図り、充実した看護を目指して行きたい。

地域医療室（訪問看護、訪問診療）

地域医療室は、訪問看護と訪問診療を担当している。2016 年の新規登録患者様の疾患は、がん疾患 60%、呼吸不全 11%、心不全 8%、筋・神経系難病 6%、糖尿病 5%、その他に脳血管疾患、血液疾患等があり、新規登録患者様の 7 割が終末期患者であった。同日複数回訪問の患者様も一定数あり、重症度が高く、点滴管理、PCA 管理、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、在宅輸血療法なども行っている。

登録総数・登録件数および訪問看護実績件数は、グラフの通りである。訪問件数の増加と、2016 年 10 月に申請し承認された緊急時訪問看護加算により、スタッフの働きを増収に反映することができた。

業務の効率化としては、訪問診療の準備や患者様に提供している衛生材料・保険医療材料の

請求方法などの変更を行い、作業時間を短縮した。訪問看護の質向上として、ナーシングスキルやマニュアル（患者様家族様向け手順書、スタッフ向け手順書）、技術チェックリスト、カンファレンスの活用や、部署研修および院内外研修への参加を行い、スタッフのモチベーションにも繋がっている。また、患者様の身体機能維持の一つとして、キネステティク・プラスウォームアップをスタッフ全員が患者様に提供できるようになった。

今後は、訪問看護の質向上を継続しながら、患者様家族には“よりわかりやすく・安心”、院内には“よりわかりやすい連携”を目指す。

退院調整チーム

退院調整チームは「断らない医療の実践」、「在院日数の短縮化」を目標とした病院の理念および地域包括ケア推進のための取り組み強化に2016年4月から各病棟フロアーに退院支援専従の社会福祉士1名を配置。退院困難な要因を有する患者様を抽出し入院早期の患者様家族との面談、退院支援カンファレンスは1週間に1～3回実施し2,702回/年であり、2週間を超過する患者様に対してはさらに治療の方向性や進捗を病棟看護師や退院支援リンクナースと情報共有し支援している。

ADLが低下予測される患者に対しては、廃用リハビリを早期から開始し、元の生活を維持できるよう他職種連携している。家族へのリハビリ見学も実施しており、認識と実際を修正し支援につなげている。

連携保険医療機関又は介護サービス事業所等と転院・退院・在宅復帰について連携を図り退院前カンファレンスは84件/年あった。

断らない医療の実践、在院日数の短縮化を目標とし、急性期治療後の調整に早い段階からの支援と調整をすること。連携保険医療機関又は介護サービス事業所等との連携を尚、一層図っていきたい。

保健指導

年間保健指導件数は、4,207件/年であり、昨年度の3,869件と比較すると9%の増加である。背景としては、①創傷ケアセンターにおける診療介助・在宅ケア指導・生活指導の開始　②糖尿病外来の新体制に伴う診療時間の増加とフットケアの開始　③特定保健指導における協会けんぽの抽出対象のさらなる拡大が挙げられる。来年度の目標としては、①従来業務を看護外来として対外的にアピール　②スムーズな糖尿病診療の運用とチーム内の連携強化を図りたい。

2. メンバー構成

4階東病棟師長：山本真紀
5階西病棟師長兼業務統括師長：宮本千代美
5階東病棟副看護部長：高田由希
6階西病棟師長代行：藤原一美
6階東病棟師長代行：松本静香
7階西病棟師長：稲垣ひとみ
7階東病棟師長：山本喜実子
8階西病棟師長：松ヶ野奈津絵
8階東病棟師長：髙橋章恵
ICU看護師長兼教育統括師長：中島麻由美
HCU看護師長：小原真栄美
外来・ER看護師長：吉田暁美
地域医療室看護師長代行：竹内裕子
手術室看護師長：柴山智賀子
透析センター看護師長：大福礼子
退院調整主任：加藤和代

4階東 138
5階西 138
5階東 138
6階西 139
6階東 139
7階西 139
7階東 140
8階西 140
8階東 140
HCU 141
ICU 141
手術室 141
透析セン 142
外来・ER 142
地域医療 142
退院調整 143
保健指導 143

3. 実績

1）部署別統計表

①病棟別・月別 1 日平均入院患者数

患者統計 P12 参照

②手術部位別分類

麻酔科 P67 参照

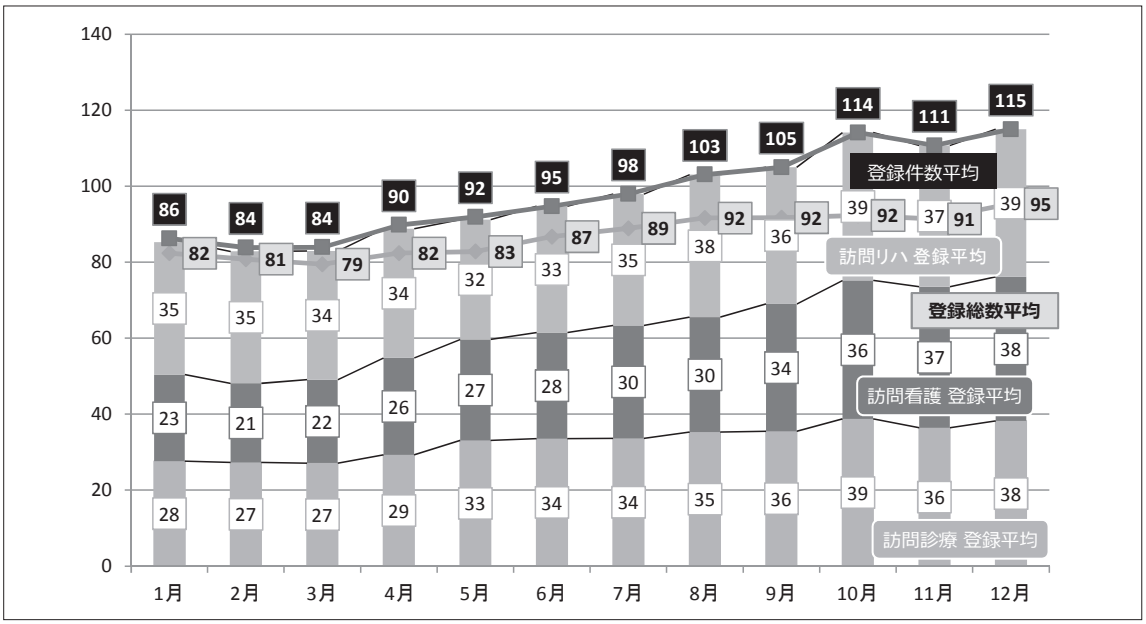
③短期滞在手術センター利用件数

月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
形成外科	31	31	28	26	25	34	24	34	23	30	39	28	353
整形外科	15	8	10	11	11	5	9	9	12	11	4	8	113
心臓外科	4	3	3	4	3	3	1	1	3	2	7	3	37
外科	3	6	1	3	5	2	3	3	2	2	2	1	33
眼科	30	22	39	18	24	32	22	21	26	28	21	22	305
泌尿器科	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	5
内科	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5
合計	88	71	81	63	68	76	59	68	68	74	74	62	852

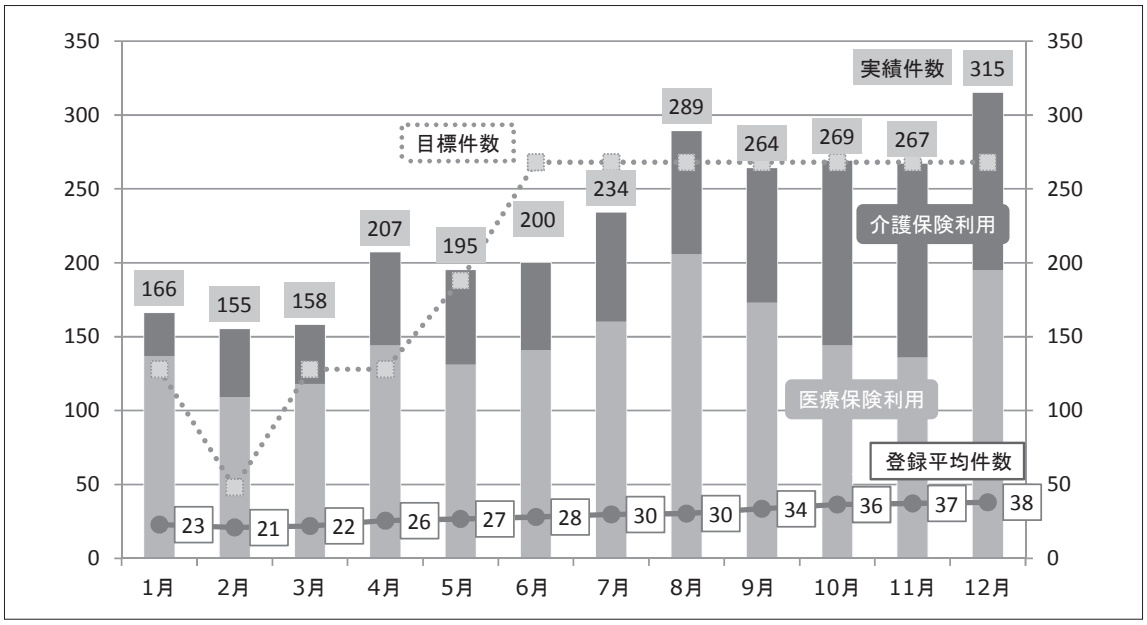
平均患者数＝ 71 人 / 月

④地域医療室訪問件数

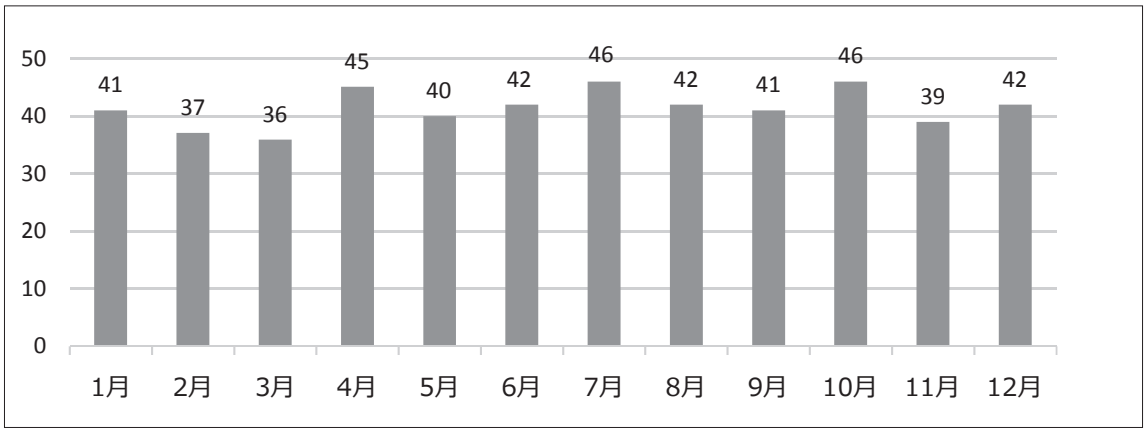
《登録総数および登録件数》



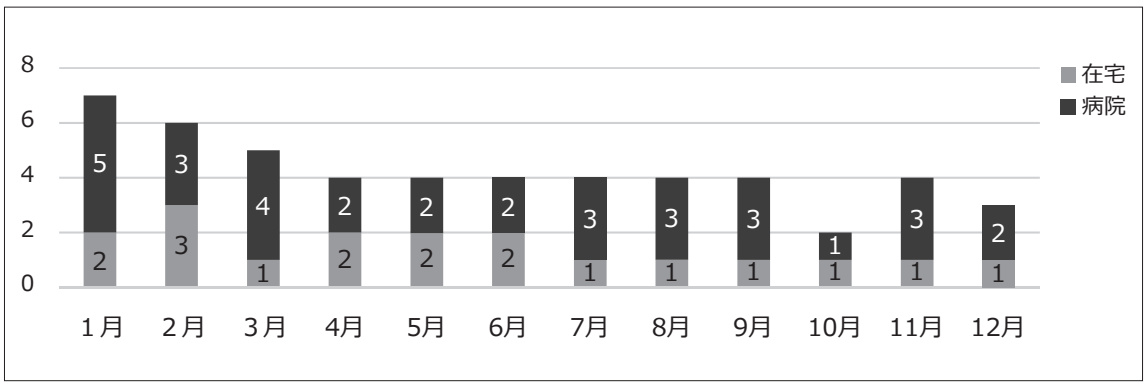
《訪問看護師数に応じた訪問看護目標件数および実績件数》



《訪問診療件数》



《看取り件数》



⑤保健指導の領域・項目件数

《保健指導の領域件数》

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来保健指導	29	38	20	26	21	32	25	24	31	29	22	23	320
外来禁煙指導	21	39	50	54	52	58	40	31	30	38	24	38	475
創傷ケアセンター	1	0	0	0	0	0	4	4	3	5	1	0	18
心臓リハビリ	8	6	5	11	6	10	8	5	8	5	7	14	93
小児科外来	50	39	35	28	29	28	26	30	28	24	27	47	391
糖尿病外来	91	77	103	118	115	123	78	86	123	100	95	172	1,281
病棟	8	26	16	16	7	12	18	14	9	6	13	13	158
院外	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
健康相談	2	11	5	6	0	6	3	3	1	1	2	4	44
健診・人間ドック	18	35	26	20	31	37	35	55	22	30	26	55	390
特定保健指導	56	106	94	55	81	75	43	52	56	59	50	96	823
合計	285	378	354	334	342	381	280	304	311	297	267	463	3,996

《保健指導の項目件数》

項目		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11月	12月	合計
ライフスタイルの変容	生活状況確認(サーベイランス)	185	212	188	224	174	224	143	178	195	159	159	271	2,312
	食事指導	107	128	127	144	106	125	78	100	115	86	88	141	1,345
	運動指導	69	92	84	111	64	92	55	68	87	56	62	88	928
	節酒・禁酒指導	10	25	13	13	5	12	7	15	15	8	10	28	161
	禁煙指導	20	29	31	30	23	26	26	10	19	14	22	27	277
	禁煙治療	15	24	24	22	30	27	25	18	14	27	10	7	243
自己管理への援助	病態・合併症説明	125	154	148	138	142	147	101	138	98	96	77	125	1,489
	コンプライアンス確認・目標設定	99	130	132	135	105	116	77	95	82	71	47	81	1,170
	ヘルスビリーフ(疾病の受入れ)支援	89	106	108	120	83	105	72	82	71	57	34	36	963
	体重管理	57	86	61	67	63	70	51	41	49	40	38	71	694
	血圧管理	27	43	29	31	28	37	24	32	22	23	25	44	365
	心負荷	7	2	6	9	8	12	10	4	9	4	4	10	85
	血糖管理・低血糖	37	58	48	50	35	51	43	43	59	33	34	45	536
	薬剤管理	54	42	37	50	26	58	37	33	47	33	29	38	484
	フットケア指導	32	26	27	35	26	45	23	45	53	48	30	56	446
	糖尿病透析予防指導料の当該指導	0	2	2	0	0	0	1	0	0	0	6	3	14
	清潔ケア・感染防止の管理	2	0	6	1	1	0	5	0	1	3	1	5	25
	安全確保(転倒防止・環境整備)	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	5
	受診調整・受診の勧奨	30	39	43	29	28	22	20	25	23	28	20	23	330
心理的指導	心境の傾聴	7	8	2	10	7	12	9	3	8	4	2	10	82
	ストレス対処法指導	0	3	0	4	3	2	6	2	2	1	0	1	24
社会的援助	社会資源紹介	0	3	0	3	0	2	0	2	1	0	2	0	13
	院内コンサルト・他職種との調整	7	10	10	6	5	15	7	9	9	11	4	14	107
	認知症検査・療養支援	0	2	2	0	2	1	2	1	3	1	2	2	18
	院外との調整	8	16	6	6	0	6	0	3	3	5	16	10	79
小児科	予防接種	34	16	13	15	10	12	15	19	17	21	15	32	219
	育児相談	8	6	14	4	8	5	7	7	6	2	0	3	70
	乳児検診	2	4	3	4	0	5	2	0	3	0	0	2	25
相　談	電話・メール支援・相談	20	56	58	35	57	45	25	19	23	30	24	47	439
	家族相談・指導	10	10	6	4	4	15	5	7	10	5	10	10	96
合　計		1,062	1,332	1,228	1,300	1,043	1,289	877	999	1,046	866	772	1,230	13,044

4階東 138
5階西 138
5階東 138
6階西 139
6階東 139
7階西 139
7階東 140
8階西 140
8階東 140
HCU 141
ICU 141
手術室 141
透析セン 142
外来・ER 142
地域医療 142
退院調整 143
保健指導 143

2）研修・研究活動状況

①看護部の教育実施状況

《新人》

研修日	研修名	研修目的	参加人数
4月1日	新人看護職員としての心構え	新人看護職員としての心構えを知る	49名
4月2日	医療安全	当院の医療安全管理体制を知る	49名
	災害・防災管理	1.災害発生時の対応 2.消化設備の定位置と避難ルートの確認 3.緊急連絡体制	
4月4日	看護部概要	1.法人組織における看護部の概要 2.看護部の目的・目標 3.看護協会	49名
	法人及び病院概要	1.法人の歴史 2.法人の活動	
	感染管理「感染予防の知識と技術」	スタンダードプリコーション（1.洗浄 2.防護用具 3.専用廃棄容器について 他）	
	継続教育について	当院の継続教育について理解する	
4月5日	与薬技術「内服」	1.原理原則に基づいた与薬 2.薬剤の管理（毒薬・劇薬・麻薬） 3.患者認証など	48名
	看護記録「基礎編」	1.看護記録とは 2.看護記録の目的 3.課題 4.記載事例 5.裁判との関わり	
4月6日	看護記録「看護必要度」	1.看護必要度の考え方 2.看護必要度評価のための記録 3.院内取り扱い	49名
4月7日	症状・生体機能管理技術「採血技術」	1.静脈血採血検体の取扱 2.採血実施時の目的方法 3.血糖検査 4.動脈血	18名
	看護記録「システム編」	1.カルテの操作・当院の記載基準を資料として電子カルテの見方の説明 2.実際	48名
4月8日	活動休息援助技術2「ポジショニング」	1.体位変換 2.チューブ挿入中、麻痺・拘縮のある患者の体位変換	18名
	与薬の技術「注射法」	1.原理原則に基づいた与薬 2.薬剤等の管理 3.患者認証 4.静脈注射	
4月9日	救急急変時の看護	1.患者急変時の対応について学ぶ 2.一次救命の処置ができる（BLS・SBAR）	48名
4月11日	活動休息援助技術1	1.関節可動域訓練 2.廃用症候群 3.歩行介助 4.トランスファー	18名
	症状・生体機能管理技術I-1「観察」	1.バイタルサインの観察と解釈 2.身体計測 3.心電図モニター 4.1 2誘導心電図	
	呼吸・循環を整える技術I-1「酸素・吸引」	1.酸素吸入療法中の管理 2.体温調整方法の実施 3.ネブライザーの実施	
4月12日	排泄援助技術	1.自然排泄・排便への援助 2.オムツ交換 3.留置カテーテル挿入中の観察	18名
5月27日	看護倫理	専門職業人としての倫理を学び臨床において看護倫理を意識した行動がとれる	16名
6月16日	他部署との連携	看護部以外の部署の役割を知ることで、チーム医療を理解できる	17名
7月4日	接遇	社会人として・専門職業人としての接遇を知る	17名
8月12日	看護記録	看護過程を理解し、根拠ある看護実践につなげることができる	16名
9月15日	卒後6ヶ月研修	6ヶ月を振り返り、自身のとらえる看護とは何かを明確化する	16名
10月14日	医療安全「ひやりはっと」	日常に潜む医療事故について考える	15名
11月4日	多重課題シミュレーション	時間切迫の状況下で、安全に優先順位を選択し基本的な看護技術が実践できる	16名
12月2日	コミュニケーション技術「ナラティブ」	伝える力・まとめる力・書く力を養う	14名
1月31日	ナラティブレポート発表会	この1年で会得したこと、次年度の課題を他者に伝える	
3月2日	フィジカルアセスメント	患者の状態を的確に把握する手法を身につけ、看護実践に活かすことができる	
3月28日	1年の振り返り	1年を振り返り、自ら学ぶ力、考える力、気づく力を見出す	

《レベルⅠ》

研修日	研修名	研修目的	参加人数
6月22日	看護記録Ⅰ	看護過程を理解し、根拠ある看護実践につなげることができる	18名
7月11日	ナラティブⅠ	自らの学び体験をナラティブで振り返り他者に伝えることができる	12名
7月19日	褥瘡・創傷ケア	褥瘡対策の基礎的な知識、技術が習得でき、確認できる	16名
8月13日	看護倫理Ⅰ	看護に必要な倫理を学び、倫理的視点に基づいた実践ができる	14名
9月21日	メンバーシップ	看護チームのメンバーとして自覚をもち、責任ある行動をとることができる	17名

《レベルⅠ・Ⅱ》

研修日	研修名	研修目的	参加人数
5月24日	災害看護①	災害の基礎知識をもち、八尾徳洲会での災害時の初期対応を責任者の指示のもと行なうことができる	16名
5月31日	災害看護2		20名
8月2日	人工呼吸器装着中の患者看護	人工呼吸器装着中の患者への看護の実際を学ぶ	26名

《レベルⅡ》

研修日	研修名	研修目的	参加人数
5月23日	ナラティブⅡ	現象のありのままをとらえる姿勢およびコミュニケーションスキルを磨く	8名
7月1日	看護記録Ⅱ	看護過程を理解し、根拠ある看護実践につなげる	12名
8月27日	看護倫理Ⅱ	看護に必要な倫理を学び、倫理的視点に基づいた実践ができる	19名
9月27日	安全管理Ⅱ	安全な看護を実践するために医療安全の視点を理解する	14名
10月14日	チューター研修①	先輩看護師として役割モデルとなり、指導者として新人看護師へ支援ができる	11名
11月14日	チューター研修2		7名
11月22日	医療安全(KYT)	医療事故防止に必要な基本的知識、行動が理解できる	17名
1月24日	褥瘡・創傷ケア	創傷管理における最新の考え方および対策を考える	9名

《レベルⅢ》

研修日	研修名	研修目的	参加人数
5月13日	安全管理Ⅲ	事故事例の分析を通して防止対策のポイントが理解できる	7名
8月13日	看護倫理Ⅲ	看護に必要な倫理を学び、倫理的視点に基づいた実践ができる	21名
9月20日	褥瘡・創傷ケアⅢ	徳洲会グループ作成の褥瘡対策マニュアルの中での重要項目が理解できる	14名
10月25日	看護記録	質の高い看護が保証される記録について理解する	6名
12月1日	実習指導2	実習指導の役割を知り、実習環境・指導体制を調整することができる	9名
1月6日	実習指導2		9名

《レベルⅢ・Ⅳ》

研修日	研修名	研修目的	参加人数
7月7日	災害看護1	災害の基礎知識をもち、八尾徳洲会での災害時の初期対応を責任者の指示のもと行なうことができる	9名
7月8日	災害看護1		9名

《レベルⅣ》

研修日	研修名	研修目的	参加人数
5月17日	安全管理Ⅳ	医療事故防止および医療事故発生後の対応策について学ぶことができる	5名
8月27日	看護倫理Ⅳ	看護に必要な倫理を学び、倫理的視点に基づいた実践ができる	8名
9月2日	看護記録	看護記録に必要な知識を学び、根拠に基づいた看護記録のポイントを身につける	3名
11月1日	褥瘡・創傷ケア	複雑に入り組んだ日常創傷管理に鋭いメスを入れさまざまな謎や疑問を徹底的に究明する	4名
12月13日	教育担当者	教育担当者の役割を知り、部署内の教育活動を担うことができる	5名

4階東 138
5階西 138
5階東 138
6階西 139
6階東 139
7階西 139
7階東 140
8階西 140
8階東 140
HCU 141
ICU 141
手術室 141
透析セン 142
外来・ER 142
地域医療 142
退院調整 143
保健指導 143

《トピックス》

研修日	研修名	研修目的	参加人数
4月27日	リフレクション	現場での体験を内省し、自ら気づき学んでいくことを知る	25名
4月28日	リフレクション		17名
8月3日	看護倫理全体研修	看護に必要な倫理を学び、倫理的視点に基づいた実践ができる	100名
8月5日	第1回伝達講習会	院外の研修に積極的に参加し、見聞を広める。看護の動向や情報を共有する	54名
10月11日	転倒転落予防1	看護場面での安全管理の必要性、方法を習得する	9名
12月6日	第2回伝達講習会	院外の研修に積極的に参加し、見聞を広める。看護の動向や情報を共有する	52名
3月10日	第3回伝達講習会		

《看護研究》

研修日	研修名	研修目的	参加人数
5月21日	看護研究の進め方	看護の視点から科学的根拠を明らかにし看護実践を活かすことができる	24名
8月6日	看護研究「統計について」		24名
9月10日	論文のまとめ方		24名
10月15日	論文の査読の仕方		20名
2月4日	看護研究発表会	看護研究発表を通して、新たな知見を得て、参加態度を習得する	

《専門コース》

研修日	研修名	研修目的	参加人数
4月26日	がん看護ステップⅠA-1	適切な緩和ケアチームの役割を担う看護師育成	8名
5月10日	がん看護ステップⅠB		10名
5月18日	感染管理Ⅰ-1	感染管理に必要な基礎知識を学び、感染管理意識を高める	11名
5月19日	感染管理Ⅰ-2		10名
6月7日	がん看護ステップⅠA-2	適切な緩和ケアチームの役割を担う看護師育成	11名
6月13日	摂食・嚥下「摂食・嚥下のメカニズムと解剖生理」	摂食・嚥下障害障害のある患者への看護を学ぶ	12名
6月14日	感染管理Ⅲ	自部署における感染管理についてリーダーシップが発揮できる	10名
6月21日	がん看護ステップⅠB-2	適切な緩和ケアチームの役割を担う看護師育成	9名
6月23日	ＢＬＳ指導者育成コース1	八尾徳洲会総合病院看護職員全員にＢＬＳを普及してもらうためのスタッフ育成	28名
7月5日	摂食・嚥下「嚥下障害と栄養」	摂食・嚥下障害障害のある患者への看護を学ぶ	9名
7月12日	がん看護ステップⅡA	がん患者を全人的にとらえ、事例検討できる	13名
7月26日	ＢＬＳ指導者育成コース2	八尾徳洲会総合病院看護職員全員にＢＬＳを普及してもらうためのスタッフ育成	30名
8月9日	感染管理Ⅲ	自部署における感染管理についてリーダーシップが発揮できる	10名
8月23日	がん看護ステップⅠ・Ⅱ補講	がん患者を全人的にとらえ、事例検討できる	7名
8月30日	フィジカルアセスメント呼吸・循環編1	フィジカルアセスメントを理解し実践に活かすことができる。根拠に基づいた看護実践ができるためのスキルと思考過程を習得する	28名
9月6日	フィジカルアセスメント脳・意識編1	脳神経系のフィジカルアセスメントを理解し実践に活かすことができる。根拠に基づいた看護実践ができる為の基本的スキルと思考過程を習得する。	30名
9月13日	がん看護ステップⅢA	がん看護や症状について学ぶことができる	12名
10月4日	がん看護ステップⅢB	放射線療法看護を理解する	9名
10月7日	摂食・嚥下「訓練の実際」	摂食・嚥下障害障害のある患者への看護を学ぶ	7名
10月18日	フィジカルアセスメント呼吸・循環編1	フィジカルアセスメントを理解し実践に活かすことができる。根拠に基づいた看護実践ができるためのスキルと思考過程を習得する	12名
10月19日	感染管理Ⅳ	院内感染の管理に必要な根拠に基づいた専門知識と高度な技術を持つ看護師の育成	5名
10月22日	ICLS1	救急急変時対応のスキルアップ	10名
11月8日	がん看護ステップⅣ	倫理的思考と問題解決処理を有し、事例に取り組むことができる	8名
11月12日	ICLS2	救急急変時対応のスキルアップ	5名
11月15日	フィジカルアセスメント頭・意識編2	脳神経系のフィジカルアセスメントを理解し実践に活かすことができる。根拠に基づいた看護実践ができる為の基本的スキルと思考過程を習得する。	7名
11月29日	摂食・嚥下障害看護シリーズ「症例検討」	摂食嚥下障害のある患者への看護を学ぶ	6名

《管理者・認定》

研修日	研修名	研修目的	参加人数
10月12日	メンタルヘルスケア	メンタルヘルスの基礎知識	20名
1月14日	ストレス・マネジメント	中間管理者のストレスと解消法のテクニックを学ぶ	25名
8月6日	看護倫理	看護に必要な倫理を学び、倫理的視点に基づいた実践ができる	34名

《看護補助者》

研修日	研修名	研修目的	参加人数
6月6日	基礎編①	エイド業務の役割を理解できる	12名
7月8日	基礎編②		14名
8月8日	応用・接遇編①	組織で働くエイドに求められるスキルを習得する	8名
9月9日	応用・接遇編②		15名
10月20日	応用-実技編①		9名
11月17日	応用・実技編②		10名
1月17日	まとめ①	エイド業務の役割を理解できる	
1月26日	まとめ②		

②研修・学会参加状況（グループ施設内研修含む）

《徳洲会グループ》

研修月日	開催主催	開催主催	参加人数
6月18日	徳洲会グループ　関西・大阪ブロック	看護診断研修	3名
7月23日	徳洲会グループ　関西・大阪ブロック	災害看護研修	5名
9月10日～9月11日	徳洲会グループ	徳洲会二次心肺蘇生救急教育講習会（TCLS）日本救急医学会認定ICLSコース	5名
9月17日	徳洲会グループ　関西・大阪ブロック	文章の書き方	4名
10月22日	徳洲会グループ	介護保険制度の理解	3名
11月5日	徳洲会グループ	褥瘡予防ケア研修	2名
11月12日～11月13日	徳洲会グループ	徳洲会二次心肺蘇生救急教育講習会（TCLS）日本救急医学会認定ICLSコース	2名
11月19日～11月20日	徳洲会グループ	名古屋徳洲会総合病院ELNEC−Jコアカルキュラム看護師教育プログラム	3名

4階東 138
5階西 138
5階東 138
6階西 139
6階東 139
7階西 139
7階東 140
8階西 140
8階東 140
HCU 141
ICU 141
手術室 141
透析セン 142
外来・ER 142
地域医療 142
退院調整 143
保健指導 143

《看護協会　短期研修》

日程	研修会名	参加人数
4月21日～4月23日	褥瘡ケア①	1名
5月7日	人工呼吸器装着患者の看護①	2名
5月12日～5月13日	一般病棟におけるクリティカルケア（急性・重症患者看護）	2名
5月16日	看護研究と論文作成支援①	2名
5月19日～5月20日	がん患者の意思決定への支援	3名
5月24日	危険予知トレーニング①	1名
5月26日	コーチング・コミュニケーション①	2名
5月28日～5月29日	入門編	3名
5月30日	看護研究と論文作成支援①	2名
6月1日	病棟看護師としてできる退院支援調整①	2名
6月7日～6月8日	組織で取り組む感染管理①	2名
6月13日	事例から学ぶ労務管理ノウハウ	1名
6月21日	がんとリンパ浮腫	1名
6月21日～6月22日	がん化学療法を受ける患者の支援①	4名
6月24日	糖尿病療養指導の基本的知識	1名
6月25日～6月26日	看護職のための認知症の理解とケア	3名
6月27日～6月29日	新人看護職員教育担当者研修	1名
7月5日～7月8日	実地指導者の指導技術研修③	2名
7月6日	指導者のための看護過程	2名
7月6日～7月7日	災害支援ナースの基礎知識～災害看護の第一歩～	2名
7月8日～7月9日	認知症高齢者の看護実践に必要な知識　①	8名
7月11日	運動機能回復への援助①軽介助から自立へ　まひや拘縮のある患者への援助へ	1名
7月13日	病棟看護師としてできる退院支援・調整②	6名
7月14日	感染管理の基礎知識	1名
7月21日～7月23日	臨池実習指導者①	2名
8月2日～8月3日	組織で取り組む感染管理②	1名
8月4日	セカンドレベル公開講座　人材資源活用論	3名
8月5日	救急看護2　演習②	1名
8月5日	スタッフのキャリア発達を支援する	1名

日程	研修会名	参加人数
8月6日～8月7日	糖尿病重症化予防フットケア研修	1名
8月8日	運動機能回復への援助②軽介助から自立へ　まひや拘縮のある患者への援助へ	1名
8月9日～8月10日	高齢者の理解と認知症患者の看護①	3名
8月11日～8月12日	病棟管理者としてできる退院支援と地域連携①	1名
8月13日	セカンドレベル公開講座　医療経済論	2名
8月16日	みんなで取り組む業務カイゼン～ポジティブマネジメントでチームの強みを活かす～②	1名
8月17日～8月18日	人材育成とコミュニケーション	1名
8月19日	救急看護2　演習③	2名
8月19日	もう一度看護過程を学ぼう	2名
8月20日	医療事故調査制度のその後とこれから	1名
8月23日	みんなで考える看護倫理	2名
8月25日	サードレベル公開講座　保健医療福祉政策論	1名
8月25日～8月26日	統計の使い方	3名
8月31日～9月1日	一般病院・在宅で対応する精神症状のある患者の理解とケア	2名
9月7日～9月10日	ストーマ・瘻孔のスキンケア	3名
9月9日	フィジカルアセスメントの基礎（講義）	6名
9月10日～9月11日	看護職のためのエンド・オブ・ライフ・ケア研修	1名
9月12日	摂食・嚥下障害のある患者の基礎と実際を学ぶ②	2名
9月13日～9月14日	がん患者の症状緩和	2名
9月16日	新人のキャリアマネジメント	1名
9月16日	人工呼吸器装着患者の看護②	1名
9月19日	サードレベル公開講座　看護経営者論	1名
9月21日	施設における継続教育のプログラム開発 ～「継続教育の基準ver.2」活用のためのガイド解説～	1名
9月21日	災害看護における初期医療支援活動①	3名
9月24日・10月8日 9月26日～10月4日の1日間	病院と在宅医療を担う訪問看護ステーション・福祉関係施設の相互研修	1名
9月29日～9月30日	フィジカルアセスメント（演習）①	1名
10月3日～10月4日	糖尿病療法指導の実践的知識	1名
10月5日～10月6日	やらされ感からの脱却①	1名
10月5日・10月7日	やらされ感からの脱却②	1名
10月6日～10月7日	フィジカルアセスメント（演習）②	1名

4階東 138
5階西 138
5階東 138
6階西 139
6階東 139
7階西 139
7階東 140
8階西 140
8階東 140
HCU 141
ICU 141
手術室 141
透析セン 142
外来・ER 142
地域医療 142
退院調整 143
保健指導 143

日程	研修会名	参加人数
10月7日	看護記録（基礎編）	3名
10月11日	がん放射線療法を受ける患者の看護	1名
10月13日～10月14日	インターネット配信研修　認知症高齢者の看護実践に必要な知識　②	5名
10月13日～10月15日	褥瘡ケア②	1名
10月15日	サードレベル公開講座　経営管理論	1名
10月16日	がん放射線療法を受ける患者の看護	1名
10月17日	災害看護における初期医療支援活動②	1名
10月18日	危険予知トレーニング②	2名
10月20日～10月21日	リーダーシップ①	1名
10月20日～10月21日	フィジカルアセスメント（演習）③	1名
10月27日	今日から役立つコミュニケーション	1名
10月28日	看護職のキャリアマネジメント～看護の夢や志を大切に～	1名
11月2日	サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置）	2名
11月4日～11月5日	フィジカルアセスメント（演習）④	3名
11月7日	看護管理者が活用できるﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽｹｱⅡ	1名
11月10日	医療安全の基本と医療事故防止行動	2名
11月10日	小児救急①	2名
11月11日	小児救急②	2名
11月16日	患者・家族のメンタルサポート	4名
11月18日	災害看護における初期医療支援活動③	1名
11月19日	活き活きと働く自分つくる～職場での自分の魅せ方・活かし方から	4名
11月24日・25日・28日 12月2日	新人看護職員研修責任者フォローアップ研修	2名
11月29日～12月1日	ファシリテーター型リーダーシップ ～ファシリテーションスキルをマネジメントに活かす～	1名
11月1日・11月2日 11月8日・11月9日	新人看護職員研修責任者研修	1名
12月2日	人工呼吸器装着患者の看護③	1名
12月3日	看護補助者の活用推進のための看護管理研修	1名
12月5日	プレゼンテーション	2名
12月7日	フィジカルアセスメント（各論循環器系）	1名
12月7日	災害看護における初期医療支援活動④	2名
12月8日	褥瘡ケア③	1名

日程	研修会名	参加人数
12月8日	慢性疾患患者のセルフケア（循環器疾患）	3名
12月12日～12月13日	実地指導者研修①	1名
12月19日～12月20日	高齢者の理解と認知症患者の看護②	2名
12月19日～12月21日	臨地実習指導者②	3名
12月22日	看護師職能委員会Ⅰ講演会「特定行為研修制度の近未来」	1名
1月12日	コーチング・コミュニケーション②	2名
1月16日～1月17日	実地指導者研修②	1名
1月18日～1月19日	管理者のためのリスクマネジメント	2名
1月19日～1月20日	救急看護1　基礎①	7名
1月23日・2月15日・3月7日	大阪府看護職員認知症対応力向上研修	2名
1月24日～1月25日	摂食・嚥下障害のある患者看護のアドバンス	1名
1月26日	高齢者のエンドオブライフケア	1名
1月27日～1月28日	地域包括ケアについて考える	1名
1月30日	医療現場における放射線看護	1名
2月4日	H28年度合同ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ大阪府における地域包括ケア ～住み慣れた地域でみんなが最期まで暮らせるために～	6名
2月13日	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	1名
2月28日	自施設のマネジメントに活かすDiNQL	6名
2月1日・2月4日	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会フォローアップ研修	1名
2月2日～2月3日	看護記録（実践編）	1名
2月7日	看護職者の目標管理	2名
2月7日～2月8日	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	6名
2月23日～2月24日	リーダーシップ②	1名
3月5日	セカンドレベル・サードレベルフォローアップ	1名
3月12日	「看護師のクリニカルラダー」活用研修	1名
3月12日	看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）～自施設での導入を目指して～	1名
	がん患者の家族ケア	3名
	がん化学療法を受ける患者の支援②	1名

4階東 138
5階西 138
5階東 138
6階西 139
6階東 139
7階西 139
7階東 140
8階西 140
8階東 140
HCU 141
ICU 141
手術室 141
透析セン 142
外来・ER 142
地域医療 142
退院調整 143
保健指導 143

《看護協会　長期研修》

日程	研修コース名	参加人数
5月20日～7月21日	第1回　認定看護管理者研修　ファーストレベル	1名
8月23日～9月2日 9月20日～9月30日	第2回　認定看護管理者研修　ファーストレベル	1名
8月10日～11月10日	認定看護管理者教育課程サードレベル	1名
5月19日～7月22日	2016年度第1回大阪府保健師助産師看護師実習指導講習会	1名
9月8日～11月9日	2016年度第2回大阪府保健師助産師看護師実習指導講習会	1名

《その他》

研修月日	開催主催	研修コース名	参加人数
6月10日～6月11日	全日本病院協会	病院看護師のための認知症対応力向上研修会	1名
7月25日7月26日	国立病院機構大阪医療センター	HIV/AIDS看護研修（初心者コース）	1名
7月24日	S-QUE研究会　日本臨床看護マネジメント学会	重症度、医療・看護必要度評価者　院内指導者研修	34名
8月21日	NPO法人TMAT	国内災害医療支援トレーニングコース	1名
8月28日	S-QUE研究会　日本臨床看護マネジメント学会	重症度、医療・看護必要度評価者　院内指導者研修	1名
11月14日11月15日	国立病院機構大阪医療センター	HIV/AIDS看護研修（応用コース）	1名
11月15日～11月18日	大阪府病院協会	循環器病総合コース	1名
12月13日	大阪府私立病院協会	『対人力アップ』に関する研修会	11名
1月14日	NPO法人TMAT	第6回国内災害医療支援トレーニングコース	3名

③研修・実習受け入れ

《看護学生受け入れ状況》

学校名	科目	期間	学生数	実習場所
小阪病院看護専門学校	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	6月1日～6月18日	5名	7階東、8階西
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	6月22日～7月9日	5名	7階東、8階西
	基礎看護学実習Ⅲ	7月13日～7月30日	8名	7階東、8階西、8階東
	基礎看護学実習Ⅰ	9月1月～9月2日	9名	6階東、7階西、8階西、8階東
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	9月7月～9月25日	5名	7階東、8階西
	成人看護学実習Ⅰ	9月28日～10月16日	4名	6階東、7階東
	小児看護学実習	10月13日～10月16日	2名	小児外来
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	10月26日～11月12日	4名	6階西、8階西
	小児看護学実習	11月9日～11月12日	2名	小児外来
	統合実習	11月24日～12月10日	6名	6階東、8階西
	基礎看護学実習Ⅱ	12月15日～12月18日	8名	6階西、7階東、8階西、8階東
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ（再補習）	1月12日～1月28日	1名	5階東

学校名	科目	期間	学生数	実習場所
小阪病院看護専門学校	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	1月12日～1月28日	6名	7階西、7階東、8階西
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	2月1日～2月18日	4名	7階西、7階東
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	2月22日～3月10日	4名	6階東、8階西
大阪府医師会看護専門学校	老年看護学実習Ⅱ	5月25日～6月12日	4名	4階東、5階東
	老年看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ	6月15日～7月3日	10名	5階東、6階西、6階東、8階東
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅲ	7月6日～7月24日	7名	4階東、6階東
	小児看護学実習	7月6日～7月17日	3名	5階西
	成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ	8月24日～9月11日	6名	4階東、6階西
	小児看護学実習	8月24日～9月4日	4名	5階西
	基礎看護学実習Ⅰ	9月14月～9月15日	9名	4階東、5階西、5階東、7階西
	老年看護学実習Ⅱ	9月28日～10月16日	3名	5階東
	小児看護学実習	10月5日～10月16日	3名	5階西
	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	10月19日～11月6日	10名	4階東、6階東、7階西、8階東
	看護の統合と実践実習	11月9日～11月27日	10名	5階西、5階東、7階西、8階東
	基礎看護学実習Ⅱ	12月7日～12月11日	9名	4階東、5階西、5階東、7階西
	基礎看護学実習Ⅲ	1月25日～2月12日	10名	4階東、5階西、6階東、8階東
	老年看護学実習Ⅰ	2月22日～3月10日	9名	4階東、5階西、5階東、8階東

《ふれあい看護体験１日看護師体験》

主催	学校名	期間	体験者数	実習場所
公立中学校	八尾市立曙川中学校	11月9日	2名	4階東
公立中学校	八尾市立曙川中学校 八尾市立成法中学校	11月10日～11月11日	2名	6階東
公立中学校	八尾市立高安中学校	11月8日～11月9日	1名	8階東
公立中学校	八尾市立上ノ島中学校	6月15日～6月16日	2名	8階東

4階東 138
5階西 138
5階東 138
6階西 139
6階東 139
7階西 139
7階東 140
8階西 140
8階東 140
HCU 141
ICU 141
手術室 141
透析セン 142
外来・ER 142
地域医療 142
退院調整 143
保健指導 143

委　員　会

―― 2016年 ――

45）呼吸ケアチーム（RST）　160
46）院内感染対策委員会（ICT）　161
47）褥瘡対策委員会　163
48）研修管理委員会　164
49）栄養サポートチーム（NST）　166
50）緩和ケアチーム　167
51）がん緩和支援委員会　168

45）呼吸ケアチーム（RST）

リハビリテーション科　難波　智矢

呼吸ケア　160
院内感染　161
褥瘡対策　163
研修管理　164
栄養サポ　166
緩和ケア　167
がん暖和　168

1. 概要

前年より患者数、単位数とも大幅に増加しており積極的な呼吸リハ介入が出来ている。

人工呼吸器装着患者様の早期介入と早期離床を行い、呼吸器外科の処方増加や軽症の呼吸器疾患患者様に対しての運動療法を積極的に導入。HOT 導入患者様への介入を行いデバイスの選択や呼吸状態の評価、HOT 指導の件数が増加。地域医療との連携を図り退院後のフォローを含めた包括的な取り組みを行っており、今後も対象患者様が増えていくことが予想される。

2. メンバー構成

医師	原田博雅、石原英樹
看護師	村中烈子、鹿山美穂、勇真麻、鴨木沙織
臨床工学技士	藤田和睦、中西孝次、藤村篤志、杉本拓弥、杉山真一、石頭翼、倉田敬済 田中佑樹、片山天翔、向井砂帆、藤里恭平
理学療法士	片田理恵、難波智矢、服部玄徳、安井友里
臨床検査技師	森文子、戸野川始

3. 実績

《呼吸リハチーム対象》

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	平均
患者数	401	380	387	376	459	500	466	571	539	552	539	489	471.6
単位数	555	569	534	536	700	813	736	919	847	788	772	690	704.9

《呼吸ケア加算対象》

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

4. 今後の目標

・入院直後からの積極的な介入、早期離床の継続
・呼吸リハ外来患者の増加
・呼吸ケア加算の算定増加

46）院内感染対策委員会（ICT）

感染対策室室長　渋谷　豊克

1. 概要

【八尾徳洲会総合病院　感染管理指針】

第１　医療従事者全員が、感染症に対する正しい認識を持ち、倫理的配慮に考慮した感染防止対策を実施します。感染対策を充実させることで、患者様が安心して医療を受けられる病院を目指します。

第２　病院長を中心に、積極的な感染対策を実施するとともに、技術的事項等を常に検討し、院内各部門への情報共有を図ります。全ての職員に対し、組織的対応の指示や、教育を行い、感染対策マニュアルに基づいて、手洗いの徹底など根拠のある感染防止対策に努めます。

第３　感染が疑われる事例が発生した場合には、速やかに対策を講じ、介入を図ります。また、重大な感染事例や集団発生の場合には、発生の原因を究明し改善策を立案します。これを実施するために、全職員への周知徹底を図ります。必要な場合には、行政などへ協力を依頼し、迅速な対応を図ります。

第４　近隣の医療・介護・福祉機関や行政と共に、地域完結型医療の一環として地域の感染制御を支援していきます。また感染における安全な在宅医療を提供していきます。

2. メンバー構成

・院内感染対策委員会　計20名
医師：2 名、看護師 3 名、事務員 2 名、臨床検査技師 3 名、薬剤師 4 名、管理栄養士 2 名
臨床工学技師 1 名、リハビリテーション技師 1 名、放射線技師 1 名、保育士 1 名

・感染対策室　計6名
看護師 1 名（専従：感染管理認定看護師）、医師 2 名（専任：ICD）
薬剤師 1 名（専任：感染制御認定薬剤師）、臨床検査技師 2 名（専任）

・ICT（感染対策推進チーム）　計16名
医師 8 名（ICD：2 名）、看護師 2 名、事務員 1 名、臨床検査師 2 名、薬剤師 3 名、
管理栄養士 1 名、臨床工学技師 1 名、リハビリテーション技師 1 名、放射線技師 1 名

・ICTリンクナース　計25名
病棟看護師 20 名、外来看護師 2 名、手術室 1 名、透析室 1 名　感染対策室 1 名

呼吸ケア 160
院内感染 161
褥瘡対策 163
研修管理 164
栄養サポ 166
緩和ケア 167
がん暖和 168

3. 実績

項目	内容
感染管理システム 地域連携	①河内地域感染管理ネットワークによる毎月の例会開催 ②中河内感染防止対策協議会への参画 感染防止対策加算 1：東朋八尾病院　松原徳洲会病院　野崎徳洲会病院 東大阪徳洲会病院　生駒市立病院 地域連携加算：石切生喜病院　市立柏原病院 地域連携ラウンド：東大阪徳洲会　八尾はぁとふる病院
感染管理教育	①院内感染対策講習会開催：5 回 ②院内講義：7 回　院外講義：6 回　公開医療講座：3 回 ③徳洲会グループアウトブレイクセミナー開催：1 回 ④ ICT ニュース発刊：40 回 ⑤感染管理有資格者育成：ICD2 名　医療環境管理士 1 名
サーベイランス	①耐性菌 surveillance：JANIS、河内地域、徳洲会グループ ② SSI surveillance：外科、肝臓外科、脳外科、整形外科、心臓外科 ③ device　surveillance：VAP　BSI　UTI　DIQUL 事業参画
感染防止技術	① ICT リンクナースによる感染管理プログラムの実践 ②徳洲会グループ　手指衛生キャンペーン開催
職業感染対策	①入職時健診：HBV、HCV、麻疹。風しん、水痘、ムンプス、T-SPOT ②ワクチン接種：HBV、麻疹、風しん、水痘、ムンプス、インフルエンザ ③労働安全衛生委員会との連携
ファシィリティ・マネジメント	①栄養科職員のノロウイルス検査の実施

《成果指標》

1）耐性菌院内発生率（%）＝新規院内発生数／（新規入院患者数＋繰り越し患者数）× 100

	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年
MRSA	1.20	1.08 ↘	1.05 ↘	0.96 ↘	1.15 ↗	0.75 ↘	0.70 ↘	0.88 ↗
MDRP	調査なし	調査なし	調査なし	0.00	0.07 ↗	0.00 ↘	0.00	0.00
ESBL	調査なし	調査なし	調査なし	0.29	0.36 ↗	0.33 ↘	0.29 ↘	0.35 ↗
MBL	調査なし	調査なし	調査なし	0.06	0.08 ↗	0.12 ↗	0.02 ↘	0.01 ↘
CRE	調査なし	調査なし	調査なし	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02 ↗
VRE	調査なし	調査なし	調査なし	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02 ↗

2）血液・体液曝露件数（件）

	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年
針刺し・切創	21	30 ↗	17 ↘	8 ↘	22 ↗	15 ↘	13 ↘	13
皮膚・粘膜曝露	調査なし	調査なし	調査なし	1	7 ↗	8 ↗	6 ↘	3 ↘

4. 今後の目標

《成果指標》

1）耐性菌院内発生率（%）2017 年

MRSA	0.5	MDRP	0.01	ESBL	0.3
MBL	0.01	CRE	0.01	VRE	0.01

2）血液・体液曝露件数（件）2017 年

針刺し・切創件数	10	皮膚・粘膜曝露件数	5

47）褥瘡対策委員会

形成外科部長　綾部　忍

1. 概要

当院は 2002 年２月より褥瘡対策委員会を発足しています。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・医事課で構成され、毎週１回の回診を行っています。

2. メンバー構成

医　　師：　綾部忍、上田真帆、谷口小百合
看　護　師：　山本喜実子、福谷美穂、井元英樹
管理栄養士：　平井あやか、池田亜紗美、刈谷美早
薬　剤　師：　南野智志、山本倫数、前田晃
理学療法士：　西川真世
医　事　課：　柏山文成、川上祐理

3. 実績

きめ細かいケアを行うため、看護部各部署にリンクナースを配備しています。

院内勉強会や高機能エアマットレスの整備を行い、褥瘡の予防に努めるとともにドレッシング材や NPWT（陰圧閉鎖療法）などを駆使した保存的治療や皮弁手術も行っています。

また学会発表も積極的に行っています。

4. 今後の目標

それぞれの専門的な知識や技術を出し合って効果的・効率的な褥瘡予防・治療を目指しています。

呼吸ケア 160
院内感染 161
褥瘡対策 163
研修管理 164
栄養サポ 166
緩和ケア 167
がん暖和 168

48）研修管理委員会

研修管理委員長　原田　博雅（院長）
プログラム責任者　髙原　良典（内科医長）

1. 概要

新臨床研修制度が必修化されて以来、継続して当院は基幹型臨床研修病院として、また大阪市立大学医学部附属病院の協力型臨床研修病院として臨床研修医の指導にあたっております。基幹型の臨床研修医の総括管理を行うのが当委員会です。

また、後期研修医の受入れに関しましても従来の制度での受入れを行いつつ、2018年度より開始される新専門医制度への対応も、当院の特色を生かしながらキャリアパスの個別性と様々な希望を配慮し初期研修から専門研修へとシームレスな移行が出来るよう企画・運営を行っております。

2. メンバー構成

研修管理委員長：原田博雅（院長）　　プログラム責任者：髙原良典（内科医長）
事務責任者：竹原浩二（事務部長）
委員：51名（内訳　院内医師10名、看護部・コメディカル11名、協力施設医師30名）
外部委員：2名（菊池内科　院長　菊池博、医療法人幸晴会　常務理事　玉田浩）

3. 実績

1）初期研修医・後期研修医の受入れ

継続した研修医の採用と研修内容が認められ2017年度より初期研修医の定員が3名から4名に増員し、マッチングの結果4名の初期研修医を迎えることが出来ました。

後期研修医の採用につきましても、昨年度の外科後期研修医（1名）に続き、内科にて1名、初期研修医から後期研修医へと入職につなげることが出来ました。

2）研修体制

指導医・上級医の下で2年間のローテート研修にて数多くの症例を経験することで、総合的な臨床能力を養うことを目的としています。研修環境について討議できる場を設け、指導医・研修医双方が主体的に研修環境の改善に取り組めるような雰囲気作りを心掛けています。

また研修医と指導医・上級医間での相互評価に加え、研修医と看護部門・コメディカル間とも相互評価を行い、互いに成長できるシステムとして機能するように配慮しています。

3）勉強会実績

研　修　内　容	開　催　日
感染症勉強会（講師：Lo 先生）	5 月 28 日～ 29 日
徳洲会グループ 1 年次研修医合同研修会	5 月 28 日～ 29 日
徳洲会グループ 2 年次研修医合同研修会	7 月 2 日～ 3 日
循環器内科勉強会（講師：藤村 治先生）	6 月 3 日
身体所見に付いての勉強会（講師:平島　修先生）	7 月 30 日
関西大阪ブロック症例検討会	8 月 6 日
徳洲会グループ 1 年次研修医中間研修会	11 月 12 日～ 13 日
関西大阪ブロック症例検討会	1 月 21 日

※他、院内レジデント勉強会、ER 勉強会を定期的に開催

4）研修医の主な卒業大学

秋田大学・金沢大学・金沢医科大学・富山大学・京都大学・大阪市立大学・大阪医科大学・関西医科大学・近畿大学・奈良県立医科大学・琉球大学・名古屋市立大学・兵庫医科大学・徳島大学、香川大学など。

当院の医局は、学閥にとらわれない開かれた医局が特徴です。研修医の出身大学も多岐にわたっています。

5）研修後の進路

当院の後期研修は、研修医の意向を踏まえた上で医師としてのキャリアを確実に伸ばせるよう柔軟な対応を心掛けています。当院での単独研修のみならず、グループメリットを生かした研修カリキュラムや他大学への研修等、開かれた風通しの良い体制作りを目指しています。

また、新専門医制度におきましては、内科、外科、総合診療科において基幹施設としての要件を満たし、申請致しました。他にも整形外科、眼科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、形成外科においても関連大学や、グループ病院の連携施設として専攻医（後期研修医）の受入れの準備を整えています。

4. 今後の目標

今後もグループ内外の説明会等に積極的に参加し、初期・後期研修医の採用活動を行い、継続した研修医の受入れが行えるよう努めます。

また、研修医の院内・院外へのカンファレンス等の参加も支援し、より一層の研修環境の改善と向上を目標とします。

呼吸ケア 160
院内感染 161
褥瘡対策 163
研修管理 164
栄養サポ 166
緩和ケア 167
がん暖和 168

49）栄養サポートチーム（NST）

NST 委員長　鈴木　大聡

1. 概要

栄養サポートチーム（以下、NST）は、特別な栄養管理を必要とする入院患者様を対象に通常の食事だけでなく静脈栄養・経腸栄養を含む全ての栄養療法における適切な栄養管理・評価・提案を行い、1 日でも早く良好な栄養状態に改善できるように活動している。

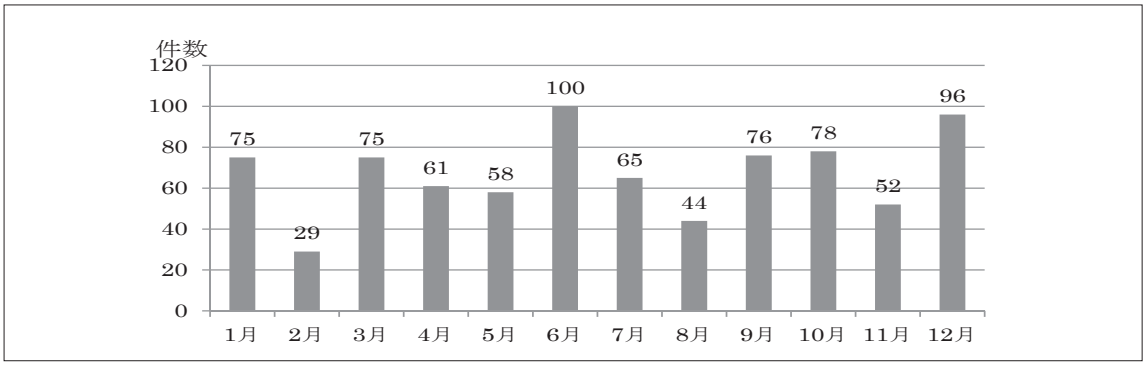
2016 年度は他施設の NST 活動を見学、グループ内の病院の見学受け入れ、新たな試みとして栄養補助食品の試食会、NST 主催で外部講師を招聘しての院内勉強会を開催するなど栄養療法推進の啓蒙活動に特に力を入れてきた。また NST メンバー以外にも各病棟に配属されているリンクナースが対象患者のスクリーニング・アセスメントに関わる機会を作り、より綿密なサポートを今後も継続できればと考えている。

2. メンバー構成

医師	2 名	臨床検査技師	2 名
看護師	14 名（リンクナース含む）	言語聴覚士	2 名
薬剤師	7 名		
管理栄養士	3 名		

3. 実績

≪ NST 加算件数≫



≪ 2016 年度勉強会・研修会≫

2016 年 6 月 1 日　栄養補助食品　試食会（協賛：明治、クリニコ、大塚製薬）

2016 年 9 月 28 日 「輸液製剤について」講師：薬局　山本倫数

「当院の NST」講師：外科　鈴木大聡

2016 年 12 月 7 日 「PICC の有用性について」

講師：大阪大学国際医工情報センター　栄養ディバイス未来医工学共同研究部門　特任教授

井上　善文　先生

4. 今後の目標

専任スタッフの育成、院内での栄養療法に関する研修などを積極的に行い、職種問わず栄養管理に興味を持って頂けるような活動を継続的に行っていく予定である。

50）緩和ケアチーム

薬剤師　小西　千尋

1. 概要

大阪府がん診療拠点病院に緩和ケアチームの設置が義務づけされており、緩和ケアについての知識と一定の資格をもった医師・看護師及び薬剤師などの多職種で構成されています。

治療が困難になった終末期の患者様だけでなく、がん治療を積極的に行っている患者様にもなるべく早い段階から身体的、精神的苦痛を和らげることができるよう活動しています。

また、がん患者様に関わる医療従事者のサポートを行うことを目的としています。

2. メンバー構成

委員長	医　師：垣本佳士
事務局兼書記	薬剤師：小西千尋
委員	医　師：村上修、高原良典、杉本貴美子
	看護師：松本静香（がん性疼痛看護認定看護師）、加藤和代、中尾吉美
	薬剤師：里岡達哉
	臨床心理士：朴祐希
	MSW：脇由佳、三谷勇一
	作業療法士：竹中温子

3. 実績

《暖和ケアチーム介入件数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
15	14	15	15	14	14	24	17	30	27	15	23	223	18.5

≪がん種別介入件数≫

肺	大腸	胃	肝	胆管（胆嚢含）	膵	前立腺	その他
7	24	18	2	4	17	3	17

≪院内暖和ケア研修会≫

開催日	講演1	講演2	参加者
5月26日	緩和ケアチームの案内	緩和ケア概論	48名
		呼吸困難	
7月28日	精神的ケア	がん性疼痛の評価と治療	50名
11月24日	リンパ浮腫	オピオイドを開始するとき	24名

4. 今後の目標

・病棟カンファレンスへ参加し、主治医・病棟スタッフとの連携を強化していきたい。
・デスカンファレンスを開催し、症例の振り返りを行うことで今後に向けての改善やスタッフの心のケアを行いたい。
・学会発表を行い、チームのレベルアップを図りたい。

51）がん緩和支援委員会

がん性疼痛看護認定看護師　松本　静香

呼吸ケア　160
院内感染　161
褥瘡対策　163
研修管理　164
栄養サポ　166
緩和ケア　167
がん暖和　168

1. 概要

がん診療に関し診療密度の高い医療を提供し、大阪府がん診療拠点病院として指定要件を満たすことを目的とする。がん患者様と家族の QOL を向上させるために、がんの全ての病期、治療過程において出現する身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな問題に対し、積極的、継続的かつ総合的な緩和ケアを提供するための体制づくりを目的として、がん緩和支援委員会（以下「委員会」という）を設置している。

2. メンバー構成

委員長：	外科医師	垣本佳士（緩和ケア研修指導者）
事務局長兼書記：	薬剤師	小西千尋
委員：	内科医師	高原良典
	心療内科医師	杉本貴美子
	医事課	村田雅一
	看護部	松本静香（がん性疼痛看護認定看護師）
	看護部	加藤和代
	看護部	中尾吉美
	心理療法士	朴祐希
	作業療法士	竹中温子
	MSW	脇由佳（がん相談支援専門員）
	MSW	三谷勇一

3. 実績

《がん指導管理料》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	平均
がん指導管理料1	7	7	6	3	4	8	9	7	10	3	7	5	76	6.3
がん指導管理料2	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1	7	0.6
がん指導管理料3	11	10	21	20	24	31	35	40	31	22	18	28	291	24.3

≪スクリーニング件数≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	平均
Dr/Nsの介入希望	7	7	5	6	7	6	2	4	7	5	2	12	70	5.8
MSWの介入希望	4	3	4	1	3	3	0	1	7	1	3	4	34	2.8
サービスについて	3	6	4	8	8	5	1	5	7	2	3	8	60	5.0
介入不要	35	21	14	28	25	27	20	34	19	22	17	22	284	23.7

≪がん地域連携パス件数≫

	胃がんF	胃がんケモ	大腸がんF	大腸がんケモ	乳がん
適応件数	16	0	31	0	3
実施件数	9	0	13	0	3

4. 今後の目標

今年度も大阪府がん診療拠点病院として指定要件を満たし更新することができた。次年度に向け、がん対策基本法が改正され就労支援など新たな要件が設けられる可能性が高い。入院・外来・在宅を通じて継続したがん患者様の支援が充足するような体制を整えていく。

関　連　施　設

―― 2016年 ――

52）八尾徳洲会介護センター　172
53）よろこび訪問看護ステーション　175
54）よろこび訪問看護介護センター　177
55）介護老人保健施設 八尾徳洲苑　179
56）八尾徳洲苑介護センター　189
57）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷　191

52）八尾徳洲会介護センター

管理者　矢竹　千津栄

介護セン 172
よろこび訪問看護 175
よろこび訪問看護介護 177
徳洲苑 179
徳洲苑介護セン 189
特養久宝寺愛の郷 191

1. 概要

2018 年度の介護保険制度改正は、制度の持続可能性の確保と地域包括ケアシステムの深化・推進の 2 つの観点から進められています。その中でも利用者負担のあり方について、3 割負担の導入が予定されており、より応能負担増が鮮明になっています。今回は見送られた軽度者に対する生活援助や福祉用具の自己負担化は、先送りになったに過ぎず、次々回での検討が予定されています。介護の社会化とは逆行するような高齢者にとって厳しい状況の下、当事業所は先日、行政の実地指導を終え、柔軟で多様かつ質の高いケアマネジメントを実践できていることを自負し、今後も継続していくと気持ちを新たにしたところです。今年度より義務化された実習生の受け入れなど、特定事業所としての役割も果たしながら地域に貢献できる、選ばれる事業所でありたいと考えています。

2. メンバー構成

矢竹千津栄（主任介護支援専門員）　井澤瞳（主任介護支援専門員）　佐藤貴子（介護支援専門員）

3. 実績

1）業務実績

《介護度別人数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
要介護1	20	21	22	25	24	25	23	23	29	25	27	26	290
要介護2	29	26	29	27	28	27	24	22	22	25	23	23	305
要介護3	22	22	20	19	23	25	23	21	22	19	23	20	259
要介護4	17	17	16	17	14	15	17	18	16	15	14	14	190
要介護5	13	13	12	11	11	11	16	14	14	12	11	12	150
利用者合計	101	99	99	99	100	103	103	98	103	96	98	95	1,194

《加算》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初回加算	1	3	1	3	1	1	3	4	4	3	2	3	29
入院時情報連携加算（Ⅰ）	1	5	2	5	3	6	4	6	1	4	2	3	42
入院時情報連携加算（Ⅱ）	1	3	0	2	1	0	2	1	1	0	1	4	16
退院・退所加算	1	7	3	4	3	2	3	6	2	6	1	4	42
小規模多機能連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護小規模多機能連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緊急時等居宅カンファレンス加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加算合計	4	18	6	14	8	9	12	17	8	13	6	14	129

《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
モニタリング訪問	101	100	100	101	100	104	104	101	103	96	97	94	1,201
サービス担当者会議	24	28	29	18	13	23	18	28	19	25	21	14	260
認定調査	10	13	10	12	12	10	10	13	13	12	10	5	130

2）研修

・法定研修

6/2、6/6、6/14、7/13、8/4、8/17、8/29、10/7

2016 年度　大阪府介護支援専門員　専門課程Ⅱ研修　矢竹

5/2、5/31、6/24、7/12、7/25、8/16、8/29、9/6

2016 度　大阪府主任介護支援専門員　更新研修　井澤

・大阪府、各市町村主催の研修・連絡会

［大阪府］

8/20　大阪府保険医協会　地域医療対策部／病院部
シンポジウム「本音で語る在宅移行」矢竹

11/5　大阪府訪問看護実践研修事業　緩和ケア研修会地域連携シンポジウム
「人生の最終段階におけるケアのあり方について考える」
～中河内圏内で安心して療養をしていただくために～　井澤

［八尾市］

3/22　八尾市認定調査員研修（応用編）　佐藤

5/12　2016 年度　介護保険制度における指定介護サービス事業者集団指導　矢竹

8/24　八尾保健所　アルコール健康障害対策基本法とアルコール依存症について　井澤

10/8　地域包括ケアシステム講演会
～全員参加型で 2025 年問題を乗り越えるための地域支え合い体制づくり～　井澤

［八尾市介護保険事業者連絡協議会］

2/26　2015 年度　八尾市介護保険事業者連絡協議会総会
研修会「多様な視点から『人権』と『障害』を考える」井澤

6/21　2016 年度　第 1 回　八尾市介護保険事業者連絡協議会総会
研修会「LGBT について」佐藤

7/15　2016 年度　第 1 回　定例会　施設サービス事業者部会との合同研修会
「施設の生活相談員と介護支援専門員の顔がみえる関係づくり」井澤

11/15　2016 年度　第 2 回　定例会
居宅介護支援事業者部会・地域包括支援センター合同研修会
「地域づくりの取り組みから見えてくるもの」　佐藤

・大阪介護支援専門員協会

1/13　2015 年度　スキルアップ講座　第 2 回「対人援助の原点と本質を学ぶ」
～当事者理解を深める視点と態度～　井澤、佐藤

2/22　2015 年度　スキルアップ講座　第 3 回「対人援助の原点と本質を学ぶ」
～よい援助関係を築くための話を聞く技術～　佐藤

3/17　2016 年度からの新カリキュラムに基づく実務過程受入実習の説明会　矢竹、井澤

介護セン 172
よろこび訪問看護 175
よろこび訪問看護介護 177
徳洲苑 179
徳洲苑介護セン 189
特養久宝寺愛の郷 191

6/17　大阪介護支援専門員協会　八尾支部　第 12 回総会　制度改正に関する講演会
研究発表・活動報告　佐藤
9/29　2016 年度　スキルアップ講座
「第 1 回　精神疾患（統合失調症や感情障がいなど）に対する理解と対応」 佐藤
10/21　2016 年度　スキルアップ講座
「第 2 回　精神疾患　受診までの支援、入院導入時の病院との連携について」 佐藤
11/24　介護支援専門員実務研修実習受入事業者説明会　矢竹

・学会参加
2/19・20　第 15 回　近畿介護支援専門員研究大会　京都大会
暮らしをつなぐケアマネジメント～早春の京で学ぶ “守破離” ～矢竹、井澤、佐藤

・事業所内
［疾患別研修］
1/14、2/12、2/13、3/10、4/14、4/15、5/13、5/19、6/9、7/14、8/10、9/15、10/14、12/8
［認知症研修］
2/18、4/21、6/16、9/1、10/19、12/15
［事例研究］
1/21、3/17、5/19、7/21、9/9、11/17
［症例検討・報告、情報提供、伝達研修］
1/7、1/16、1/28、2/4、2/25、3/3、3/24、3/31、4/5、4/7、4/8、4/13、4/15、4/19、4/25、4/27、4/28、5/6、5/9、5/13、5/20、5/23、5/26、6/4、6/23、6/30、7/7、7/28、8/4、8/18、8/25、9/7、9/21、9/27、10/6、10/27、11/4、11/10、11/16、11/24、12/1、12/29

・法人内
9/3　介護保険事業　法令遵守ブロック研修会「介護保険事業法令遵守ブロック研修」矢竹
11/9　九州・離島・沖縄・関西大阪ブロック　介護部会合同研修会「論文の書き方」 矢竹

・その他
3/4　介護事業所におけるマイナンバー導入へ向けて　～制度の理解と安全管理～　矢竹
10/6　第 19 回八尾地区糖尿病連携会　井澤
10/13　白岩内科医院・八尾徳洲会総合病院　第 3 回合同カンファレンス
“社会資源の有効活用と地域医連携” 矢竹

4. 今後の目標
・特定事業所としての教育的役割での貢献
・地域包括ケアにおける関係機関とのさらなる連携強化
・研修や学会参加など継続した自己研鑽

53）よろこび訪問看護ステーション

管理者　森　浩子

1. 概要

営利法人や株式会社による訪問看護業界の参入により、八尾の訪問看護ステーションは倍増した。独自の料金体系や給与体系を持ち､顧客開拓にはその道のプロが直接交渉されると聞く。

また新たに医療法人としての認可を受けたクリニックが独自にステーションを持ち、患者様の囲い込みも始まった。今年20年目を迎えた当ステーションは試練の年だった。看護師スタッフはなんとか昨年より増やすことができ、新しい風を入れることができたので、前半は順調に数を増やすことができた。しかし、病院から退院される利用者の紹介が次第に減り、これまでの地域のクリニックやケアプランセンターからの紹介も、昨年末の事務所引越により減ってしまった。後半は新規利用者の獲得が少なく、大きく訪問件数を伸ばすことができなかった。

年末に市の指導が入ったことから、記録について振り返り、見直す機会を得られたことは良かったと思われる。

2. メンバー構成

常　勤：森浩子、見崎加奈、清水琴美

非常勤：辻本由加里、田中光枝、斯波奈津子

3. 実績

《訪問看護》

項目＼月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
利　用　者	46	48	49	49	48	51	49	50	50	46	45	45	576	48.0
訪問件数	319	321	320	311	349	357	337	361	392	369	348	320	4,104	342.0
新規導入者	1	6	3	6	2	5	2	3	3	1	1	4	37	3.1
終了者(その他)	1	1	3	0	0	1	1	1	3	2	1	3	17	1.4
終了者(死　亡)	4	1	3	2	2	3	1	2	2	0	3	2	25	2.1

《研修及び行事》

1月23日　平成27年度大阪府訪問看護ステーションシンポジウム「在宅医療の戦力　訪問看護」：見崎

1月30日　平成27年度第2回「難病実務担当者会議・合同研修会」：見崎

2月12～13日　徳洲会訪問看護ステーション管理者研修：森

2月17日　平成27年度在宅高度医療児等地域ケア推進検討会議：見崎

2月26日　八尾市介護保険事業者連絡協議会総会・研修会（八尾プリズムホール）：森

3月 6日　平成28年度社会保険診療報酬改定説明会（大阪府看護協会）：森

3月17日　八尾市地域ケア連絡協議会・地域包括支援センター運営協議会：森

3月23日　訪問看護ステーション協会中河内ブロック管理者会：森

介護セン 172
よろこび訪問看護 175
よろこび訪問看護介護 177
徳洲苑 179
徳洲苑介護セン 189
特養久宝寺愛の郷 191

3月25日　八尾市地域密着型サービス運営協議会：森
3月26日　八尾市居宅サービス部会訪問看護グループ研修会：森・見崎
4月22日　慢性期医療展2016（インテックス大阪）：辻本
5月10日　八尾市居宅サービス部会幹事会：森
5月11・12日　太成学院大学　専門課程講師：森
5月14日　医療的ケア教員講習会：森
5月28日　医療的ケア教員講習会：辻本・見崎
6月17日　認知症ケア（院内研修）：見崎・田中
7月29日　八尾市地域包括支援センター運営協議会八尾市地域ケア連絡協議会：森
8月19日　八尾市介護保険事業者連絡協議会居宅サービス事業者部会合同研修会：森
9月12日　平成28年度第1回「難病実務担当者会議・合同研修会」：森
11月1日　よろこび訪問看護ステーション創立20周年
11月2～3日　平成28年度徳洲会グループ訪問看護ステーション管理者研修：森
11月26日　八尾市糖尿病健康フォーラム：森
11月29日　平成28年度第2回八尾市地域包括支援センター運営協議会：森
12月10日　平成28年度大阪府訪問看護推進事業　訪問看護実務研修会：森
12月22日　実地指導（八尾市福祉指導監査課）

4. 今後の目標

また退職者も出るので、更にスタッフの増員（看護師はもちろんのこと、現在病院より派遣頂いているので、理学療法士や作業療法士も）を図る。

ソフトの改正もあり、記録全体の見直しで時間短縮をしながらスタッフのコミュニケーションを円滑に運ぶ方法を模索する。

54）よろこび訪問看護介護センター

管理者　新安　弘和

1. 概要

よろこび訪問看護介護センターは、2016 年度は訪問件数が前年比 5％ほど減少しましたが、その空いた時間を利用し、前年同様、職員の「質の向上」のための研修に積極的に参加いたしました。また、八尾市中心部へ移転したため、利用者様宅へもスムースに移動できるようになりました。「訪問介護は、**“よろこび”**でなきゃ！」、「**“よろこび“**に介護をしてもらいたい」と思って頂けるようスタッフ一丸となって、日々、努力をして参ります。

2. メンバー構成

管　　理　　者：新安弘和
サービス提供責任者：小野孝子（介護福祉士）、三島麻美（介護福祉士）
訪問介護員　常　勤：小野孝子（兼務）、三島麻美（兼務）
　　非常勤：徳永秀美、星川順華、中西順子、村井きよみ

3. 実績

《訪問介護》

項目＼月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
登録者	27	27	26	24	27	27	25	27	29	28	30	29	326	27.2
訪問件数	320	347	312	294	266	320	335	309	317	383	391	341	3,935	327.9
重度利用者率	77.7%	76.7%	71.0%	70.2%	62.3%	60.9%	68.4%	68.4%	65.6%	64.9%	73.4%	67.5%	69.1%	69.1%
新規利用者	0	2	2	1	3	2	0	3	2	1	2	1	19	1.6
終了者	2	3	3	0	2	2	0	0	2	0	2	0	16	1.3

《研修及び行事》

1月20日　「倫理と法令遵守について考える」（八尾徳洲苑）：小野・三島
2月26日　「八尾市介護保険事業者連絡協議会 総会」（八尾プリズムホール）：新安
2月26日　「八尾市介護保険事業者連絡協議会 研修会」（八尾プリズムホール）：新安・小野
5月9日　「おむつの使用方法」（八尾徳洲苑）：村井
6月24日　「第2回 介護リーダー研修会」（吹田徳洲会病院）：三島
7月13日　「褥瘡ケアについて」（八尾徳洲苑）：徳永
8月19日　居宅サービス部会同研修会「地域での救急を考える～こんなときどうする～」（八尾プリズムホール）：小野・三島
9月3日　関西・大阪ブロック「徳洲会グループ　介護保険法令遵守　研修会」（吹田徳洲会病院）：新安
10月8日　「地域包括ケアシステム講演会」（八尾商工会議所）：新安
10月25日　「ヘルパー便利マップ」（ホーム太子堂）：小野

11月30日　「アスメントに基づく訪問介護計画作成について」（サポートやお）：新安
12月13日　「モニタリングとサービス評価について」（サポートやお）：小野

12月22日　実地指導（八尾市福祉指導監査課）

4. 今後の目標

・より良い介護サービスを実施します。
・特定事業所加算Ⅳからさらなるレベルup（Ⅰ～Ⅲ）を目指します。
・利用者様、居宅支援事業者からの依頼を断らないことを目指します。

介護セン 172
よろこび 訪問看護 175
よろこび 訪問看護介護 177
徳洲苑 179
徳洲苑 介護セン 189
特養久宝寺 愛の郷 191

55）介護老人保健施設　八尾徳洲苑

施設長　高寺　博史

1. 概要

2016 年度の業務を報告します。年度当初にインフルエンザの集団発症があり、対応に苦慮しましたが、これに起因したと考えられる重篤例はなく、幸い終息を迎えました。毎年繰り返すことでもあり、対応法も徐々に向上して来たと思われます。慢性呼吸困難の利用者も増加しており、今後とも集団感染には最大限の注意を払う必要があります。

9 月には第 27 回介護老人保健施設大会が大阪で開催され、当苑からも 8 件の演題を発表する機会がありました。苑としてのみならず、発表者個々人としても仕事の質の向上と将来への努力目標の構築のために、有意義な機会でした。今後とも積極的な学会活動を支援する所存です。

大会でも高齢者多剤服用の問題が取り上げられました。高齢者に対する投薬開始だけでなく、積極的に中止する判断も今後ますます重要性を持ってくると思われます。大会に先立つ 6 月には、日本糖尿病学会と日本老年医学会により「高齢者糖尿病の血糖管理の目標値」が発表され、目標値が大幅に緩和されました。今後とも真剣に受け入れるべき流れが始まったと考えています。

2016 年度も通所利用者の減少が問題でしたが、悲惨な結末に至る老老介護の問題などからも通所さらに短期入所の利点を地域に訴え、利用者の増加につなげたいと考えています。

皆様のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

2. 実績

《利用者数実績》

1）入所療養介護（長期入所）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	98	99	94	99	96	98	104	102	99	97	103	93	1187	98.9	2%
延べ人数	2,755	2,530	2,652	2,564	2,651	2,557	2,795	2,827	2,708	2,790	2,615	2,454	31,898	2,658	6%

2）短期入所療養介護（ショートステイ）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	44	46	44	46	48	48	43	41	35	49	47	41	532	44.3	－17%
延べ人数	191	171	146	154	191	199	167	148	119	173	155	256	2,070	172.5	－41%

介護セン 172
よろこび訪問看護 175
よろこび訪問看護介護 177
徳洲苑 179
徳洲苑介護セン 189
特養久宝寺愛の郷 191

3）通所リハビリテーション（デイケア）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	96	98	100	102	101	104	99	96	97	98	101	93	1,185	98.7	－12%
延べ人数	752	821	876	872	886	891	864	868	861	861	865	865	10,282	856.8	－2%

《入所経路と在宅復帰》（長期入所）

1）入所前場所

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	3	1				1	5	2		2	1	3	18	－19%
八尾徳洲会総合病院	3	7	9	12	7	11	6	6	7	9	9	5	91	－44%
他病院	2	2	4	4	5	1	1	5	3	1	5	2	35	34%
老健						1							1	－75%
他施設	2	1	1	2	1	4	2		1	1			15	114%
合計人数	10	11	14	18	13	18	14	13	11	13	15	10	160	－28%

2）退所先

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	2	2	4	5	4	3	3	4	6	9	5	3	50	20%
八尾徳洲会総合病院	7	7	6	7	5	4	8	6	6	4	9	4	73	－23%
他病院	1	1				1							3	50%
特養		3			2	1				1			7	－61%
老健		1					1						2	0%
死亡(看取り)	1	2			1				1				5	0%
その他施設		1	3	4		4	3	2			3		20	5%
合計人数	11	17	13	16	12	13	15	12	13	14	17	7	149	－28%
在宅復帰率	20%	20%	54%	56%	36%	54%	40%	50%	50%	64%	47%	43%	48.6%	18%

一年間の在宅復帰率は、46.0%（前年 56.8%）である。

《医療依存度》

1）重症度症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平均要介護度	3.4	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.6	3.5	3.5	3.6	3.6	−	3.47
経管栄養	279	259	214	217	227	219	250	235	181	228	189	164	2,662	221.8
インシュリン	127	94	83	109	91	69	68	52	51	93	37	33	907	75.5
褥瘡処置	93	152	117	106	131	158	129	151	166	127	96	97	1,523	126.9
酸素吸引	87	99	91	85	95	36	72	95	75	66	73	70	944	78.6
頻回吸引	171	101	118	90	78	127	174	162	177	158	124	144	1,624	135.3
点滴注射	91	127	74	54	51	62	47	70	134	55	30	56	851	70.9

稼働床に対する割合

2）看取り件数（過去 13 年）

2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	合計	平均	前年比
4件	10件	15件	15件	10件	15件	9件	7 件	10件	12件	2件	5件	3件	117件	9件	−60%

3）重症者搬送件数

八尾徳洲会総合病院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
	2	2	4	4	3	1	2	1	2	1	5	3	30	2.5	15%

【機能訓練室】　　理学療法士副室長　山田　知絵

1. 概要

人員状況は OT の育休明けの復帰により、通常のセラピスト在籍数に戻りました。個別リハ業務量に関して、加算算定者は前年度とほぼ同数でしたが、加算外の訓練数が大きく数字を伸ばしました。要因として加算算定が可能な入所日から 3 ヵ月間を超える入所者の増加、それに伴い退所されるまでの期間、個別リハによる機能維持の必要性が高くなったことが考えられます。入所者様、ご家族への在宅復帰支援と、施設の在宅復帰率の維持・向上に関しても各セラピストが意識をもち、前年度同様に関与できました。次年度も個別リハの提供の充実だけではなく、在宅復帰に向け、日々の生活の中で心身機能、活動を維持・向上させ、QOL 向上に繋げるために、多職種と連携、協同し携わっていきます。

部署内では外部研修や学会発表に積極的に参加し、個々のスキルアップに努めました。部署内だけではなく、施設全体の教育体制やケアの質向上、人材育成のための委員会活動で中核的な役割を担い、各種システムの構築や教育活動に力を入れました。また大阪府認知症介護指導者の活動に加え、学会発表や論文掲載を通じた認知症ケアの啓蒙、認知症ケア教育や安全管理・高齢者虐待防止に関する活動を施設内外で積極的に進めました。今後も施設内外問わず、意欲的に活動を継続させていただきたいと思います。

介護セン 172
よろこび訪問看護 175
よろこび訪問看護介護 177
徳洲苑 179
徳洲苑介護セン 189
特養久宝寺愛の郷 191

2. メンバー構成

理学療法士　4 名・作業療法士　1 名（2017 年 1 月現在）

3. 実績

《通所・入所　個別リハ実施件数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
実施延べ数	804	798	908	870	943	1,049	1,114	1,222	1,046	1,041	974	979	11,748	979
内、加算算定数	422	372	388	404	461	500	478	484	361	387	414	383	5,054	421

≪外部研修参加≫

・認知症介護研究・研修大府センター「論文化支援プログラム」（PT土井）
・認知症介護指導者大府ネットワーク「福祉現場のOJT活用術」（PT土井）

≪講師・講演活動≫

PT 山田：・大阪府　認知症介護実践者研修
・八尾市　認知症啓発講演会　「認知症になっても住み慣れた地域で暮らせるために」

PT 土井：・大阪府 認知症介護基礎研修
・大阪府　認知症介護実践者研修
・認知症介護研究・研修大府センター 認知症介護指導者養成研修「模擬授業（コメンテーター）」
・奈良リハビリテーション専門学校　理学療法学科「脳疾患患者に対する理学療法」
・社会福祉法人 野田福祉会「ボディメカニクスについて」
・社会福祉法人 天心会「高齢者虐待の現状とサービス従事者の心得」
・大阪介護福祉士会　「接遇、身体拘束について考える」
・吹田市・吹田地区特別養護老人ホーム連絡会　「高齢者虐待の理解と具体的な取り組みについて」
・認知症介護指導者大府ネットワーク「新カリキュラム情報交換会」
・徳洲会介護部会　老健合同研修会「認知症ケアの歴史から、私たちのケアを振り返る」

【栄養科】　管理栄養士副主任　樋口　晶代

1. 概要

栄養科では栄養ケア・マネジメントや療養食（糖尿病食・心臓病食・貧血食）対応など個々の栄養管理に加え、経口維持加算の改定後、より充実した「口から食べる」ことへの支援を求められるようになりました。そのため、嚥下障害を有する方や食事摂取に関する認知機能の低下が見られる方に、多職種連携での食事観察・評価を行い経口維持支援の充実を行っています。

また、安全な食事の提供とともに、利用者様に「食」を楽しんでいただけるよう「お楽しみランチ」など、毎月さまざまな行事食やイベント食を実施しています。通所利用者様への「おかず選択週間」や、「パンバイキング」、「揚げたて天ぷら」も好評であり、屋台を設置しての「た

こ焼き」「鯛焼き」や、「おやつ選択食」、利用者様参加型の「おやつ実習（入所：日曜日、通所：水曜日）」も継続して実施しています。

今後も利用者様に安全で美味しい食事の提供、また楽しんでいただけるイベント食の充実を行い、個々に応じた栄養ケアを実施していきたいと思います。

2. メンバー構成

管理栄養士　樋口晶代

3. 実績

1）療養食加算（長期入所）　件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
531	426	390	394	470	529	536	502	574	642	590	543	6,127	510

2）経口維持加算（Ⅰ）　人数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
25	23	22	23	21	25	19	20	19	21	21	25	264	22

3）内部研修

1月　1～3日：正月おせち料理、新年会 松花堂弁当
　　鶴橋風月お好み焼き（風月来苑）
2月　節分 巻き寿司、屋台 鯛焼き
4月　春のお花見弁当、（デイ）揚げたて天ぷら、屋台おでん
5月　端午の節句　弁当、屋台 鯛焼き
6月　（デイ）お楽しみランチバイキング
7月　七夕　ちらし寿司と七夕そうめん
　　夏祭り　屋台（御家族様と一緒に食事）
8月　お楽しみランチ　寿司バイキング、（デイ）揚げたて天ぷら
9月　敬老会　松花堂弁当
10月　運動会 ランチバイキング、（デイ）揚げたて天ぷら、屋台おでん
11月　秋の弁当、鶴橋風月お好み焼き（風月来苑）
12月　クリスマス食事会　（御家族様と一緒に食事）、（デイ）クリスマス　お楽しみランチ

4）実習生受け入れ

・関西福祉科学大学健康福祉部福祉栄養学科　　臨床栄養臨地実習　実習生2名
・全国老人保健施設協会より実地研修受け入れ　　栄養ケア・マネジメントに関する実地研修
　介護老人保健施設 管理栄養士　4施設4名

5）外部研修

・全国介護老人保健施設　大阪大会

介護セン 172
よろこび訪問看護 175
よろこび訪問看護介護 177
徳洲苑 179
徳洲苑介護セン 189
特養久宝寺愛の郷 191

【支援相談員】　　支援相談員副主任　北出　眞和

1. 概要

長期入所･短期入所･通所リハビリテーションを希望される方の窓口となり、相談対応を行っています。

入所は100床あるベッドを運用し、入退所調整を行っています。100床中約5床は短期入所として活用しています。

2016年に関しては、短期入所希望者の減少に伴い、長期入所希望者の受け入れ調整を重点的に実施しました。

入所サービスは基本的に要介護認定を受けられ、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、在宅への復帰を目指すために、各職種との協働の下、リハビリテーション・栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供するサービスとして、相談対応させていただいております。

今年の傾向としては、入所者数162名の内、協力医療機関の八尾徳洲会総合病院からの紹介者数は91名となっており、約56%の方を紹介していただきました。2015年と比べると紹介数の減少がみられました。連携強化の継続に努めていきたいと考えています。八尾市内･大阪市･柏原市・東大阪市といった近隣の医療関係との相談対応を迅速に行い、全体の23%の方の紹介をいただきました。こちらに関しては、2015年と比べ増加がみられました。

2016年12月からは在宅復帰強化型を取得し、地域包括ケア病棟を要する病院からの紹介も増えてきました。

今後も新しい取り組み等、医療機関に対して積極的に情報発信していき、後方支援先としての協力体制を整えていきたいと考えています。

2. メンバー構成

北出眞和　福島真紀子

3. 実績

160名の方が退所されました。内在宅復帰50名（35%）病院搬送76名（49%）特養入所者7名（1%）有料老人ホーム入所者（有料･サービス付き高齢者向け住宅など含む）20名（13%）看取り対応含む死亡退所者5名（1%）となっております。本年の年間在宅復帰率は45%。昨年に比べ、在宅復帰率は上がりました。体調を崩され、入院される方が今年も多かった印象ですが、フォーマル・インフォーマルな資源の提供や本人・家族のご意向を確認し、在宅復帰援助に努めた結果、在宅復帰率は向上がみられました。

4. 今後の目標

長期入所に関しては在宅復帰強化型を維持し、安定した入所者数の確保ができるよう調整していきたいです。

短期入所の相談に関しては、特別養護老人ホームなどでの対応が難しい医療依存度の高い方の受け入れを案内しましたが、利用者数の減少がみられます。引き続き調整は行っていきたいです。

通所リハビリテーションは定員 60 名に対して、稼働率の低下がみられます。利用者数の状況からみても、利用者数のムラが大きくみられ、今後の課題と考えています。医療機関や地域からの相談に対して迅速に対応し、地域の窓口としていけるように取り組んでいくと共に、施設運営の向上に繋がる支援体制を今後も構築していけるように努力していきたいと思います。

【介護・看護部】　　総看護師長　武田　郁子

1. 概要

看護介護部では利用者様とその家族様に安全確保しながら、安心して利用いただける看護・介護の質の向上に努めました。

デイケアは坂井主任を中心に利用者様との良い関係を構築し、介護の質向上を目指しています。新たな取り組みも積極的に行っていきます。

1 階フロアは松村看護主任、西田介護主任のもと利用者様の意思を尊重しながら、それぞれの利用者様に合ったケアを目指しています。介護度が高い利用者様にも対応出来るよう努めます。

2 階フロアは上杉看護主任、山下、山﨑介護副主任のもと安全確保、事故防止に努めています。

認知症ケアも個別に行えるよう日々の実践から学べるよう努力しています。

≪年間行事≫

1月　新年会 創作和太鼓、獅子舞
5月　咲くやこの花館外出
6月　咲くやこの花館外出
7月　夏祭り　木の本婦人会による盆踊り・職員による屋台
9月　敬老会　長寿さまの表彰・大正琴クラブの発表
10月　運動会　利用者・入所者様全員参加の運動会
12月　クリスマス会　曙川南中学校の吹奏楽演奏・キッズダンスクラブ

介護セン 172
よろこび訪問看護 175
よろこび訪問看護介護 177
徳洲苑 179
徳洲苑介護セン 189
特養久宝寺愛の郷 191

2. 実績

1）看護介護目標と成果

目　　標	成　　果
デイケア： 看護　体調管理に努め、異常の早期発見に努める 介護　ADL維持向上を目指しできる限り在宅での生活に合わせたサービスを行っていく	・体調変化に気付き情報共有している ・家族様やケアマネから家庭での様子を聞き、活かしている ・利用者のニーズに合わせるよう努めた
1階：業務の標準化を行い質の向上に取り組む	・チェックリスト作成出来たので、今後は活用していく ・フロア職員への周知、徹底
2階：①笑顔で挨拶 ②聴くことを大切にします ③1人1人に会ったケアを行います	・成果としては不十分であるが、少しでも意識変化出来るよう努める ・業務に流され時間の有効活用が出来ず今後の課題

2）教育人材育成

・実務者研修受講　2名

・認知症介護実践者研修の資格取得　1名受講し、資格取得

3）身体拘束委員会　　身体拘束　ゼロの継続が実行出来ている

4）事故防止委員会　　転倒転落事例の検討し、個別対応に努めている

5）感染対策委員会　　インフルエンザ、ノロなどの集団感染予防に努めている

6）外部研修

研修日	研修内容	主催
5/24(火)	認知症介護実践者研修	大阪介護老人保健施設協会
5/18(水)	施設における感染対策	介護部会(老健合同勉強会)
6/8(水)	地域包括ケアにおける活動と実際	大阪介護老人保健施設協会
6/9(木)	集団指導	大阪府
6/14(火)	認知症介護基礎研修	大阪府
6/21(火)	人権研修	八尾市介護保険事業者連絡協議会
6/24(金)	介護リーダー研修	徳洲会介護部会
7/13(水)	法令順守、身体拘束防止研修	八尾市介護保険事業者連絡協議会
7/15(金)	事例発表会	大阪介護老人保健施設協会
7/31(日)	地域包括ケア	徳洲会介護部会
8/17(水)	身体拘束廃止・高齢者虐待防止	介護部会(老健合同勉強会)
9/1(木)	医療チームの安全を支えるノンテクニカルスキル	介護部会(老健合同勉強会)
9/3(土)	法令遵守	徳洲会介護部会
9/5(月)	転倒・腰痛災害研修	労働基準監督署
9/5(月)	身体拘束ゼロ推進委員養成研修	大阪府
9/13(火)	急変時対応勉強会	合同勉強会
9/14～16	全国介護老人保健施設大会(大阪)	全国介護老人保健施設協会
9/21(水)	法令遵守研修	徳洲会介護部会
10/1(土)	リーダーセミナー1	大阪府看護連盟
10/3(月)	身体拘束ゼロ推進委員養成研修	大阪府
10/18(火)	看取り介護について	3施設合同勉強会
10/21(金)	アンガーマネージメント	看護協会　府東支部
10/27(木)	接遇研修	徳洲会介護部会
11/8(火)	アセッサー集団研修	シルバーサービス振興会
11/9(水)	演題を発表する	徳洲会介護部会
11/17(木)	施設CM研修	徳洲会介護部会
11/18(金)	認知症研修	大阪府看護連盟　府東支部
11/23(水)	KICN感染対策研修	KICN
12/1(木)	集団指導	大阪府
12/10(土)	リーダーセミナー2	大阪府看護連盟
12/13(火)	施設管理者交流会	大阪府看護協会

介護セン 172
よろこび訪問看護 175
よろこび訪問看護介護 177
徳洲苑 179
徳洲苑介護セン 189
特養久宝寺愛の郷 191

7）内部研修

1月　介護職の医療行為、法令遵守
2月　事故報告について
3月　消防訓練、睡眠について
5月　オムツの使用方法
6月　食中毒予防
7月　高齢者の脱水対策、介護保険制度について
8月　急変時対応
9月　急変時対応
10月　介護施設での感染対策、認知症ケア
11月　大阪大会発表、アンガーマネージメント
12月　認知症ケア、身体拘束、低栄養について

8）医療福祉講演会

3月　知りましょう高齢者虐待・防ぎましょう高齢者虐待
6月　八尾徳洲苑でのレクリエーション
9月　介護老人保健施設の役割について
12月　インフルエンザの最新情報について

9）家族会講義

3月　調理実習体験と座談会
6月　睡眠について
9月　腰痛予防・尿失禁体操
12月　家庭でできる感染対策

10）実習受け入れ

・大阪府医師会看護専門学校　　看護師実習生37名　　在宅看護論（4/11～12/1）
・大精協看護専門学校　　准看護師実習生73名　　老年看護（8/2～12/2）

11）体験学習

・八尾市立大正中学校　　実習生3名
・大阪市立加美南中学校職業体験　　実習生2名

56）八尾徳洲苑介護センター

管理者　鶴　健二

1. 概要

当センターは八尾徳洲苑併設であり、2009 年度の介護保険改正時から特定事業所加算Ⅱの事業所となり、24 時間連絡体制の整備や定期的な会議の開催で質の向上を目指しています。2016 年度は、実習受け入れ要件を満たすことで、特定事業所加算Ⅱと事業目標を維持しつつ、事業運営をしてきました。

現在、主任介護支援専門員が 3 名となり積極的に困難事例にも対応して、業務内容も充実しています。八尾徳洲苑との連携・協力体制を推進しており、八尾徳洲会総合病院や関連グループとの連携も行っています。さらに、大阪介護支援専門員協会の活動にも関わり、ケアの質の向上や地域包括ケアシステム作りにも貢献しています。

2016 年度は、適正な事業運営に取り組み、同グループは勿論、サービス事業所や地域包括支援センター等の地域から信頼される事業所を目指してきました。今後も、利用者や家族により良い支援ができるように、職場環境の整備にも努めて、利用する人と働く人が充実した時間を共有できる事業所を目指していきます。

2. メンバー構成

管理者・主任介護支援専門員　：　鶴健二
主任介護支援専門員　：　日髙陽子・山﨑美保
介護支援専門員　：　野宗かおり

3. 実績

1）業務実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年
介護利用者	96	96	95	97	97	98	99	93	95	100	99	95	1,160	96.7	101.2
予防利用者	20	20	21	26	24	27	26	26	26	28	28	27	299	24.9	25.5
居宅支援Ｉ1	57	61	57	55	55	57	57	54	56	57	61	56	683	56.9	61.6
居宅支援Ｉ2	39	35	38	42	42	41	42	39	39	43	40	39	479	39.9	39.6
相談件数	3	7	1	4	9	4	2	6	8	8	1	1	54	4.5	4.3
新規開始者	1	3	3	3	1	2	3	1	3	3	7	1	31	2.6	2.3
終了者	7	2	0	2	2	2	3	1	2	5	9	2	37	3.1	2.8
認定調査	11	16	13	18	20	14	17	23	20	20	10	10	192	16.0	12.3
担当者会議	12	13	18	20	16	18	20	19	20	23	20	20	219	18.3	18.0

分析：前年度と比較して、要介護者と要支援者ともに減少している。重度別では、要介護１～２の居宅支援Ｉ１は減少、要介護３～５の居宅支援Ｉ２は維持しており、数値的には重症化の傾向にある。相談件数は月により変動あるが、概ね前年度を変わらない件数であった。引き続き相談のみで終了するケースも多く、実数に反映されない業務がある。認定調査と担当者会議はともに増加しており、数値上も前年度以上の業務量を確保できている。

介護セン 172
よろこび訪問看護 175
よろこび訪問看護介護 177
徳洲苑 179
徳洲苑介護セン 189
特養久宝寺愛の郷 191

2）研修

【外部研修】

八尾市介護保険事業者連絡会　第３圏域	8/12、10/12、12/19
八尾市介護保険事業者連絡会	1/20、2/26（人権研修）、3/24、6/21、7/15、11/15
大阪介護支援専門員協会八尾支部	1/13、2/22、6/17 、9/29、10/21
八尾市認定調査員研修	3/22
指定介護サービス事業者集団指導（鶴）	5/12

多職種協働による在宅医療を担う人材育成事業における研修会（野宗） 1/14

介護予防ケアマネジメント業務に関する研修会（高） 7/11

大阪府介護支援専門員研修専門Ⅱ（野宗） 1/19、27、2/8、23

【内部研修】

・事例研究会（徳洲会介護センター合同） 1/21、3/17、5/19、7/21、9/9、11/17

・認知症勉強会（徳洲会介護センター合同） 2/18、4/21、6/16、9/1、10/19、12/15

3）地域講演

・「困った時の介護保険の使い方」：植松府営住宅
協力：八尾徳洲苑　北出眞和　相談員（日髙・山﨑）6/24

・「認知症かなぁ？思いあたることありますか？認知症予防を学びましょう！」：介護予防教室
八尾市地域包括支援センター長生園、協力：八尾徳洲苑　北出眞和　相談員（鶴） 9/25

・「高血圧・糖尿病の予防は規則正しい日常生活から」：サンハイツ八尾南
協力：クライス訪問看護ステーション　林勇樹　管理者（鶴・野宗） 11/25

4. 今後の目標

・法人の掲げる理念の実践に努めて、利用者様の意思および人格を尊重し自立支援に資する。

・事業所目標を達成し、単独事業所として健全経営できるようにする。

・日々の活動や福祉講演などを通して、地域から信頼される介護センターとなる。

・併設施設を中心に関連施設等に協力し、連携を取ってより良い支援を目指します。

・利用する人と働く人が、共に幸せになれる事業所を目指します。

57）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷

理事長　酒井　　敬
施設長　平山　真吾

1. 概要

事業については、今年の８月で開設丸２年を迎え、日々課題はあるものの安定した施設運営ができた。長期入居はほぼ満床を維持することができ、ショートステイも概ね８割の稼働率であった。デイサービスにおいては近隣にも多くの通所事業所があり、競争の中で思うように稼働率の向上につながらず、利用者獲得には一層の工夫と努力が求められる。

今年の最も大きな取り組みは看取り介護である。昨年も看取りはあったが結果として看取りになったに過ぎず、お亡くなりになるまでの時間を温もりある家族にとって満足できるものにできたとは言えなかった。しかし、その反省から多職種での協同に力を入れ、環境の整備、職員教育、ご家族との連携等を充実させることでご家族も寂しさの中にも満足を得ることができ、とても穏やかで安らかなお見送りができるようになった。看取りが夜中や早朝になることもあったが、八尾徳洲会総合病院の医師、看護師及び事務職員の迅速な訪問等の協力あってのことと感謝している。

初めて看取りに携わる職員も多い中、この成長は施設にとって大きな財産となっている。

2. メンバー構成

施設長　常勤：1 名

【特養】

事務　常勤：3　非常勤：0
看護師　常勤：3　非常勤：1
生活相談員　常勤：1　非常勤：0
介護支援専門員　常勤：1
栄養士　常勤：1　非常勤：0
介護職員　常勤：16　非常勤：12

【ショートステイ】

生活相談員　常勤：1　非常勤：0
介護職員　常勤：2　非常勤：5

【デイサービス】

看護師　常勤：0　非常勤：3
生活相談員　常勤：1　非常勤：0
機能訓練指導員　常勤：1　非常勤：0
介護職員　常勤：2　非常勤：5
送迎職員　常勤：0　非常勤：5

介護セン 172
よろこび訪問看護 175
よろこび訪問看護介護 177
徳洲苑 179
徳洲苑介護セン 189
特養久宝寺愛の郷 191

3. 実績

(1) 利用者数等

入居（定員：50 名）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入居者数	50	50	51	50	51	50	50	51	50	53	51	50	607	50.5
述べ人数	1,546	1,450	1,547	1,500	1,547	1,500	1,550	1,549	1,500	1,544	1,499	1,550	18,282	1,524
入院者数	1	2	4	3	4	4	6	8	3	3	2	2	42	3.5
述べ人数	8	28	54	70	51	51	65	46	53	28	22	15	491	40.9

ショートステイ（定員：10）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
利用者数	32	25	31	34	30	35	35	33	34	37	37	37	400	33.3
述べ人数	44	34	43	56	55	60	53	55	56	58	57	60	631	52.5

デイサービス（定員：32 名）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
利用者数	43	48	48	65	65	63	59	58	59	58	58	58	682	56.8
述べ人数	392	421	481	493	592	573	570	613	551	562	548	558	6,354	52.9

新規入居者の内訳

八尾徳洲会総合病院	0
その他の病院	1
八尾徳洲苑	0
その他の老健	1
その他	6
合計	8

八尾徳洲会総合病院受診件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科		5		1	3	3	7	1	3	1	2	1	27
皮膚科		2			1			1	2	2	2		10
外科				1		1		1	1			1	5
整形外科		1			1		2		2	1	1	2	10
泌尿器科			1		3	2	1	1	1	1			10
眼科					1				1				2
歯科				1						3	1		5
神経内科					2						1		
心臓血管外科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
脳神経外科									2				2
耳鼻咽喉科				1									1
合計	1	9	2	5	12	7	11	5	13	9	8	5	84

八尾徳洲会総合病院救急搬送件数　※八尾徳洲会総合病院以外への救急搬送は 0 件。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
救急搬送				1		1	1			1				4

八尾徳洲会総合病院入院件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
実人数	3	5	4	4	5	2	2	5	7	4	2	2	45	4
述べ人数	9	24	35	48	48	62	66	84	51	28	12	13	480	40

(2) 行事

1月：おせち料理、鏡開き
2月：節分
3月：家族会、武蔵川部屋慰問、防災訓練、予算・事業計画理事会
4月：花見（長瀬川）、施設内フォトギャラリー（久宝寺まちなみセンターボランティアの協力）
5月：決算・事業報告理事会、外出行事（海遊館：5月～7月で実施）
6月：家族会
7月：七夕（顕証寺より竹の提供協力）
8月：夏祭り（久宝寺地区福祉委員会を中心とした地域ボランティアの協力）
9月：2周年、敬老会、久宝寺燈路まつり（主催者の依頼で敷地をサブ会場として実施）
10月：家族会
11月：久宝寺中学生職場体験受入、防災訓練、まぶね保育園慰問
12月：クリスマス会、餅つき（久宝寺まちなみセンターを中心として地域ボランティアの協力）
その他、随時各ユニットで誕生会を実施。

(3) 感染症状況

インフルエンザ：入居者2件（居室対応、面会制限等の対応。ショートステイ、デイサービスにおいては利用の中止等の対応）
ノロウィルス：0件
疥癬：1件（居室対応、毎日の入浴等の対応）
その他：なし

(4) 地域との連携

開設当初より地域住民とは良好な関係が築けているが､今年は更に発展することができた。具体的には、夏祭りや餅つきに昨年以上にご協力していただいたこと、地域行事である燈路まつりでは、主催者からの要望により当施設の敷地をサブ会場とし、祭りの活性化に協力できたことがあげられる。

(5) 地域包括支援センター

八尾市の介護保険計画における地域包括支援センター増設に伴う事業者の公募において、立候補し、選定を受けることができた。地域包括支援センターは地域ケアの要であり、その役割は益々重要になることが確実で、今後当法人が更に地域貢献するために非常に大きな事業展開となる。

4. 今後の目標

当施設の課題は、まさしく職員教育で、外部研修には積極的に参加させ、知識・技術の研鑽に力を入れているが、施設内の研修や勉強会は参加率が低迷している。不規則なシフト、非常勤の数が多い等理由はいくつかあるが、来年は改善を図りたい。職員個々のレベルアップが他の職員にフィードバックされ、施設全体のレベルアップにつながる好循環を生み出したい。

学　術　業　績

―― 2016年 ――

58）学会発表　196
59）学術論文　203

58）学会発表

【内科】

・2016.6.25　第212回日本内科学会近畿地方会（大阪）　髙原良典、原田博雅、任理宏、瓜生恭章、辰己新水、山本智英　68GaDOTATOC-PET/CTにて局在を診断し得たFGF23産生皮下線維性腫瘍に伴う腫瘍性骨軟化症（TIO）の1例

・2016.9.17　第13回日本病院総合診療学会総会（東京）　山本智英、瓜生恭章、原田博雅　解剖学的連続性のない複数臓器を同時的に冒す疾患に関する臨床研究、第一報

・2016.12.3　第214回日本内科学会近畿地方会　原田彩奈、髙原良典、任理宏、瓜生恭章、山本智英、原田博雅　熱中症が契機となり診断された副甲状腺機能低下症と副腎不全症の1例

【循環器内科】

・2016.10.29～11.2　TCT（Washington D.C,USA）Tadao Fujimoto Successfully treated AF（acute finger ischemia） by around the palmar arch intervention

【腫瘍内科】

・2016.7.28～31　第14回日本臨床腫瘍学会学術集会〈JSMO 2016〉（兵庫）　洪鉉寿、瓜生恭章、松浦伸子、小西千尋、岩崎由恵、原田博雅、日野雅之　The treatment pattern and outcome of nab-paclitaxel for the NSCLC：Results from retrospective single center study

・2016.7.28～31　第14回日本臨床腫瘍学会学術集会〈JSMO 2016〉（兵庫）　小西千尋、松浦暢子、洪鉉寿、松本静香、瓜生恭章、南野智志、草薙みか、岩崎由恵、原田博雅　A Successful case of switching treatment from crizotinib to alectinib after the onset of crizotinib-induced ILD

・2016.7.28～31　第14回日本臨床腫瘍学会学術集会〈JSMO 2016〉（兵庫）　瓜生恭章、洪鉉寿、松浦伸子、岩崎由恵、山下憲一、青笹克之、原田博雅　Two cases of pulmonary MALT lymphoma observed single consolidation containing air-bronchogram

・2016.12.19～21　第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）　洪鉉寿、松浦伸子、松本静香、原田博雅　当科で経験した非小細胞肺癌患者へのNivolumab投与後の有害事象プロファイルの検討

・2016.12.19～21　第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）　松浦暢子、小西千尋、洪鉉寿　インスリン投与による2型糖尿病治療中にNivolumab投与により急激な経過で発症した1型糖尿病

【透析】

・2016.3.6　第86回 大阪透析研究会 （大阪）　藤里恭平、向井砂帆、片山天翔、田中佑樹、石頭翼、藤村篤志、小原太郎、申　勝、今田聰雄　中規模急性期病院の透析センターにおける最近四年間の入院状況

【小児科】

・2016.1.24　第13回日本小児心身医学会関西地方会（和歌山）　神原雪子、東佐保子　育児支援の必要な家庭への病院保健師の関わりについて

・2016.3.6　第29回近畿小児科学会（大阪）　神原雪子、東佐保子　起立性調節障害患者を対象とした野外キャンプの報告

・2016.12.3　第56回中河内小児科談話会（大阪）　石垣早知子　　主にシダトレン処方での一般的なアレルギーのとらえ方を考える

【膠原病リウマチ科】

・2016.6.8　EULAR 2016（London, UK）Kazuyuki. Yoshizaki Soluble Form of GP130 Molecule, An IL-6 Inhibitor, Contributes The Efficacy on RA To Tocilizumab （An Anti-IL-6 Receptor

Antibody） Therapy
・2016.8.21～26　ICI2016（Melbourune, Australia）Kazuyuki. Yoshizaki The role of soluble forms of IL-6 receptor（sIL-6R）and soluble form of gp130（sgp130）on the regulation of Il-6 signaling in rheumatoid arthritis
・2016.9.8～10　日本臨床免疫学会　吉崎和幸　ランチョンセミナー：関節リウマチの治療前バイオマーカーによる個別化医療の開発

【外科】
・2016.3.18　第88回日本胃癌学会総会（大分）　豊田亮、　松岡信子、　鈴木大聡、　垣本佳士、　遠藤幸丈、　村上修　多発肝膿瘍の原因精査でみつかった3型胃癌の一例
・2016.11.24～26　第78回日本臨床外科学会総会　松岡信子　プロテインCS欠乏症を背景にもつ多発肝膿瘍・門脈血栓症合併の胃癌手術症例
・2016.12.8　第29回日本内視鏡外科学会（神奈川）　鈴木大聡、　服部彬、　松岡信子、　垣本佳士、　豊田亮、　遠藤幸丈、　村上修、　井上雅文、　木村拓也　腹壁瘢痕ヘルニアに対するIPOM vs IPOM-plus　当院70例での検討
・2016.12.8　第29回日本内視鏡外科学会総会（神奈川）　豊田亮、　服部彬、　松岡信子、　鈴木大聡、　垣本佳士、　遠藤幸丈、　村上修　医原性大腸穿孔に対し腹腔鏡下修復術を行った3例
・2016.12.8～9　第29回日本内視鏡外科学会総会（神奈川）　松岡信子　腹腔鏡補助下S状結腸切除後の腸間膜欠損部に内ヘルニアを起こした1例

【脳神経外科】
・2016.3.20　第17回日本正常圧水頭症学会（山形）　吉村政樹、一ノ瀬努、田上雄大、鶴田慎、鶴野卓史　成人正常圧水頭症に対するproGAVの使用経験－Shunt Assistant（SA）の選択について－
・2016.3.26　第25回 脳神経外科手術と機器学会（新潟）　一ノ瀬努、阿部純也、吉村政樹、鶴田慎、田上雄大、鶴野卓史　耐水圧実験に基づく前床突起切除時の簡便な髄液漏予防
・2016.3.26　第25回 脳神経外科手術と機器学会（新潟）　一ノ瀬努、阿部純也、吉村政樹、鶴田慎、田上雄大、鶴野卓史　高位病変に対応するための顕微鏡下頚動脈内膜剥離術　- 体位取りから血管縫合までの工夫 -
・2016.4.15　第45回日本脳卒中の外科学会学術集会（北海道）　一ノ瀬努 、吉村政樹、鶴田慎、田上雄大、鶴野卓史　内頚動脈先端部動脈瘤に対するより確実なDistal Transsylvian Approach
・2016.4.15　第45回日本脳卒中の外科学会学術集会（北海道）　一ノ瀬努 、吉村政樹、鶴田慎、田上雄大、鶴野卓史　高位病変に対応するための顕微鏡下頚動脈内膜剥離術　- 体位取りから血管縫合までの工夫 -
・2016.4.16　第45回日本脳卒中の外科学会学術集会（北海道）　吉村政樹、一ノ瀬努、田上雄大、鶴田慎、鶴野卓史　被殻出血に対する顕微鏡下小開頭血腫除去術
・2016.6.9　第31回日本脊髄外科学会（東京）　吉村政樹、高見俊宏、田上雄大、鶴田慎、一ノ瀬努、鶴野卓史　緊張型頭痛患者における頭頸部筋骨格系の評価
・2016.6.17　第3回日本心血管脳卒中学会学術集会（東京）　一ノ瀬努 、吉村政樹、鶴田慎、田上雄大、鶴野卓史　高位病変に対応するための顕微鏡下頚動脈内膜剥離術　- 体位取りから血管縫合までの工夫 -
・2016.9.30　一般社団法人 日本脳神経外科学会第75回学術総会（福岡）　一ノ瀬 努 、吉村政樹、鶴田慎、田上雄大、鶴野卓史　高位病変に対応するための顕微鏡下頚動脈内膜剥離術　- 体位取りから血管縫合までの工夫 -
・2016.9.30　一般社団法人 日本脳神経外科学会第75回学術総会（福岡）　吉村政樹、一ノ瀬努、田上雄大、鶴田慎、鶴野卓史　被殻出血に対する

cotton retractorを用いた低侵襲顕微鏡下血腫除去術

・2016.10.21　第44回日本頭痛学会（京都）　吉村政樹、高見俊宏、田上雄大、鶴田慎、一ノ瀬努、鶴野卓史　緊張型頭痛患者における頭頸部筋骨格系の評価

・2016.4.2　第71回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会（大阪）　田上雄大、吉村政樹、鶴田慎、一ノ瀬努、鶴野卓史　くも膜下出血後の脳血管攣縮による広範囲脳梗塞に対して内減圧術を行った一例

・2016.9.4　第3回日本脳神経血管内治療学会近畿部学術集会（大阪）　田上雄大、川上太一郎、鶴田慎、吉村政樹、一ノ瀬努、鶴野卓史　コイル塞栓術を施行したAICA meatal loop破裂動脈瘤の一例

・2016.10.15　第74回近畿脊髄外科学会（大阪）
吉村政樹、高見俊宏、田上雄大、鶴田慎、一ノ瀬努、鶴野卓史 椎間局所突出型OPLLに対する前外側椎間除圧法：症例報告

【形成外科】

・2016.1.30　第1回糖尿病足病変手術研究会（大阪）　綾部忍　足部変形に起因する難治性潰瘍に対する外科的治療

・2016.2.6～7　第14回日本フットケア学会年次学術集会（兵庫）　綾部忍　ランチョンセミナー：糖尿病性足病変　治療のポイント

・2016.2.18　第20回南大阪Surgical flaps研究会（大阪）　綾部忍　パネルディスカッション：糖尿病性足病変に対する予防的手術

・2016.4.13～15　第59回日本形成外科学会総会・学術集会（福岡）　綾部忍　ランチョンセミナー：小型・バネ式陰圧閉鎖療法の適応と限界～This is SNaPable Wounds～　SNaP® の入院での使い方

・2016.4.23　第16回形成外科集学医療技術研究会（大阪）　上田真帆　糖尿病足病変の治療＝天王寺分類＝

・2016.5.4　第55回KC会（大阪）　谷口小百合
Heeliftスムーズサスペンションブーツが有用であった踵部褥瘡の2例

・2016.5.27～28　第8回日本下肢救済・足病学会学術集会（東京）　綾部忍　シンポジウム：形成外科医の行う distal bypass術

・2016.7.9～10　日本創傷・オストミー・失禁管理学会　第12回ブラッシュアップセミナー（大阪・東京）　綾部忍　バイオフィルム　～世界の動向と実践的アプローチ～

・2016.9.25～29　5th Congress of Would Union Healing Societies（Florence, Italy）　Shinobu Ayabe　FILLET FLAP METHOD UTILIZING NEGATIVE PRESSURE WOUND THERAPY AFTER REVASCULARIZATION FOR CRITICAL LIMB ISCHEMIA

・2016.10.1　第2回日本下肢救済・足病学会関西地方会（大阪）　綾部忍　シンポジウム：足病外科・糖尿病性足変形に対する取り組み　傷について～3つの視点～

・2016.10.8　第3回関西血管外科倶楽部（大阪）
綾部忍distal bypassの工夫　下腿バイパス＋遊離皮弁の経験

・2016.12.1～3　The 11th Congress of Asian Pacific Craniofacial Association（奈良）
Shinobu Ayabe　Modified Dermis Graft for Basal Cell Carcinoma Defect of the Nose

・2016.12.1～3　The 11th Congress of Asian Pacific Craniofacial Association（奈良）　Sayuri Taniguchi　Reconstruction of orbital floor fractures with a resorbable plate and fractured bone fragments

・2016.12.3　Endovascular Asia 2016（大阪）
Shinobu Ayabe　Awareness of Foot Deformity in Patient with Diabetes

・2016.12.17　第56回KC会（大阪）　谷口小百合
吸収性プレート及び骨片を用いた眼窩底骨折の再建

・2016.12.18　第3回糖尿病足病変手術研究会（東京）　綾部忍　アキレス腱延長を行った症例　第1列（母趾MTP関節、IP関節）の潰瘍の症例

【泌尿器科】
・2016.11.18　第30回日本泌尿器内視鏡学会総会（大阪）　金丸知寛、行松直、飯盛宏記　当院における3D内視鏡システムを用いた腹腔鏡下腎部分切除術の検討
・2016.11.19　第30回日本泌尿器内視鏡学会総会（大阪）　行松直、金丸知寛、飯盛宏記　当院における3D内視鏡システムを用いた腹腔鏡下膀胱全摘除術の初期経験

【眼科】
・2016.8.6　第413回大阪眼科集談会（大阪）　石崎典彦、米本由美子、山田哉子、家久未啓吾、池田恒彦　後部ぶどう腫を合併した原発閉塞隅角症疑いの1例
・2016.9.17～19　第27回日本緑内障学会（神奈川）　石崎典彦、米本由美子、山田哉子、家久未啓吾、池田恒彦　後部ぶどう腫を合併した原発閉塞隅角症疑いの1例

【歯科口腔外科】
・2016.11.26　第61回日本口腔外科学会総会（千葉）　原田計真　ラット後舌腺の発育におけるレクチン結合の変化

【麻酔科】
・2016.5.27　第63回日本麻酔科学会学術集会（福岡）　鳥山澄子、池下和敏、野村正剛、谷仁介　レミフェンタニルの咳嗽反射抑制ED50はプロポフォール麻酔よりセボフルラン麻酔で低い
・2016.11.4　第38回日本手術医学会総会　谷仁介、八鍬貴則　周術期における間欠型空気圧式マッサージ器の効率的な運用方法について

【肝臓外科】
・2015.12.8～9　第41回日本肝臓学会東部会　鯉田五月、井上雅文,、木村拓也,、松田康雄　ダクラタスビル＋アスナプレビル治療中にインフルエンザに2度罹患し短期内服でSVRとなった1例
・2016.12.8～10　第29回日本内視鏡外科学会（神奈川）　木村 拓也、井上雅文、鈴木大聡、松岡信子、服部彬　上行結腸リンパ管腫による腸重積症を腹腔鏡補助下に治療した1例
・2016.12.8～10　第29回日本内視鏡外科学会（神奈川）　井上雅文、木村 拓也、鈴木大聡、服部彬　肝胆道系術後の巨大腹壁瘢痕ヘルニアに対して、メッシュを用いて腹腔鏡下修復術を施行した2例
・2016.12.8～10　第29回日本内視鏡外科学会（神奈川）　服部彬、木村 拓也、井上雅文、鈴木大聡、垣本佳士、松岡信子 非腫瘍に対し腹腔鏡下脾部分切除を施行した1例

【呼吸器外科】
・2016.5.13　第33回日本呼吸器外科学会総会（京都）　市橋良夫　椎体浸潤をきたした後縦隔良性神経鞘腫の1手術例
・2016.5.13　第33回日本呼吸器外科学会総会（京都）　佐藤澄　葉間を超えて他肺葉に浸潤する肺癌手術症例の検討
・2016.12.21　第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）　市橋良夫　肺癌術後縦隔リンパ節腫脹をきたし、精査によりホジキン病と診断された1例
・2016.12.21　第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）　佐藤澄　肝転移の既往のある大腸癌合併肺転移手術症例の検討
・2016.12.21　第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）　佐藤澄　前縦隔原発の随外性形質細胞腫の1切除例

【リハビリテーション科（診療部）】
・2016.11.12　第40回日本高次脳機能障害学会（長

野）　田中尚　場所の重複記憶錯誤、地理的定位錯誤を呈した脳卒中の一例-急性期からの回復経過について-

【薬剤科】

・2016.6.26～27　医療薬学フォーラム2016　第24回クリニカルファーマシーシンポジウム（滋賀）
〇松浦暢子、小西千尋、里岡達哉、青山瑛里子、鈴木大聡、大里恭章
『膵癌患者の疼痛コントロールに難渋しモルヒネの硬膜外投与を施行した１症例』

・2016.7.28～31　第14回日本臨床腫瘍学会学術集会（神戸）
〇小西千尋、松浦暢子、洪鉉寿、松本静香、瓜生恭章、南野智志、草薙みか、岩崎由恵、原田博雅
『A Successful case of switching treatment from crizotinib after the onset of crizotinib-induced ILD』

・2016.9.17～19　第26回日本医療薬学会年会（京都）
〇山本浩二郎、横山靖法、山田直輝、栗野大輔、大里恭章
『高度腎機能不全糖尿病患者に尿量維持目的でイプラグリフロジンが投与された１症例』

・2016.12.19～21　第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）
〇松浦暢子、小西千尋、洪鉉寿、
『インスリン投与による２型糖尿病治療中にNivolumab投与により急激な経過で発症した１型糖尿病』

【放射線科】

・2016.10.1　放射線部会関西ブロック研究発表会
濱元綾太　当院における脳卒中ホットラインの受け入れ体制について

【臨床検査科】

・2016.2.19　第31回　日本環境感染学会（京都国際会議場）　鬼束美紗絵　当院におけるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌の分離状況

・2016.5.27　第57回　日本臨床細胞学会（パシフィコ横浜）　岡﨑健　乳腺基質産生癌の一例

・2016.5.29　第3回　徳洲会病理グループ学術集会（パシフィコ横浜）　岩﨑由恵　セルブロックの現状と問題点

・2016.8.7　第17回　日本検査血液学会学術集会（福岡国際会議場）　西川裕子　APL様形POD陰性、骨髄系とNK細胞の両形質を有する診断に苦慮した骨髄性白血病の一症例

【リハビリテーション科（副診療部）】

・2016.1.24　第6回　中河内ブロック新人症例発表会（大阪）　佐藤愛生　『関節リウマチにより左足趾関節形成術を施行した一症例　～手指変形に対する歩行補助具への工夫～』　黒田涼平　『脳出血により運動麻痺を呈した症例の歩行能力の予後を踏まえた転機先の検討』　大会優秀賞

・2016.5.27～29　第51回日本理学療法学術大会（北海道）　上田哲也　『転倒を起因とした骨折により急性期病院へ入院した高齢患者の特徴』　西川真世　『大腿骨近位部骨折患者の術後 ADL に関連する術前の要因についての検討』　服部玄徳　『転移性脊椎腫瘍により対麻痺を呈した症例に対する体重免荷歩行トレーニングが歩行能力に及ぼす影響　～シングルケーススタディ～』

・2016.7.10　第28回大阪府理学療法学術大会（大阪）　黒田涼平　『脳出血により運動麻痺を呈した症例の歩行能力の予後を踏まえた転機先の検討』

・2016.9.24　第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（新潟）　伊藤沙織　『入院時スクリーニングによる入院前食事形態情報のアンケート調査』

・2016.10.1　第2回日本下肢救済・足病学会 関西地方会学術集会（大阪）　佐藤愛生　『両足趾壊疽により歩行の安定性が低下した症例　～在宅復帰

に向けた動作獲得を目指して～』

・2016.11.20　第10回徳洲会リハビリテーション部会関西大阪ブロック学術大会（兵庫）　伊藤沙織　『横紋筋融解症により呼吸筋麻痺、気管切開を呈していたが経口摂取訓練にて改善が認められた一例』

・2016.11.26　第14回日本神経理学療法学会学術集会（宮城）　服部玄徳　『転移性脊椎腫瘍により歩行障害を呈した症例に対する部分免荷装置を用いた床上歩行練習の効果　～ABAシングルケースデザインによる検討～』

・2016.12.15　大阪府理学療法士協会中河内ブロック研修会講師派遣（大阪）　服部玄徳　『糖尿病を既往にもつ患者の運動療法　～リスク管理と負荷量の設定』

【臨床工学科】

・2016.3.6　第86回大阪透析研究会（大阪）　藤里恭平　中規模急性期病院の透析センターにおける最近4年間の入院状況

【栄養科】

・2016.2.25～2.26　第31回日本静脈経腸栄養学会学術総会（福岡県）　小山洋史　下痢患者の経腸栄養剤の選択～ペクチン半固形化栄養剤とグアガム配合栄養剤について～

・2016.11.26～11.26第12回日本給食経営管理学会学術総会（兵庫県）　小山洋史　栄養部門における損益管理について

【医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）】

・2016.2.20　第30回日本ガン看護学会学術集会（千葉）　三谷勇一　がん告知に対する患者・家族への関わり－告知直後に焦点をあてた事例から－

・2016.2.27　第18回関西がんチーム医療研究会（大阪）　三谷勇一　がん患者における介護保険申請のタイミングの判断基準と留意点：急性期病院におけるMSWの介護支援連携指導における一考察

・2016.3.5　第5回がん相談研究会（東京）　三谷勇一、杉本貴美子　がん患者の就労支援における自己のニーズを引き出すセルフアセスメントシートの特徴：末梢神経障害への配慮と理論を活用する効果

三谷勇一　がん終末期患者に対する医師からのコンサルテーションの一事例

・2016.6.17～18　第21回日本緩和医療学会（京都）　三谷勇一　がん地域連携パスにおけるMSWによる科学的根拠に基づく介入の試み：独立型t検定による面談時における肯定的態度との関連

・2016.7.2～3　第24回日本社会福祉士会学術集会（愛媛）　三谷勇一、門田翔太　急性期病院に勤務するMSWの新人教育におけるチュートリアルの開発：ソーシャルワークの「技術」に注目したスーパーバイズにおける情報共有の可視化

・2016.9.10　第19回関西がんチーム医療研究会（大阪）　三谷勇一　スポンサード主題シンポジウム　患者目線のがんチーム医療～生活支援／就労支援でがん患者の社会復帰を考える～がん患者の日々の生活や療養環境、治療後の社会復帰などを意識した取り組み：緩和ケアチームにおける社会福祉士の役割と、多職種連携による退院時共同カンファレンスの実態；advance care planning、person centered careを心がけたEBPに基づく介入

・2016.9.10～11　第7回日本医療ソーシャルワーク学会　（長崎）　三谷勇一、門田翔太　支援困難事例における金銭管理の模索と、民法・刑法を参考にした業務改善の提言：急性期病院におけるソーシャルサポートを活用したMSWの介入の実際

・2016.9.10～11　第7回日本医療ソーシャルワーク学会　（長崎）　門田翔太、三谷勇一　実習生の立場からみた、医療機関における相談援助実習のあり方の提言：退院時共同カンファレンスからみたMSWのアイデンティティ

【院内感染対策委員会（ICT)】

・2016.2.19～20　第31回日本環境感染学会総会・学術集会（京都）　横山靖典、渋谷豊克　職員のオセルタミビル予防内服における服薬意識過程調査
・2016.2.19～20　第31回日本環境感染学会総会・学術集会（京都）　前野舞、鬼束美紗絵、渋谷豊克　当院におけるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌の分離状況
・2016.2.27　第9回日本医療マネジメント学会大阪支部　学術集会　渋谷豊克　角化型疥癬を初発とする疥癬アウトブレイクへの対応

【介護老人保健施設　八尾徳洲苑】

・2016.9.14～16　第27回　全国介護老人保健施設大会（大阪）　PT出井　「嘔吐物処理手順統一のための実践型勉強会を行って」
・2016.9.14～16　第27回　全国介護老人保健施設大会（大阪）　北出　「診療科別在宅復帰率からみた在宅復帰支援の検討」
・2016.10.15～16　第27回全国介護老人保健施設協会全国大会（大阪）　角田尚子　「終末期ケアに関わる介護職員のアンケート調査から」　出井沙織　「嘔吐物処理手順統一のための実践型勉強会を行って」　北出眞和　「診療型別在宅復帰率から見た在宅支援の検討」　樋口晶代　「栄養アセスメントに関わる介護職員の意識調査」　坂元一成　「中堅職員から新人職員への関わりに関する意識調査　上田裕子　「認知症ケアに取り組む専門職としての意識調査」　福山瑞穂　「レクリエーションを通じた関わりの強化を目指して」　日高陽子　「在宅復帰支援から介護支援専門員の役割について考える」

【八尾徳洲苑介護センター】

・2016.2.19～20　第15回　近畿介護支援専門員研究大会　（京都）鶴健二　「介護保険制度を知ってもらうための職員向け勉強会で気づいたこと」
・2016.9.14～15　第27回　全国介護老人保健施設大会（大阪）　日髙陽子　「在宅復帰支援から介護支援専門員の役割について考える」

59）学術論文

【内分泌内科】

・隠れAddison病：山本智英．内科，117(3):521-526,2016.

・副腎不全の治療　治療の変遷と現代の糖質コルチコイド補充療法（解説）：山本智英．71(5):1043-1053,2016.

【膠原病リウマチ科】

・Mechanism and Clinical Significance of IL-6 Combined with TNF-α or IL-1 for the Induction of Acute Phase Proteins SAA and CRP in Chronic Inflammatory Diseases.：Kazuyuki Yoshizaki．J Alcohol Drug Depend,4(3):1-4,2016.

【脳神経外科】

・一定の手順による顕微鏡下頚動脈内膜剥離術における各段階での剥離面形成　手術教育への有用性について：一ノ瀬努，鶴野卓史，吉村政樹，有馬大紀，長濱篤文，田上雄大．脳卒中の外科，44(5):339-345,2016.

・脳出血の手術適応はどのような症例に考慮しますか？：一ノ瀬努．神経内科 clinical Questions & Pearls 脳血管障害（中外医学社），236-244,2016.

【歯科口腔外科】

・下唇の知覚異常を伴う下顎骨類腱線維腫の１例：占部一彦，谷口亮，永田雅英，和田剛信，並川麻理，原田計真．大阪大学歯学雑誌，60(2):17-20,2016.

【肝臓センター】

・腸重積症：木村拓也．臨床医マニュアル，第5版:1846-1850.

【呼吸器外科】

・Bronchial artery aneurysm suggested to be caused by metallic tracheal stent migration：Kiyoshi Sato．Surgical Case Reports，2:125,2016.

【ER】

【小児疾患診療のための病態生理３　改訂第５版】

・筋疾患　横紋筋融解症：岩井敦志．小児内科（東京医学社），48(増刊):567-571,2016.

八尾徳洲会総合病院年報

発行日：平成29年5月

発　行：八尾徳洲会総合病院　病院長　原田　博雅
〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
ＴＥＬ（072）９９３－８５０１（代）
ＦＡＸ（072）９９３－８５６７
http://www.yao.tokushukai.or.jp/

印　刷：寝屋川市高宮栄町２２番１８号
イセン印刷㈱
ＴＥＬ（072）８２４－０８０５
ＦＡＸ（072）８２５－０６５４

医療法人
徳洲会八尾徳洲会総合病院

〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
TEL（072）993-8501（代）
FAX（072）993-8567
http://www.yao.tokushukai.or.jp/